

大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究

令和元年度 調査研究報告書

令和元年 10 月

大牟田市・大牟田市教育委員会

< 目 次 >

第1章 調査研究の概要

I	調査研究の背景・目的	1
II	調査研究の基本的視点	1
	1. 生涯学習の推進(特に日頃学習活動を行っていない人々へ生涯学習を促進する手法を探る)	
	2. 学んだ成果を活かすための「知(学び)の循環」の仕組みづくり(生きがい・地域づくりの視点)	
	3. 人口減少社会における地域づくりに向けた社会教育の仕組みづくり	
	4. 社会教育における ESD の推進(人・地域づくりの視点)	
	5. 社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と施策・事業の再構築	
III	調査研究の主体	3
IV	調査研究の方法	3
	1. 調査	
	2. 研究	
V	調査研究の体制	4
	1. プロジェクトチーム(計 17 名)	
	2. インタビュー調査団(計 31 名)	
	3. 助言者	

第2章 調査の結果

I	調査の概要	
	1. 調査方法	5
	2. 調査結果	6
II	市民意識調査	
	1. 調査の概要	10
	2. 調査結果	11
	3. 市民意識調査から見えてくるもの	49
III	インタビュー調査(生涯学習促進に係る意識調査)	
	1. 調査の概要	52
	2. 調査結果	53
	3. インタビュー調査「生涯学習促進に係る意識調査」から見えてくるもの	72
IV	インタビュー調査(若者意識調査)	
	1. 調査の概要	73
	2. 調査結果	74
	3. インタビュー調査「若者意識調査」から見えてくるもの	91
V	ローリング調査	
	1. 調査の概要	93
	2. 調査結果	94
	3. ローリング調査から見えてくるもの	122
VI	考察	
	1. 考察を行うにあたって	125
	2. 具体的な考察内容	125

第3章 調査結果を受けての助言者からの提言（佐賀大学 大学院学校教育学研究科 教授 上野景三）

- I はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
- II 基本的視点における5つの柱に沿った提言・・・・・・・・・・・・・・ 128

第4章 基礎調査結果に基づいた本市の社会教育・生涯学習の施策の在り方

- I 本市社会教育・生涯学習行政を取り巻く背景(現状と課題)・・・・・・・・ 133
- II 平成30年度社会教育・生涯学習基礎調査結果・・・・・・・・・・・・・・ 133
- III 本市の特徴や強み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
- IV 本市の社会教育・生涯学習施策の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
- V 施策推進の視点と具体的な取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
- VI 社会教育・生涯学習を推進するための施策の体系・・・・・・・・・・・・・・ 145
- VII 社会教育・生涯学習施策の実現に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
 - 1. 各視点の推進に向けた解決すべき課題
 - 2. 施策の推進に必要な体制の在り方
 - 3. 地域と市民活動団体等との連携と役割分担

施策推進にあたってのいくつかの課題（佐賀大学 大学院学校教育学研究科 教授 上野景三）

- I はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
- II 施策推進の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
- III 現行体制の抱える課題と解決に向けた考え方・・・・・・・・・・・・・・ 151
- IV おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152

参考資料

- I 主な経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
- II 令和元年度プロジェクト・チーム名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154

第1章 調査研究の概要

I 調査研究の背景・目的

平成23年に大牟田市教育委員会において実施された「大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究」から5年以上が経過しており、また、平成25年度に機構改革(教育委員会から市長部局へ移管)が行われ、平成28年4月には「大牟田市協働のまちづくり推進条例」が施行されたことから、市民の学習のニーズ・形態の変化や、地域活動等への参加・参画状況を把握することはもとより、前回の調査研究で社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された“7つの取組み”の進捗や効果について検証を行う時期にあります。

さらに、「人づくり」、「地域づくり」、「市民協働によるまちづくり」を推進する上では、社会教育においてESD¹(持続可能な開発のための教育(以下「ESD」という。))の理念・手法を取り入れた本格的な事業展開が望まれることや、平成30年度より次期総合計画(まちづくり総合プラン及びアクションプログラム)の策定に着手することなどから、社会教育・生涯学習における既存の事業体系について検討を行う必要があります。

こうした背景を踏まえ、平成30年度より実施する社会教育・生涯学習基礎調査研究(以下「調査研究」という。)は、社会教育・生涯学習行政をより有効的に推進するため、現在の市民意識、活動実態及び課題等を明らかにし、今後、社会教育・生涯学習行政が果たすべき役割やその在り方を考え、社会教育及び生涯学習に係る施策・事業の再構築を図ることを目的とします。

II 調査研究の基本的視点

1.生涯学習の推進(特に日頃学習活動を行っていない人々へ生涯学習を促進する手法を探る)

「大牟田市まちづくり総合プラン2016～2019」における施策では、『生涯学習が盛んで、その成果が活かされるまち』を掲げていますが、1年間学習活動を行っていない市民の割合は過半数におよんでいます。

「大牟田市まちづくり総合プラン2016～2019」に掲げる施策名、いわゆる、「生涯学習社会」を実現するためには、日頃学習活動を行っていない人々の学習活動を促進することが不可欠であることから、調査研究では、そうした人々へ学びの輪を広げるための手法を考察し、今後、生涯学習をより一層推進するための具体的な改善策や新たな取組みを見出します。

2.学んだ成果を活かすための「知(学び)の循環」の仕組みづくり(生きがい・地域づくりの視点)

平成23年の調査結果では、本市は「学んだ成果を活かしていない人」の割合が全国と比較すると高く、なかでも「学んだ成果を“地域活動”に活かしている人」の割合が低いことが判明しました。

¹ 持続可能な開発を実現するために発想し行動できる人材を育成する教育 (Education for Sustainable Development)

中央教育審議会²の答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策」（以下「中教審答申」という。）において提言されている『知の循環型社会』の必要性や方策等を鑑み、本調査研究では、現況の把握はもとより、前回の調査以降、取り組んできた社会教育・生涯学習に係る各種事業の有効性の検証を踏まえた上で、市民が学んだ知識・技能を社会へ還元することができる『知(学び)の循環』の仕組みづくりを行います。

3.人口減少社会における地域づくりに向けた社会教育の仕組みづくり

本市の人口は減少の一途をたどることが予想されており、将来的にはその影響として、校区まちづくり協議会、町内公民館等、地縁組織の運営や住民自治が危ぶまれる可能性が考えられます。

一方、現在の超高齢社会に係る様々な問題をはじめ、地域・社会が抱える課題の多くは、「コミュニティづくり」が解決の“糸口”となることが期待されます。

国においては、今後の社会教育に期待される役割の一つとして、地域コミュニティの維持・活性化に貢献していくことが挙げられており、また、社会教育行政の再構築を図るための検討がなされるなかで、今後は「地域課題解決学習」を社会教育に明確に位置づけることが示されています。

このため、本調査研究において人口減少の中、地域が直面する課題を把握し、地域づくりにつながるための学習活動や地域課題を解決する仕組みづくりを行います。

4.社会教育における ESD の推進(人・地域づくりの視点)

本市において学校教育を中心に取り組まれている ESD は、一人ひとりが持続可能な社会づくりの担い手に育つための学びであり、生涯を通じてあらゆる場面で実践される必要があることから、社会教育においても積極的な事業展開が望まれています。また、国においては、『人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築』に向けた検討がなされており、その中で、今後、社会教育行政においては、「住民の主体的な参画を促進する仕掛けづくり」、「子ども・若者の参画と他世代交流」等に留意することがうたわれています。

以上のことを踏まえ、今後、社会教育において地区公民館や青少年教育施設を中心に ESD(大牟田版 SDGs³に掲げられている 8 つの重点目標)を推進すべく、本調査研究では、『コミュニティづくり』や『持続可能な共生・協働のまちづくり』を推進するための事業の手法や仕組みづくりを行います。

5.社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と施策・事業の再構築

平成 23 年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究において提言された“7 つの取組み”（①学びたいことを学ぶ仕組みづくり、②自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり、③ふるさと大牟田を知る取組み、④市民に身近な場所で行う事業の拡充、⑤学習情報セン

² 文部科学大臣の諮問機関として文部科学省内に置かれている審議会

³ 持続可能な開発目標。2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標。

ター機能の拡充、⑥職員研修の充実、⑦地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～)についての進捗状況や既存事業の有効性について検証を行います。

上記 1～5 の基本的視点に基づく調査研究を通して、今後の社会教育・生涯学習行政の在り方や行政の果たすべき役割等について考察し、次期大牟田市総合計画の策定を視野に入れた施策・事業の再構築を行います。

Ⅲ 調査研究の主体

大牟田市・大牟田市教育委員会

Ⅳ 調査研究の方法

本調査研究では、①市民の社会教育・生涯学習、住民自治及びまちづくりに対する意識や学習活動等の実態を把握するための「市民意識調査」、②日頃学習活動を行っていない人々(行えない人々)の意識や学習ニーズ、ライフスタイルなどを探るための「インタビュー調査」、③前回の調査研究で社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された“7つの取組み”の進捗や既存事業の有効性を検証するための「ローリング調査」を実施し、それらの調査結果を分析することで明らかになった課題等を踏まえ、今後の社会教育・生涯学習行政の在り方や果たすべき役割をまとめ、事業の再構築と取り組むべき事業の具現化を行います。

本調査研究の実施にあたっては、関係課の課長・主査級によるプロジェクトチームを発足し、学識経験者(大学の教授)より助言等を受けながら行います。

1.調査

(1)市民意識調査

市民の学習ニーズ、地域活動への参加状況等を把握するための意識調査

(2)インタビュー調査

①生涯学習促進に係る意識調査

学習活動を行っていない・行えない市民の学習ニーズ、地域活動への参加状況等を把握するための調査

②若者意識調査

若者の学習ニーズ、ライフスタイル等を把握するための調査

(3)ローリング調査

社会教育・生涯学習行政における事業の進捗状況や有効性の検証を行う調査

2.研究

(1)事業の再構築(事業体系の樹立)

調査の結果及び分析によって明らかになった市民の意識や活動実態、既存事業における課題、さらには、国の調査及び答申等を踏まえ、「人づくり」、「地域づくり」、「市民協働によるまちづくり」の観点から、今後、本市における社会教育・生涯学習行政が果たすべき役割や施策・事業の在り方を探り、事業の再構築と有機的かつ効果的な事業体系の樹立を目指します。

(2)事業の具現化

社会教育・生涯学習行政における「人づくり」及び「まちづくり」を推進するための有効な方策を探り、今後取り組むべき事業の具現化(2020～2024年の具体的な取り組み内容、目標値の設定等)を行います。

V 調査研究の体制

1.プロジェクトチーム(計 17 名)

大牟田市市民協働部及び大牟田市教育委員会の関係課の課長・主査級の職員で構成。調査研究の内容や調査結果の分析、事業の体系化等について必要に応じて協議、検討を行います。

2.インタビュー調査団(計 31 名)

地域コミュニティ推進課及び生涯学習課の主査級以下の職員(嘱託員含む)で構成。「生涯学習促進に係る意識調査」及び「若者意識調査」を行います。

3.助言者

佐賀大学 大学院学校教育学研究科 上野景三(教授)

第2章 調査の結果

I 調査の概要

1. 調査方法

(1) 市民意識調査 [業者委託：株式会社西日本リサーチ・センター] ※詳細は10頁参照

郵送調査法／18歳以上の市民1,000人／全36問／サンプル417(回収率41.7%)

期間 平成30年8月16日～9月15日

(2) インタビュー調査

① 生涯学習促進に係る意識調査 [調査団：市職員] ※詳細は52頁参照

インタビュー/この1年間、学習活動を行っていない18歳以上の市民/全22問/サンプル173

期間 平成30年8月16日～9月15日 /場所 大型商業施設、大牟田市役所

② 若者意識調査 [調査団：市職員] ※詳細は73頁参照

インタビュー/16歳～34歳の「えるる」利用者/全16問/サンプル113

期間 平成30年8月16日～9月15日

(3) ローリング調査(庁内照会・ヒアリング) ※詳細は93頁参照

「平成23年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究報告書」において、今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された「7つの取組み」の進捗確認等

(所管課への照会・ヒアリング 平成30年7月3日～8月14日)

●7つの取組み 全14事業対象

① 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

(市民自らが行う取組み/社会教育機関等が行う取組み/一時保育を行う講座の充実)

② 自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

(仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み/青年自身が活躍の場をつくり出す取組み/高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み)

③ ふるさと大牟田を知る取組み

④ 市民に身近な場所で行う事業の拡充

⑤ 学習情報センター機能の拡充

(学習相談の窓口としての機能の強化/わかりやすく的確な情報提供)

⑥ 職員研修の充実

(社会教育機関の職員に必要な能力の向上/「聴く」活動)

⑦ 地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

(地域の絆を育む取組み/災害に備える取組み)

2.調査結果

(1)意識調査(市民意識調査・インタビュー調査)

①生涯学習の必要性等 P14 / P55

- 「市民意識調査」において、約 9 割(88%)の人が生涯学習は必要と回答しています。
- 「生涯学習促進に係る意識調査」では、日頃学習活動をしていない人(できない人)でも 7 割以上(74%)に学習意欲があることが判明しました。

②生涯学習をしない理由(できない理由) P19 / P54

- 「市民意識調査」、「生涯学習促進に係る意識調査」共に、『仕事』、『家事・育児・介護』で時間がとれないが最も高く、次いで『どのような活動があるかわからない』、『生涯学習に関する情報が不足』(「市民意識調査」は前回調査より 2 倍近く増加)の割合が高いことが判明しました。

③生涯学習の情報源 P15

- 「市民意識調査」において、『広報おおむた』が最も高く、年齢が上がるほど割合が高く、逆に『インターネット』『SNS』は年齢が下がるほど高い傾向があります。なお、各年代において、過半数が『広報おおむた』を情報源としていますが、18～29 歳については、『広報おおむた』16%、『SNS』28%、『インターネット』24%となっており、他の年代とは情報源が全く異なることが判明しました。

④学んだ成果の活用等 P27～P29

- 「市民意識調査」において、『活かしていない』が前回調査よりも若干増加しており(14%⇒17%)、全国的に見て高い状況となっています(平成 30 年世論調査 5%)。
- 同調査で『身につけた知識・技能を地域や人々のために活かしたい』は、全体の約 6 割におよんでいます。なお、学んだ成果を活かしていない理由は、『活かし方がわからない』が『学業・仕事』で忙しいに次いで割合が高くなっています。

⑤ボランティア活動について P31 / P59 / P60 / P33

- 「市民意識調査」において、「この 1 年間ボランティア活動を行っていない人」の割合は、前回調査より増加して約 7 割(平成 23 年 57%⇒平成 30 年 67%)におよび、また、年平均の回数は、前回と比べ半減しています(平成 23 年 38 日/年⇒平成 30 年 18 日/年)。
- 「生涯学習促進に係る意識調査」では、約 8 割(83%)がボランティア活動を行っていないと回答しています。しかしながら、全体の約 6 割(57%)の人にはボランティア活動へ参加する意思があり、また、70 歳以上を除く全ての年代において『参加したいと思うができない人』が 4 割以上いることが判明しました。なお、同調査で、ボランティア活動を行っていない理由は、『仕事』(56%)、『家事・育児・介護』(24%)で忙しいが上位を占めています。
- 「市民意識調査」において、ボランティア活動を盛んにするために必要なことは、前回調査と同様、『ボランティア活動に関する情報提供』の割合が最も高くなっています。

⑥地域活動について P37 / P39 / P62～63 / P40 / P34～35

- 「市民意識調査」において、『この 1 年間地域活動を行っていない人』の割合は、前回調査よ

り増加して過半数に達し(平成 23 年 45%→平成 30 年 51%)、また、年平均の回数は前回調査と比べ半減しています(平成 23 年 26 日／年⇒平成 30 年 12 日／年)。なお、同調査で、地域活動に参加していない理由は、『忙しくて時間がとれない(学業、仕事、家事など)』(48%)が最も高く、次いで、『どのような活動が行われているか情報がない』(24%)、『誘いがいいなど、参加するきっかけがない』(17%)となっています。

○「生涯学習促進に係る意識調査」において、約 7 割(68%)が地域活動を行っていないと回答しています。しかしながら、全体の約 6 割(58%)の人には、地域活動へ参加する意思があることが判明しました。なお、同調査で地域活動に参加していない理由は、「市民意識調査」と同様に『忙しい』(60%)が最も高くなっています。

○「市民意識調査」において、地域活動へ参加しやすくするために必要なことは、『誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気にする』が、『活動の PR』『活動・行事を魅力的なものにする』等、他の選択肢を大きく上回り最も高くなっています。

○「市民意識調査」において、8 割以上の人が『人々や地域のつながり』は必要と回答しており、また、つながりが必要と思う理由については、性別・年代を問わず『災害時の共助』が最も高くなっています。

⑦学校を支援する取組みへの参加の意向 **P43 / P65**

○「市民意識調査」では、約 5 割(48%)、また、「生涯学習促進に係る意識調査」においては、約 7 割(71%)に学校を支援する取組みへ参加する意思があることが判明しました。両調査とも、地域活動をあまり行っていない若い年代(18 歳～39 歳)の参加意識は、他の年代と比べて高いことが判明しました。

⑧若者のボランティア活動・地域活動に対する関心度 **P89**

○「若者意識調査」において、自ら企画して実践するボランティア活動・地域活動に対しては、関心が高いことが判明しました(全体の 7 割が『関心がある』と回答)。

⑨地区公民館を利用しない理由 **P68**

○「生涯学習促進に係る意識調査」において、『仕事』で忙しいが最も高く、次いで『何があるのかわからない』となっています。

⑩若者が生涯学習を行わない理由 **P83**

○「若者意識調査」において、『学業で時間がとれない』が最も高く、次いで『どのような活動があるのかわからない』、『身近に利用できる施設が少ない』、『生涯学習に関する情報が不足している』、『特に必要がない』の 4 項目が同率となっています。

⑪行政に対する要望 **P58 / P24**

○「生涯学習促進に係る意識調査」において、行政に対する要望として最も高いことは、『講座・催し物に関する詳しい情報提供』であることが判明しました(次点より 2 倍以上高くなっています)。

なお、「市民意識調査」においては、『専門的な職員や指導者の配置』が最も高く、『詳細な学習情報の提供』(前回調査では最多)については、20 項目中 4 番目となっています。

(2)ローリング調査(庁内照会・ヒアリング)

「平成 23 年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究報告書」において、今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された『7 つの取組み』(全 14 事業)の進捗状況等

取組み 1 : 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

①市民自らが行う取組み(市民自ら学びたいことを学べる場を創出する仕組みづくり) P94

○平成 24 年度から平成 25 年度にかけ「企画者養成講座」を延べ 34 回実施し、平成 26 年度に「市民カレッジ運営委員会」が発足(市民活動団体へ登録)。

②社会教育機関等が行う取組み(サークル等が講師を務める講座の仕組みを応用した事業) P95

○平成 24 年度から、「マナビ塾」(高齢者が一般成人に教える講座)がスタートし、平成 29 年度までの 6 年間で 36 講座を実施(29 サークルが発足)。

③一時保育を行う講座の充実(子育て中の親が学習活動を行えるよう一時保育の環境を整備) P97

○平成 24 年度から平成 25 年度にかけて「一時保育に関するマニュアル」を作成。
(家庭教育の支援に関する講座以外で、一時保育を行った実績なし)

取組み 2 : 自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

①仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み(「出前講座企業編(仮称)」の検討) P98

○平成 29 年度から市内の企業等の参画を得て企業出前講座「がんばる地場企業」を実施。

②青年自身が活躍の場をつくり出す取組み P100

○参加者数を確保することが困難な状況が続き、事業の一部を休止。

③高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み(「ボランティア塾」の拡充) P102

○平成 25 年度から平成 29 年度にかけて「ボランティア塾」を延べ 28 講座実施し、これまでに 17 のボランティアグループが発足(うち 11 グループが「生涯学習ボランティア登録派遣事業(愛称:まなばんかん)」に登録)。

○事業の手法及び内容は、前回調査時と変わっておらず、また、平成 28 年度以降、講座の実施回数は半減(7 講座⇒3~4 講座)。

取組み 3 : ふるさと大牟田を知る取組み P105

○7 地区公民館において「ふるさと大牟田講座」(平成 25~平成 27 年度)や「地域魅力アップ支援事業」等を実施。

○平成 29 年度は“郷土学習”に係る取組みを実施した地区公民館は 1 館のみ。

取組み 4 : 市民に身近な場所で行う事業の拡充(地区公民館がない校区へ出向く事業の拡充) P108

○平成 24 年度から平成 29 年度にかけて各地区公民館が離れた担当校区へ出向いて実施した事業数は、年間平均 10 事業(1 館あたり 1.4 事業)のみ。

○出向いて実施する校区に偏りがある(未実施の校区あり)。

取組み 5 : 学習情報センター機能の拡充

①学習相談の窓口としての機能の強化(学習情報をデータベース化して共有する) P111

○行政及び民間等で行われる各種講座、イベント等に関する情報を収集して、定期的(奇数月)

に学習情報誌「まなびのカタログ」を発行。

○社会教育機関等が保有する学習情報のデータベース化には至っていない状況。

②わかりやすく的確な情報提供(紙面による情報提供の拡充とインターネットの活用) P112

○学習情報誌「まなびのカタログ」を初め、地区公民館、大牟田文化会館、図書館等において定期的に機関誌を発行(平成 23 年度と比べて発行回数・部数は増加)。

○必要に応じて、「広報おおむた」、「市のホームページ」、「愛情ねっと」(地域 SNS)、「FM たんと」(コミュニティ FM) 等を活用。

取組み 6 : 職員研修の充実

①社会教育機関の職員に必要な能力(コミュニケーション、ファシリテーション)の向上 P114

○「コミュニケーション」及び「ファシリテーション⁴」のスキル向上を図る研修は、平成 24 年度に 1 回実施したのみ(外部教育機関で行われる研修への参加も少数)。

②「聴く」活動(“聴く”活動を職員研修として継続的に実施) P116

○「聴く力」のスキル向上を図る研修は、平成 24 年度に 1 回実施したのみ(外部教育機関で行われる研修への参加も少数)。

取組み 7 : 地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

①地域の絆を育む取組み P117

○平成 24 年度から平成 29 年度にかけて、地域課題の解決、地域の歴史、人物等をテーマにした取組みを延べ 104 事業実施(文部科学省より表彰を受けた取組みあり)。

②災害に備える取組み(防災学習の実施) P120

○平成 24 年度以降、防災に関する取組みを 17 校区(延べ 34 事業)で実施。
(地区公民館の事業がきっかけで防災訓練が始まった校区もあり)

ローリング調査の結果を踏まえ、「人づくり」・「地域づくり」に向けて、今後、特に充実することが必要な取組み

- ①青年自身が活躍の場をつくり出す取組み…次代を担う若者を対象とした事業の強化
- ②ふるさと大牟田を知る取組み……………郷土に対する“愛着”や“誇り”を育む事業
- ③市民に身近な場所で行う事業の拡充……………地区公民館における各担当校区での取組み
- ④学習情報センター機能の拡充……………学習情報(講座・イベント等)の提供
- ⑤職員研修の充実……………社会教育関係職員のスキル向上を図る研修
- ⑥地域の絆を育む取組み……………コミュニティ再生に資する取組み

⁴ 会議やミーティングがスムーズに進むよう、発言や参加を促進し、話の流れを整理し、参加者の合意形成をサポートする行為

Ⅱ 市民意識調査

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

市民の社会教育・生涯学習、住民自治及びまちづくりに対する意識や、学習活動・地域活動の実態、行政に対する要望などを把握し、今後の社会教育・生涯学習行政の施策・事業の在り方を研究するための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査対象

市内在住の満 18 歳以上の男女等（平成 30 年 7 月 1 日現在） 1,000 人

※住民基本台帳より無作為抽出

(3) 調査方法

郵送法（封書による郵送・回収）

(4) 調査期間

平成 30 年 8 月 16 日～9 月 15 日（調査基準日は 8 月 1 日）

※平成 30 年 9 月 18 日までに大牟田市に到達した調査票

※平成 30 年 8 月 31 日に調査に対する礼状兼協力依頼状を送付

(5) 回収件数(回収率)

417 件（41.7%）

(6) 調査委託機関

株式会社 西日本リサーチ・センター

< 調 査 項 目 >

◇回答者属性（性別、年齢等）……………5 問

（1）生涯学習について……………12 問

○生涯学習のイメージ、情報源、内容、場所・形態

○生涯学習の目的、生涯学習をしない理由（できない理由）

○生涯学習に都合の良い日時、学習ニーズ

○行政に対する要望 など

（2）学んだ成果について……………5 問

○生涯学習を通じた自身の変容

○学んだ成果の活用状況

○学んだ成果を活かしていない理由（活かさない理由） など

（3）ボランティア活動・地域活動について……………13 問

○ボランティア活動・地域活動の頻度、内容

○ご近所づきあいの有無、地域の“つながり”の必要性

○地域活動に参加していない理由（できない理由）

○地域の課題、地域と行政の協働が必要なこと

○学校を支援する取組みへの参加意向 など

（4）自由記述（生涯学習や地域づくりに関するご意見・ご要望）……1 問 （計 36 問）

<調査結果利用上の注意>

文章や表、グラフの数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならないことがある。また 2 つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合は、その回答比率の合計は原則として 100%を超える。

市民意識調査

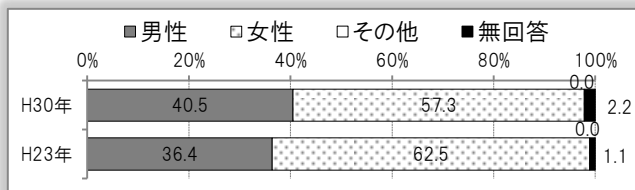
2.調査結果

回答者属性

◆性別

問1 あなたの性別について、あてはまる番号に○印をつけてください。

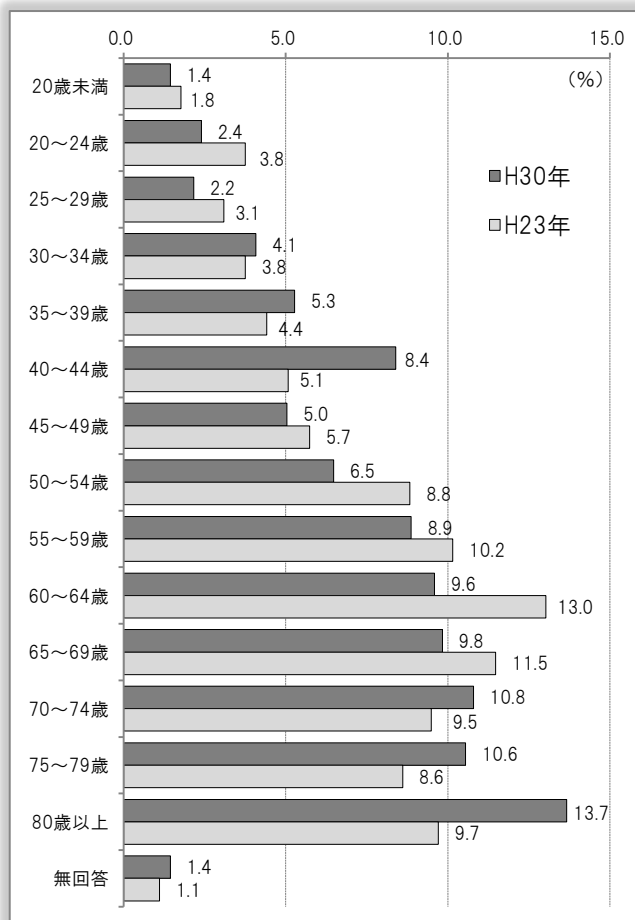
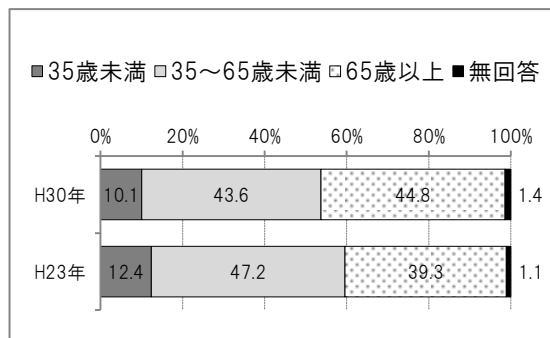
		今回(H30年)		前回(H23年)	
1	男 性	169人	40.5%	165人	36.4%
2	女 性	239人	57.3%	283人	62.5%
3	その他	0人	0.0%	0人	0.0%
	無回答	9人	2.2%	5人	1.1%
	合計	417人	100.0%	453人	100.0%



◆年齢

問2 あなたの年齢(平成30年8月1日現在)について、あてはまる番号に○印をつけてください。

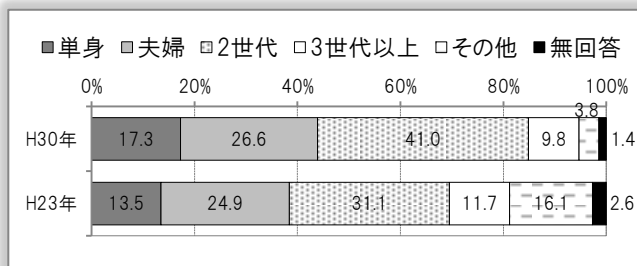
		今回(H30年)		前回(H23年)	
1	20歳未満	6人	1.4%	8人	1.8%
2	20～24歳	10人	2.4%	17人	3.8%
3	25～29歳	9人	2.2%	14人	3.1%
4	30～34歳	17人	4.1%	17人	3.8%
5	35～39歳	22人	5.3%	20人	4.4%
6	40～44歳	35人	8.4%	23人	5.1%
7	45～49歳	21人	5.0%	26人	5.7%
8	50～54歳	27人	6.5%	40人	8.8%
9	55～59歳	37人	8.9%	46人	10.2%
10	60～64歳	40人	9.6%	59人	13.0%
11	65～69歳	41人	9.8%	52人	11.5%
12	70～74歳	45人	10.8%	43人	9.5%
13	75～79歳	44人	10.6%	39人	8.6%
14	80歳以上	57人	13.7%	44人	9.7%
	無回答	6人	1.4%	5人	1.1%
	合計	417人	100.0%	453人	100.0%



◆家族構成

問3 あなたの家族構成について、あてはまる番号に○印をつけてください。

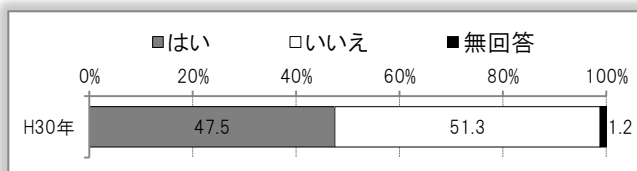
		今回(H30年)		前回(H23年)	
1	単身	72人	17.3%	61人	13.5%
2	夫婦	111人	26.6%	113人	24.9%
3	2世代	171人	41.0%	141人	31.1%
4	3世代以上	41人	9.8%	53人	11.7%
5	その他	16人	3.8%	73人	16.1%
	無回答	6人	1.4%	12人	2.6%
	合計	417人	100.0%	453人	100.0%



◆仕事・休日

問4-1 あなたは、現在、お仕事をしていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

	今回(H30年)	
1	はい	198人 47.5%
2	いいえ	214人 51.3%
	無回答	5人 1.2%
	合計	417人 100.0%

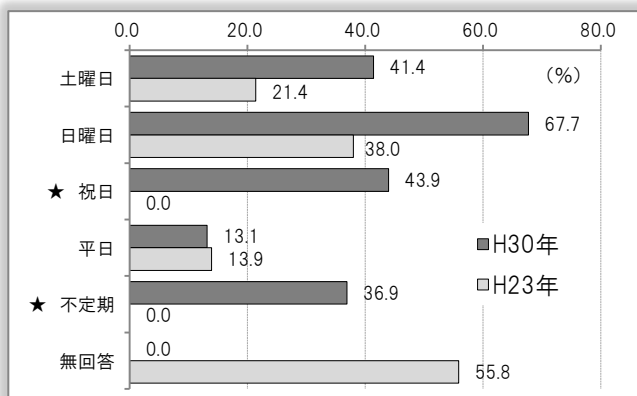


《問4で、「はい」とお答えの方におたずねします》

問4-2 あなたのお休みはいつですか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

	今回(H30年)		前回(H23年)	
1	土曜日	82人 41.4%	97人 21.4%	
2	日曜日	134人 67.7%	172人 38.0%	
3	祝日 ★	87人 43.9%	—	—
4	平日	26人 13.1%	63人 13.9%	
5	不定期 ★	73人 36.9%	—	—
	無回答	0人 0.0%	253人 55.8%	
	合計	198人	453人	

※「★印」の選択肢は、H23年調査時になかったもの



(1)生涯学習について

◆生涯学習のイメージ

問5 あなたは、「生涯学習」について、どのようなお考えやイメージをお持ちですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

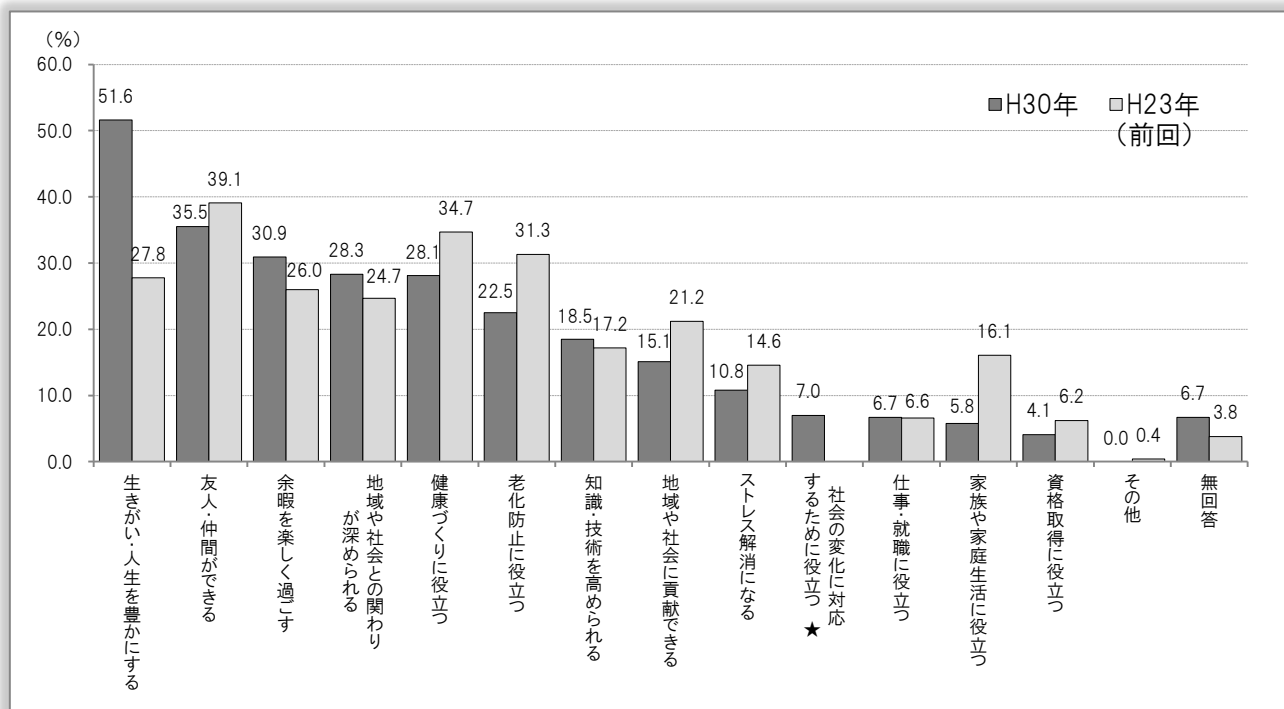
生涯学習のイメージは、「生きがい・人生を豊かにする」(51.6%)が最も高く(前回の選択肢に「生きがい」を追加)、次いで「友人・仲間ができる」(35.5%)、「余暇を楽しく過ごす」(30.9%)、「地域や社会との関わりが深められる」(28.3%)、「健康づくりに役立つ」(28.1%)となっています。

前回と比較すると、「健康づくり」及び「老化防止」は、それぞれ順位が下がっています(比較的年齢が上がるほど割合が高い)。また、「仕事・就職に役立つ」と「資格取得に役立つ」については、前回と変わらず10%未満となっています(年齢が若いほど割合が高い傾向)。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 余暇を楽しく過ごす	30.9	30.2	31.4	33.3	20.0	28.2	28.6	28.1	35.8	37.1	28.1	16.7
2 生きがい・人生を豊かにする	51.6	44.4	56.9	44.4	48.0	53.8	50.0	57.8	54.3	44.9	52.6	50.0
3 ストレス解消になる	10.8	5.3	14.2	22.2	12.0	10.3	1.8	20.3	12.3	6.7	12.3	16.7
4 友人・仲間ができる	35.5	32.0	37.7	44.4	48.0	35.9	32.1	29.7	35.8	39.3	33.3	33.3
5 健康づくりに役立つ	28.1	28.4	27.6	33.3	8.0	17.9	14.3	31.3	33.3	36.0	33.3	33.3
6 老化防止に役立つ	22.5	23.1	20.9	55.6	4.0	15.4	7.1	15.6	23.5	34.8	36.8	33.3
7 家族や家庭生活に役立つ	5.8	7.7	3.8	22.2	4.0	7.7	8.9	4.7	6.2	2.2	7.0	16.7
8 知識・技術を高められる	18.5	18.3	18.4	22.2	28.0	28.2	25.0	17.2	14.8	14.6	14.0	16.7
9 資格取得に役立つ	4.1	4.7	2.9	22.2	8.0	7.7	8.9	4.7	1.2	1.1	3.5	0.0
10 仕事・就職に役立つ	6.7	7.1	5.9	22.2	24.0	23.1	8.9	7.8	1.2	1.1	1.8	0.0
11 地域や社会との関わりが深められる	28.3	23.7	31.4	33.3	24.0	30.8	46.4	31.3	23.5	22.5	22.8	33.3
12 地域や社会に貢献できる	15.1	18.3	12.6	22.2	20.0	15.4	23.2	20.3	22.2	6.7	1.8	16.7
13 社会の変化に対応するために役立つ ★	7.0	10.7	4.2	11.1	20.0	7.7	3.6	4.7	7.4	11.2	0.0	0.0
14 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	6.7	8.3	5.9	0.0	4.0	5.1	5.4	4.7	6.2	3.4	19.3	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆生涯学習の必要性

問6 あなたは、生涯学習は必要だと思いますか。

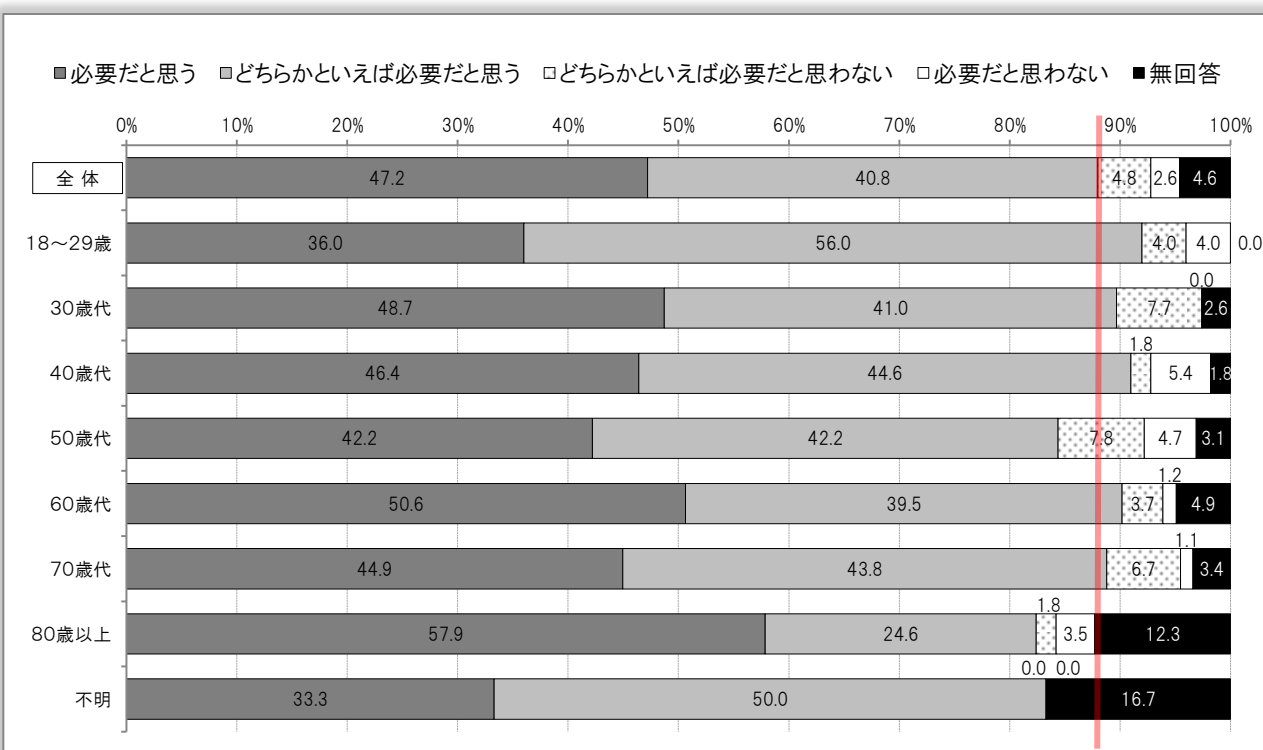
生涯学習は、「必要と思う」(47.2%)と「どちらかといえば必要だと思う」(40.8%)と回答した割合が、全体の約9割(88.0%)におよんでいます。また、「必要だと思わない」(2.6%)と「どちらかといえば必要だと思わない」(4.8%)と回答した割合は7.4%となっています。

年代別に見ると、『必要』の割合は、30歳未満が92.0%で最も高く、80歳以上の82.5%が最も低くなっており、比較的若い世代のほうが数値が高くなっています。逆に、『不必要』の割合は、50歳代が12.5%で最も高く、60歳代の4.9%が最も低くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 必要だと思う	47.2	46.2	48.5	33.3	36.0	48.7	46.4	42.2	50.6	44.9	57.9	33.3
2 どちらかといえば必要だと思う	40.8	39.6	41.8	33.3	56.0	41.0	44.6	42.2	39.5	43.8	24.6	50.0
3 どちらかといえば必要だと思わない	4.8	6.5	3.8	0.0	4.0	7.7	1.8	7.8	3.7	6.7	1.8	0.0
4 必要だと思わない	2.6	3.0	2.1	11.1	4.0	0.0	5.4	4.7	1.2	1.1	3.5	0.0
無回答	4.6	4.7	3.8	22.2	0.0	2.6	1.8	3.1	4.9	3.4	12.3	16.7

※H23年調査時に当該設問なし



◆生涯学習の情報源

問7 あなたは、生涯学習に関する情報を何から得ていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習の情報源は、「広報おおむた」(64.7%)が最も高く、次いで「TV・新聞・情報誌」(26.9%)、「町内の回覧板」(22.1%)、「家族や友人・知人」(21.6%)、「地区公民館だより」(17.0%)となっています。

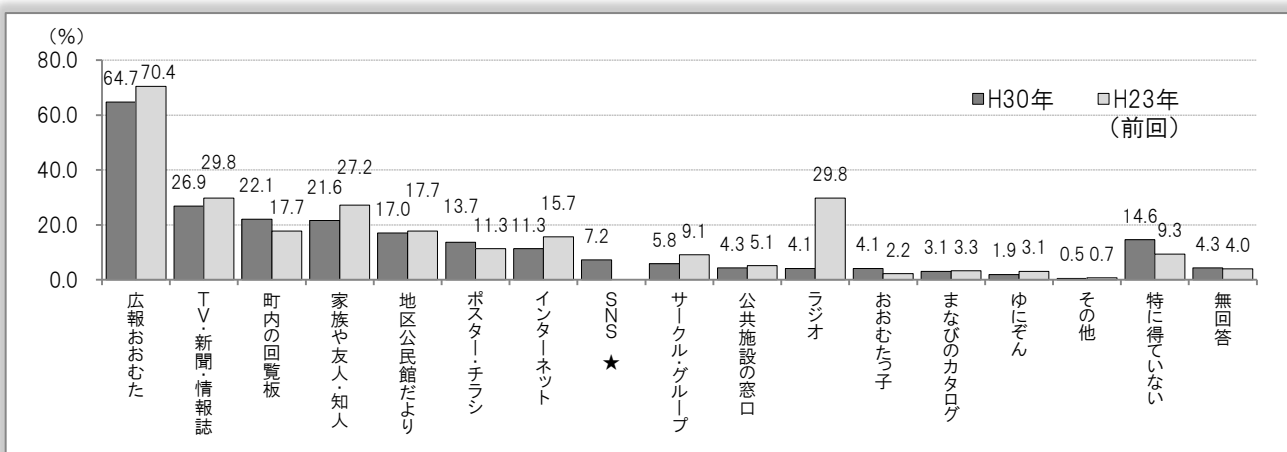
上位3項目については、比較的年齢が上がるほど割合が高く、逆に、「インターネット」と「SNS」は年齢が下がるほど割合が高くなっています。また、30歳未満の年代については、「特に得ていない」(40.0%)、「SNS」(28.0%)、「インターネット」(24.0%)の順に割合が高く、意識や情報源が他の年代とは全く異なっています。

なお、公共機関が発行する機関誌の中では、「地区公民館だより」が最も高く、特に70歳代、80歳代については、「町内の回覧板」並みの割合となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 市の広報紙「広報おおむた」	64.7	55.0	71.1	77.8	16.0	56.4	62.5	64.1	74.1	74.2	63.2	100.0
2 インターネット(市ホームページ等)	11.3	11.8	10.9	11.1	24.0	23.1	19.6	15.6	7.4	4.5	0.0	16.7
3 SNS(愛情ねっと等) ★	7.2	5.3	8.8	0.0	28.0	20.5	7.1	10.9	0.0	3.4	0.0	16.7
4 ラジオ(FMたん等)	4.1	4.1	3.8	11.1	4.0	2.6	0.0	4.7	4.9	4.5	5.3	16.7
5 TV・新聞・情報誌	26.9	29.0	25.5	22.2	12.0	25.6	21.4	23.4	29.6	32.6	29.8	33.3
6 家族や友人・知人	21.6	15.4	26.4	11.1	20.0	25.6	14.3	25.0	22.2	22.5	22.8	0.0
7 町内の回覧板	22.1	24.9	20.1	22.2	4.0	10.3	21.4	14.1	21.0	32.6	31.6	33.3
8 地区公民館だより	17.0	16.6	17.6	11.1	0.0	10.3	3.6	7.8	18.5	31.5	28.1	16.7
9 学習情報誌「まなびのカatalog」	3.1	3.0	3.3	0.0	0.0	2.6	1.8	1.6	6.2	5.6	0.0	0.0
10 文化会館情報誌「ゆにぞん」	1.9	1.8	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	2.5	4.5	0.0	0.0
11 子育て情報誌「おおむたっ子」	4.1	1.8	5.9	0.0	8.0	7.7	8.9	4.7	2.5	2.2	0.0	0.0
12 公共施設の窓口	4.3	1.8	5.9	11.1	4.0	0.0	3.6	4.7	6.2	3.4	5.3	16.7
13 ポスター・チラシ	13.7	10.1	16.7	0.0	16.0	20.5	16.1	12.5	14.8	10.1	12.3	0.0
14 サークル・グループ	5.8	2.4	8.4	0.0	4.0	2.6	5.4	3.1	4.9	7.9	10.5	0.0
15 その他	0.5	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0
16 特に得ていない	14.6	19.5	11.3	11.1	40.0	25.6	21.4	18.8	6.2	9.0	7.0	0.0
無回答	4.3	4.1	4.6	0.0	0.0	2.6	1.8	1.6	3.7	5.6	12.3	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの。前回の調査では「TV・新聞・ラジオ・情報誌」が同じ選択肢。



年 代 別

BEST3

- 18～29歳……①特に得ていない(40.0%) ②SNS(28.0%) ③インターネット(24.0%)
 30歳代……①広報誌(56.4%) ②TV・新聞・情報誌／家族や友人・知人／特に得ていない(25.6%)
 40歳代……①広報誌(62.5%) ②TV・新聞・情報誌／町内の回覧板／特に得ていない(21.4%)
 50歳代……①広報誌(64.1%) ②家族や友人・知人(25.0%) ③TV・新聞・情報誌(23.4%)
 60歳代……①広報誌(74.1%) ②TV・新聞・情報誌(29.6%) ③家族や友人・知人(22.2%)
 70歳代……①広報誌(74.2%) ②TV・新聞・情報誌／町内の回覧板(32.6%)
 80歳以上……①広報誌(63.2%) ②町内の回覧板(31.6%) ③TV・新聞・情報誌(29.8%)

◆生涯学習の実施状況

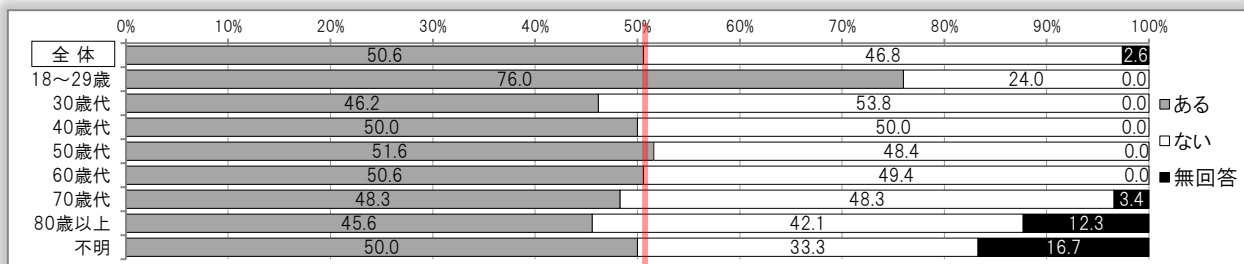
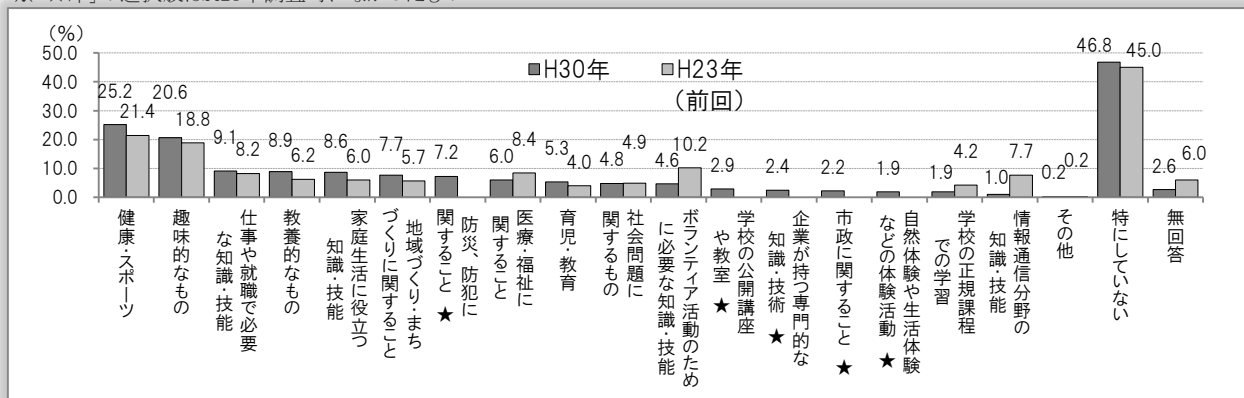
問8 あなたは、この1年くらいの間に、生涯学習をしたことがありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

この1年くらいの間に行った生涯学習は、前回と同様、「特にしていない」(46.8%)と回答した割合が最も高くなっています。また、生涯学習の内容についても、「健康・スポーツ」(25.2%)と「趣味的なもの」(20.6%)が、それぞれ約2割あり、ほかの項目と比べて高くなっています(健康・スポーツについては、どの年代でも一定の割合あり)。なお、「ボランティア」と「医療・福祉」は、前回と比較して割合が低下し、大きく順位が下がっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	20.6	14.8	24.3	33.3	44.0	17.9	7.1	18.8	24.7	21.3	19.3	33.3
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	8.9	11.8	7.1	0.0	12.0	10.3	1.8	7.8	13.6	7.9	10.5	0.0
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	4.8	7.1	3.3	0.0	8.0	7.7	1.8	7.8	3.7	2.2	7.0	0.0
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	25.2	21.3	28.0	22.2	24.0	23.1	21.4	26.6	19.8	33.7	22.8	33.3
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	8.6	4.1	12.1	0.0	4.0	2.6	3.6	10.9	11.1	9.0	14.0	0.0
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	5.3	1.8	7.9	0.0	16.0	7.7	12.5	6.3	2.5	1.1	1.8	0.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	9.1	8.9	9.6	0.0	44.0	15.4	16.1	12.5	3.7	0.0	1.8	0.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	1.0	1.2	0.8	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	2.5	1.1	0.0	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	4.6	4.1	5.0	0.0	12.0	5.1	3.6	4.7	4.9	5.6	0.0	0.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動 ★	1.9	2.4	1.7	0.0	4.0	2.6	0.0	3.1	1.2	3.4	0.0	0.0
11 防災、防犯に関すること ★	7.2	8.9	6.3	0.0	4.0	5.1	7.1	9.4	4.9	6.7	12.3	0.0
12 医療・福祉に関すること	6.0	8.3	4.6	0.0	8.0	7.7	3.6	6.3	4.9	5.6	8.8	0.0
13 地域づくり・まちづくりに関すること	7.7	8.9	7.1	0.0	0.0	2.6	10.7	10.9	7.4	9.0	7.0	0.0
14 市政に関すること ★	2.2	3.0	1.7	0.0	0.0	0.0	3.6	3.1	1.2	3.4	1.8	0.0
15 企業が持つ専門的な知識・技術 ★	2.4	4.7	0.8	0.0	12.0	2.6	1.8	4.7	1.2	1.1	0.0	0.0
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	1.9	1.8	1.7	11.1	24.0	0.0	0.0	1.6	1.2	0.0	0.0	0.0
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室 ★	2.9	1.8	3.3	11.1	16.0	5.1	1.8	0.0	2.5	3.4	0.0	0.0
18 その他	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
19 特にしていない	46.8	55.0	41.0	44.4	24.0	53.8	50.0	48.4	49.4	48.3	42.1	33.3
無回答	2.6	0.6	3.8	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	12.3	16.7

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆生涯学習の目的・理由

《問8で「1～18」に○印をつけられた方におたずねします》

問9 あなたは何のために生涯学習をしていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

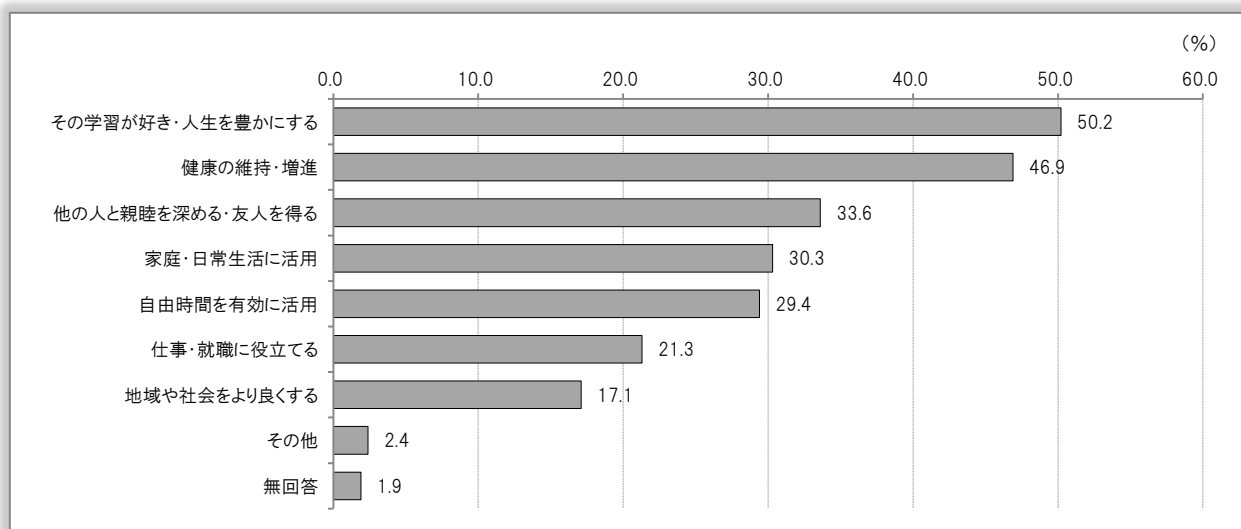
生涯学習を行う目的は、「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」(50.2%)が最も高く、次いで、「健康の維持・増進のため」(46.9%)、「親睦や友人を得る」(33.6%)、「家庭・日常生活に活用」(30.3%)、「自由時間を有効に活用」(29.4%)となっています。

年代別で見ると、30歳未満及び40歳代は「仕事・就職」、30歳代、50歳代及び60歳代は「その学習が好き、人生を豊かに」、70歳以上は「健康」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	211人	75人	132人	4人	19人	18人	28人	33人	41人	43人	26人	3人
1 その学習が好きであったり、人生を豊かにしたりするため	50.2	41.3	56.1	25.0	57.9	61.1	35.7	69.7	48.8	48.8	34.6	33.3
2 家庭・日常生活に活用するため	30.3	36.0	27.3	25.0	21.1	27.8	17.9	36.4	36.6	30.2	38.5	0.0
3 自由時間を有効に活用するため	29.4	30.7	28.8	25.0	26.3	33.3	7.1	21.2	39.0	44.2	23.1	33.3
4 健康の維持・増進のため	46.9	44.0	48.5	50.0	15.8	33.3	35.7	39.4	36.6	81.4	57.7	66.7
5 他の人と親睦を深めたり、友人を得たりするため	33.6	25.3	37.1	75.0	15.8	33.3	21.4	27.3	31.7	44.2	50.0	66.7
6 仕事・就職に役立てるため	21.3	22.7	20.5	25.0	63.2	38.9	46.4	30.3	7.3	0.0	0.0	0.0
7 地域や社会をより良くするため	17.1	22.7	13.6	25.0	5.3	5.6	28.6	24.2	22.0	14.0	11.5	0.0
8 その他	2.4	4.0	1.5	0.0	10.5	5.6	3.6	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.9	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	2.4	2.3	3.8	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



◆生涯学習の場所・形態

《問8で「1～18」に○印をつけられた方におたずねします》

問10 あなたは、どのような場所や形態で生涯学習をしたことがありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

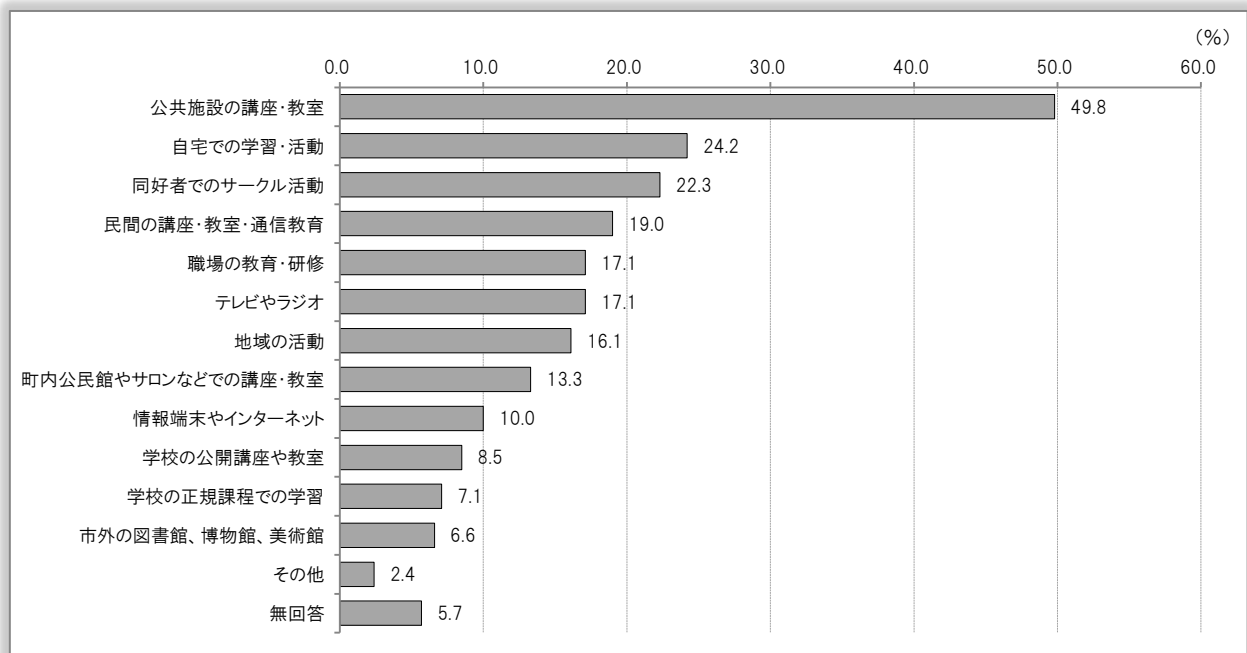
生涯学習の場所・形態は、「公共施設の講座」(49.8%)が最も高く、次いで、「自宅での学習・活動」(24.2%)、「同好者でのサークル活動」(22.3%)、「民間の講座・通信教育」(19.0%)、「職場の研修」(17.1%)となっています。

性別で見ると、「テレビやラジオ」「情報端末やインターネット」「自宅での学習・活動」は男性の割合が高く、逆に、「講座」「同好者でのサークル活動」は女性の割合が高くなっています。

年代別で見ると、30歳未満は「学校」「職場」、30歳代～70歳代は「公共施設の講座」(40歳代は「地域の活動」が同率)、80歳以上は「テレビやラジオ」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	211人	75人	132人	4人	19人	18人	28人	33人	41人	43人	26人	3人
1 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	49.8	38.7	55.3	75.0	31.6	50.0	35.7	39.4	58.5	72.1	34.6	100.0
2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	19.0	14.7	22.0	0.0	15.8	22.2	25.0	30.3	19.5	14.0	7.7	0.0
3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	7.1	5.3	8.3	0.0	42.1	5.6	3.6	3.0	9.8	0.0	0.0	0.0
4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	8.5	6.7	9.8	0.0	26.3	5.6	7.1	12.1	4.9	7.0	3.8	0.0
5 職場の教育・研修	17.1	22.7	14.4	0.0	42.1	22.2	32.1	30.3	9.8	2.3	0.0	0.0
6 町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	16.1	20.0	13.6	25.0	5.3	5.6	35.7	24.2	9.8	18.6	3.8	33.3
7 町内公民館やサロンなどでの講座・教室	13.3	9.3	14.4	50.0	5.3	11.1	3.6	6.1	7.3	27.9	19.2	66.7
8 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	22.3	12.0	28.8	0.0	21.1	11.1	10.7	15.2	34.1	25.6	30.8	0.0
9 市外の図書館、博物館、美術館	6.6	10.7	4.5	0.0	5.3	11.1	3.6	6.1	9.8	9.3	0.0	0.0
10 テレビやラジオ	17.1	28.0	11.4	0.0	0.0	5.6	3.6	21.2	22.0	14.0	46.2	0.0
11 情報端末やインターネット(eラーニング含む)	10.0	14.7	7.6	0.0	21.1	16.7	10.7	9.1	12.2	7.0	0.0	0.0
12 自宅での学習・活動(書籍など)	24.2	34.7	18.9	0.0	26.3	38.9	21.4	36.4	17.1	11.6	34.6	0.0
13 その他	2.4	2.7	2.3	0.0	0.0	5.6	3.6	3.0	2.4	2.3	0.0	0.0
無回答	5.7	8.0	3.8	25.0	0.0	0.0	0.0	3.0	9.8	9.3	11.5	0.0



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆生涯学習をしない理由(できない理由)

《問8で生涯学習を「特にしていない」とお答えの人におたずねします》

問11 あなたが生涯学習をしない理由(できない理由)は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習をしない理由(できない理由)は、「仕事」(38.5%)が最も高く、次いで、「家事・育児・介護等」(20.5%)、「どのような活動があるかわからない」(18.5%)、「生涯学習に関する情報不足」(17.9%)となっています。

性別で見ると、男性は「仕事」、女性は「仕事」に加え「家事・育児・介護等」(同率)が最も高く、また、男性が「生涯学習に関する情報が不足している」と感じている割合は女性の約2倍におよんでいます。

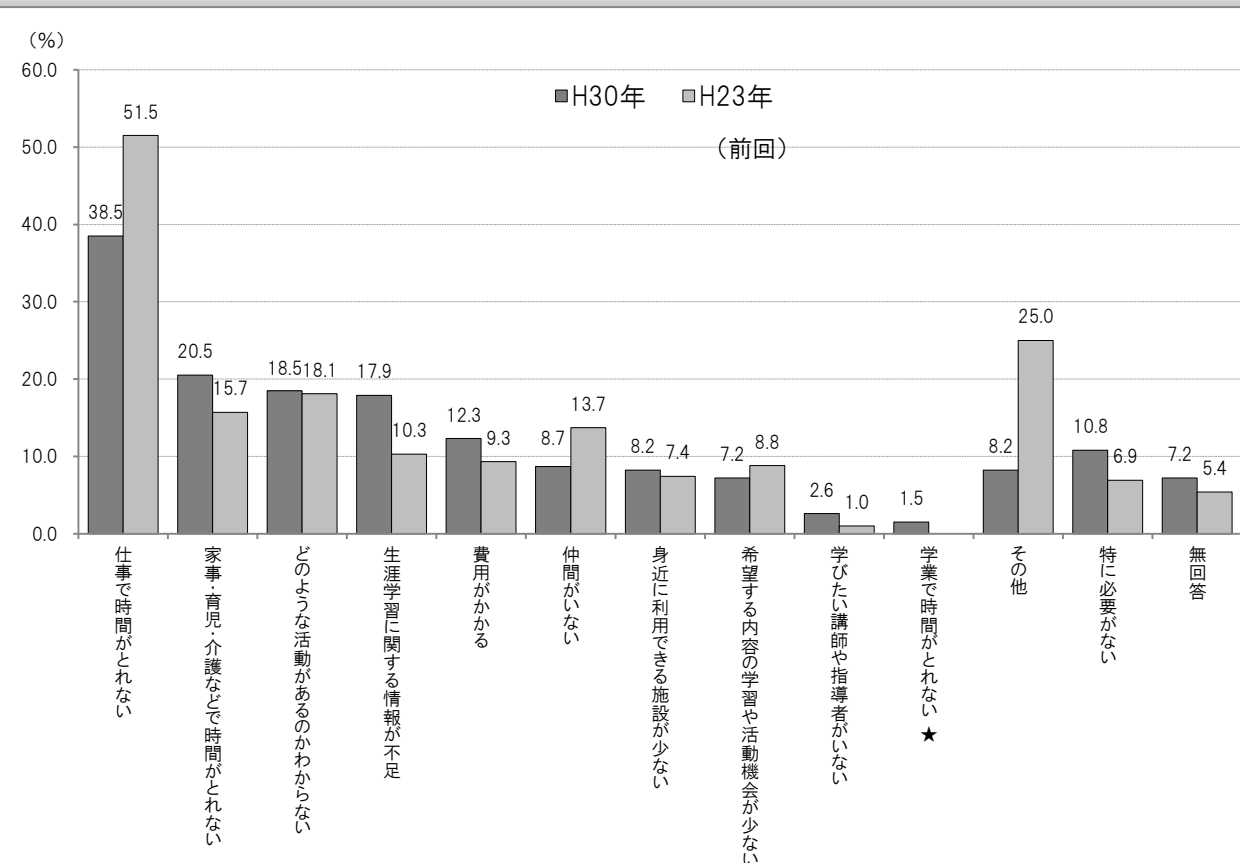
年代別で見ると、30歳未満は「学業」、30歳代～60歳代は「仕事」、70歳代は「生涯学習に関する情報が不足」、80歳以上は「その他」(体調不良、高齢等)が最も高くなっています。

なお、前回と比較すると、「生涯学習に関する情報が不足」の割合が2倍近く高くなっています。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	195人	93人	98人	4人	6人	21人	28人	31人	40人	43人	24人	2人
1 学業で時間がとれない ★	1.5	0.0	3.1	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 仕事で時間がとれない	38.5	45.2	31.6	50.0	0.0	61.9	67.9	64.5	35.0	18.6	0.0	50.0
3 家事・育児・介護などで時間がとれない	20.5	9.7	31.6	0.0	16.7	47.6	25.0	19.4	27.5	11.6	0.0	0.0
4 一緒にする仲間がいない	8.7	8.6	7.1	50.0	0.0	4.8	3.6	9.7	7.5	14.0	8.3	50.0
5 費用がかかるのでできない	12.3	14.0	10.2	25.0	16.7	9.5	7.1	16.1	17.5	11.6	8.3	0.0
6 どのような活動があるかわからない	18.5	19.4	18.4	0.0	33.3	23.8	7.1	25.8	17.5	20.9	12.5	0.0
7 学びたい講師や指導者がいない	2.6	3.2	2.0	0.0	0.0	4.8	0.0	3.2	2.5	4.7	0.0	0.0
8 身近に利用できる施設が少ない	8.2	7.5	9.2	0.0	16.7	9.5	3.6	6.5	10.0	9.3	8.3	0.0
9 希望する内容の学習や活動機会が少ない	7.2	8.6	6.1	0.0	16.7	14.3	0.0	9.7	5.0	11.6	0.0	0.0
10 生涯学習に関する情報が不足している	17.9	24.7	12.2	0.0	33.3	19.0	10.7	12.9	22.5	27.9	4.2	0.0
11 その他	8.2	7.5	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	12.5	7.0	29.2	0.0
12 特に必要がない	10.8	10.8	10.2	25.0	16.7	0.0	14.3	3.2	7.5	16.3	16.7	50.0
無回答	7.2	6.5	8.2	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	5.0	7.0	29.2	0.0

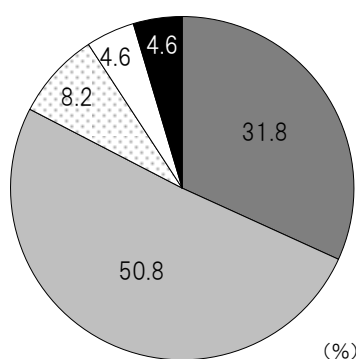
※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



参 考 「この1年くらいの間に生涯学習を特にしていない人・できない人」に係るデータ

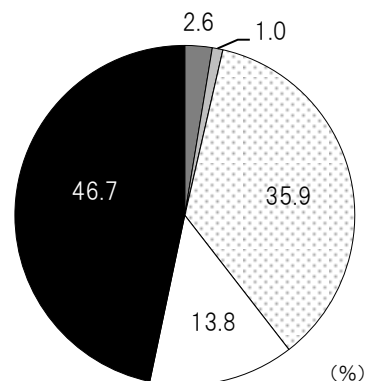
①生涯学習の必要性(問6)

■必要
□どちらかといえば必要
□どちらかといえば不要
□不要
■無回答

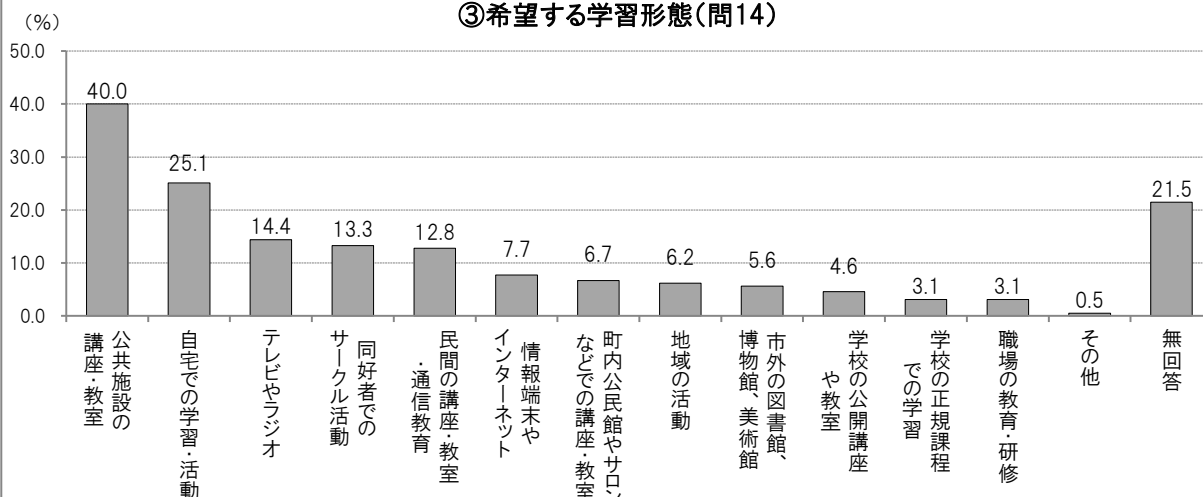


②知識・技術の活用(問19)

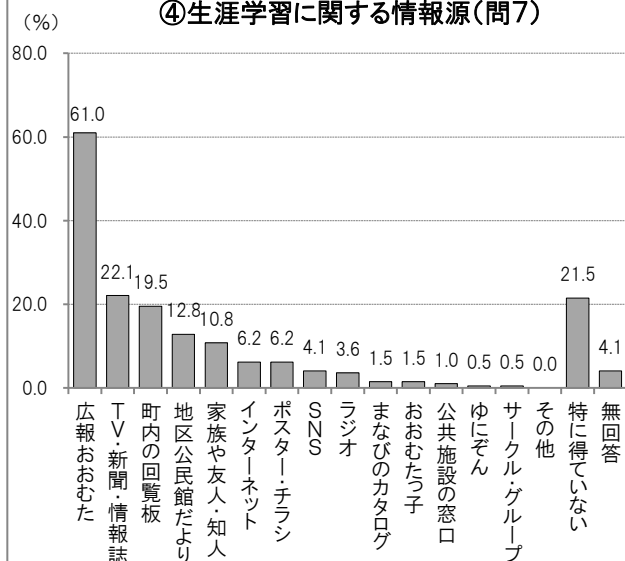
■既に活かしている
□是非いかしたい
□機会があれば活かしたい
□活かすつもりはない
■無回答



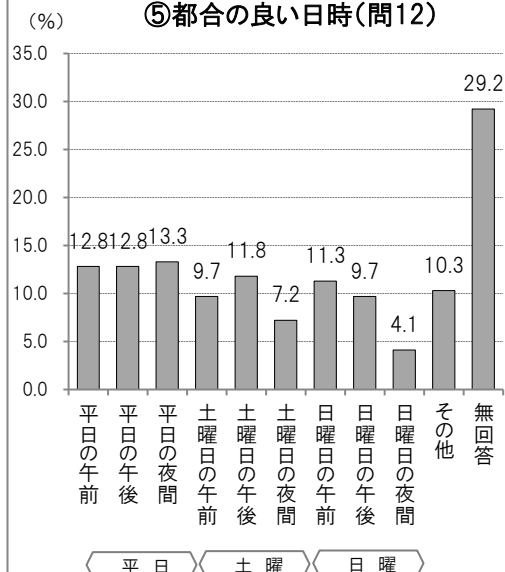
③希望する学習形態(問14)



④生涯学習に関する情報源(問7)



⑤都合の良い日時(問12)



◆生涯学習を行うために都合の良い日時

問12 あなたが生涯学習を行うにあたり、都合の良い日時はいつですか。あてはまる番号にいくつでも〇印をつけてください。

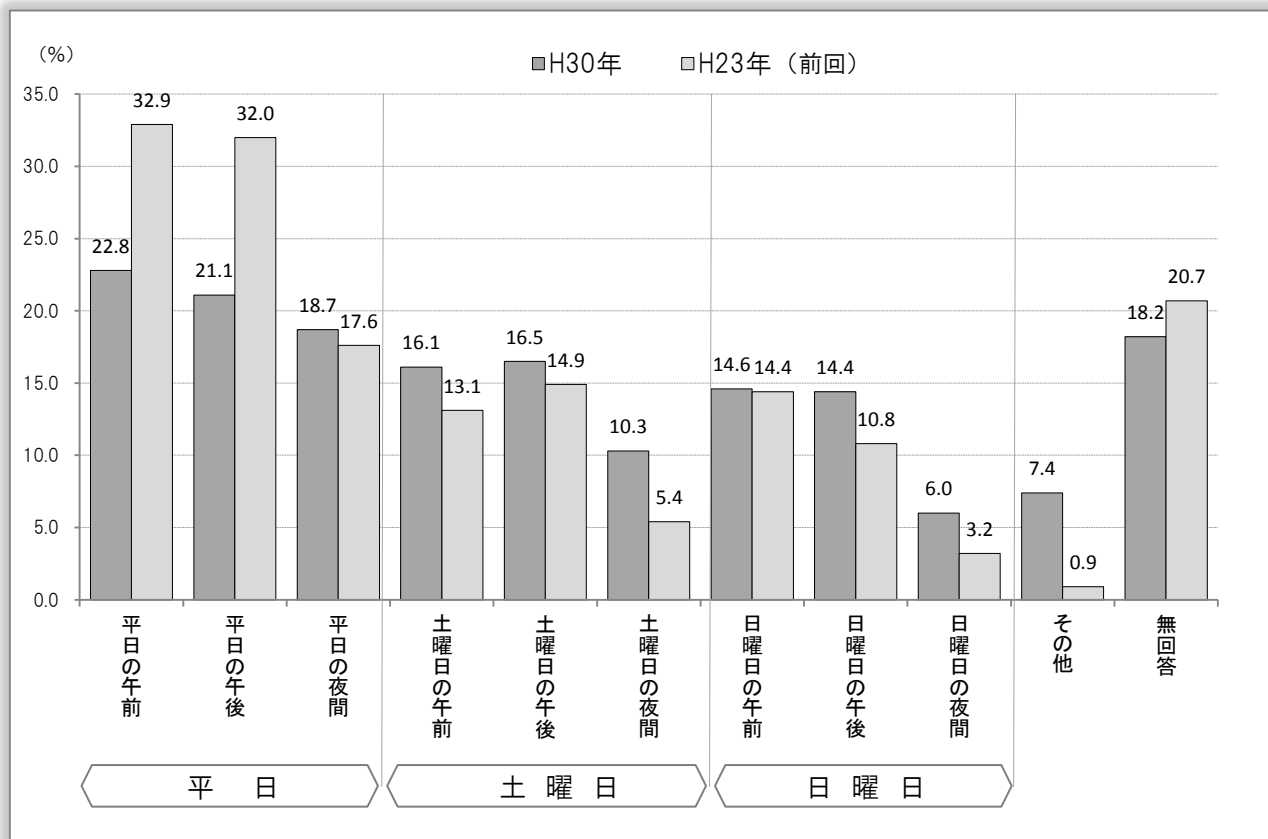
生涯学習を行うために都合の良い日時は、「平日の午前」(22.8%)が最も多く、次いで、「平日の午後」(21.1%)、「平日の夜間」(18.7%)となっています。平日、土曜日、日曜日をそれぞれ時間区分で見ると、順位は前回と同じ結果となっていますが、平日の午前・午後の割合が10ポイント近く下がり、逆に土曜日の夜間と日曜日の夜間の割合は2倍近く増加しています。

なお、年代別では、60歳未満は「平日の夜間」、60歳代は「平日の午前」、70歳代は「平日の午後」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 平日(月～金曜日)の午前	22.8	17.2	27.2	11.1	8.0	20.5	10.7	10.9	38.3	30.3	22.8	16.7
2 平日(月～金曜日)の午後	21.1	20.7	20.9	33.3	4.0	15.4	12.5	6.3	27.2	36.0	22.8	50.0
3 平日(月～金曜日)の夜間	18.7	17.8	20.1	0.0	44.0	30.8	33.9	28.1	9.9	9.0	3.5	0.0
4 土曜日の午前	16.1	20.1	13.8	0.0	28.0	23.1	16.1	23.4	13.6	15.7	3.5	0.0
5 土曜日の午後	16.5	17.8	16.3	0.0	24.0	28.2	14.3	23.4	14.8	15.7	5.3	0.0
6 土曜日の夜間	10.3	11.8	9.6	0.0	32.0	25.6	17.9	12.5	4.9	3.4	0.0	0.0
7 日曜日の午前	14.6	18.9	11.7	11.1	28.0	20.5	19.6	23.4	13.6	6.7	3.5	16.7
8 日曜日の午後	14.4	18.3	11.7	11.1	36.0	23.1	16.1	21.9	9.9	9.0	3.5	16.7
9 日曜日の夜間	6.0	10.1	3.3	0.0	20.0	15.4	7.1	6.3	4.9	2.2	0.0	0.0
10 その他	7.4	9.5	6.3	0.0	0.0	2.6	7.1	17.2	8.6	2.2	10.5	0.0
無回答	18.2	18.3	16.7	55.6	4.0	7.7	12.5	6.3	14.8	22.5	47.4	33.3

※「夜間」とは午後5時以降をいいます。



◆学習ニーズ

問13 あなたは、どのようなことを学んでみたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

学習ニーズは、「健康・スポーツ」(42.7%)が最も高く、次いで、「趣味的なもの」(40.3%)、「家庭生活に役立つこと」(26.6%)、「教養的なもの」(22.8%)、「医療・福祉に関すること」(20.6%)となっています。年代別に見ても、「健康・スポーツ」は、80歳未満までの各年代において割合が高くなっています。

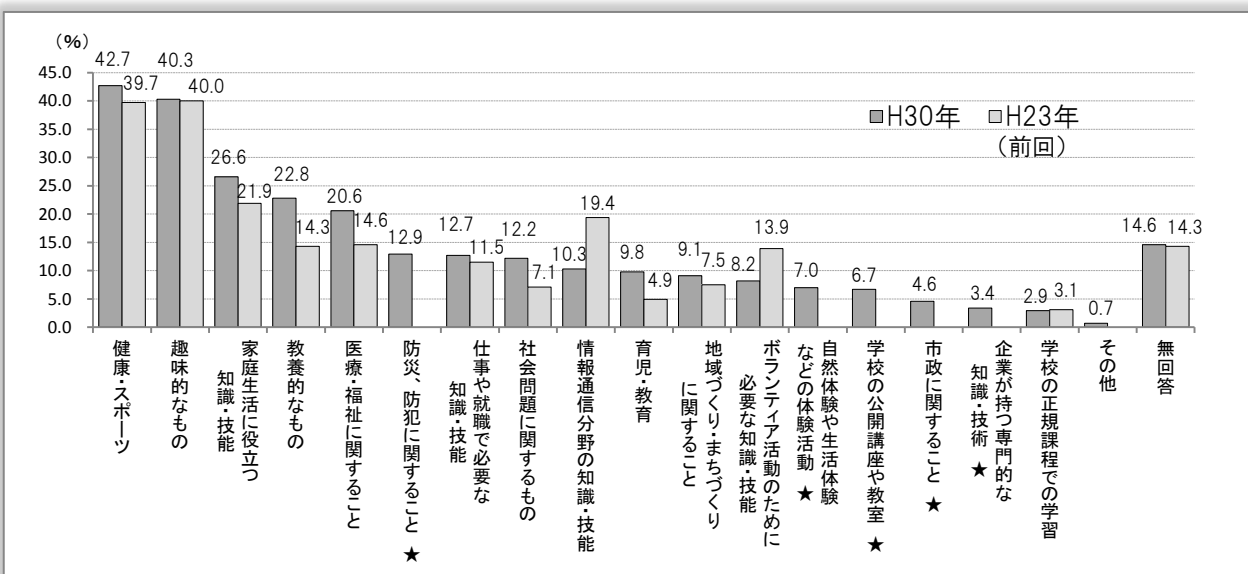
性別でみると、男性で割合が高いのは、「社会問題に関するもの」「地域づくり・まちづくりに関すること」「市政に関すること」で、女性で割合が高いのは、「趣味的なもの」「家庭生活に役立つ知識・技能」「育児・教育」となっています。

前回と比較すると、「情報通信分野に関する知識・技能」の割合が大きく低下しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	40.3	28.4	49.4	22.2	72.0	51.3	33.9	37.5	45.7	38.2	24.6	33.3
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	22.8	27.2	20.1	11.1	24.0	20.5	26.8	26.6	34.6	14.6	12.3	16.7
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	12.2	20.7	6.7	0.0	20.0	12.8	5.4	10.9	16.0	10.1	15.8	0.0
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	42.7	40.8	45.2	11.1	52.0	56.4	42.9	39.1	44.4	52.8	17.5	16.7
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	26.6	11.8	37.2	22.2	36.0	43.6	19.6	29.7	32.1	19.1	17.5	33.3
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	9.8	4.7	13.8	0.0	40.0	41.0	17.9	3.1	1.2	2.2	0.0	0.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能(仕事に係のある知識の習得や資格の取得など)	12.7	11.2	13.8	11.1	36.0	30.8	32.1	17.2	2.5	0.0	1.8	0.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	10.3	11.2	10.0	0.0	12.0	23.1	14.3	9.4	12.3	4.5	5.3	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	8.2	7.7	8.8	0.0	16.0	12.8	10.7	10.9	8.6	4.5	1.8	0.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動 ★	7.0	5.9	7.9	0.0	16.0	20.5	3.6	6.3	6.2	5.6	1.8	0.0
11 防災、防犯に関すること ★	12.9	12.4	13.8	0.0	16.0	15.4	10.7	18.8	6.2	13.5	15.8	0.0
12 医療・福祉に関すること	20.6	19.5	20.9	33.3	32.0	15.4	17.9	23.4	9.9	27.0	24.6	16.7
13 地域づくり・まちづくりに関すること	9.1	12.4	7.1	0.0	16.0	10.3	14.3	7.8	7.4	6.7	8.8	0.0
14 市政に関すること ★	4.6	8.3	2.1	0.0	4.0	2.6	5.4	4.7	2.5	6.7	5.3	0.0
15 企業が持つ専門的な知識・技術 ★	3.4	4.1	2.5	11.1	4.0	12.8	8.9	3.1	1.2	0.0	0.0	0.0
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	2.9	2.4	3.3	0.0	8.0	10.3	7.1	0.0	1.2	1.1	0.0	0.0
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室 ★	6.7	5.3	7.9	0.0	12.0	17.9	5.4	7.8	7.4	4.5	0.0	0.0
18 その他	0.7	0.6	0.8	0.0	0.0	2.6	0.0	1.6	0.0	0.0	1.8	0.0
無回答	14.6	16.0	13.0	33.3	4.0	7.7	8.9	6.3	11.1	15.7	40.4	33.3

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆希望する場所・形態

問14 あなたは、今後どのような場所や形態で生涯学習をしたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

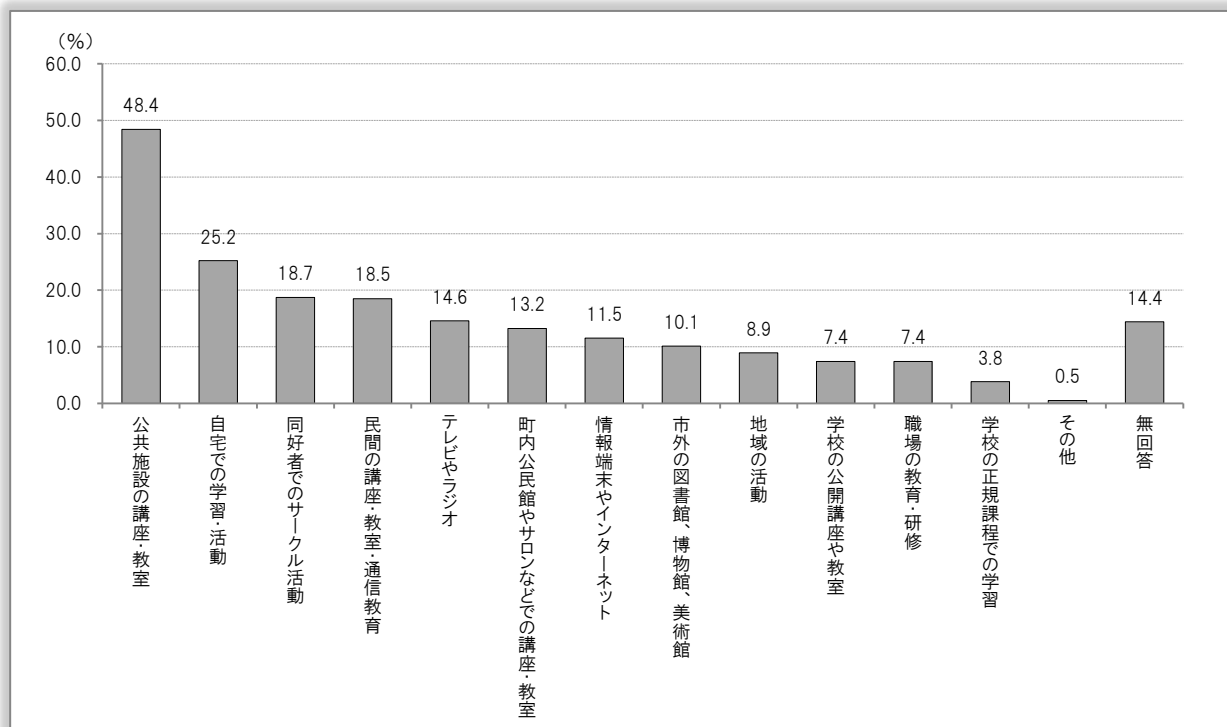
希望する場所・形態は、「公共施設の講座・教室」(48.4%)が最も高く、次いで、「自宅での学習・活動」(25.2%)、「同好者でのサークル活動」(18.7%)、「民間の講座・通信教育」(18.5%)、「テレビやラジオ」(14.6%)となっています。

年代別に見ても、80歳以上を除く全ての年代で「公共施設の講座・教室」が最も高くなっています。

性別で見ると、「職場の教育・研修」「テレビやラジオ」については、男性の割合が女性の約2倍となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	48.4	42.6	53.6	22.2	52.0	61.5	53.6	53.1	53.1	48.3	24.6	16.7
2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	18.5	15.4	20.9	11.1	28.0	35.9	17.9	26.6	17.3	12.4	5.3	16.7
3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	3.8	3.0	4.6	0.0	12.0	12.8	8.9	0.0	2.5	1.1	0.0	0.0
4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	7.4	7.7	7.5	0.0	16.0	15.4	10.7	4.7	8.6	5.6	0.0	0.0
5 職場の教育・研修	7.4	11.2	4.6	11.1	24.0	5.1	23.2	12.5	2.5	0.0	0.0	0.0
6 町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	8.9	9.5	8.4	11.1	8.0	17.9	14.3	3.1	7.4	9.0	5.3	16.7
7 町内公民館やサロンなどでの講座・教室	13.2	10.1	15.5	11.1	12.0	7.7	7.1	4.7	17.3	19.1	17.5	16.7
8 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	18.7	18.3	19.7	0.0	28.0	10.3	12.5	18.8	23.5	21.3	17.5	0.0
9 市外の図書館、博物館、美術館	10.1	10.1	10.5	0.0	24.0	15.4	7.1	12.5	13.6	6.7	1.8	0.0
10 テレビやラジオ	14.6	19.5	11.7	0.0	16.0	7.7	8.9	12.5	16.0	15.7	24.6	0.0
11 情報端末やインターネット(eラーニング含む)	11.5	12.4	11.3	0.0	32.0	17.9	17.9	12.5	14.8	2.2	0.0	16.7
12 自宅での学習・活動(書籍など)	25.2	28.4	23.4	11.1	32.0	17.9	21.4	34.4	23.5	27.0	22.8	0.0
13 その他	0.5	1.2	0.0	0.0	0.0	2.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	14.4	12.4	14.6	44.4	4.0	7.7	5.4	7.8	12.3	14.6	42.1	16.7



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきこと

問15 生涯学習が盛んなまちにするために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に5つまで○印をつけてください。

生涯学習を盛んなまちにするために行政が力を入れるべきことは、「専門的な職員等の配置」(28.5%)が最も高く、次いで、「若者への教育の充実」(28.3%)、「公共施設の講座等の充実」(22.1%)、「施設の利用手続きの簡素化」「詳細な学習情報の提供」(21.1%)となっています。

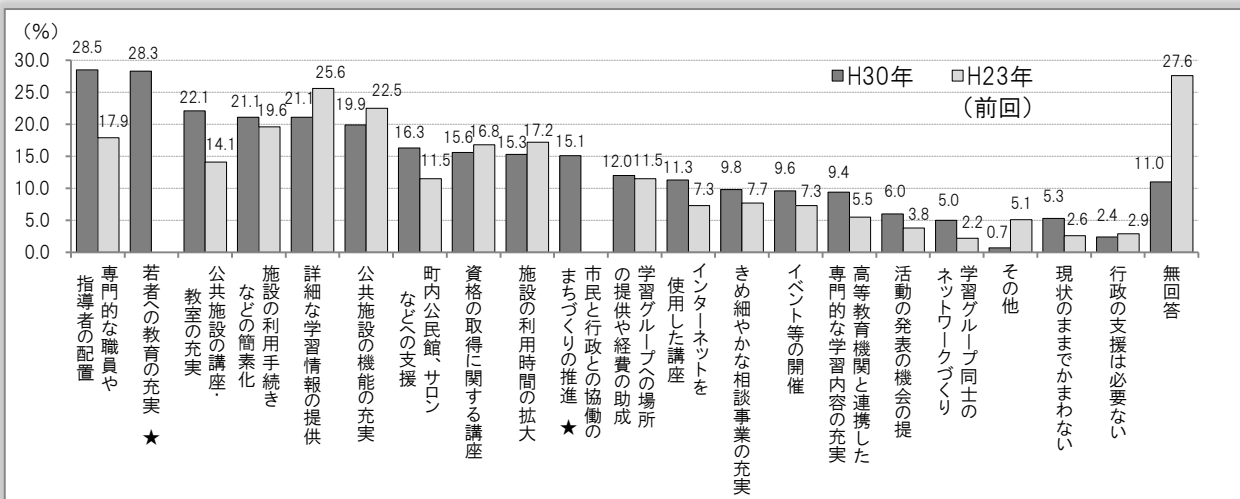
年代別では、30歳未満は「施設の利用時間拡大」、30歳代、50歳代は「専門的な職員・指導者の配置」、40歳代は「学習についての情報」、60歳代は「公共施設の講座の充実」、70歳以上は「次世代を担う若者への教育の充実」が最も高くなっています。

前回と比較すると、「専門的な職員等の配置」と「公共施設の講座等の充実」の割合が大きく上昇しています。順位が大きく変動していますが、上位5項目のうち「専門的な職員等の配置」、「施設の利用手続きの簡素化」、「詳細な学習情報の提供」については、前回も上位5項目に入っていたものです。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 専門的な職員や指導者の配置	28.5	30.8	26.4	44.4	16.0	38.5	28.6	29.7	24.7	29.2	29.8	33.3
2 大学等高等教育機関と連携した専門的な学習内容の充実	9.4	12.4	6.7	22.2	20.0	15.4	8.9	7.8	8.6	9.0	3.5	16.7
3 次世代を担う若者への教育の充実 ★	28.3	26.0	30.1	22.2	28.0	35.9	25.0	25.0	23.5	30.3	35.1	16.7
4 施設の利用手続きなどの簡素化	21.1	18.9	22.2	33.3	16.0	20.5	17.9	28.1	25.9	14.6	17.5	66.7
5 施設の利用時間の拡大(早朝、夜間など)	15.3	13.0	16.3	33.3	40.0	28.2	17.9	15.6	17.3	3.4	5.3	50.0
6 きめ細やかな相談事業の充実	9.8	8.9	10.5	11.1	12.0	12.8	8.9	7.8	13.6	2.2	15.8	16.7
7 地域住民がつどう町内公民館、サロンなどへの支援	16.3	12.4	18.8	22.2	8.0	17.9	12.5	7.8	18.5	24.7	14.0	33.3
8 学習についての情報(講師・内容・時間・場所・費用)をより詳細に提供する	21.1	24.9	19.2	0.0	24.0	20.5	30.4	28.1	22.2	14.6	14.0	0.0
9 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの施設の機能を充実させる	19.9	16.0	23.0	11.1	16.0	28.2	26.8	23.4	17.3	21.3	7.0	16.7
10 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室を充実させる	22.1	16.6	26.4	11.1	12.0	25.6	25.0	26.6	32.1	15.7	12.3	16.7
11 啓発のためのフェスティバルやイベントを行う	9.6	9.5	10.0	0.0	24.0	23.1	17.9	4.7	4.9	6.7	3.5	0.0
12 学習グループに、場所の提供や経費の助成を行う	12.0	10.1	13.4	11.1	0.0	7.7	14.3	17.2	14.8	10.1	10.5	16.7
13 学習グループ同士のネットワークづくりの支援を行う	5.0	4.7	5.4	0.0	16.0	7.7	3.6	4.7	4.9	3.4	3.5	0.0
14 資格の取得につながる講座を行う	15.6	14.2	16.3	22.2	28.0	28.2	28.6	23.4	7.4	5.6	7.0	16.7
15 インターネットを使用した講座を行う	11.3	8.9	13.4	0.0	28.0	15.4	25.0	12.5	7.4	4.5	1.8	16.7
16 活動の発表の機会を提供する	6.0	5.9	6.3	0.0	8.0	7.7	7.1	6.3	6.2	6.7	1.8	0.0
17 市民と行政との協働のまちづくりの推進 ★	15.1	16.6	14.6	0.0	20.0	2.6	17.9	7.8	18.5	20.2	14.0	16.7
18 その他	0.7	1.2	0.4	0.0	0.0	2.6	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
19 現状のままでかまわない	5.3	4.1	6.3	0.0	8.0	7.7	5.4	4.7	4.9	4.5	5.3	0.0
20 学習は自主的な活動なので行政の支援は必要ない	2.4	2.4	2.1	11.1	8.0	2.6	3.6	0.0	4.9	0.0	1.8	0.0
無回答	11.0	13.0	9.6	11.1	0.0	7.7	1.8	4.7	8.6	21.3	22.8	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆少子・高齢化社会における教育行政の在り方

問16 少子・高齢化が進む中、行政が、特に力を入れて進めるべき取組みはどのようなことだと思いますか(学校教育を除きます)。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

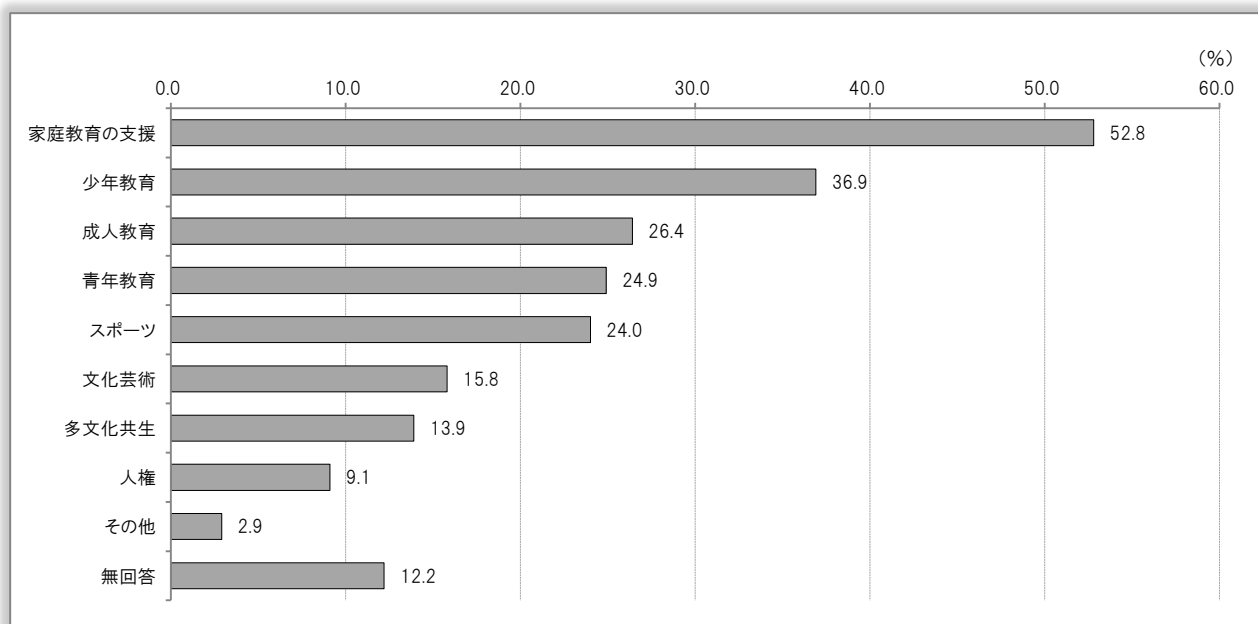
少子・高齢化社会において行政が特に力を入れるべき取組みは、「家庭教育の支援」(52.8%)が最も高く、過半数におよんでいます。「少年教育」(36.9%)は約4割で2番目に高く、「成人教育」(26.4%)、「青年教育」(24.9%)、「スポーツ」(24.0%)は20%台で横並びとなっています。

年代別に見ても、80歳以上を除く全ての年代で「家庭教育の支援」が最も高くなっています。特に、30歳代は「家庭教育の支援」と「少年教育」の割合が、他の年代よりも高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 家庭教育の支援 (子育て講座の充実、子育てに関する情報提供など)	52.8	49.7	54.8	55.6	68.0	71.8	58.9	60.9	49.4	48.3	29.8	50.0
2 少年教育 (子どもの体験活動、読書活動の充実など)	36.9	39.1	35.6	33.3	40.0	51.3	37.5	37.5	40.7	32.6	26.3	33.3
3 青年教育 (青年の社会参加の促進など)	24.9	26.6	23.8	22.2	16.0	23.1	25.0	20.3	35.8	20.2	26.3	33.3
4 成人教育 (各種講座・教室の充実、学習情報の提供など)	26.4	19.5	31.4	22.2	28.0	15.4	39.3	21.9	28.4	28.1	21.1	16.7
5 スポーツ (スポーツ事業の充実、スポーツ大会の奨励など)	24.0	27.8	22.2	0.0	36.0	30.8	19.6	35.9	18.5	23.6	14.0	16.7
6 文化芸術 (文化芸術事業の充実など)	15.8	15.4	16.7	0.0	28.0	10.3	12.5	23.4	14.8	11.2	19.3	0.0
7 人権 (人権教育・啓発活動など)	9.1	11.8	6.7	22.2	4.0	5.1	5.4	7.8	13.6	11.2	8.8	16.7
8 多文化共生 (国際交流など)	13.9	12.4	15.1	11.1	28.0	10.3	19.6	15.6	16.0	10.1	7.0	0.0
9 その他	2.9	2.4	2.9	11.1	4.0	2.6	8.9	4.7	0.0	1.1	1.8	0.0
無回答	12.2	13.6	11.3	11.1	0.0	5.1	5.4	1.6	11.1	18.0	35.1	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



(2)学んだ成果について

◆生涯学習によって変わったこと

問17 あなたは、これまでに生涯学習を行って、自分がどのように変わったと感じますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

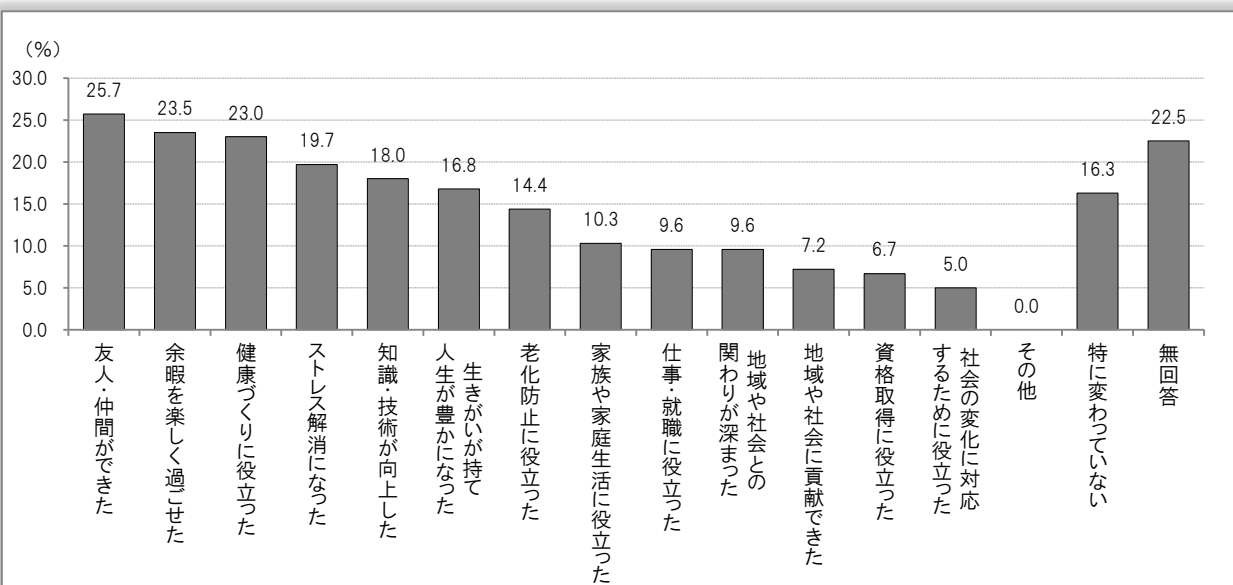
生涯学習を行って自身が変わったと感じたことは、「友人・仲間ができた」(25.7%)が最も多く、次いで、「余暇を楽しく過ごせた」(23.5%)、「健康づくりに役立った」(23.0%)、「ストレス解消になった」(19.7%)、「知識・技術が向上した」(18.0%)となっています。

性別で見ると、殆どの選択肢において女性の方が割合が高い中、「資格取得に役立った」「仕事・就職に役立った」「特に変わっていない」などは男性が高くなっています。

年代別では、30歳未満は「余暇を楽しく過ごせた」「友人・仲間ができた」「知識・技術が向上した」、30歳代は「知識・技術が向上した」、40歳代は「特に変わっていない」、50歳代は「ストレス解消になった」、60歳代は「余暇を楽しく過ごせた」、70歳代は「健康づくりに役立った」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 余暇を楽しく過ごせた	23.5	18.9	26.8	22.2	36.0	10.3	12.5	21.9	22.2	29.2	31.6	33.3
2 生きがいを持って人生が豊かになった	16.8	12.4	19.7	22.2	12.0	10.3	8.9	21.9	19.8	20.2	14.0	33.3
3 ストレス解消になった	19.7	13.6	24.3	11.1	16.0	30.8	7.1	28.1	18.5	18.0	21.1	16.7
4 友人・仲間ができた	25.7	14.8	33.5	22.2	36.0	20.5	25.0	15.6	33.3	28.1	21.1	33.3
5 健康づくりに役立った	23.0	17.8	26.8	22.2	24.0	20.5	17.9	18.8	21.0	32.6	22.8	16.7
6 老化防止に役立った	14.4	13.0	15.5	11.1	0.0	2.6	1.8	3.1	12.3	31.5	29.8	16.7
7 家族や家庭生活に役立った	10.3	8.9	11.7	0.0	8.0	7.7	10.7	14.1	8.6	9.0	14.0	0.0
8 知識・技術が向上した	18.0	15.4	20.1	11.1	36.0	33.3	17.9	21.9	18.5	9.0	8.8	16.7
9 資格取得に役立った	6.7	9.5	5.0	0.0	24.0	5.1	10.7	9.4	4.9	2.2	3.5	0.0
10 仕事・就職に役立った	9.6	12.4	7.5	11.1	32.0	20.5	16.1	9.4	7.4	2.2	1.8	0.0
11 地域や社会との関わりが深まった	9.6	8.9	10.5	0.0	4.0	5.1	12.5	10.9	8.6	9.0	14.0	0.0
12 地域や社会に貢献できた	7.2	7.7	7.1	0.0	8.0	5.1	12.5	6.3	9.9	4.5	5.3	0.0
13 社会の変化に対応するために役立った	5.0	6.5	4.2	0.0	12.0	2.6	7.1	4.7	4.9	5.6	1.8	0.0
14 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15 特に変わっていない	16.3	23.1	11.3	22.2	12.0	17.9	26.8	15.6	16.0	13.5	12.3	16.7
無回答	22.5	22.5	22.2	33.3	4.0	20.5	14.3	17.2	21.0	31.5	33.3	33.3



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆学んだ成果の活用状況

問18 あなたは、これまでの人生や生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験をどのようなことに活かしていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

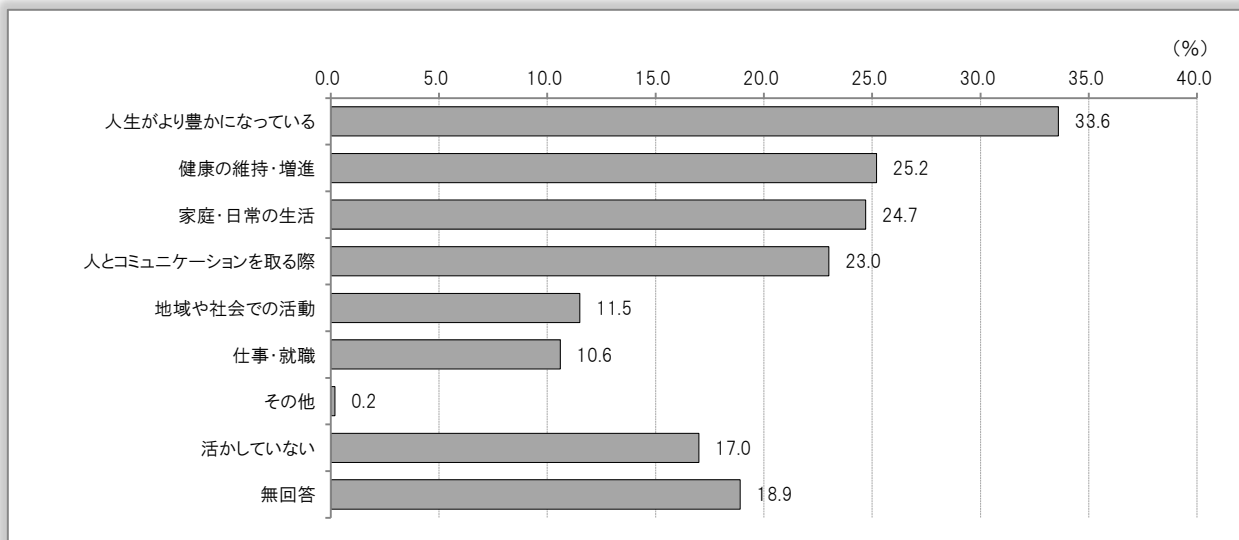
身につけた知識・技能等の活用法は、「人生がより豊かになっている」(33.6%)が最も多く、次いで「健康の維持・増進」(25.2%)、「家庭・日常生活」(24.7%)、「人とコミュニケーションを取る際」(23.0%)、「地域や社会での活動」(11.5%)となっています。

性別で見ると、女性は「自分の人生が豊かになっている」の割合が高く、男性は「活かしていない」の割合が女性と比較して2倍以上高くなっています。

年代別では、40歳代が「活かしていない」、70歳代が「健康の維持・増進」で、それ以外の年代は、「人生がより豊かになっている」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 自分の人生がより豊かになっている	33.6	27.2	38.5	22.2	52.0	35.9	25.0	31.3	30.9	32.6	40.4	33.3
2 自分の健康を維持・増進している	25.2	23.7	26.4	22.2	12.0	15.4	17.9	20.3	18.5	41.6	33.3	33.3
3 家庭・日常生活に活かしている	24.7	25.4	25.1	0.0	20.0	33.3	25.0	29.7	21.0	25.8	21.1	0.0
4 人と接したり、コミュニケーションを取る際に活かしている	23.0	20.1	25.1	22.2	44.0	30.8	19.6	21.9	22.2	20.2	17.5	33.3
5 仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)	10.6	10.1	11.3	0.0	28.0	28.2	21.4	12.5	4.9	1.1	1.8	0.0
6 地域や社会での活動に活かしている(学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など)	11.5	13.0	10.9	0.0	12.0	5.1	14.3	10.9	14.8	10.1	12.3	0.0
7 その他	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8 活かしていない	17.0	23.7	11.3	44.4	16.0	10.3	26.8	17.2	23.5	12.4	10.5	16.7
無回答	18.9	19.5	18.4	22.2	4.0	17.9	8.9	15.6	14.8	28.1	29.8	33.3



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆学んだ成果の活用の意思

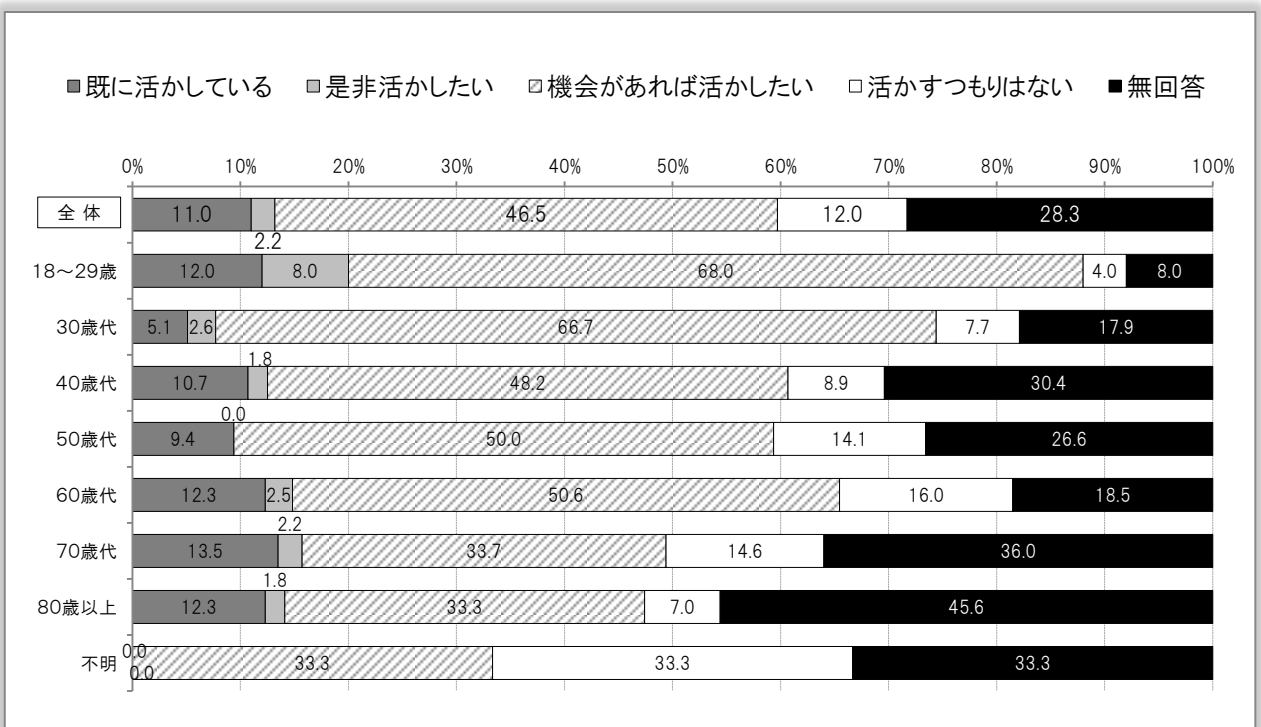
問19 あなたは、これまで身につけた知識や技能を、地域活動やボランティア活動などを通して、地域や人々のために活かしたいと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

身につけた知識・技能を活用する意思は、「機会があれば活かしたい」(46.5%)が最も多く、次いで、「活かすつもりはない」(12.0%)、「既に活かしている」(11.0%)、「是非活かしたい」(2.2%)となっています。「既に活かしている」「是非活かしたい」「機会があれば活かしたい」を合わせると、全体の約6割の人が、自分の知識や技能を、何かしらに活かしたいと考えていることになります。

年代別に見ると、70歳未満は「機会があれば活かしたい」の割合が最も高くなっています。特に、40歳未満については他の年代と比べて割合がかなり高く、約7割におよんでいます。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 既に活かしている	11.0	11.8	10.9	0.0	12.0	5.1	10.7	9.4	12.3	13.5	12.3	0.0
2 是非活かしたい	2.2	2.4	2.1	0.0	8.0	2.6	1.8	0.0	2.5	2.2	1.8	0.0
3 機会があれば活かしたい	46.5	47.3	46.0	44.4	68.0	66.7	48.2	50.0	50.6	33.7	33.3	33.3
4 活かすつもりはない	12.0	9.5	13.4	22.2	4.0	7.7	8.9	14.1	16.0	14.6	7.0	33.3
無回答	28.3	29.0	27.6	33.3	8.0	17.9	30.4	26.6	18.5	36.0	45.6	33.3



※H23年調査時に当該設問なし

◆学習の成果を活かしていない理由(活かせない理由)

《問18で、生涯学習の成果を「活かしていない」とお答えの方におたずねします》

問20 あなたが学習によって得た知識、経験、技能を活かしていない理由は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

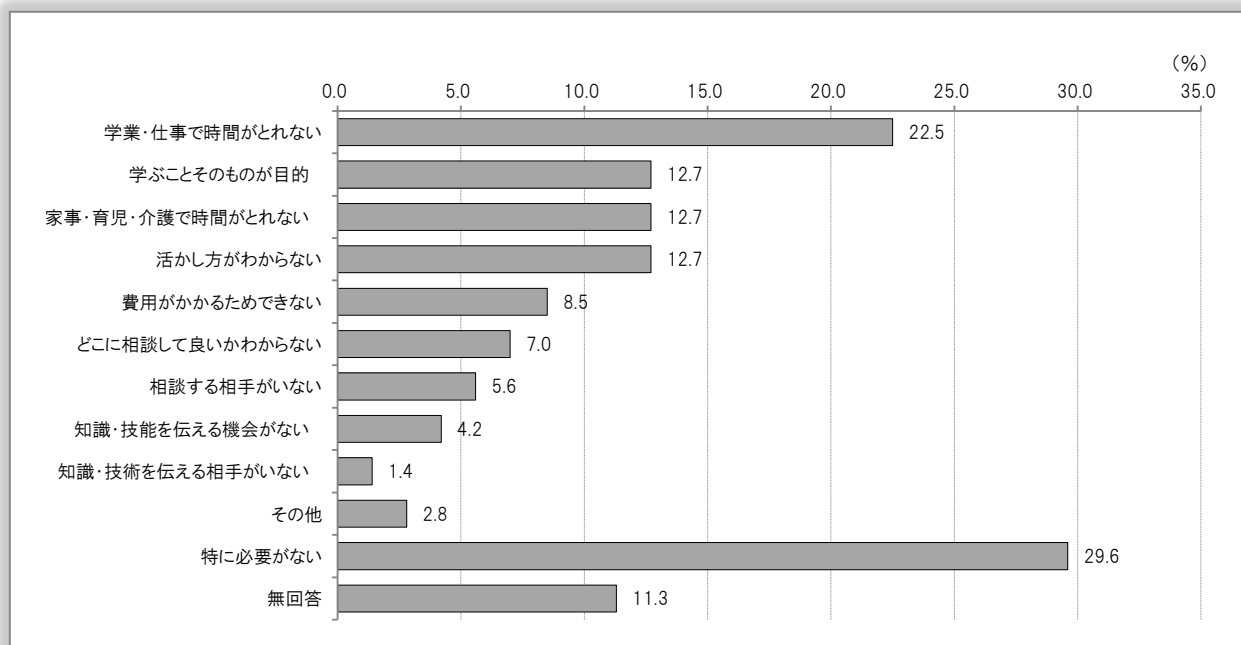
身につけた知識・技能を活かしていない理由(活かせない理由)は、「特に必要がない」(29.6%)が最も多く、全体の約3割を占めています。次いで、「学業・仕事」(22.5%)、「学ぶことが目的」「家事・育児・介護」「活かし方がわからない」(12.7%)となっています。性別で見ても、男性も女性も「特に必要がない」(女性は「家事・育児・介護で時間がとれない」が同率)の割合が最も高くなっています。

年代別では、30歳未満は「活かし方がわからない」、30歳代～40歳代は「学業・仕事」、50歳以上は「特に必要がない」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	71人	40人	27人	4人	4人	4人	15人	11人	19人	11人	6人	1人
1 学ぶことそのものが目的	12.7	17.5	7.4	0.0	0.0	25.0	0.0	18.2	15.8	27.3	0.0	0.0
2 学業・仕事で時間がとれない	22.5	27.5	18.5	0.0	0.0	50.0	40.0	18.2	21.1	18.2	0.0	0.0
3 家事・育児・介護で時間がとれない	12.7	5.0	25.9	0.0	25.0	25.0	26.7	0.0	15.8	0.0	0.0	0.0
4 知識・技術を伝える相手がいない	1.4	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
5 知識・技能を伝える機会がない	4.2	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	18.2	0.0	0.0
6 活かし方がわからない	12.7	12.5	11.1	25.0	50.0	25.0	13.3	9.1	15.8	0.0	0.0	0.0
7 相談する相手がいない	5.6	0.0	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	33.3	0.0
8 どこに相談して良いかわからない	7.0	5.0	7.4	25.0	0.0	0.0	0.0	9.1	15.8	0.0	16.7	0.0
9 費用がかかるためできない	8.5	5.0	11.1	25.0	0.0	25.0	13.3	9.1	5.3	0.0	16.7	0.0
10 その他	2.8	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	16.7	0.0
11 特に必要がない	29.6	32.5	25.9	25.0	0.0	25.0	26.7	45.5	26.3	36.4	33.3	0.0
無回答	11.3	7.5	11.1	50.0	25.0	0.0	6.7	9.1	10.5	18.2	0.0	100.0

※H23年調査時に当該設問なし



◆学んだ成果が活かされるまちにするために必要なこと

問21 学んだ成果を活かすために、何が必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

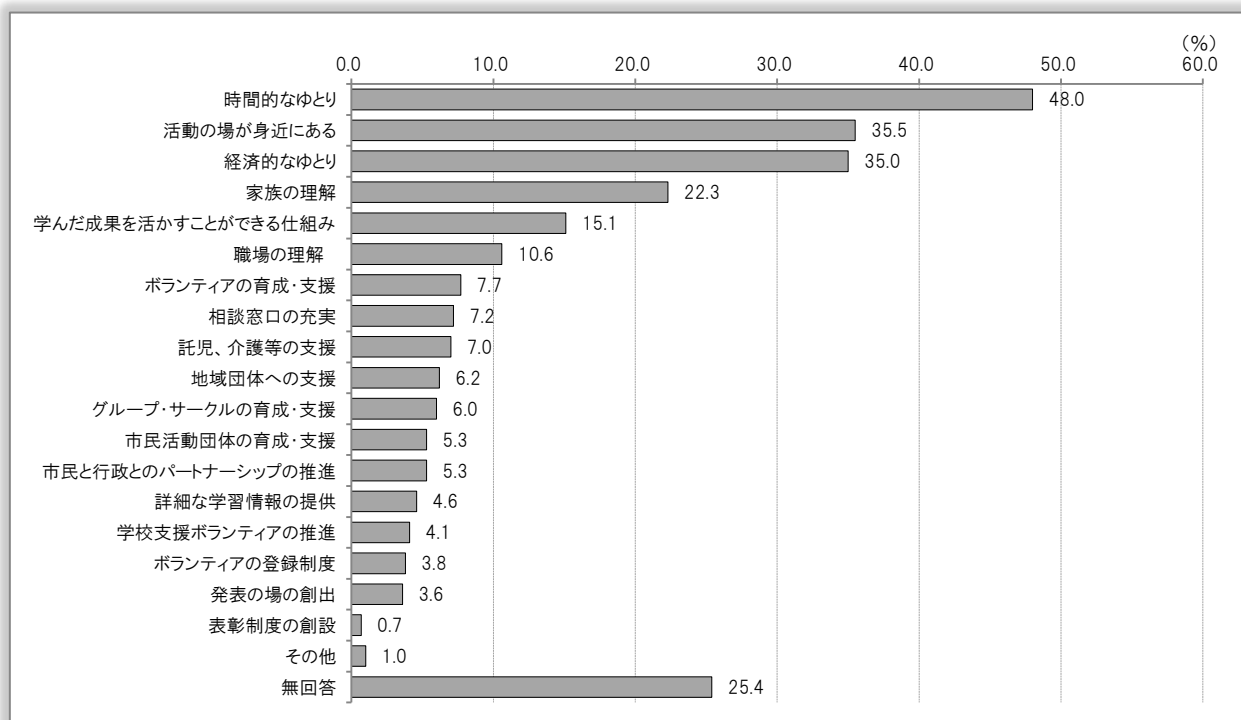
学んだ成果を活かすために必要なことは、「時間的なゆとり」(48.0%)が最も多く、次いで、「活動の場が身近にある」(35.5%)、「経済的なゆとり」(35.0%)、「家族の理解」(22.3%)、「学んだ成果を活かす仕組み」(15.1%)となっています。

性別で見ると、女性は「家族の理解」、男性は「職場の理解」がそれぞれ高く、また、年代別では、70歳未満は「時間的なゆとり」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 活動の場が身近にある	35.5	33.1	37.7	22.2	52.0	41.0	33.9	34.4	38.3	32.6	28.1	33.3
2 経済的なゆとり	35.0	36.1	35.1	11.1	44.0	51.3	39.3	46.9	38.3	21.3	22.8	0.0
3 時間的なゆとり	48.0	45.6	51.0	11.1	68.0	69.2	67.9	59.4	59.3	24.7	17.5	0.0
4 家族の理解	22.3	13.0	29.3	11.1	20.0	30.8	21.4	20.3	21.0	21.3	24.6	16.7
5 職場の理解	10.6	14.2	7.9	11.1	28.0	17.9	26.8	15.6	2.5	3.4	0.0	0.0
6 託児、介護等の支援	7.0	5.3	8.4	0.0	12.0	15.4	10.7	7.8	3.7	4.5	3.5	0.0
7 ボランティアの育成・支援	7.7	6.5	8.8	0.0	16.0	5.1	5.4	10.9	4.9	10.1	5.3	0.0
8 ボランティアの登録制度	3.8	4.1	3.8	0.0	16.0	5.1	0.0	6.3	6.2	1.1	0.0	0.0
9 グループ・サークルの育成・支援	6.0	5.9	6.3	0.0	8.0	7.7	5.4	9.4	6.2	5.6	1.8	0.0
10 市民活動団体の育成・支援	5.3	5.3	5.4	0.0	8.0	7.7	7.1	9.4	4.9	2.2	1.8	0.0
11 地域団体への支援	6.2	8.3	5.0	0.0	16.0	5.1	7.1	6.3	2.5	7.9	5.3	0.0
12 詳細な学習情報の提供(SNSなど)	4.6	6.5	3.3	0.0	16.0	2.6	8.9	7.8	1.2	3.4	0.0	0.0
13 発表の場の創出(イベントなど)	3.6	1.8	5.0	0.0	8.0	12.8	3.6	1.6	1.2	3.4	1.8	0.0
14 相談窓口の充実	7.2	7.1	7.5	0.0	12.0	10.3	3.6	9.4	7.4	3.4	10.5	0.0
15 学んだ成果を活かすことができる仕組みづくり	15.1	16.0	14.2	22.2	32.0	12.8	17.9	18.8	17.3	10.1	5.3	33.3
16 市民(市民活動団体、地域団体など)と行政とのパートナーシップの推進	5.3	7.1	4.2	0.0	0.0	2.6	8.9	7.8	4.9	5.6	3.5	0.0
17 学校支援ボランティアの推進	4.1	5.3	3.3	0.0	12.0	2.6	7.1	4.7	1.2	4.5	1.8	0.0
18 表彰制度の創設	0.7	1.2	0.4	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.8	0.0
19 その他	1.0	1.2	0.8	0.0	0.0	2.6	1.8	0.0	0.0	1.1	1.8	0.0
無回答	25.4	26.6	23.4	55.6	0.0	7.7	10.7	18.8	23.5	42.7	43.9	50.0

※H23年調査時に当該設問なし



(3) ボランティア活動・地域活動について

◆ ボランティア活動の頻度

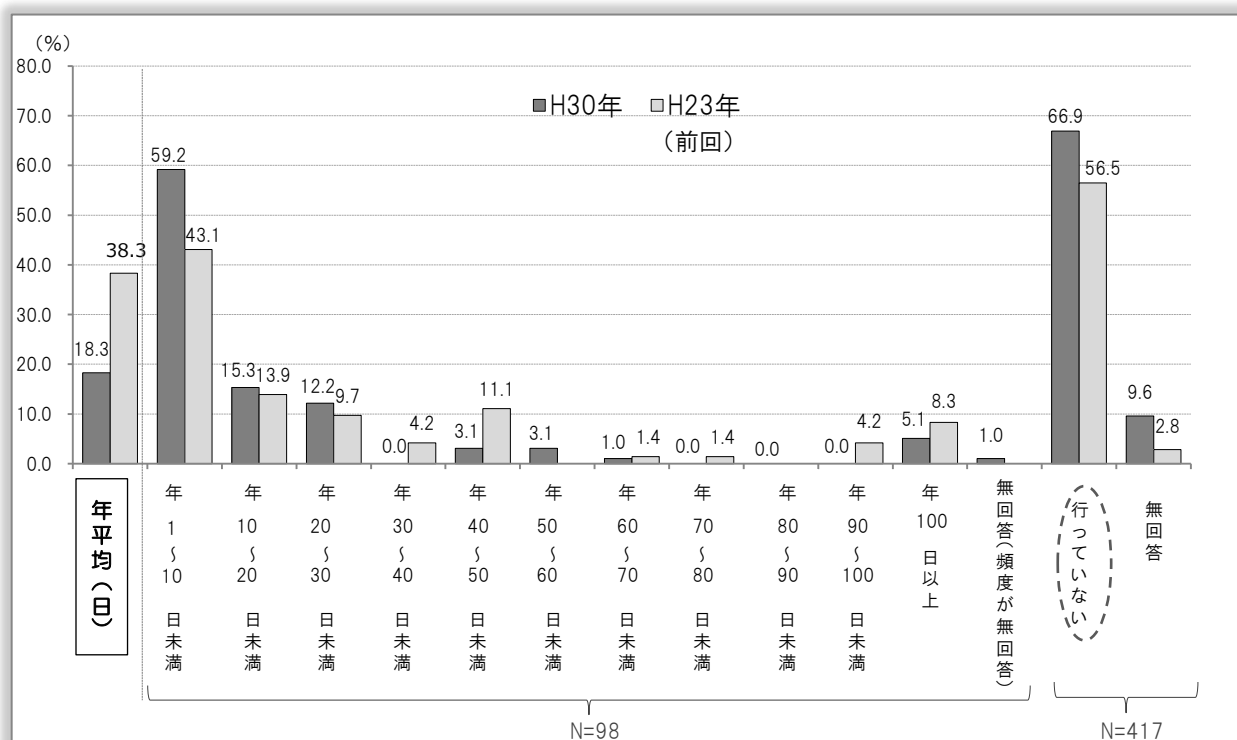
問22 ボランティア活動についておたずねします。あなたは、この1年くらいの間に、どのくらいの頻度でボランティア活動を行いましたか。

ボランティア活動については、全体の約7割の人が「行っていない」(66.9%)と回答しています。また、活動を行った98人のうち、この1年くらいの間に参加した頻度(日数)は、「年1～10日未満」(59.2%)が最も多く、次いで、「年10～20日未満」(15.3%)、「年20～30日未満」(12.2%)、「年100日以上」(5.1%)、「年40～50日未満」「年50～60日未満」(3.1%)となっています。

前回と比較すると、「行っていない」の割合が10ポイント以上高くなり、また、年平均の回数は20日減少して半分以下となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	98人	42人	56人	0人	4人	8人	14人	18人	21人	26人	7人	0人
1 年1～10日未満	59.2	64.3	55.4	0.0	75.0	62.5	71.4	61.1	61.9	50.0	42.9	0.0
2 年10～20日未満	15.3	14.3	16.1	0.0	25.0	12.5	14.3	5.6	14.3	26.9	0.0	0.0
3 年20～30日未満	12.2	7.1	16.1	0.0	0.0	25.0	7.1	11.1	19.0	11.5	0.0	0.0
4 年30～40日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 年40～50日未満	3.1	2.4	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	3.8	14.3	0.0
6 年50～60日未満	3.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	3.8	14.3	0.0
7 年60～70日未満	1.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0
8 年70～80日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9 年80～90日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10 年90～100日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 年100日以上	5.1	4.8	5.4	0.0	0.0	0.0	7.1	11.1	0.0	3.8	14.3	0.0
無回答(行っているが頻度が無回答)	1.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
12 行っていない	66.9	64.5	67.8	88.9	84.0	79.5	73.2	65.6	67.9	57.3	56.1	100.0
無回答	9.6	10.7	8.8	11.1	0.0	0.0	1.8	6.3	6.2	13.5	31.6	0.0



◆ボランティア活動の内容

《問22で「1～3」を選んだ人におたずねします》 ※問22の選択肢「1.週に()回、2.月に()回、3.年に()回」
問22-2 あなたは、この1年くらいの間に、どのようなボランティア活動を行いましたか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

ボランティア活動の内容は、「環境美化・リサイクル活動」(46.9%)が最も多く、次いで、「高齢者、障害児・者等への支援」(17.3%)、「学校での活動」(16.3%)、「募金活動や災害援助活動」(14.3%)、「子どもの見守り、あいさつ活動等」(12.2%)となっています。

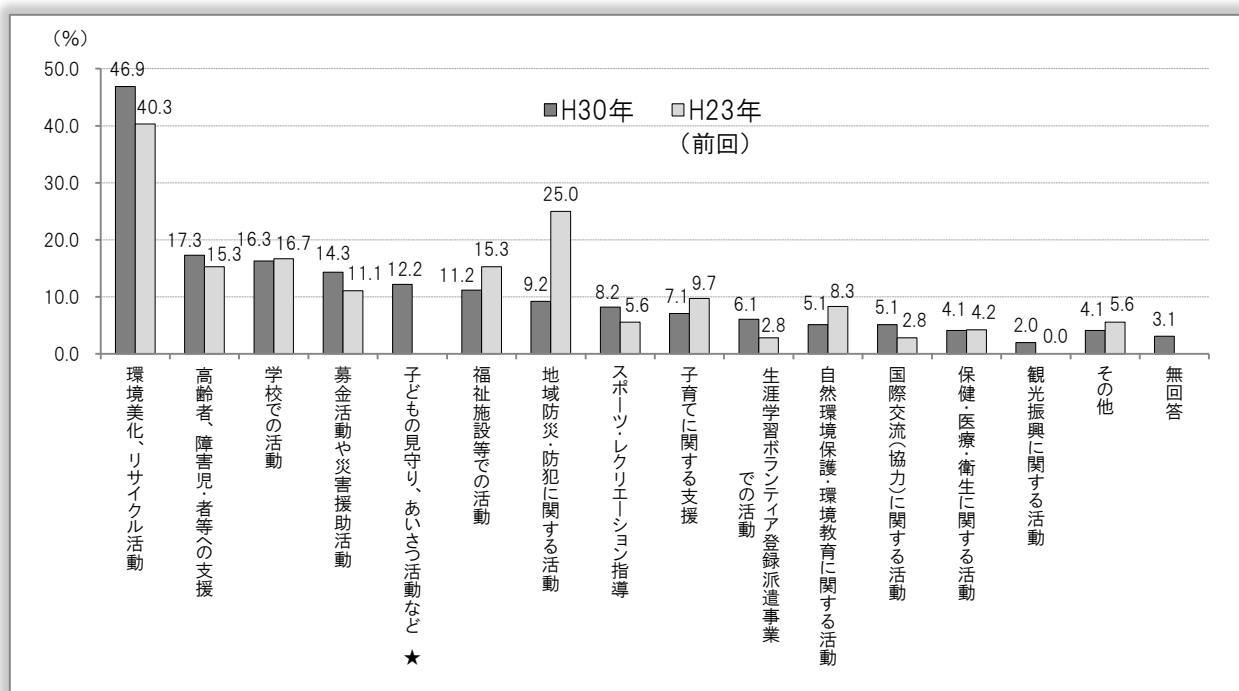
年代別に割合が最も高いものを見ると、30歳代は「子どもの見守り、あいさつ活動」となっていますが、それ以外の年代は「環境美化・リサイクル活動」となっています。なお、80歳以上は「環境美化・リサイクル活動」と「高齢者、障害児・者等への支援」が最も高くなっています。

前回と比較すると、「高齢者、障害者等への支援」「学校での活動」「募金活動」は前回同様上位5項目に入っていますが、「地域防災・防犯に関する活動」については、割合・順位ともに大きく低下しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	98人	42人	56人	0人	4人	8人	14人	18人	21人	26人	7人	0人
1 福祉施設等での活動	11.2	2.4	17.9	0.0	0.0	12.5	0.0	5.6	14.3	19.2	14.3	0.0
2 高齢者、障害児・者等への支援	17.3	11.9	21.4	0.0	25.0	25.0	7.1	11.1	14.3	19.2	42.9	0.0
3 子どもの見守り、あいさつ活動など ★	12.2	7.1	16.1	0.0	0.0	37.5	14.3	11.1	9.5	11.5	0.0	0.0
4 学校での活動	16.3	4.8	25.0	0.0	0.0	25.0	28.6	11.1	14.3	15.4	14.3	0.0
5 子育てに関する支援	7.1	9.5	5.4	0.0	0.0	0.0	7.1	5.6	9.5	11.5	0.0	0.0
6 スポーツ・レクリエーション指導	8.2	11.9	5.4	0.0	25.0	12.5	7.1	11.1	0.0	7.7	14.3	0.0
7 自然環境保護・環境教育に関する活動	5.1	0.0	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	9.5	3.8	0.0	0.0
8 環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	46.9	59.5	37.5	0.0	75.0	25.0	42.9	55.6	47.6	46.2	42.9	0.0
9 募金活動や災害援助活動	14.3	16.7	12.5	0.0	0.0	12.5	28.6	11.1	9.5	19.2	0.0	0.0
10 国際交流(協力)に関する活動 (通訳、難民援助、留学生援助など)	5.1	7.1	3.6	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	9.5	3.8	0.0	0.0
11 保健・医療・衛生に関する活動 (食育、病院ボランティアなど)	4.1	2.4	5.4	0.0	25.0	0.0	7.1	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0
12 地域防災・防犯に関する活動	9.2	9.5	8.9	0.0	25.0	0.0	7.1	11.1	9.5	11.5	0.0	0.0
13 観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	2.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
14 生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)での活動	6.1	2.4	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	15.4	14.3	0.0
15 その他	4.1	2.4	5.4	0.0	0.0	12.5	7.1	0.0	4.8	3.8	0.0	0.0
無回答	3.1	4.8	1.8	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	4.8	3.8	0.0	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの。前回の調査では「地域防災・防犯」と「子どもの見守り」が同じ選択肢。



◆ボランティア活動を盛んにするために必要なこと

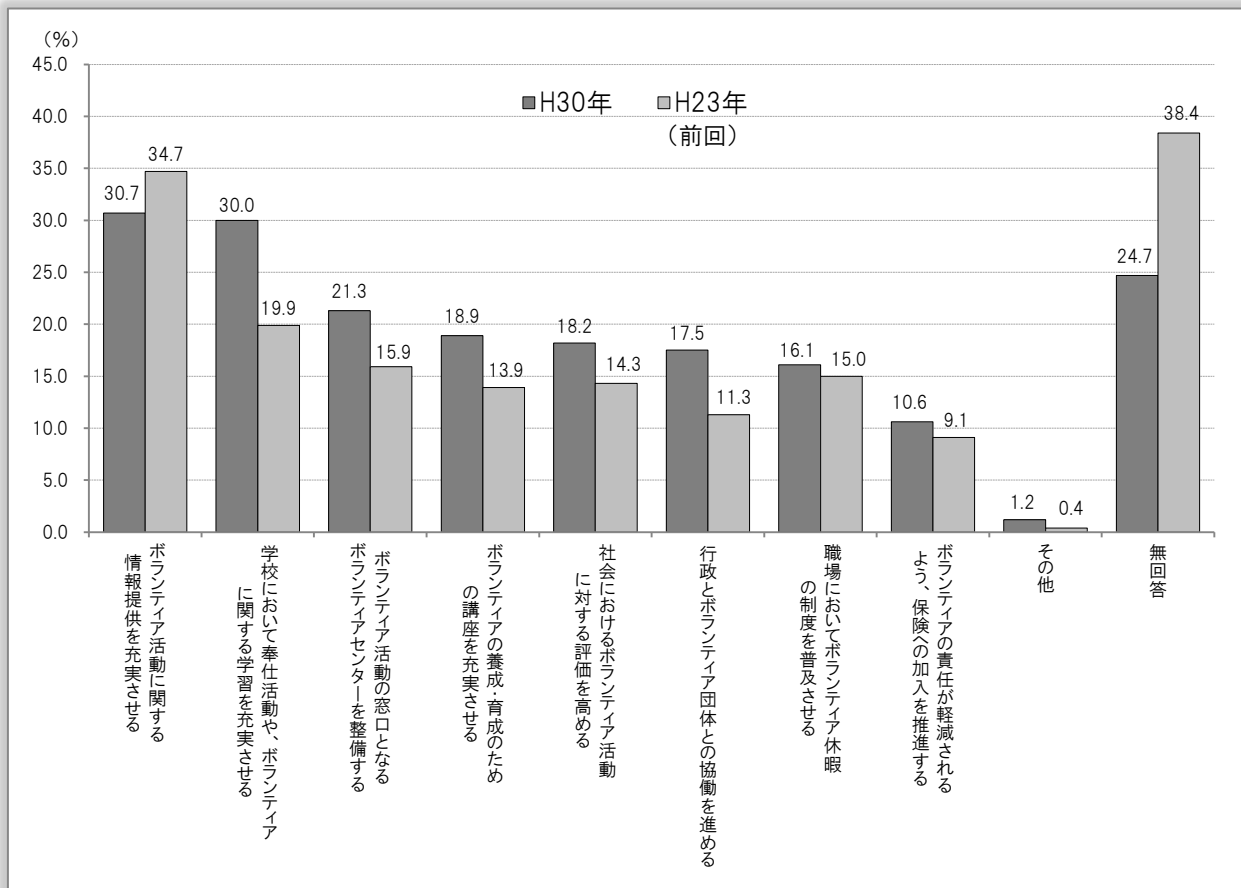
問23 ボランティア活動をもっと盛んにするために、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号に
いくつでも○印をつけてください。

ボランティア活動を盛んにするために必要な取り組みは、「ボランティア活動に関する情報提供」(30.7%)が最も多く、次いで、「学校における奉仕活動や学習の充実」(30.0%)、「ボランティア活動の窓口となるボランティアセンターの整備」(21.3%)、「ボランティアの養成・育成講座の充実」(18.9%)、「社会におけるボランティア活動の評価を高める」(18.2%)となっています。なお、上位3項目は前回と同じ順位となっています。

年代別では、30歳代～50歳代(保護者の世代)は「学校における奉仕活動や学習の充実」(30歳代は「ボランティア休暇制度の普及」が同率)、30歳未満及び60歳代は「ボランティア活動に関する情報提供」(30歳未満は「ボランティア休暇制度の普及」が同率)が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 学校において奉仕活動や、ボランティアに関する学習を充実させる	30.0	29.0	31.8	0.0	36.0	41.0	46.4	34.4	29.6	20.2	17.5	0.0
2 ボランティアの養成・育成のための講座を充実させる	18.9	20.7	18.0	11.1	0.0	20.5	14.3	23.4	23.5	23.6	14.0	0.0
3 ボランティア活動に関する情報提供を充実させる	30.7	27.8	33.9	0.0	44.0	23.1	25.0	29.7	43.2	28.1	26.3	0.0
4 職場においてボランティア休暇の制度を普及させる	16.1	20.7	13.4	0.0	44.0	41.0	19.6	20.3	9.9	7.9	1.8	0.0
5 社会におけるボランティア活動に対する評価を高める	18.2	18.9	18.4	0.0	20.0	23.1	30.4	25.0	17.3	13.5	5.3	0.0
6 ボランティアの責任が軽減されるよう、保険への加入を推進する	10.6	8.9	12.1	0.0	8.0	12.8	14.3	14.1	12.3	9.0	3.5	0.0
7 ボランティア活動の窓口となるボランティアセンターを整備する	21.3	21.3	22.2	0.0	36.0	15.4	28.6	21.9	24.7	19.1	12.3	0.0
8 行政とボランティア団体との協働を進める	17.5	21.3	14.6	22.2	20.0	15.4	23.2	23.4	16.0	13.5	14.0	16.7
9 その他	1.2	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	3.6	1.6	1.2	1.1	0.0	0.0
無回答	24.7	23.1	24.3	66.7	4.0	10.3	7.1	17.2	17.3	38.2	52.6	83.3



◆「近所づきあい」及び「つながり」の必要性

問24 あなたは、お住まいの地域でご近所づきあいがありますか。また、人々や地域の“つながり”や“まとまり”は必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

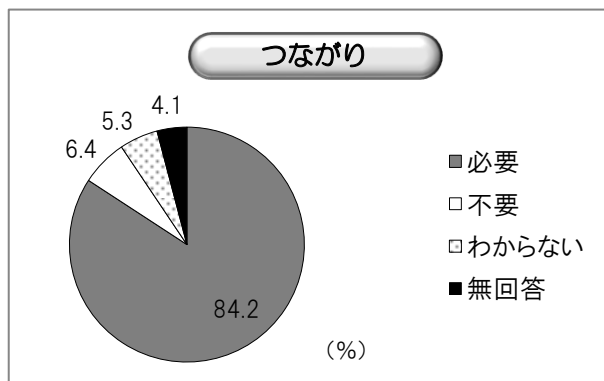
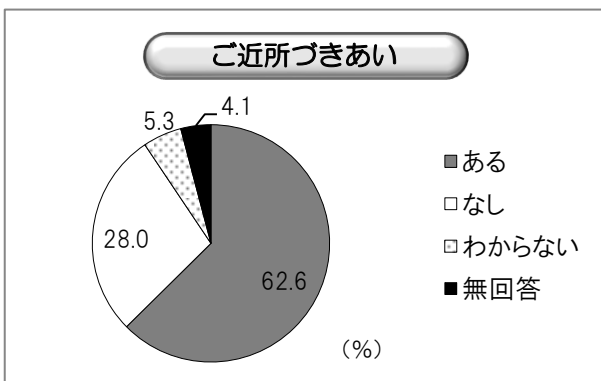
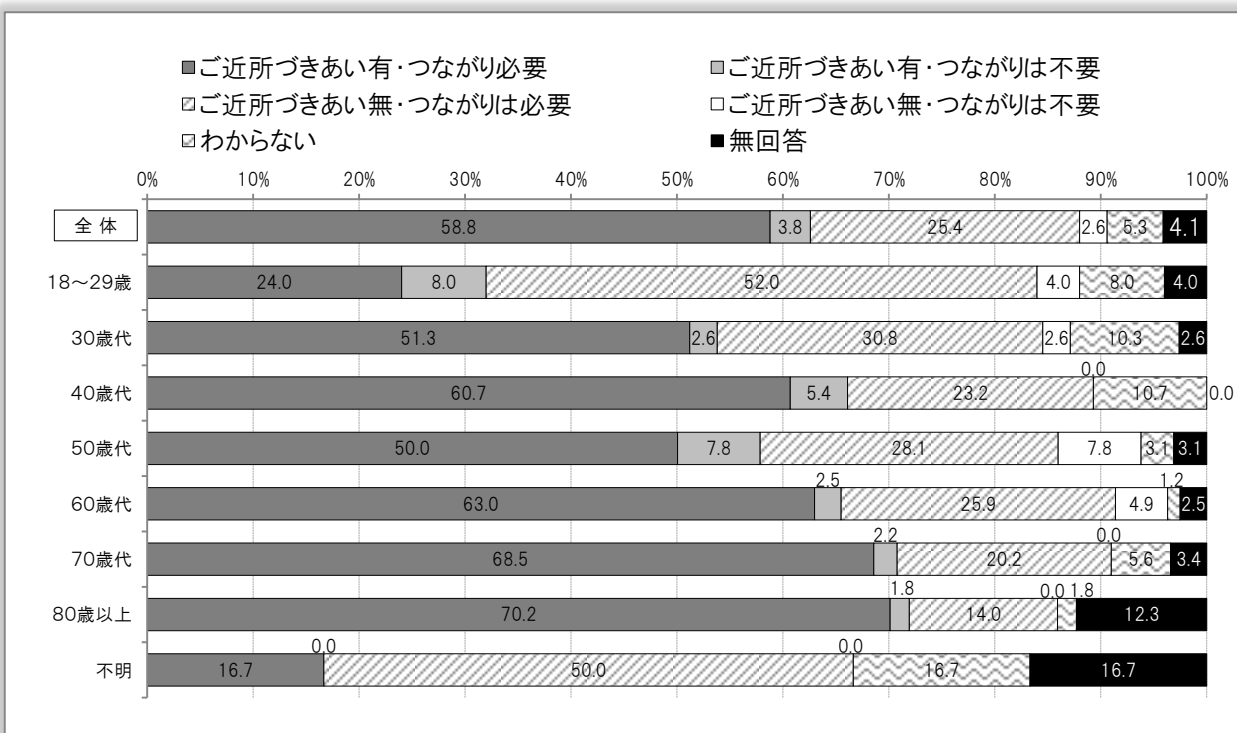
「近所づきあい」については、全体の6割以上の方が『ある』と回答しています。また、「地域の“つながり”や“まとまり”」については、全体の8割以上の方が『必要』と回答しています。また、ご近所づきあいがない人でも、9割以上（90.6%）の人がつながりは必要と回答しています。

年代別に見ると、「つながり」については、どの年代も『必要』と答えた人が約8～9割に達しています。なお、30歳以上は、どの年代でも過半数の人が「ご近所づきあいがある」と回答しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 ご近所づきあいがあり、つながりは必要だと思う	58.8	55.0	62.8	22.2	24.0	51.3	60.7	50.0	63.0	68.5	70.2	16.7
2 ご近所づきあいはあるが、つながりは必要だと思わない	3.8	6.5	2.1	0.0	8.0	2.6	5.4	7.8	2.5	2.2	1.8	0.0
3 ご近所づきあいはないが、つながりは必要だと思う	25.4	22.5	26.8	44.4	52.0	30.8	23.2	28.1	25.9	20.2	14.0	50.0
4 ご近所づきあいはなく、つながりは必要だと思わない	2.6	4.7	1.3	0.0	4.0	2.6	0.0	7.8	4.9	0.0	0.0	0.0
5 わからない	5.3	5.9	4.6	11.1	8.0	10.3	10.7	3.1	1.2	5.6	1.8	16.7
無回答	4.1	5.3	2.5	22.2	4.0	2.6	0.0	3.1	2.5	3.4	12.3	16.7

※H23年調査時に当該設問なし



◆「つながり」が必要と思う理由

《問24で「1、3」を選んだ人におたずねします》

問24-2 あなたは、どのような理由から、地域の“つながり”が必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

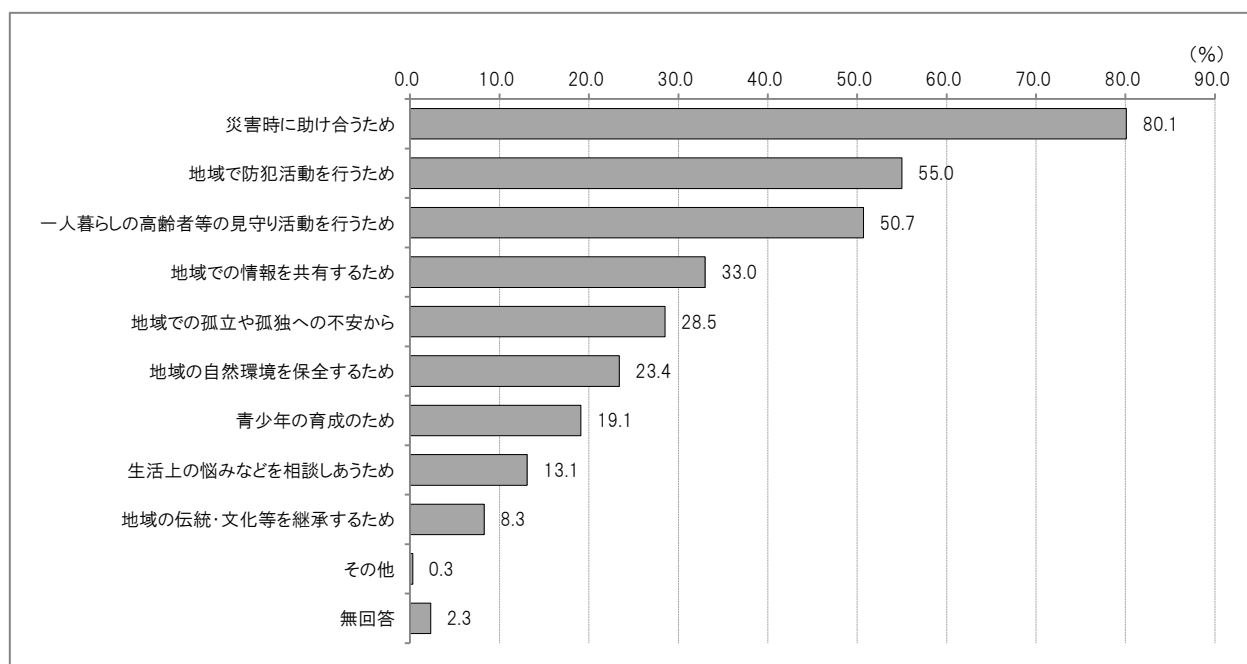
“つながり”が必要と思う理由は、「災害時の共助」(80.1%)が最も多く、次いで、「地域での防犯活動」(55.0%)、「独居老人等の見守り」(50.7%)、「地域での情報を共有」(33.0%)、「地域での孤立や孤独への不安」(28.5%)となっており、上位3項目については、割合が過半数におよんでいます。

なお、性別、年代を問わず、割合が最も高いものは、「災害時の共助」となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	351人	131人	214人	6人	19人	32人	47人	50人	72人	79人	48人	4人
1 地域での自然環境を保全するため	23.4	29.8	19.6	16.7	31.6	18.8	12.8	28.0	16.7	31.6	27.1	0.0
2 災害時に助け合うため	80.1	79.4	81.3	50.0	89.5	90.6	80.9	78.0	80.6	78.5	75.0	50.0
3 地域で防犯活動を行うため	55.0	57.3	53.7	50.0	57.9	62.5	59.6	70.0	58.3	41.8	47.9	25.0
4 一人暮らしの高齢者等の見守り活動を行うため	50.7	43.5	55.6	33.3	42.1	50.0	44.7	52.0	50.0	50.6	60.4	50.0
5 地域での孤立や孤独への不安から	28.5	20.6	33.6	16.7	21.1	34.4	25.5	26.0	31.9	27.8	29.2	25.0
6 青少年の育成のため	19.1	20.6	17.8	33.3	15.8	40.6	27.7	28.0	15.3	10.1	8.3	25.0
7 地域の伝統・文化等を継承するため	8.3	9.2	7.9	0.0	5.3	9.4	8.5	12.0	5.6	10.1	6.3	0.0
8 地域での情報を共有するため	33.0	33.6	33.2	16.7	21.1	21.9	36.2	38.0	38.9	34.2	27.1	25.0
9 生活上の悩みなどを相談しあうため	13.1	9.9	15.4	0.0	26.3	25.0	14.9	12.0	12.5	8.9	8.3	0.0
10 その他	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	2.3	1.5	2.8	0.0	0.0	3.1	0.0	2.0	0.0	3.8	6.3	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



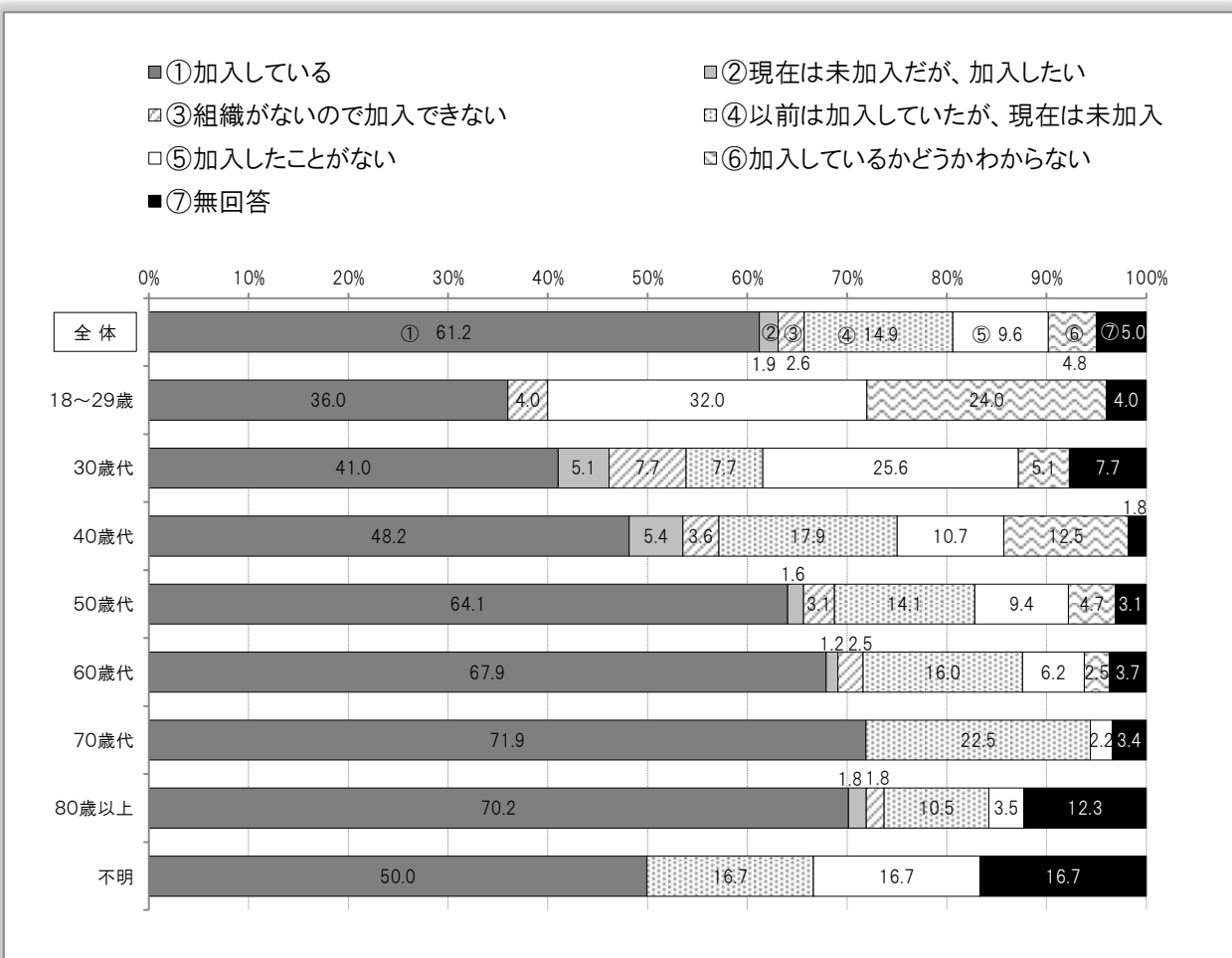
◆地域団体の加入状況

問25 あなたの世帯は、町内公民館、自治会、隣組のいずれかに加入していますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

地域団体への加入状況は、全体の6割以上の人何かしらの組織に加入していると回答しています。なお、「以前は加入していたが、現在は未加入」は14.9%、「加入したことがない」は9.6%となっています。
年代別に見ると、「加入している」は年齢が上がるほど割合が高くなり、また、「加入したことがない」は年齢が下がるほど高い割合となっています。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 加入している	61.2	60.4	62.8	33.3	36.0	41.0	48.2	64.1	67.9	71.9	70.2	50.0
2 現在は加入していないが、加入したいと思っている	1.9	2.4	1.7	0.0	0.0	5.1	5.4	1.6	1.2	0.0	1.8	0.0
3 組織がないので加入できない	2.6	0.6	4.2	0.0	4.0	7.7	3.6	3.1	2.5	0.0	1.8	0.0
4 以前は加入していたが、現在は加入していない	14.9	14.2	14.6	33.3	0.0	7.7	17.9	14.1	16.0	22.5	10.5	16.7
5 加入したことがない	9.6	11.2	8.4	11.1	32.0	25.6	10.7	9.4	6.2	2.2	3.5	16.7
6 加入しているかどうかわからない	4.8	5.9	4.2	0.0	24.0	5.1	12.5	4.7	2.5	0.0	0.0	0.0
無回答	5.0	5.3	4.2	22.2	4.0	7.7	1.8	3.1	3.7	3.4	12.3	16.7



※H23年調査時に当該設問なし

◆地域活動の頻度

問26 『地域活動』についておたずねします。あなたは、この1年くらいの間に、どのくらいの頻度で『地域活動』に参加しましたか。

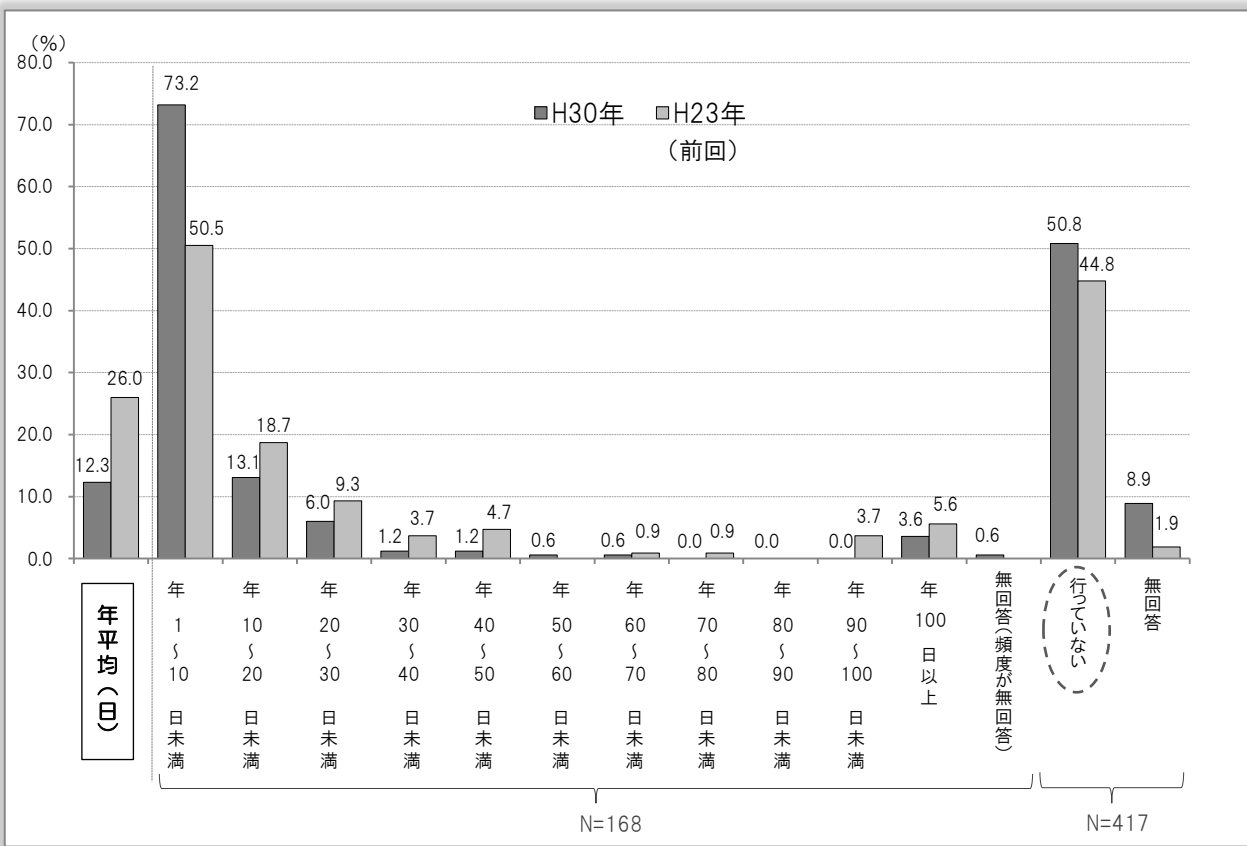
地域活動については、全体の5割以上の方が「行っていない」(50.8%)と回答しています。また、この1年くらいの間に地域活動に参加した人の頻度は、「年1～10日未満」(73.2%)が最も多く、次いで、「年10～20日未満」(13.1%)、「年20～30日未満」(6.0%)、「年100日以上」(3.6%)、「年30～40日未満」「年40～50日未満」(1.2%)となっています。

年代別に見ると、年齢が下がるほど「行っていない」割合が高く、60歳未満は過半数が「行っていない」と回答しています。

前回と比較すると、年平均の回数は約13日減少し、半減しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	168人	67人	98人	3人	2人	9人	17人	31人	36人	49人	22人	2人
1 年1～10日未満	73.2	76.1	70.4	100.0	100.0	66.7	82.4	83.9	72.2	69.4	59.1	100.0
2 年10～20日未満	13.1	11.9	14.3	0.0	0.0	33.3	11.8	3.2	16.7	12.2	18.2	0.0
3 年20～30日未満	6.0	4.5	7.1	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	8.3	10.2	4.5	0.0
4 年30～40日未満	1.2	1.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.5	0.0
5 年40～50日未満	1.2	1.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	4.5	0.0
6 年50～60日未満 N=168	0.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
7 年60～70日未満	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0
8 年70～80日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9 年80～90日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10 年90～100日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 年100日以上	3.6	3.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	2.8	6.1	4.5	0.0
無回答(行っているが頻度が無回答)	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
12 行っていない	50.8	50.9	50.2	66.7	88.0	66.7	64.3	51.6	49.4	33.7	36.8	66.7
無回答 N=417	8.9	9.5	8.8	0.0	4.0	10.3	5.4	0.0	6.2	11.2	24.6	0.0



◆地域活動の内容等

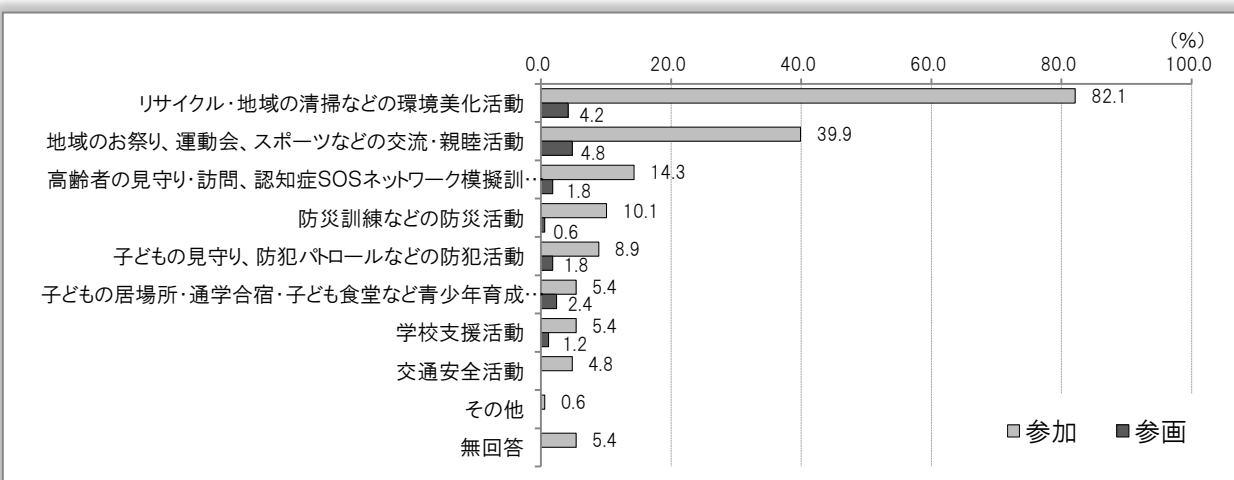
《問26で「1～3」を選んだ人におたずねします》 ※問26の選択肢「1.週に()回、2.月に()回、3.年に()回」
問26-2 あなたは、この1年くらいの間にどのような『地域活動』に参加しましたか。また、企画・立案から参加した地域活動はありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

地域活動への参加状況は、「環境美化活動」(82.1%)が最も高く、次いで、「地域のお祭り、運動会等」(39.9%)、「高齢者の見守り等」(14.3%)、「防災活動」(10.1%)、「防犯活動」(8.9%)となっています。なお、「つながり」が必要だと思う理由(問24-2)で、最も多かった「災害時の共助」と「防犯活動」は、それぞれ約1割にとどまっています。

一方、参画(企画段階から参加)については、「地域のお祭り、運動会等」が最も高くなっています。なお、30～40歳代は「地域のお祭り、運動会等」、50～60歳代は「青少年育成活動」、70歳代は「環境美化活動」など、年代によって企画段階から参画する活動が異なります。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	168人	67人	98人	3人	2人	9人	17人	31人	36人	49人	22人	2人
①参加した活動												
1 リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	82.1	85.1	81.6	33.3	50.0	77.8	82.4	93.5	83.3	81.6	72.7	50.0
2 高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	14.3	13.4	14.3	33.3	0.0	0.0	11.8	9.7	11.1	24.5	13.6	0.0
3 子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	8.9	9.0	9.2	0.0	0.0	0.0	23.5	3.2	11.1	10.2	4.5	0.0
4 防災訓練などの防災活動	10.1	11.9	9.2	0.0	0.0	22.2	5.9	6.5	11.1	12.2	9.1	0.0
5 交通安全活動	4.8	4.5	5.1	0.0	0.0	0.0	5.9	3.2	11.1	2.0	4.5	0.0
6 子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	5.4	4.5	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	8.3	6.1	0.0	0.0
7 学校支援活動	5.4	6.0	5.1	0.0	0.0	11.1	11.8	0.0	2.8	10.2	0.0	0.0
8 地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	39.9	35.8	43.9	0.0	50.0	66.7	64.7	32.3	27.8	40.8	40.9	0.0
9 その他	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0
②参画した活動(企画段階から参加)												
1 リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	4.2	1.5	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
2 高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	1.8	1.5	1.0	33.3	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	4.1	0.0	0.0
3 子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	1.8	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	4.1	0.0	0.0
4 防災訓練などの防災活動	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
5 交通安全活動	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	2.4	1.5	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	2.8	4.1	0.0	0.0
7 学校支援活動	1.2	1.5	1.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
8 地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	4.8	6.0	4.1	0.0	0.0	11.1	5.9	0.0	0.0	12.2	0.0	0.0
9 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	5.4	4.5	5.1	33.3	0.0	0.0	5.9	0.0	2.8	6.1	13.6	50.0



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆地域活動に参加していない理由(できない理由)

《問26で『地域活動』に「参加していない」とお答えの方におたずねします》

問26-3 あなたが『地域活動』に参加していない理由(できない理由)は何ですか。あてはまる番号にいくつでも ○印をつけてください。

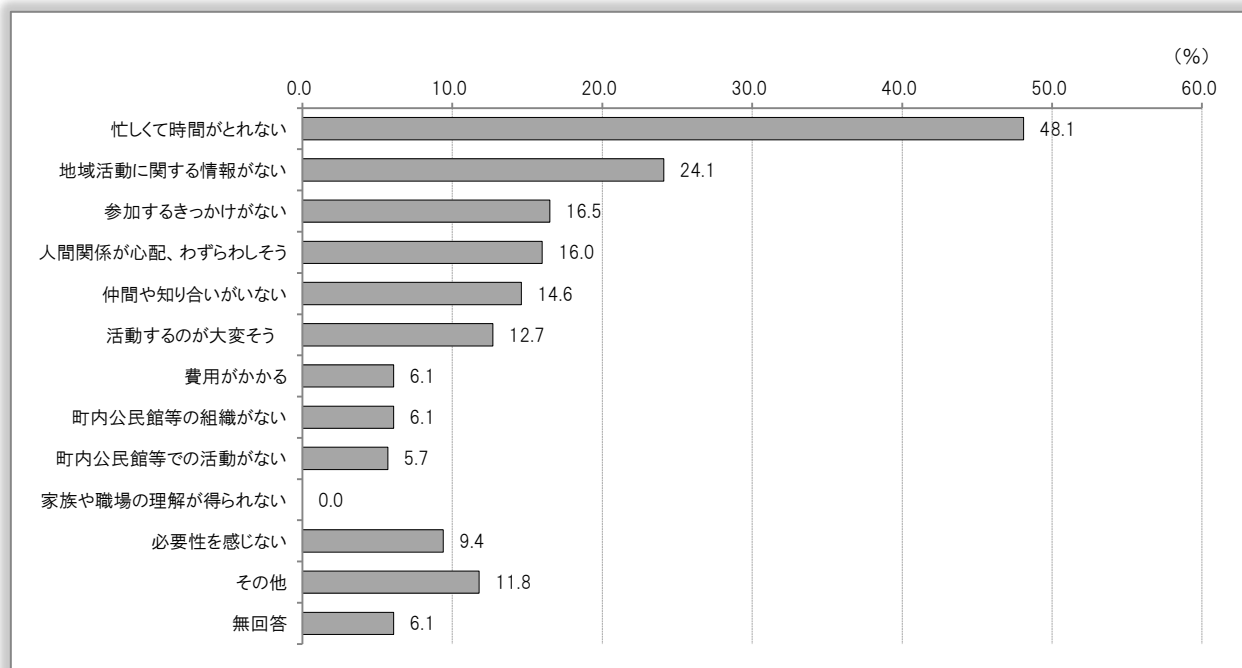
地域活動に参加していない理由(できない理由)は、「忙しくて時間がとれない」(48.1%)が最も高く、次いで、「地域活動に関する情報がない」(24.1%)、「参加するきっかけがない」(16.5%)、「人間関係が心配」(16.0%)、「仲間や知人がいない」(14.6%)となっています。

年代別に見ると、80歳以上を除き、どの年代でも「忙しくて時間がとれない」が最も高くなっています。特に、50歳代は70%以上の高い割合となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	212人	86人	120人	6人	22人	26人	36人	33人	40人	30人	21人	4人
1 人間関係が心配、わずらわしそうだから	16.0	25.6	8.3	33.3	18.2	7.7	8.3	18.2	17.5	20.0	19.0	50.0
2 活動するのが大変そうだから	12.7	9.3	14.2	33.3	18.2	19.2	11.1	12.1	12.5	10.0	0.0	50.0
3 忙しくて時間がとれない(学業、仕事、家事など)	48.1	48.8	49.2	16.7	63.6	57.7	63.9	72.7	40.0	33.3	0.0	0.0
4 どのような活動が行われているか情報がない	24.1	27.9	21.7	16.7	50.0	26.9	19.4	27.3	25.0	16.7	9.5	0.0
5 誘いがないなど、参加するきっかけがない	16.5	19.8	13.3	33.3	36.4	23.1	16.7	6.1	20.0	6.7	9.5	25.0
6 一緒に活動する仲間や知り合いがいない	14.6	17.4	12.5	16.7	27.3	7.7	11.1	12.1	30.0	10.0	0.0	0.0
7 会費など活動を行うのに費用がかかる	6.1	9.3	3.3	16.7	9.1	7.7	5.6	6.1	7.5	3.3	4.8	0.0
8 住んでいる地域に、町内公民館や自治会・隣組がない	6.1	3.5	7.5	16.7	0.0	11.5	2.8	12.1	5.0	0.0	14.3	0.0
9 町内公民館や自治会・隣組の活動がない	5.7	5.8	5.0	16.7	4.5	11.5	2.8	6.1	5.0	6.7	4.8	0.0
10 家族や職場の理解が得られない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 必要性を感じない	9.4	11.6	7.5	16.7	18.2	7.7	5.6	18.2	5.0	6.7	9.5	0.0
12 その他	11.8	7.0	15.0	16.7	0.0	15.4	8.3	0.0	15.0	16.7	28.6	25.0
無回答	6.1	5.8	5.8	16.7	0.0	0.0	5.6	3.0	5.0	6.7	28.6	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



◆地域活動へ参加しやすくするために必要なこと

問27 お住まいの地域の活動が、もっと参加しやすいものとなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

地域活動へ参加しやすくするために必要なことは、「気軽に参加できる、明るく楽しい雰囲気」(38.8%)が最も高く、次いで、「活動のPR」(30.0%)、「活動・行事を魅力的なものにする」(25.7%)、「地域活動に沿った活動」(19.2%)、「特定の人に負担がかからないようにする」(18.2%)となっています。

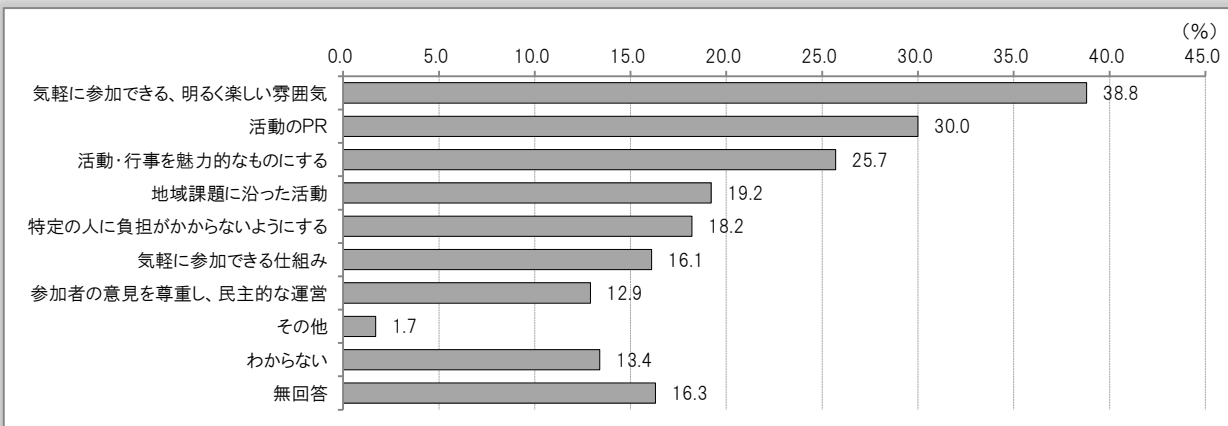
地域活動に参加していない人(できない人)(問26で「行っていない」と回答した人)の回答を見ると、上位3項目は同じで、次が「気軽に参加できる仕組み」(19.8%)となっています。

なお、「活動の企画・運営に気軽に参加できる仕組み」は、年齢が下がるほど割合が高く、特に30歳未満は他の年代と比べて高くなっています。

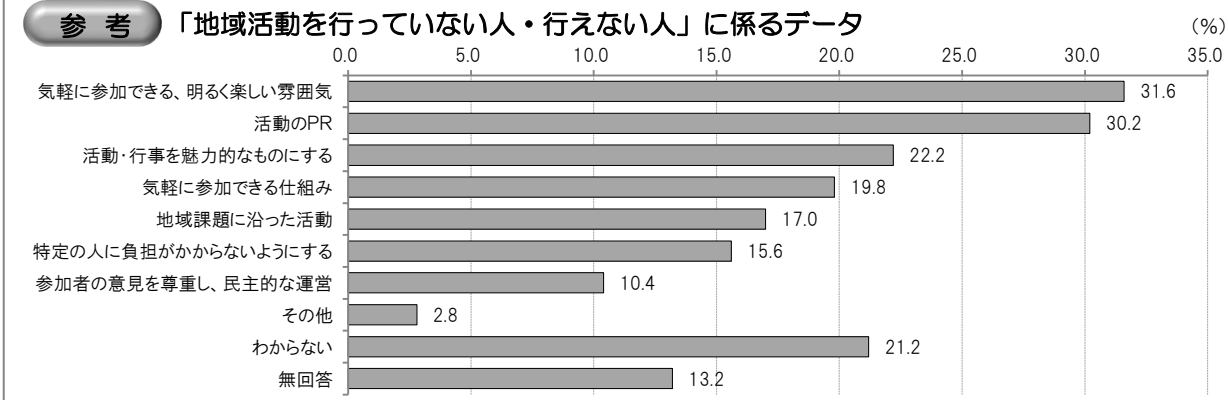
(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 活動に関する情報をもっとPRする	30.0	29.0	30.5	33.3	32.0	30.8	35.7	32.8	30.9	29.2	21.1	16.7
2 住民が求める地域課題に沿って活動する	19.2	24.3	16.3	0.0	16.0	15.4	14.3	25.0	28.4	19.1	10.5	0.0
3 活動・行事の内容を魅力的なものにする	25.7	28.4	24.7	0.0	28.0	20.5	35.7	32.8	23.5	23.6	19.3	0.0
4 活動の企画・運営に気軽に参加できる仕組みがある	16.1	15.4	17.2	0.0	40.0	25.6	21.4	17.2	16.0	7.9	7.0	0.0
5 誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気にする	38.8	36.7	41.0	22.2	44.0	38.5	39.3	37.5	37.0	41.6	38.6	16.7
6 役員やリーダーを任期制にするなど、特定の人に負担がかからないようにする	18.2	22.5	15.1	22.2	20.0	23.1	16.1	26.6	21.0	12.4	12.3	16.7
7 参加者の意見を尊重し、民主的な運営をする	12.9	18.3	9.2	11.1	20.0	17.9	10.7	10.9	11.1	9.0	21.1	0.0
8 その他	1.7	0.6	2.5	0.0	12.0	2.6	3.6	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0
9 わからない	13.4	11.2	14.6	22.2	12.0	12.8	21.4	12.5	14.8	9.0	14.0	0.0
無回答	16.3	16.6	15.9	22.2	0.0	17.9	3.6	9.4	14.8	27.0	24.6	50.0

※H23年調査時に当該設問なし



参 考 「地域活動を行っていない人・行えない人」に係るデータ



◆①地域の課題、②行政との協働が必要なこと

問28 あなたのお住まいの地域では、どのような課題がありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。また、○印をつけたことのうち、地域だけでは解決が難しく、地域と行政が協働して取り組む必要があると思うことは、どれですか。特に必要だと思うものを3つまで○印をつけてください。

地域の課題は、「災害時の対応」(34.5%)が最も高く、次いで、「防犯・治安」(31.9%)、「高齢者・障害者への支援」(28.3%)、「住民同士の親睦・交流」(25.2%)、「地域団体の活性化」(19.7%)となっており、防災及び防犯については、どの年代においても割合が高くなっています。また、比較的年齢が下がるほど「地域の活性化、まちづくり」「子育てへの支援」「若者の地域活動への参加・参画」「交通安全」などの割合が高くなっています。

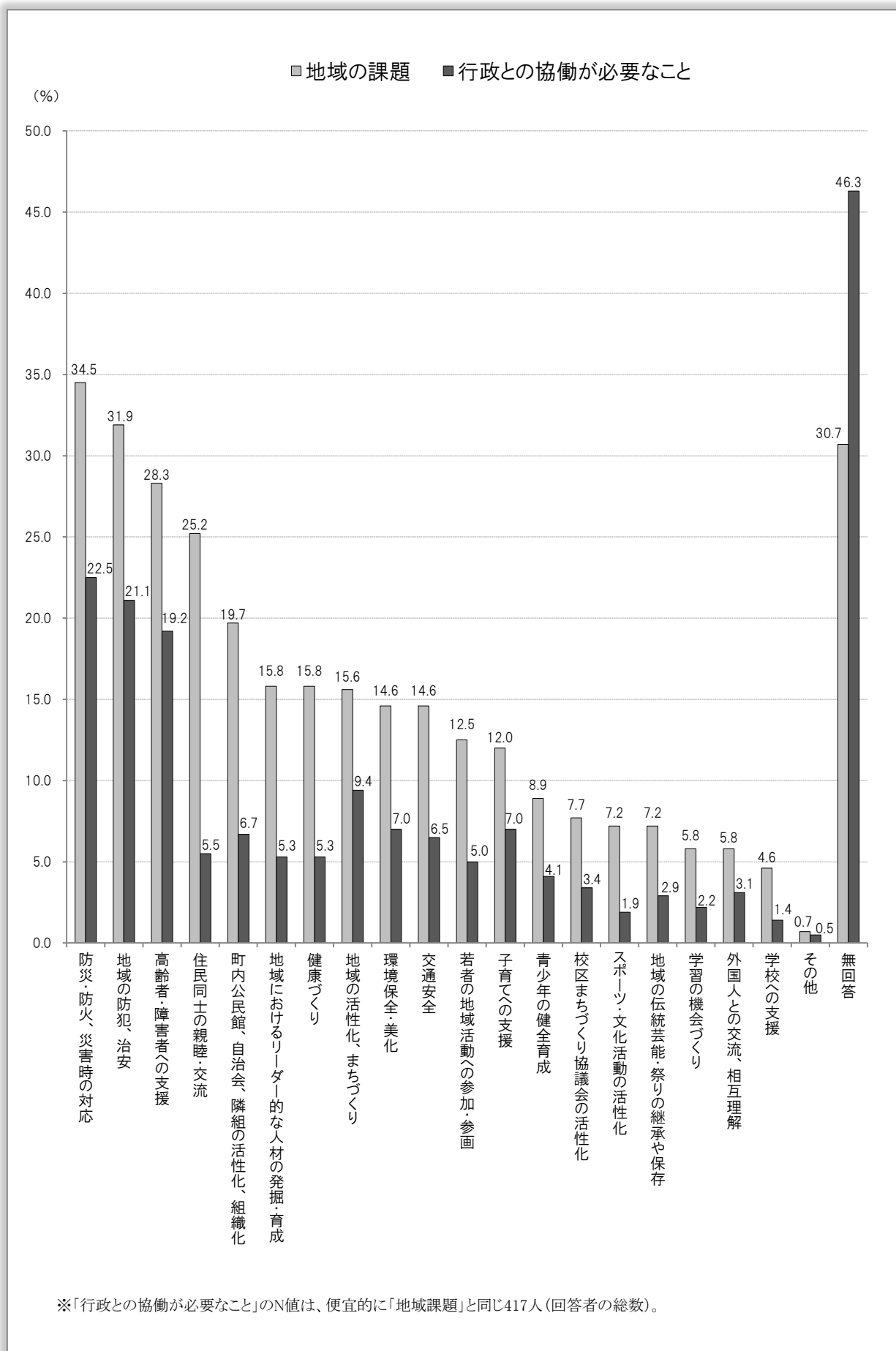
一方、地域と行政が協働で取り組む必要があるものは、「災害時の対応」(22.5%)が最も高く、次いで、「防犯・治安」(21.1%)、「高齢者・障害者への支援」(19.2%)、「地域の活性化」(9.4%)、「環境保全」「子育てへの支援」(7.0%)となっています。また、地域課題と同様に、年齢が下がるほど「子育てへの支援」「交通安全」の割合は高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
①地域の課題												
1 住民同士の親睦・交流	25.2	26.6	23.8	33.3	16.0	25.6	23.2	25.0	23.5	32.6	22.8	16.7
2 町内公民館、自治会、隣組の活性化、組織化	19.7	17.8	21.8	0.0	16.0	28.2	17.9	15.6	22.2	18.0	22.8	0.0
3 校区まちづくり協議会の活性化	7.7	6.5	8.4	11.1	0.0	12.8	3.6	10.9	3.7	12.4	7.0	0.0
4 地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	15.8	16.0	15.9	11.1	16.0	10.3	19.6	17.2	23.5	14.6	7.0	0.0
5 環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	14.6	13.6	15.9	0.0	28.0	20.5	8.9	15.6	18.5	7.9	15.8	0.0
6 地域の活性化、まちづくり	15.6	16.0	15.9	0.0	24.0	28.2	23.2	17.2	11.1	10.1	10.5	0.0
7 地域の防犯、治安(不審者・空家対策、防犯灯など)	31.9	32.0	32.6	11.1	36.0	35.9	39.3	31.3	38.3	28.1	21.1	0.0
8 防災・防火、災害時の対応	34.5	37.3	33.1	22.2	28.0	35.9	41.1	46.9	32.1	34.8	22.8	0.0
9 交通安全	14.6	14.8	14.2	22.2	24.0	35.9	19.6	17.2	14.8	5.6	3.5	0.0
10 子育てへの支援	12.0	10.1	13.4	11.1	28.0	25.6	14.3	15.6	8.6	5.6	5.3	0.0
11 青少年の健全育成	8.9	6.5	10.5	11.1	8.0	17.9	12.5	10.9	4.9	7.9	5.3	0.0
12 学校への支援	4.6	4.1	5.0	0.0	4.0	12.8	8.9	4.7	0.0	4.5	1.8	0.0
13 若者の地域活動への参加・参画	12.5	7.7	16.3	0.0	28.0	20.5	12.5	12.5	11.1	9.0	8.8	0.0
14 高齢者・障害者への支援	28.3	27.8	28.5	33.3	32.0	25.6	32.1	43.8	19.8	24.7	26.3	16.7
15 健康づくり	15.8	14.8	16.7	11.1	12.0	15.4	7.1	21.9	14.8	13.5	24.6	16.7
16 学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	5.8	7.7	4.6	0.0	8.0	10.3	5.4	9.4	6.2	3.4	1.8	0.0
17 スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	7.2	8.3	6.7	0.0	24.0	10.3	10.7	9.4	4.9	3.4	1.8	0.0
18 地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	7.2	5.3	8.8	0.0	12.0	10.3	8.9	6.3	6.2	4.5	8.8	0.0
19 外国人との交流、相互理解	5.8	4.7	6.7	0.0	24.0	15.4	10.7	6.3	0.0	1.1	1.8	0.0
20 その他	0.7	0.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	1.1	0.0	0.0
無回答	30.7	29.0	30.5	66.7	20.0	23.1	25.0	20.3	27.2	39.3	43.9	83.3
②行政との協働が必要なこと												
1 住民同士の親睦・交流	5.5	7.7	3.3	22.2	0.0	2.6	7.1	6.3	4.9	5.6	7.0	16.7
2 町内公民館、自治会、隣組の活性化、組織化	6.7	8.3	5.9	0.0	4.0	2.6	5.4	4.7	11.1	7.9	7.0	0.0
3 校区まちづくり協議会の活性化	3.4	3.0	3.8	0.0	0.0	2.6	1.8	1.6	2.5	7.9	3.5	0.0
4 地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	5.3	5.3	5.4	0.0	0.0	2.6	5.4	4.7	9.9	5.6	3.5	0.0
5 環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	7.0	4.7	8.8	0.0	12.0	10.3	3.6	4.7	11.1	2.2	10.5	0.0
6 地域の活性化、まちづくり	9.4	11.2	8.4	0.0	12.0	10.3	14.3	9.4	7.4	10.1	5.3	0.0
7 地域の防犯、治安(不審者・空家対策、防犯灯など)	21.1	22.5	20.9	0.0	24.0	23.1	28.6	20.3	27.2	15.7	14.0	0.0
8 防災・防火、災害時の対応	22.5	25.4	21.3	0.0	20.0	23.1	25.0	35.9	21.0	22.5	10.5	0.0
9 交通安全	6.5	8.3	5.0	11.1	16.0	15.4	7.1	4.7	8.6	2.2	1.8	0.0
10 子育てへの支援	7.0	6.5	7.5	0.0	24.0	17.9	12.5	7.8	1.2	3.4	0.0	0.0
11 青少年の健全育成	4.1	4.1	4.2	0.0	4.0	5.1	8.9	0.0	2.5	6.7	1.8	0.0
12 学校への支援	1.4	1.8	1.3	0.0	0.0	5.1	5.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
13 若者の地域活動への参加・参画	5.0	2.4	7.1	0.0	8.0	12.8	5.4	3.1	6.2	2.2	3.5	0.0
14 高齢者・障害者への支援	19.2	19.5	18.8	22.2	28.0	15.4	17.9	29.7	13.6	15.7	21.1	16.7
15 健康づくり	5.3	4.7	5.4	11.1	0.0	2.6	3.6	6.3	7.4	5.6	5.3	16.7
16 学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	2.2	3.0	1.7	0.0	4.0	0.0	3.6	0.0	6.2	1.1	0.0	0.0
17 スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	1.9	3.0	1.3	0.0	8.0	0.0	1.8	1.6	2.5	1.1	1.8	0.0
18 地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	2.9	1.8	3.8	0.0	8.0	5.1	3.6	3.1	1.2	1.1	3.5	0.0
19 外国人との交流、相互理解	3.1	2.4	3.8	0.0	16.0	5.1	8.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
20 その他	0.5	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0
無回答	46.3	43.8	46.9	77.8	36.0	30.8	37.5	39.1	38.3	60.7	63.2	83.3

※H23年調査時に当該設問なし。

※「②行政との協働が必要なこと」のN値は、便宜的に「①地域の課題」と同じ417人(回答者の総数)。



◆学校を支援する取組みへの参加意向

問29 最後に、おたずねします。少子・高齢化が進む中で、学校は人と人をつなぎ、さまざまな課題へ対応し、まちづくりの拠点としての役割を果たすことが求められています。こうした観点から、例えば、地域の住民が登下校時の子どもの見守りを行ったり、子ども達が地域の文化活動に参加したりするなど、学校と地域が連携・協働し、地域の未来を担う子ども達の成長を支える必要性が高まっています。
あなたは、お住まいの地域にある学校を支援する活動に参加したいと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

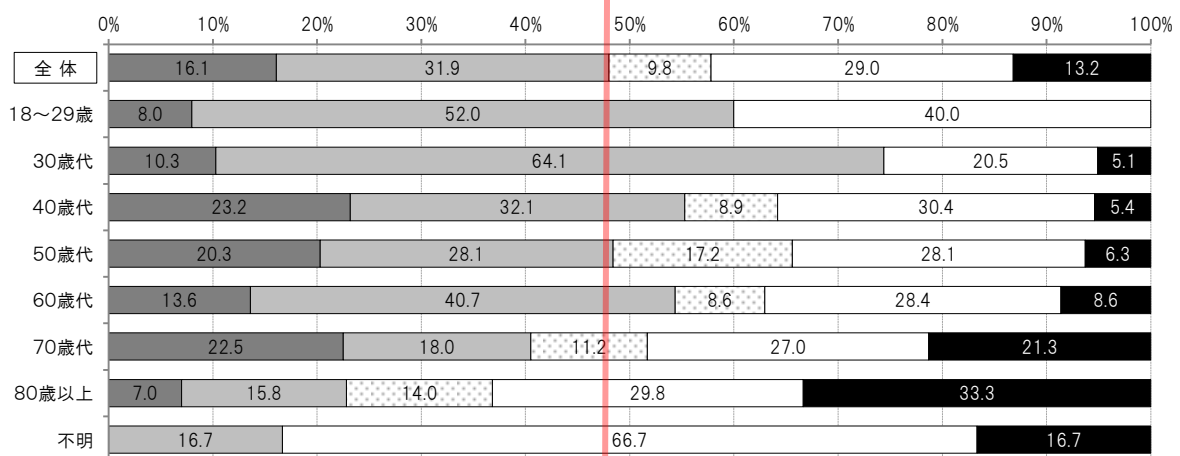
“学校”を支援する活動に参加したいと回答した人は、「参加したことがあり、今後も参加したい」(16.1%)と「参加したことはないが、参加したい」(31.9%)と合わせると、全体の約半数(48.0%)におよんでいます。
また、地域活動に参加していない人(できない人)(問26で「行っていない」と回答した人)でも、4割以上(43.9%)が「参加したい」と回答しています。特に、地域活動をあまり行っていない若い年代(18歳～39歳)の参加意欲は、他の年代を上回っています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 参加したことがあり、今後も参加したい	16.1	12.4	19.2	0.0	8.0	10.3	23.2	20.3	13.6	22.5	7.0	0.0
2 参加したことはないが、参加したい	31.9	27.8	35.1	22.2	52.0	64.1	32.1	28.1	40.7	18.0	15.8	16.7
3 参加したことがあるが、今後は参加したくない	9.8	11.2	8.8	11.1	0.0	0.0	8.9	17.2	8.6	11.2	14.0	0.0
4 参加したことがなく、今後も参加したくない	29.0	33.1	25.1	55.6	40.0	20.5	30.4	28.1	28.4	27.0	29.8	66.7
無回答	13.2	15.4	11.7	11.1	0.0	5.1	5.4	6.3	8.6	21.3	33.3	16.7

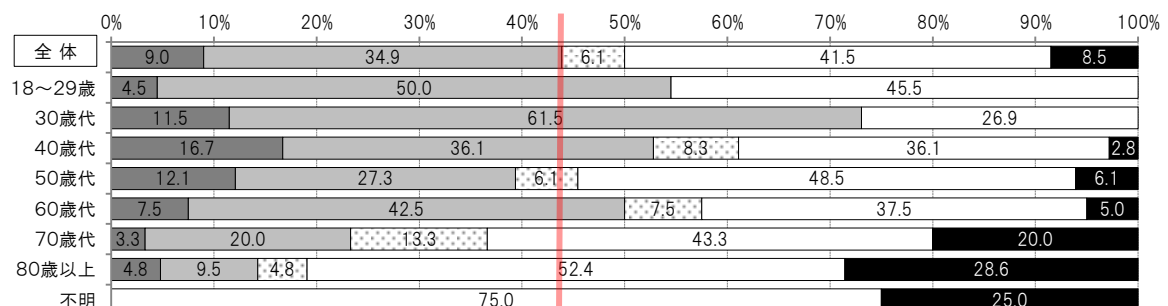
※H23年調査時に当該設問なし

■経験有・参加したい □経験無・参加したい □経験有・参加したくない □経験無・参加したくない ■無回答



参 考 「地域活動を行っていない人・行えない人」に係るデータ

■経験有・参加したい □経験無・参加したい □経験有・参加したくない □経験無・参加したくない ■無回答



◆学校を支援する活動に参加してくてもできない人の障害

《問29で「2. 参加したことはないが、参加したい」を選んだ人におたずねします》

問29-2 あなたは、どのような状況なら参加することができますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

学校を支援する活動に参加したくてもできない人が、参加するために必要なことは、「時間的な余裕」(67.7%)が最も高く、次いで、「無理なく参加できそうなもの」(60.2%)、「早目に情報を知る」(31.6%)、「子どもや地域づくりに大変有効と思うもの」(27.1%)、「知人・友人からの誘い」(18.8%)となっています。

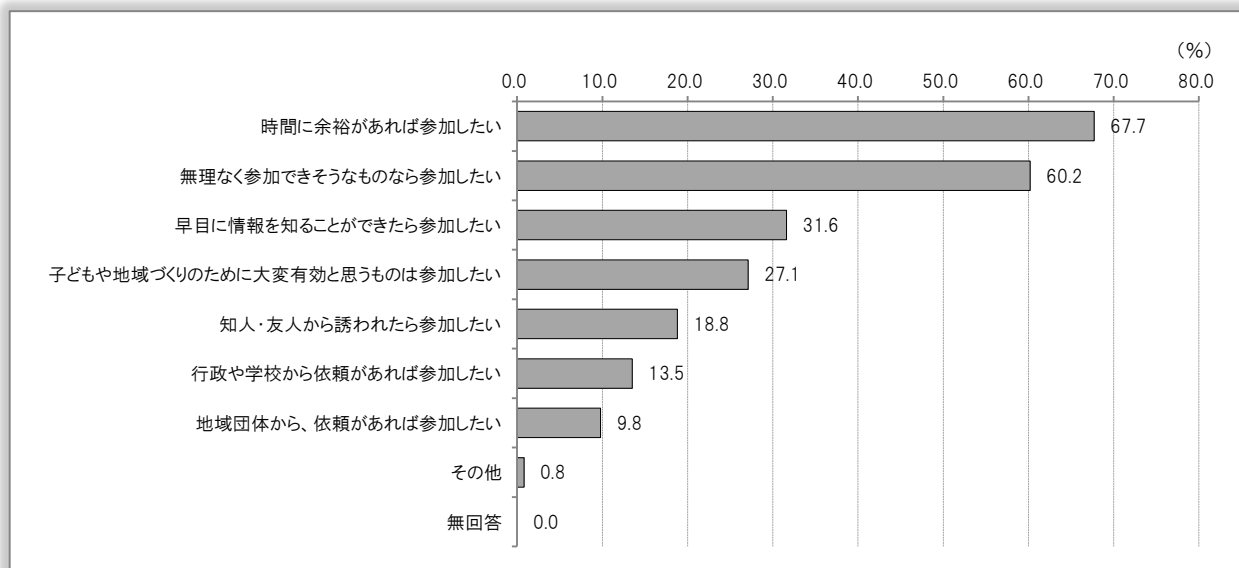
年代別では、60歳未満は「時間的な余裕」、60歳以上は「無理なく参加できそうなもの」が最も高くなっています。

なお、30歳代(問29で「参加したことはないが、参加したい」と回答した割合が最も高い年代)については、「時間的な余裕」、「無理なく参加できそうなもの」に次いで、「子どもや地域づくりに大変有効と思うもの」(40.0%)の割合が高く、他の年代と比べて高い数値となっています。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	133人	47人	84人	2人	13人	25人	18人	18人	33人	16人	9人	1人
1 時間に余裕があれば参加したい	67.7	63.8	71.4	0.0	84.6	84.0	83.3	83.3	66.7	25.0	22.2	0.0
2 早目に情報(日時、場所、内容等)を知ることができたら参加したい	31.6	36.2	29.8	0.0	30.8	28.0	27.8	38.9	36.4	31.3	22.2	0.0
3 知人・友人から誘われたら参加したい	18.8	14.9	20.2	50.0	23.1	28.0	11.1	27.8	15.2	12.5	11.1	0.0
4 行政や学校から依頼があれば参加したい	13.5	25.5	7.1	0.0	15.4	12.0	5.6	27.8	6.1	25.0	11.1	0.0
5 地域団体(まちづくり協議会、町内公民館、校区社協、校区民児協・主任児童委員など)から、依頼があれば参加したい	9.8	12.8	8.3	0.0	7.7	0.0	0.0	27.8	3.0	18.8	33.3	0.0
6 子どもや地域づくりのために大変有効と思うものは参加したい	27.1	29.8	25.0	50.0	30.8	40.0	22.2	27.8	27.3	25.0	0.0	0.0
7 無理なく参加できそうなものなら参加したい	60.2	55.3	61.9	100.0	76.9	52.0	33.3	44.4	75.8	75.0	55.6	100.0
8 その他	0.8	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



(4) 自由記述

問 30 今回、おたずねした生涯学習や地域づくりについて、ご意見やご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

●子どもに関すること	
30代・女性	以前、子どもの登校を見守っていた時近所の方に会い子どもが「おはようございます」と挨拶をしたが、挨拶がなかったので聞こえなかったかと思ったが、何度か続き故意的に挨拶してないと認識した。大人の私でも無視されたら挨拶しづらいと思う。挨拶した後の子どもの悲しそうな顔が忘れられない。その人の事情はわからないが、子どもたちが元気に過ごせる、育つ町を希望する。
40代・男性	高齢化が進む中、生涯学習も大切ですが、少子化の事を考えて対策をして地域を活性化して欲しい。
50代・男性	若い人の常識と社会公共性が失われ個人主義で自分勝手な人が多くなって来た。今後も少子化のため益々この傾向が進まないか？
60代・女性	小学生の子どもたちの登下校時に見守りを続けて行って欲しい。
70代・男性	近所は後期高齢者ばかり。独身者、子育て中の若者世代を中核にして地域を活性化し生涯学習もその世代に税金を使うと良いと思う。
70代・女性	高齢の人と若い人の考え方に開きがあり、しっくりいってない点が最近多いように思われます。

●高齢者に関すること	
80歳以上・女性	高齢者向けの講座を企画してほしい。あまり難しくない、楽しめるものを。例えばみんなで歌うとか自由にいつでも参加することができたらよいと思う。

●地域に関すること	
10代・女性	リサイクル当番を廃止して欲しい。仕事をしている人は休んで当番をしなければならない。独居老人は特別扱いしないでよい。なのに早朝よりウォーキングしている。不平等ではないか。燃えるゴミのように回収車でリサイクルゴミも袋を有料化すれば市民は平等となる。家庭でのリサイクルゴミが何を出しているのか当番の人に知られるため、個人情報はないと思います。若い世代は住みにくい大牟田市です。まわりは空家と老人ばかり。子どもを見かけません。
60代・女性	地域で不明な事があれば問い合わせ窓口があれば有り難いです。
60代・男性	地域づくりの中の一つの例としてマスコミ等で子ども食堂の事が取り上げられますが、貧困対策や格差をなくす取組がきちんとしていれば子ども食堂は必要ないと思います。大牟田に子ども食堂が必要ない様な対策を、国への働きかけを含めてお願いします。
60代・女性	地域が潤う為、役員（公民館、福祉委員、民生委員、その他）の参加者が多いが、一般の住民が少ない。何か考えているが……。寄り添う何か良い案が無いでしょうか。いつも決まった人達だけです。
70代・男性	校区内だけでなく校区外対抗での催し、スポーツ、イベント、ポイント貯めたらメリットがあるなど。地域の役員やお手伝いも年齢別にしてもっと参加してもらおう。正直、公

	民館へ入るのも任意であるため、誰がどこに住んでいるとか隣の人が誰なのかわからない。若者が大牟田から出て帰って来たいような市作りが大切！
70代・女性	活動のリーダーとボスは異なる。個人への批判、陰口の無い様に願います。
70代・女性	小学校の再編により、地域コミュニティも合併しましたが、それによって今までずっと地域に出てきていた高齢の方々が参加しづらくなり、運動会やグランドゴルフ、その他、見えなくなった方がたくさんいらっしゃいます。再編により地域の再編には、大きな課題があると思います。実態を把握し、検討していただきたいです。地域で独立する人が少しでも少なくなる事を願っています。

●つながりに関すること	
30代・女性	昔に比べ、人と人のつながりが携帯やSNSの普及で便利になった分、少なくなっていると思う。人と人のつながりが強くなると、子どもから高齢の方までがもっと住みやすい世の中になるのではないかと思います。
60代・性別不明	3年前に引っ越してきたので地域との繋がりがほとんどなく、学校との繋がりを持つというまでには至っていません。もしこの地域に孫がいて学校に通っていれば、是非参加したいと思っていたかもしれません。今は自分のための活動をしたいと考えています。もう少し年を重ねたら地域に関心が持てるかもしれません。

●文化に関すること	
50代・女性	クラシックや伝統芸能も必要だと思いますが、ゴスペルやジャズ等もっと幅広い分野があればと思います。荒尾は音楽やダンス、その他のカルチャーセンターが充実しているように感じます。大牟田は高齢者向けは多いですが、参加したいと思える内容が今の所あまり無いという印象です。沖縄の三線、津軽三味線等面白いと思います。

●安心安全に関すること	
30代・女性	この地に根深く残る暴力団がらみの問題がゼロになる様よろしくお願いします。
70代・男性	昨年の正月早々、高齢者が道路横断中に事故に遭い死亡する事故が続いて起こり警察署長の名で「非常事態宣言」がなされて安心安全に関する特別指導があったにも関わらず、この方面の地域まちづくり活動があまり活動的に実施されていないようだ。本年度中に高齢者の道路横断中の交通安全指導とニセ電話詐欺に関する防犯指導のセミナーを実施したい。

●交通に関すること	
70代・女性	車や自転車に乗れないのでそこまで行けない。タクシーの利用も費用がかかりすぎて無理。
70代・女性	一人になって間17のように友達もたくさんできました。ただバスの回数やお店が近くにあればもっといいです。
70代・女性	交通の便が悪くて思うように参加することが難しい。

●環境美化に関すること	
30代・男性	前記したが、とにかく公園が汚い。人が集まりふれあう場でもある公園がこれでは街は活気づくわけがない。業務委託している業者をしっかりと監督しているとは思えない。本当に延命公園などは人さらいが起きそうな暗いムードがある。枝や草が生い茂って見晴らしも悪すぎる。市職員は何をしているのかと腹立たしくなっています。

●行政に対する要望・意見に関すること	
40代・女性	国際交流、文化財的なもの、健康などバラバラに行うのではなく「大牟田市は〇〇を押し進める」などして一つのものに特化した町にする。例えば長野県だったかの平均寿命を町全体で延ばす活動の取り組みのように。
50代・女性	働いているためなかなか情報が入ってこない。
60代・男性	大牟田市の発展、魅力を若い人に伝える活動、及び行政の支援を受けるための手続きなど市として積極的に取り組んでもらいたい。
60代・男性	人生日々是好日。生涯学習の基本。行政はそういう社会の仕組み作りをすべき。予算も措置すべき。
70代・男性	大牟田市は特に少子高齢化の先進国です。年々人口も減少して人口が近い将来は8万人で落ち着くのでは？と聞いています。街も小さくなり人口も減少します。将来を見据えて行政の合理化等健全な街づくりを！

●自身の体調面に関すること	
60代・男性	現在持病の（腰痛）と（PM2.5）の咳に悩まされ体力に自信がなく、今後体調次第でボランティア活動に積極的に参加したいと思っております。
60代・女性	家にこもり気味で体力、気力、筋力など衰えていくのを体のためにも防がなくてはと思う日々だが、身体を動かしていくのが一番だろうと思っている。
60代・女性	私の校区は高齢の人が多く、昔から住んでいる方々が多い。仕事を退社し、現在孫の世話に追われている。そのためまだまだ活動に参加するまでにいたっておらず。しかし、時間を見つけ友人と共に洋裁をしている。その事ぐらいしかできないのが現状です。
70代・男性	S15.4生まれ良い年になりました、暑い日が続きます。もうのんびりがいいかも
70代・女性	体や足が良くない為参加できない。月に一回はボランティアかな、弁当作ってやったりしてます。50人分作る為に献立を考えたりしてます。ボケないように頑張ってます。
80歳以上・男性	参加の意志、又は参加できる方でないと。年齢的、体力的に参加できないので記入できませんでした。
80歳以上・女性	高齢者のため充分なことができない。もう少し元気があればと思う。
80歳以上・女性	90才なので若い人にお願いしたい。
80歳以上・女性	気持ちは↑ですが体力が↓です。
80歳以上・女性	今、外科に入院しています。気持ちがついていきません。子育ての頃、PTA活動、選挙の時の協力、色んな面で社会参加すれば社会は明るく元気になるものです。少子化、高齢化社会ではアイデアは浮かびません。S30、40年頃は職場が色んなサークルに援助してくれました。

●アンケートに関すること	
20代・男性	アンケートを記入するというのが今の若者では苦になる人も多いかもしれないので、携帯やスマートフォンでできるアンケートを取るともっと多くの意見が集まるのでは？
40代・男性	生涯学習が何なのかよく知らないので答えに悩んだ。例えなどがあればもう少し分かりやすいと思う。
40代・女性	ちょっと長すぎます。
50代・男性	質問が多すぎる。
60代・男性	国家百年の計という言葉通り、長い時間を必要とすると思いますが、コツコツと推進される様頑張ってください。必ずや我々市民もそれにこたえることができると思いま

	す。今回のアンケートに際しても自分自身やボランティア、引いては社会貢献、地域貢献に対する姿勢を一考させられる機会をいただきました。
80 歳以上・男性	色々努力されてあることは分かりました。個人としての気持ちは年齢、体力、健康上、生活、仕事の有無など又、個人の考え方の違いがあり、お世話や計画される方は大変だろうなぁと思っています。このアンケートへの返信をだいぶためらいましたが、先日、ハガキまでいただき現在の気持ちで記入しました。支離滅裂な答えとなりましたがお許しください。
80 歳以上・女性	親は一人暮らしで目が不自由で足もフラフラでよければもう資料は届けないでください!!
80 歳以上・女性	96 才になります。高齢のため何も出来ません。アンケートを送るのも大変です。
80 歳以上・女性	私はすぐ 92 歳になります。かけない所がいっぱいあります。本当にすみません。

●その他	
40 代・女性	自分自身が高齢になった時の不安があります。そのための支援は色々と考えて欲しいです。
50 代・男性	地域、学校のための支援をしたい気持ちはあるが、自分の仕事が時間的にも精神的にもオーバーワークで余裕がないのが現状である。この状況で地域づくりに支援となるとどうしても参加できないか、参加しても十分なことはできない。働きざかりの年代については同じ状況ではないだろうか。
50 代・男性	世の中の時代の流れかと思う。この先未来は不安だろうと思う。
60 代・女性	色々なことを学びたい人がたくさんおられるのでいいと思います。
60 代・女性	生涯仕事をし(収入も必要なの)その中からそれを通して考えていければと思います。若い人達の年金問題もある。(全ての人にも)
60 代・性別不明	科学、勉強が必要
80 歳以上・女性	施設入所中の為意見、要望等はなしです。

※原則、記載された原文のまま掲載しています。

3. 市民意識調査から見てくるもの

(1)生涯学習をQOL(生活の質)を高める手段と考えている市民が多い

生涯学習についての考えやイメージは、『生きがい・人生を豊かにする』(51.6%)が最も高い回答となりました。また、生涯学習の目的や理由も『その学習が好きであったり、人生を豊かにするため』(50.2%)が最も高く、市民は生涯学習をQOL⁵(生活の質)を高める手段と考えていることが推測できます。

(2)「生涯学習を行っていない人(行えない人)」が多いが意識は高い

生涯学習については、この1年の間に行った生涯学習は、『特にしていない』(46.8%)が最も高くなっています。その理由としては、『仕事』(38.5%)が最も高く、次いで『家事・育児・介護等』(20.5%)となっています。一方、生涯学習の必要性は、全体の約9割が必要と回答しており、何かしら学ぶ意欲は高いと言えます。

(3)公共施設(社会教育施設)の講座・教室の充実が求められている

これまで生涯学習をしたことがある場所・形態は、『公共施設の講座・教室』(49.8%)が最も高くなっています。また、今後希望する場所・形態についても同項目(48.4%)が最も高くなっています。さらに、生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきことにおいては、同項目(22.1%)が3番目に高くなっています。

以上のことから、市民は、公共施設(社会教育施設)の講座・教室に大きな期待を寄せており、その充実が求められていることがわかります。

(4)生涯学習、ボランティア活動、地域活動を盛んにするには情報提供の充実が求められている

生涯学習をしない理由(できない理由)は、『仕事』(38.5%)が最も高く、次いで『家事・育児・介護等』(20.5%)、『どのような活動があるかわからない』(18.5%)、『生涯学習に関する情報が不足している』(17.9%)となっています。また、生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきこととして、『詳細な学習情報の提供』(21.1%)が4番目に高くなっています。一方、ボランティア活動を盛んにするために必要なことは『ボランティア活動に関する情報提供を充実させる』(30.7%)が最も高くなっています。また、地域活動に参加していない理由(できない理由)は、『忙しくて時間がとれない』(48.1%)が最も高く、次いで『地域活動に関する情報がない』(24.1%)、『参加するきっかけがない』(16.5%)となっています。

以上のことから、生涯学習、ボランティア活動、地域活動を盛んにするためには、学習活動に関する情報提供をより一層充実させることが必要です。

(5)各種講座・事業は、対象となる年代によって開催日時を設定することが効果的

生涯学習を行うのに都合の良い時間帯は、60歳未満では、どの年代でも平日の夜間が最も高

⁵Quality of Life(クオリティ オブ ライフ)の略

くなっています。また、60 歳代以上では、平日の午前・午後が最も高くなっています。

以上のことから、公共施設での講座・事業は、対象となる年代によって開催日時を設定することが効果的と考えられます。

(6)家庭教育の支援、青少年教育の充実が求められている

生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきこととして、『次世代を担う若者への教育の充実』(28.3%)が2番目に高くなっています。また、少子・高齢化社会における教育行政の在り方として、『家庭教育の支援』(52.8%)が最も高く、次いで『少年教育』(36.9%)となっており、『青年教育』(24.9%)が4番目に高くなっています。

以上のことから、家庭教育の支援・青少年教育の充実が求められていると考えられます。

(7)学んだ成果を活かすために身近な活動の場や機会の創出が求められている

全体の約6割の人が、自分の知識・技能を地域活動やボランティア活動に活かしたいと考えていることがわかりました。中でも、『機会があれば活かしたい』と回答した人の割合は、46.5%と最も高くなっています。

学んだ成果を活かすために必要なことは、『活動の場が身近にある』(35.5%)が2番目に高く、行政として取組むことができる項目の中では最も高くなっています。

以上のことから、地区公民館が実施している市民の身近な場所で行う事業を充実させ、学習活動の場・機会を創出することが必要です。

(8)ボランティア活動や地域活動を行っている人の割合が低くなっている

ボランティア活動を行っていない人の割合が66.9%(前回より10.4ポイント増加)、地域活動に参加していない人の割合は50.8%(前回より6ポイント増加)となっています。また、活動の頻度は、ボランティア活動・地域活動ともに半減しており、それぞれ活動の担い手が不足していることが考えられます。

一方、行ったボランティア活動の内容は、『学校での活動』(16.3%)が3番目、『子どもの見守り・あいさつ活動など』(12.2%)が5番目に高いことから、学校や子どもたちに関わる活動については関心が高いことがわかりました。

以上のことから、今後、学校や子どもたちに関わる活動をきっかけに、ボランティア活動や地域活動の担い手の育成を図ることが必要です。

(9)「災害時の対応」、「防犯・治安」、「社会的弱者への支援」などを通じた地域のつながりが求められている

地域の“つながり”や“まとまり”については、全体の8割以上の人が必要と回答しており、その理由として、『災害時の共助』(80.1%)、『地域での防犯活動』(55.0%)、『独居老人等の見守り』(50.7%)が上位3項目になっています。一方、地域の課題としては、『防災・防火、災害時の対応』(34.5%)、『地域の防犯・治安』(31.9%)、『高齢者・障害者への支援』(28.3%)が上位3項目となっています。また、この3項目は、地域と行政の協働が必要なこと上位3項

目でもあります。

以上のことから、「コミュニティの再生」や「市民と行政との協働」を推進するためには、これら「災害時の対応」、「防犯・治安」、「社会的弱者への支援」に関する取組みを行うことが有効と思われます。

(10)学校を支援する活動への関心が高い

『学校を支援する活動』に参加したいと回答した人の割合は、『参加したことがあり、今後も参加したい』(16.1%)と『参加したことはないが、参加したい』(31.9%)と合わせると、全体の約半数(48.0%)におよんでいます。

また、地域活動に参加していない人(できない人)でも4割以上(43.9%)の人が参加したいと回答しています。このうち、30歳未満では54.5%、30歳代では73.0%が参加したいと回答しており、若い年代の参加意識は他の年代と比べて高くなっています。

なお、この1年くらいの間に行ったボランティア活動は、『学校での活動』(16.3%)が、『環境美化、リサイクル活動』(46.9%)、『高齢者、障害児・者等への支援』(17.3%)に次いで3番目に高くなっています。

以上のことから、学校を支援する活動に対する市民の関心は高いと言えます。特に、地域活動をあまり行っていない若い年代(保護者世代)の参加意識が高いことが判明したことから、今後、地域活動へ参加するきっかけづくりや、地域社会の後継者の発掘・育成を図るために、各校区において、学校を核として学校・家庭・地域が連携した取組みを展開することが望まれます。具体的には、市内の全小学校・中学校・特別支援学校がユネスコスクール⁶に加盟し、実施しているESDを地域社会全体で支援することなどが考えられます。

(11)社会教育関係職員のスキルアップが必要

生涯学習が盛んなまちにするために、行政が力を入れるべきこととして、『専門的な職員や指導者の配置(28.5%)が最も高くなっています。

社会教育関係職員には、人と人、人と団体、団体と団体などを結ぶコーディネーターやファシリテーター⁷としての役割が重要です。それらの役割を果たすには、地区公民館職員をはじめとする社会教育関係職員のスキルアップが求められます。

⁶ ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校

⁷ ファシリテーション(会議やミーティングがスムーズに進むよう、発言や参加を促進し、話の流れを整理し、参加者の合意形成をサポートする行為)をする人

Ⅲ インタビュー調査（生涯学習促進に係る意識調査）

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

今後の社会教育・生涯学習行政における施策及び事業の在り方を探る上での基礎資料として、日頃、学習活動を行っていない人(行えない人)の学習ニーズ、ライフスタイル等を把握する。

(2) 調査の対象

この1年間、学習活動を行っていない(行えなかった)市内在住の満18歳以上の男女（調査日現在）

(3) 調査方法

地域コミュニティ推進課及び生涯学習課の主査級以下の職員（嘱託員含む）で組織した調査団により、街頭インタビューを行った。（参考）地区公民館職員の研修として位置づけて実施

(4) 調査期間

平成30年8月16日～9月15日（土・日曜及び祝日を含む）（調査基準日は調査日）

(5) 調査場所

大型商業施設、大牟田市役所

(6) サンプル数

173件

< 調 査 項 目 >

◇回答者属性（性別、年齢等）……………5問

（1）生涯学習について……………6問

- 学習活動をししない理由（できない理由）
- 学習活動の意欲
- 休日や余暇の過ごし方
- 学習ニーズ
- 行政に対する要望 など

（2）地域活動・ボランティア活動について……………7問

- ボランティア活動・地域活動の参加状況
- ボランティア活動・地域活動に参加していない理由
- ボランティア活動・地域活動の内容
- 小学校を支援する取組みへの参加意向

（3）地区公民館について……………3問

- 地区公民館の認知度と利用状況
- 地区公民館を利用した理由
- 地区公民館を利用しない理由

（4）自由記述（生涯学習や地域づくりに関するご意見・ご要望）……1問

（計22問）

<調査結果利用上の注意>

文章や表、グラフの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならないことがある。また、2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。

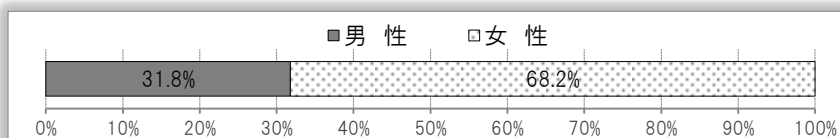
生涯学習促進に係る意識調査

2. 調査結果

回答者属性

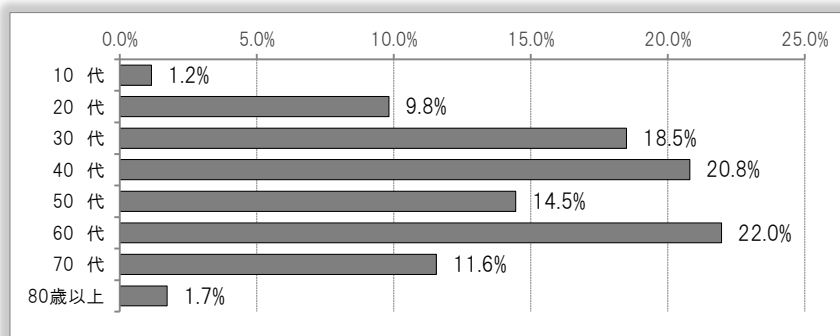
◆性別(調査員で判断)

1	男 性	55人	31.8%
2	女 性	118人	68.2%
	無回答	0人	0.0%
	合 計	173人	100.0%



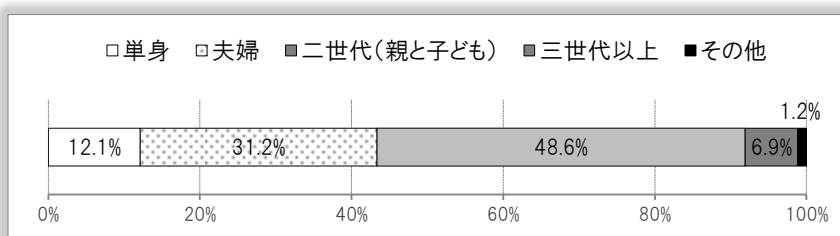
◆年齢(調査日現在)

1	10 代	2人	1.2%
2	20 代	17人	9.8%
3	30 代	32人	18.5%
4	40 代	36人	20.8%
5	50 代	25人	14.5%
6	60 代	38人	22.0%
7	70 代	20人	11.6%
8	80歳以上	3人	1.7%
	無回答	0人	0.0%
	合 計	173人	100.0%



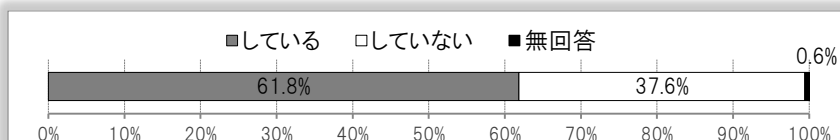
◆家族構成

1	単身	21人	12.1%
2	夫婦	54人	31.2%
3	二世世代(親と子ども)	84人	48.6%
4	三世世代以上	12人	6.9%
5	その他	2人	1.2%
	無回答	0人	0.0%
	合 計	173人	100.0%



◆仕事の有無

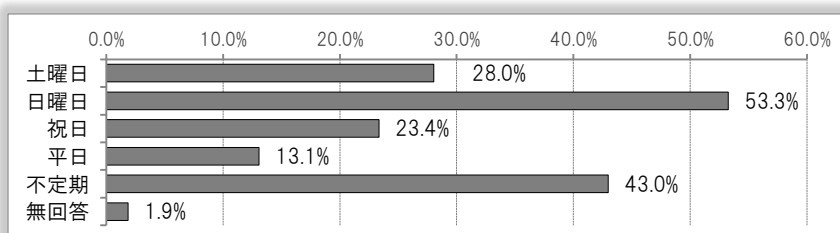
1	している	107人	61.8%
2	していない	65人	37.6%
	無回答	1人	0.6%
	合 計	173人	100.0%



◆休日(複数回答可)

1	土曜日	30人	28.0%
2	日曜日	57人	53.3%
3	祝日	25人	23.4%
4	平日	14人	13.1%
5	不定期	46人	43.0%
	無回答	2人	1.9%

(N=107)



(1)生涯学習について

◆学習活動の実施状況

問1 あなたはこの1年くらいの間に、趣味、教養、健康づくりなど、何かしらの講座や教室、研修などに参加したり、自分で何かを調べたり、学習をしたことはありますか。

(単位:%)			
1	あ	る	0人 0.0
2	な	い	173人 100.0
	無	回	0人 0.0

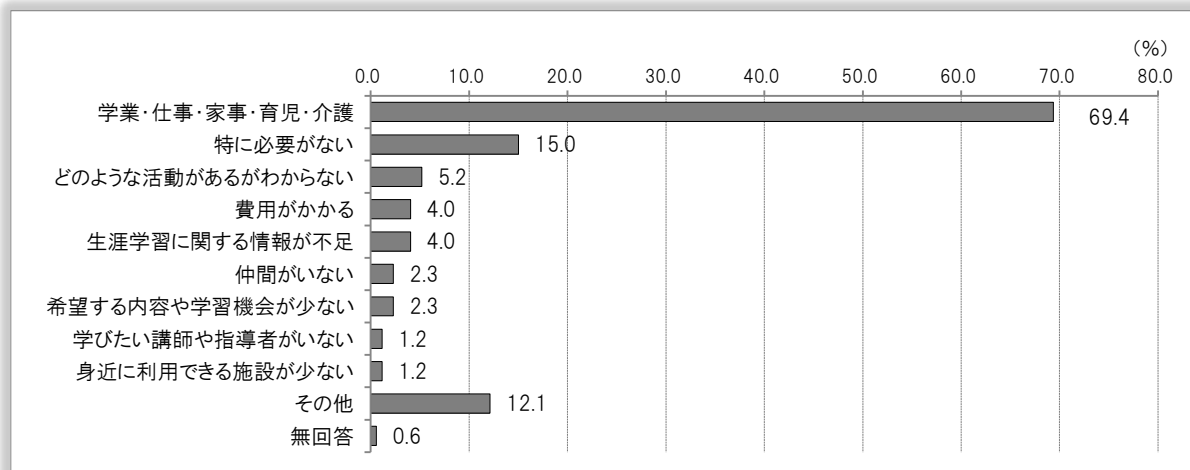
◆学習活動をしない理由(できない理由)

問2 学習活動をしない理由(できない理由)を教えてください(複数回答可)。

学習活動をしない理由(できない理由)は、「学業・仕事・家事・育児・介護」(69.4%)が最も高く、次いで、「特に必要がない」(15.0%)、「どのような活動があるかわからない」(5.2%)、「費用がかかる」、「生涯学習に関する情報が不足」(4.0%)となっています。

年代別に見ても、全ての年代において「学業・仕事・家事・育児・介護」の割合が最も高くなっています。

(単位:%)									
	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 学業・仕事・家事・育児・介護	69.4	54.5	76.3	78.9	78.1	77.8	80.0	63.2	34.8
2 仲間がいらない	2.3	1.8	2.5	0.0	3.1	0.0	4.0	2.6	4.3
3 費用がかかる	4.0	0.0	5.9	5.3	9.4	2.8	0.0	2.6	4.3
4 どのような活動があるかわからない	5.2	7.3	4.2	0.0	15.6	2.8	0.0	5.3	4.3
5 学びたい講師や指導者がいない	1.2	0.0	1.7	0.0	3.1	2.8	0.0	0.0	0.0
6 身近に利用できる施設が少ない	1.2	1.8	0.8	0.0	3.1	0.0	4.0	0.0	0.0
7 希望する内容や学習機会が少ない	2.3	1.8	2.5	0.0	3.1	2.8	4.0	2.6	0.0
8 生涯学習に関する情報が不足	4.0	5.5	3.4	0.0	12.5	2.8	4.0	2.6	0.0
9 特に必要がない	15.0	20.0	12.7	10.5	9.4	16.7	8.0	18.4	26.1
10 その他	12.1	18.2	9.3	10.5	3.1	8.3	12.0	13.2	30.4
無回答	0.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3



※「その他」の回答(全21件)のうち、最も多い記述は「健康に関すること」(5件)・・・2.9%(N=173)

◆学習活動の意欲

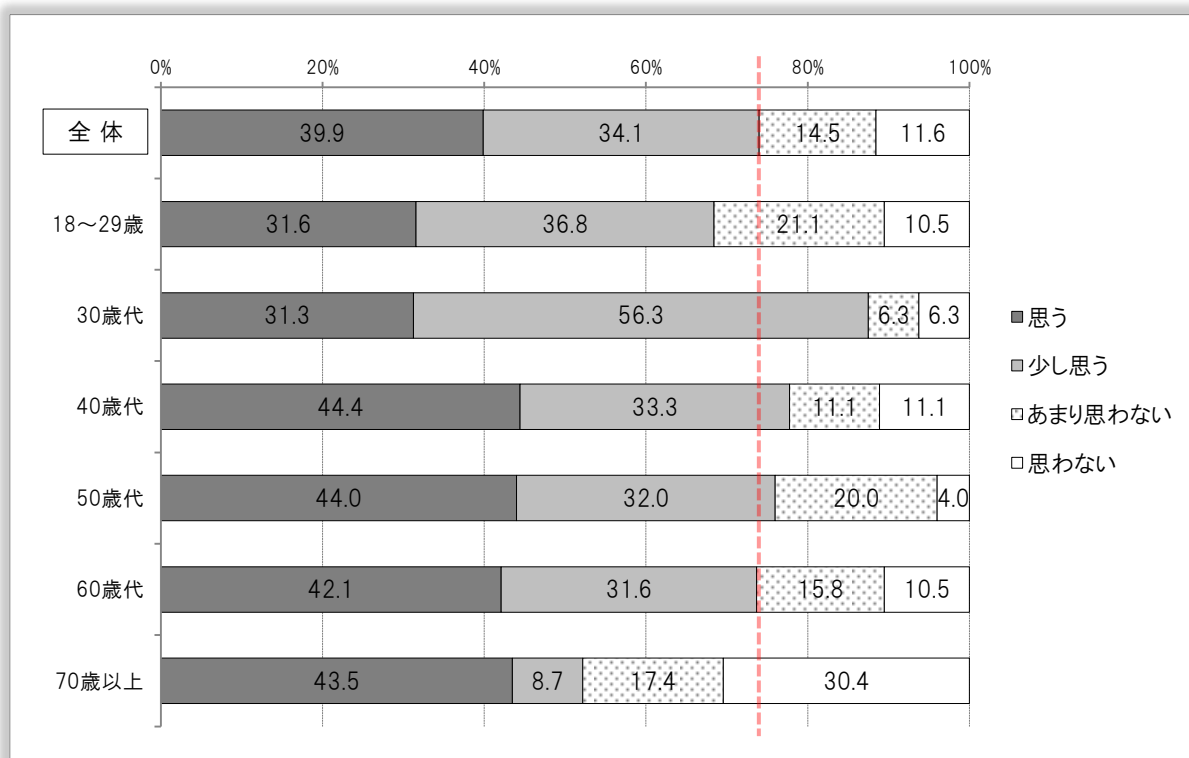
問3 もし、それらのことがなかったら、何か学んでみたいと思いますか。

日頃、学習・活動を行っていない人(行えない人)の学習意欲については、「思う」(39.9%)と「少し思う」(34.1%)を合わせると、全体の7割以上(74.0%)の人が何かを学んでみたいと思っています。

年代別に見ると、30歳代が最も高く、9割近く(87.6%)の人に学習意欲があり、次いで、40歳代(77.7%)と50歳代(76.0%)が高く、いずれも8割近くにおよんでいます。70歳以上(52.2%)は、他の年代と比べて低くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 思う	39.9	29.1	44.9	31.6	31.3	44.4	44.0	42.1	43.5
2 少し思う	34.1	34.5	33.9	36.8	56.3	33.3	32.0	31.6	8.7
3 あまり思わない	14.5	20.0	11.9	21.1	6.3	11.1	20.0	15.8	17.4
4 思わない	11.6	16.4	9.3	10.5	6.3	11.1	4.0	10.5	30.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



◆休日や休暇の過ごし方

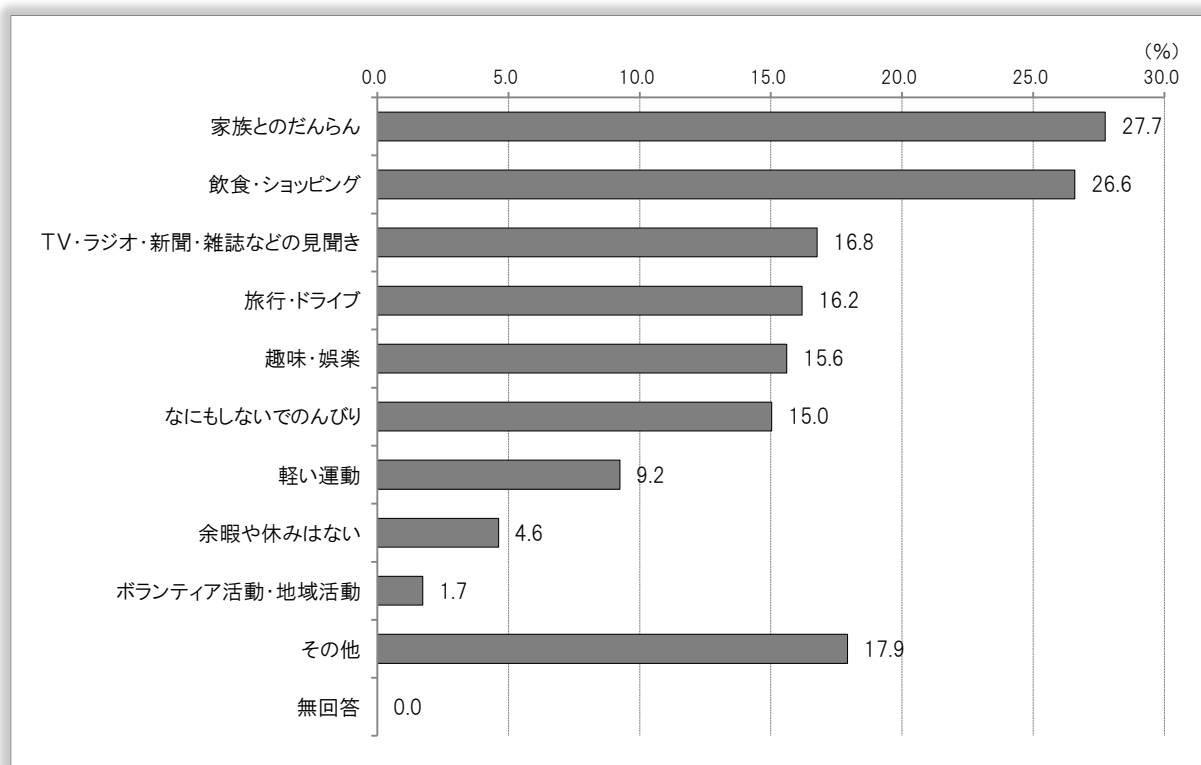
問4 休日や余暇は、主に何をして過ごしていますか(複数回答可)。

休日や余暇の過ごし方は、「家族とのだんらん」(27.7%)が最も高く、次いで、「飲食・ショッピング」(26.6%)、「TV・ラジオ・新聞・雑誌などの見聞き」(16.8%)、「旅行・ドライブ」(16.2%)、「趣味・娯楽」(15.6%)、「何もしないでのんびり」(15.0)%となっています。

年代別では、30歳未満は「趣味・娯楽」、30～40歳代は「家族とのだんらん」、50～60歳代は「飲食・ショッピング」、70歳以上は「なにもしないでのんびり」、「飲食・ショッピング」が同率で最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 なにもしないでのんびり	15.0	20.0	12.7	5.3	6.3	11.1	8.0	26.3	30.4
2 TV・ラジオ・新聞・雑誌などの見聞き	16.8	27.3	11.9	10.5	18.8	13.9	12.0	26.3	13.0
3 家族とのだんらん	27.7	27.3	28.0	21.1	43.8	36.1	20.0	26.3	8.7
4 軽い運動	9.2	10.9	8.5	5.3	15.6	2.8	4.0	13.2	13.0
5 趣味・娯楽	15.6	23.6	11.9	31.6	9.4	11.1	20.0	13.2	17.4
6 飲食・ショッピング	26.6	16.4	31.4	10.5	28.1	22.2	36.0	28.9	30.4
7 旅行・ドライブ	16.2	21.8	13.6	21.1	25.0	13.9	16.0	15.8	4.3
8 ボランティア活動・地域活動	1.7	1.8	1.7	0.0	0.0	2.8	0.0	5.3	0.0
9 余暇や休みはない	4.6	1.8	5.9	5.3	3.1	8.3	4.0	5.3	0.0
10 その他	17.9	12.7	20.3	10.5	12.5	19.4	20.0	18.4	26.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



※「その他」の回答(全31件)のうち、最も多い記述は「家事」(15件)・・・8.7%(N=173)

◆学習ニーズ

問5 今、何か学んでみたいことや、趣味・関心があることは何ですか(複数回答可)。

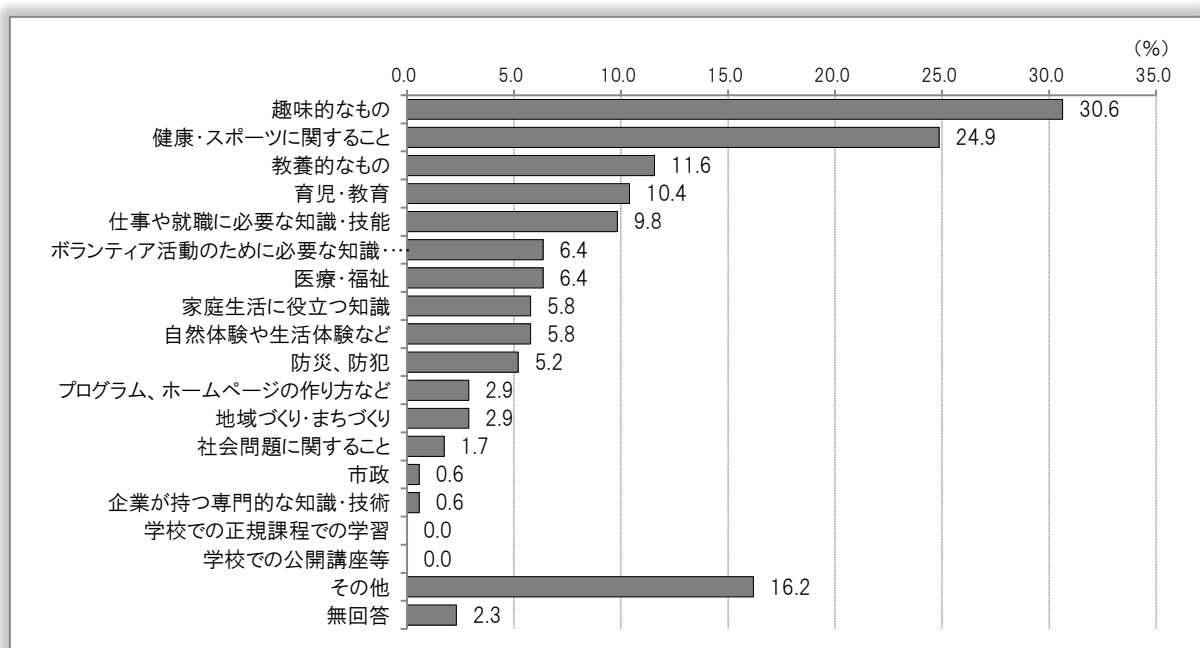
学習ニーズは、「趣味的なもの」(30.6%)が最も高く、次いで、「健康・スポーツに関すること」(24.9%)、「教養的なもの」(11.6%)、「育児・教育」(10.4%)、「仕事や就職に必要な知識・技能」(9.8%)となっています。

年代別では、50歳未満と60歳代は「趣味的なもの」(30歳代は「育児・教育」が同率)、50歳代は「健康・スポーツ」、70歳以上は「その他」が最も高くなっています。

なお、「その他」(16.2%)の記述で最も多いのは、「特になし」となっています。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 趣味的なもの	30.6	18.2	36.4	31.6	28.1	30.6	24.0	47.4	13.0
2 教養的なもの	11.6	7.3	13.6	10.5	9.4	8.3	24.0	15.8	0.0
3 社会問題に関すること	1.7	3.6	0.8	0.0	0.0	2.8	0.0	2.6	4.3
4 健康・スポーツに関すること	24.9	25.5	24.6	21.1	21.9	19.4	36.0	21.1	34.8
5 家庭生活に役立つ知識	5.8	3.6	6.8	15.8	9.4	2.8	8.0	0.0	4.3
6 育児・教育	10.4	5.5	12.7	10.5	28.1	16.7	4.0	0.0	0.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能	9.8	9.1	10.2	15.8	18.8	13.9	4.0	5.3	0.0
8 プログラム、ホームページの作り方など	2.9	5.5	1.7	0.0	6.3	0.0	8.0	2.6	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	6.4	7.3	5.9	0.0	9.4	2.8	0.0	15.8	4.3
10 自然体験や生活体験など	5.8	7.3	5.1	15.8	9.4	2.8	4.0	5.3	0.0
11 防災、防犯	5.2	7.3	4.2	15.8	6.3	0.0	4.0	7.9	0.0
12 医療・福祉	6.4	1.8	8.5	5.3	9.4	8.3	0.0	7.9	4.3
13 地域づくり・まちづくり	2.9	3.6	2.5	0.0	0.0	2.8	0.0	7.9	4.3
14 市政	0.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
15 企業が持つ専門的な知識・技術	0.6	1.8	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
16 学校での正規課程での学習	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17 学校での公開講座等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18 その他	16.2	27.3	11.0	21.1	0.0	13.9	12.0	18.4	39.1
無回答	2.3	1.8	2.5	0.0	3.1	5.6	0.0	0.0	4.3



※「その他」の回答(全28件)のうち、最も多い記述は「特になし」(18件)・・・10.4%(N=173)

◆行政に対する要望

問6 学習活動を行うために、市に対して何か要望はありますか(複数回答可)。

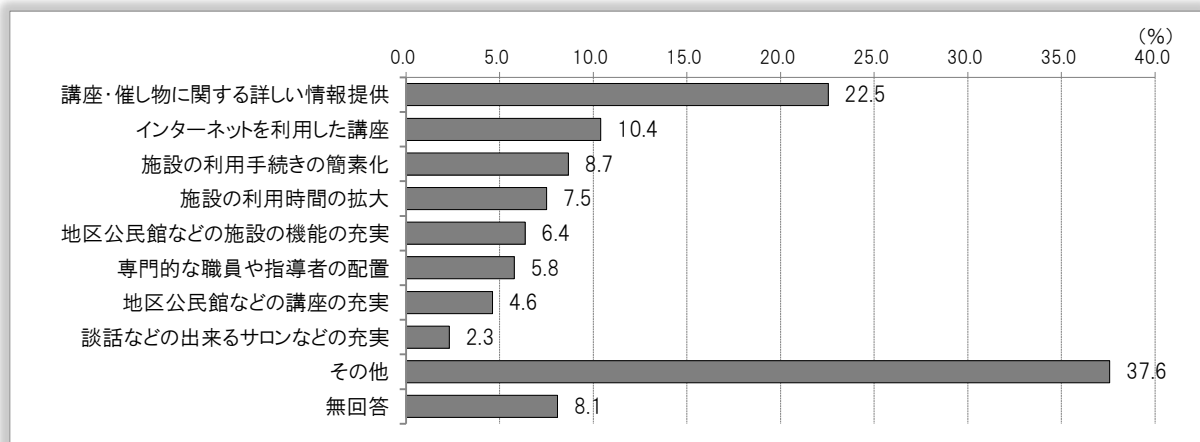
学習活動を行うために行政に求めることは、「講座・催し物に関する詳しい情報提供」(22.5%)が最も高く、次いで、「インターネットを利用した講座」(10.4%)、「施設の利用手続きの簡素化」(8.7%)、「施設の利用時間の拡大」(7.5%)、「地区公民館などの施設の機能の充実」(6.4%)となっています。

年代別では、30歳未満は「講座・催し物に関する詳しい情報提供」、30歳以上は「その他」が最も高くなっています。

なお、「その他」(37.6%)の記述で最も多いのは、「特になし」となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 専門的な職員や指導者の配置	5.8	3.6	6.8	0.0	6.3	5.6	12.0	7.9	0.0
2 施設の利用手続きの簡素化	8.7	3.6	11.0	0.0	12.5	19.4	12.0	0.0	4.3
3 施設の利用時間の拡大	7.5	7.3	7.6	10.5	9.4	8.3	16.0	2.6	0.0
4 談話などの出来るサロンなどの充実	2.3	1.8	2.5	0.0	3.1	0.0	0.0	2.6	8.7
5 講座・催し物に関する詳しい情報提供	22.5	18.2	24.6	47.4	18.8	16.7	16.0	26.3	17.4
6 地区公民館などの施設の機能の充実	6.4	10.9	4.2	0.0	9.4	8.3	8.0	2.6	8.7
7 地区公民館などの講座の充実	4.6	9.1	2.5	0.0	0.0	0.0	4.0	10.5	13.0
8 インターネットを利用した講座	10.4	12.7	9.3	26.3	18.8	8.3	8.0	5.3	0.0
9 その他	37.6	45.5	33.9	26.3	31.3	27.8	40.0	42.1	60.9
無回答	8.1	5.5	9.3	0.0	3.1	16.7	0.0	13.2	8.7



※「その他」の回答(65件)のうち、最も多い記述は「特になし」(34件)・・・19.7%(N=173)

(2) ボランティア活動・地域活動について

◆ ボランティア活動の参加状況

問7 この1年間で、ボランティア活動に参加しましたか。

ボランティア活動に参加した人は、「頻繁に参加している」(3.5%)と「たまに参加している」(11.0%)を合わせると、全体の1割以上(14.5%)となっています。

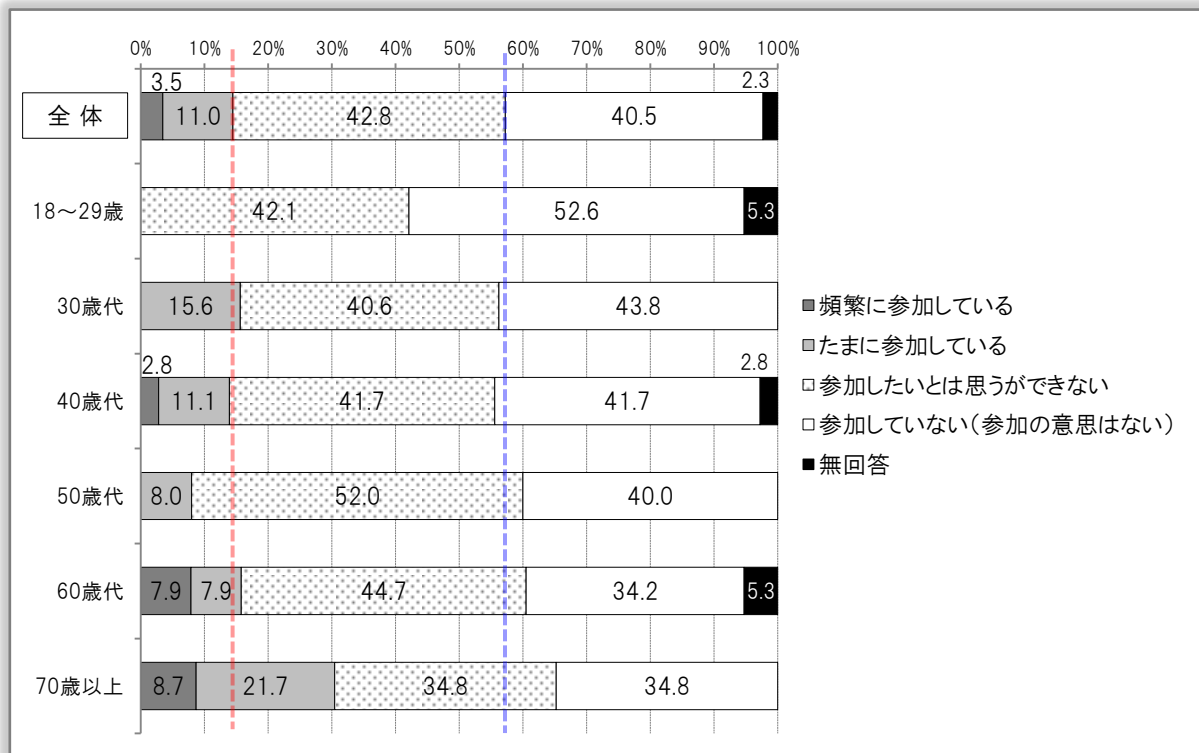
年代別に見ると、30歳未満は全く参加しておらず、また、50歳代は他の年代に比べてボランティア活動に参加した割合が低くなっています。

一方、どの年代においても「参加したいとは思えない」人の割合は4割以上となっています。

なお、「頻繁に参加している」「たまに参加している」「参加したいとは思えない」を合わせると、ボランティア活動に参加する意識がある人は、全体の6割近く(57.3%)におよびます。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 頻繁に参加している	3.5	3.6	3.4	0.0	0.0	2.8	0.0	7.9	8.7
2 たまに参加している	11.0	14.5	9.3	0.0	15.6	11.1	8.0	7.9	21.7
3 参加したいとは思えない	42.8	40.0	44.1	42.1	40.6	41.7	52.0	44.7	34.8
4 参加していない(参加の意思はない)	40.5	40.0	40.7	52.6	43.8	41.7	40.0	34.2	34.8
無回答	2.3	1.8	2.5	5.3	0.0	2.8	0.0	5.3	0.0



◆ボランティア活動に参加していない理由

問8 ボランティア活動に参加していない理由は何ですか(複数回答可)。

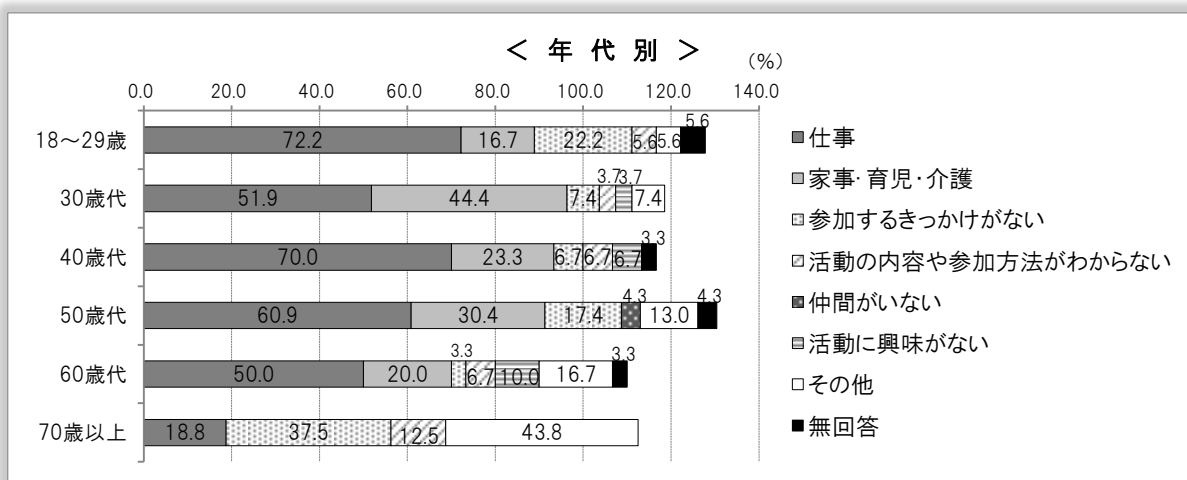
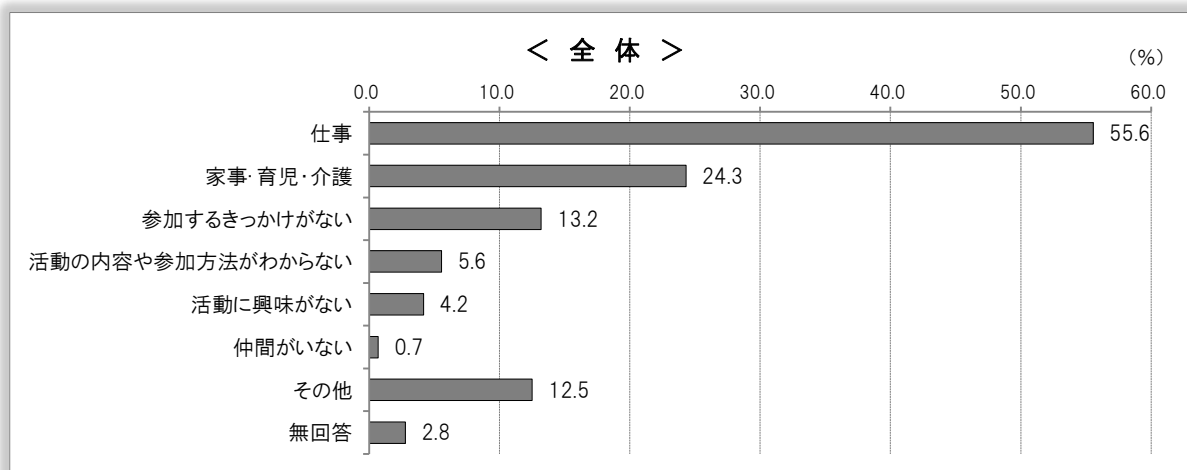
ボランティア活動に参加していない理由は、「仕事」(55.6%)が最も高く、次いで、「家事・育児・介護」(24.3%)、「参加するきっかけがない」(13.2%)、「活動の内容や参加方法がわからない」(5.6%)、「活動に興味がない」(4.2%)となっています。

年代別では、70歳未満は「仕事」、70歳以上は「その他」を除き、「参加するきっかけがない」が最も高くなっています。

なお、「その他」(12.5%)の記述で最も多いのは、「健康上の理由」となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	144人	44人	100人	18人	27人	30人	23人	30人	16人
1 仕事	55.6	68.2	50.0	72.2	51.9	70.0	60.9	50.0	18.8
2 家事・育児・介護	24.3	2.3	34.0	16.7	44.4	23.3	30.4	20.0	0.0
3 参加するきっかけがない	13.2	15.9	12.0	22.2	7.4	6.7	17.4	3.3	37.5
4 活動の内容や参加方法がわからない	5.6	4.5	6.0	5.6	3.7	6.7	0.0	6.7	12.5
5 仲間がいない	0.7	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0
6 活動に興味がない	4.2	4.5	4.0	0.0	3.7	6.7	0.0	10.0	0.0
7 その他	12.5	13.6	12.0	5.6	7.4	0.0	13.0	16.7	43.8
無回答	2.8	2.3	3.0	5.6	0.0	3.3	4.3	3.3	0.0



※「その他」の回答(全18件)のうち、最も多い記述は「健康上の理由」(9件)・・・6.3%(N=144)

◆ボランティア活動の内容

問9 あなたが参加したいボランティア活動(やってみたいボランティア活動)はありますか(複数回答可)。

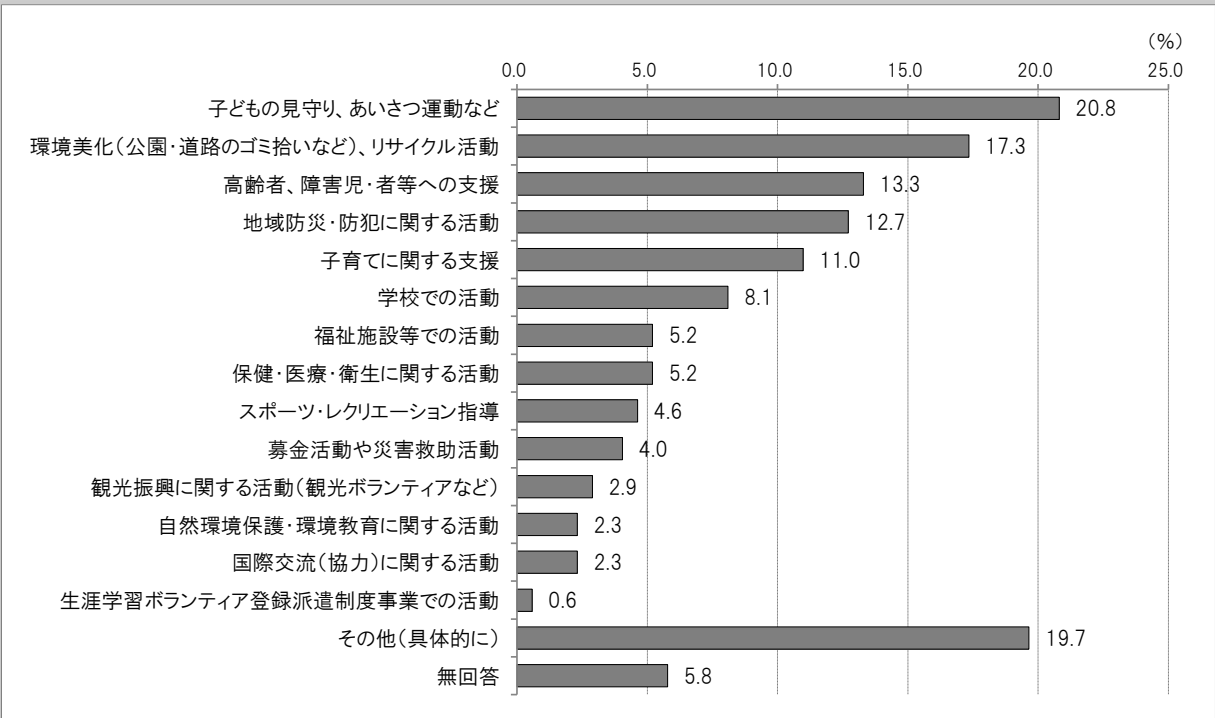
関心があるボランティア活動は、「子どもの見守り、あいさつ運動など」(20.8%)が最も高く、次いで、「環境美化、リサイクル活動」(17.3%)、「高齢者、障害児・者等への支援」(13.3%)、「地域防災・防犯に関する活動」(12.7%)、「子育てに関する支援」(11.0%)となっています。

年代別では、30歳未満は「地域防災・防犯に関する活動」、30～40歳代は「子どもの見守り、あいさつ運動など」(40歳代は「高齢者、障害児・者等への支援」が同率)、50～60歳代は「環境美化、リサイクル活動」、70歳以上は「その他」を除き、「子どもの見守り、あいさつ運動など」となっています。

なお、「その他」(19.7%)の記述で最も多いのは、「特になし」となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 福祉施設等での活動	5.2	1.8	6.8	0.0	3.1	8.3	8.0	7.9	0.0
2 高齢者、障害児・者等への支援	13.3	7.3	16.1	10.5	12.5	16.7	16.0	13.2	8.7
3 子どもの見守り、あいさつ運動など	20.8	16.4	22.9	15.8	21.9	16.7	20.0	23.7	26.1
4 学校での活動	8.1	10.9	6.8	0.0	12.5	11.1	8.0	2.6	13.0
5 子育てに関する支援	11.0	3.6	14.4	15.8	18.8	11.1	12.0	7.9	0.0
6 スポーツ・レクリエーション指導	4.6	12.7	0.8	0.0	9.4	5.6	0.0	5.3	4.3
7 自然環境保護・環境教育に関する活動	2.3	5.5	0.8	0.0	3.1	2.8	0.0	2.6	4.3
8 環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	17.3	20.0	16.1	0.0	18.8	8.3	28.0	26.3	17.4
9 募金活動や災害救助活動	4.0	7.3	2.5	5.3	3.1	8.3	8.0	0.0	0.0
10 国際交流(協力)に関する活動	2.3	1.8	2.5	0.0	0.0	8.3	4.0	0.0	0.0
11 保健・医療・衛生に関する活動	5.2	1.8	6.8	5.3	3.1	5.6	8.0	5.3	4.3
12 地域防災・防犯に関する活動	12.7	23.6	7.6	21.1	12.5	13.9	12.0	10.5	8.7
13 観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	2.9	0.0	4.2	10.5	3.1	2.8	4.0	0.0	0.0
14 生涯学習ボランティア登録派遣制度事業での活動	0.6	1.8	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
15 その他(具体的に)	19.7	25.5	16.9	21.1	15.6	11.1	8.0	18.4	52.2
無回答	5.8	5.5	5.9	10.5	6.3	8.3	0.0	7.9	0.0



※「その他」の回答(全34件)のうち、最も多い記述は「特になし」(24件)・・・13.9%(N=173)

◆地域活動の参加状況

問10 地域活動についておたずねします。あなたは、この1年間で、地域活動に参加したことはありますか。

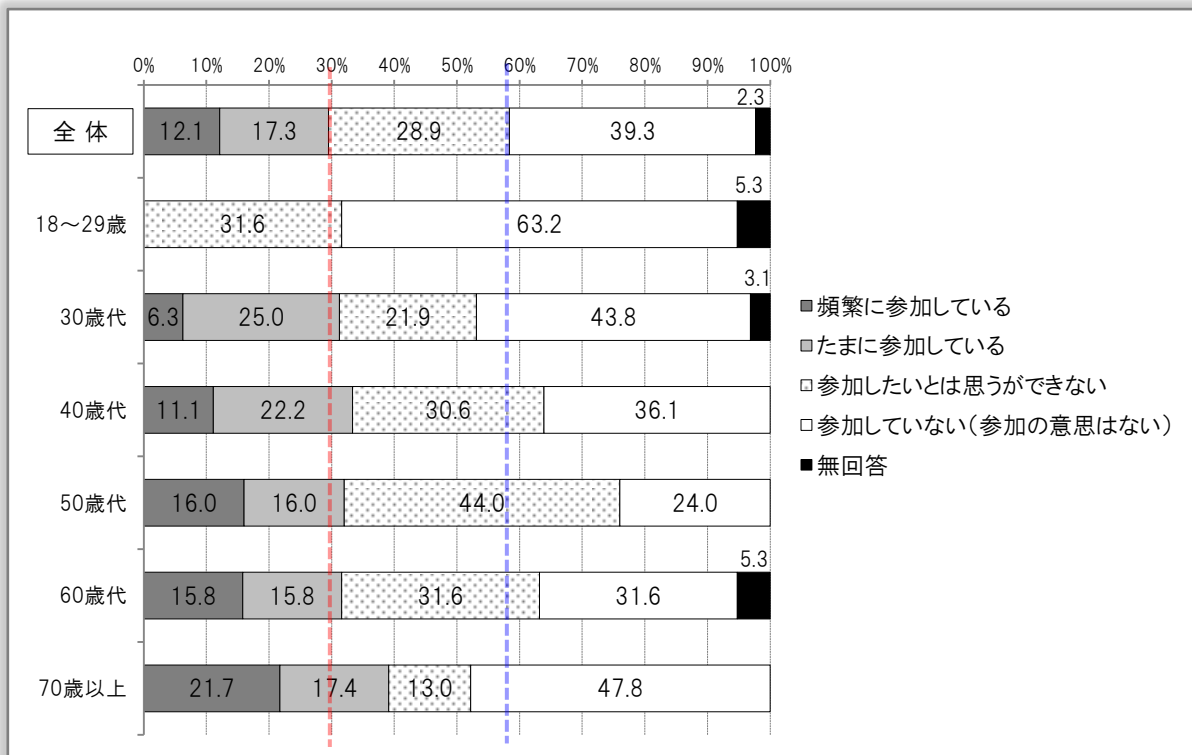
地域活動に参加した人は、「頻繁に参加している」(12.1%)と「たまに参加している」(17.3%)を合わせると、全体の約3割(29.4%)となっています。

年代別に見ると、30歳未満は“ボランティア活動”と同様に全く参加しておらず、50歳代は、他の年代に比べて「参加したいとは思えない」の割合が高くなっています。「頻繁に参加している」と回答した人の割合は、年代が上がるにつれて高い傾向にあり、また、参加した人の割合(「頻繁に参加している」と「たまに参加している」を合わせた数)は、70歳以上が他の年代に比べて高くなっています。

なお、“ボランティア活動”と同様に、「頻繁に参加している」「たまに参加している」「参加したいとは思えない」を合わせると、活動に参加する意識がある人は、全体の6割近く(58.3%)におよびます。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 頻繁に参加している	12.1	7.3	14.4	0.0	6.3	11.1	16.0	15.8	21.7
2 たまに参加している	17.3	14.5	18.6	0.0	25.0	22.2	16.0	15.8	17.4
3 参加したいとは思えない	28.9	29.1	28.8	31.6	21.9	30.6	44.0	31.6	13.0
4 参加していない(参加の意思はない)	39.3	47.3	35.6	63.2	43.8	36.1	24.0	31.6	47.8
無回答	2.3	1.8	2.5	5.3	3.1	0.0	0.0	5.3	0.0



◆地域活動に参加していない理由

問11 地域活動に参加しない理由(できない理由)は何ですか(複数回答可)。

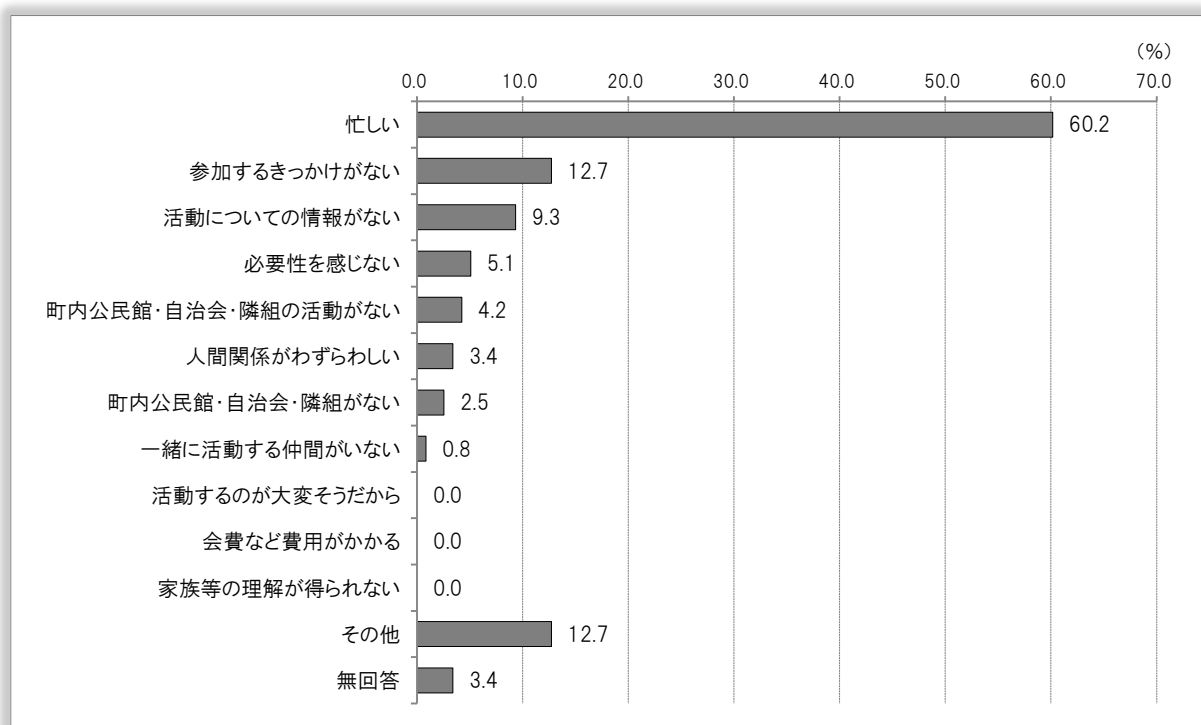
地域活動に参加しない理由(できない理由)は、「忙しい」(60.2%)が最も高く、次いで、「参加するきっかけがない」(12.7%)、「活動についての情報がない」(9.3%)、「必要性を感じない」(5.1%)、「町内公民館・自治会・隣組の活動がない」(4.2%)、「人間関係がわずらわしい」(3.4%)となっています。

年代別に見ても、全ての年代で「忙しい」が最も高くなっています。

なお、「その他」(12.7%)の記述で最も多いのは、「健康上の理由」となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
サ ン プ ル 数	118人	42人	76人	18人	21人	24人	17人	24人	14人
1 忙しい	60.2	69.0	55.3	66.7	61.9	70.8	58.8	58.3	35.7
2 活動についての情報がない	9.3	4.8	11.8	16.7	9.5	16.7	11.8	0.0	0.0
3 参加するきっかけがない	12.7	14.3	11.8	11.1	23.8	12.5	5.9	8.3	14.3
4 一緒に活動する仲間がいない	0.8	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0
5 人間関係がわずらわしい	3.4	2.4	3.9	5.6	0.0	0.0	11.8	4.2	0.0
6 活動するのが大変そうだから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7 会費など費用がかかる	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8 町内公民館・自治会・隣組がない	2.5	2.4	2.6	0.0	0.0	8.3	5.9	0.0	0.0
9 町内公民館・自治会・隣組の活動がない	4.2	2.4	5.3	0.0	0.0	4.2	5.9	12.5	0.0
10 家族等の理解が得られない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 その他	12.7	11.9	13.2	11.1	14.3	4.2	11.8	12.5	28.6
12 必要性を感じない	5.1	9.5	2.6	5.6	0.0	0.0	5.9	8.3	14.3
無回答	3.4	2.4	3.9	5.6	0.0	0.0	0.0	8.3	7.1



※「その他」の回答(全15件)のうち、最も多い記述は「健康上の理由」(6件)・・・5.1%(N=118)

◆地域活動の内容

問12 お住まいの地域で参加した活動(してみたいと思う活動)はありますか(複数回答可)。

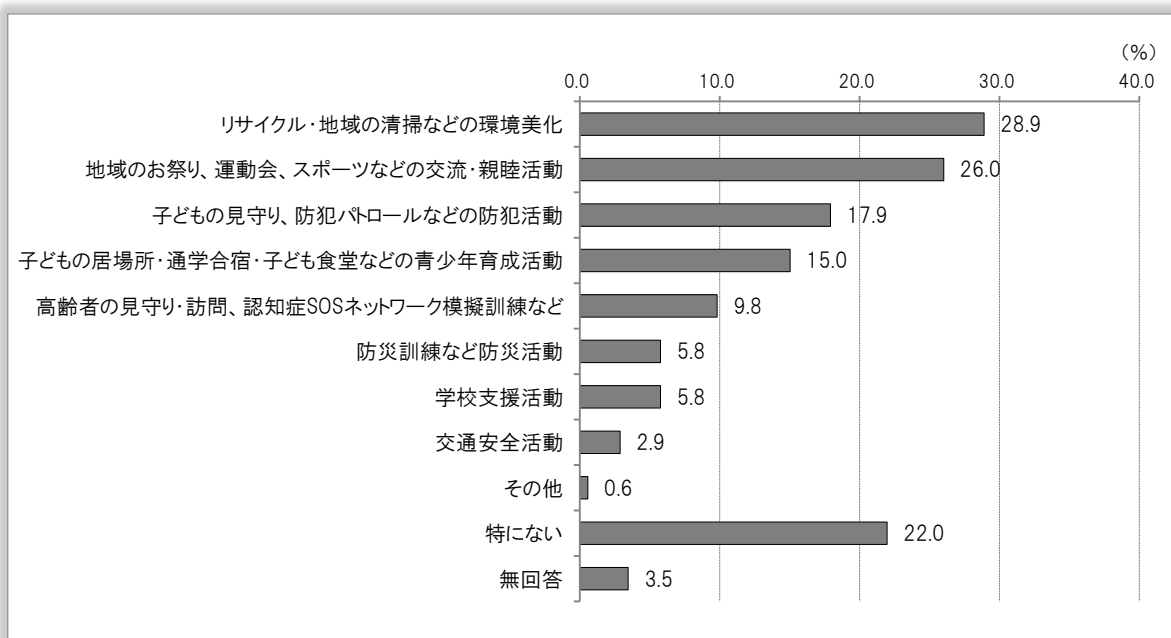
関心がある地域活動は、「リサイクル・地域の清掃などの環境美化」(28.9%)が最も高く、次いで、「地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動」(26.0%)、「子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動」(17.9%)、「子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂などの青少年育成活動」(15.0%)、「高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など」(9.8%)となっています。

年代別では、30歳未満は「地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動」、30～60歳代は「リサイクル・地域の清掃などの環境美化」が最も高くなっています。

なお、「特にない」(22.0%)という回答の割合は、性別では男性が、年代別では70歳以上が高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 リサイクル・地域の清掃などの環境美化	28.9	20.0	33.1	5.3	40.6	30.6	36.0	34.2	13.0
2 高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	9.8	5.5	11.9	5.3	9.4	13.9	4.0	13.2	8.7
3 子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	17.9	21.8	16.1	5.3	21.9	19.4	16.0	21.1	17.4
4 防災訓練など防災活動	5.8	5.5	5.9	5.3	0.0	5.6	8.0	10.5	4.3
5 交通安全活動	2.9	5.5	1.7	0.0	3.1	5.6	0.0	2.6	4.3
6 子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂などの青少年育成活動	15.0	7.3	18.6	15.8	18.8	13.9	20.0	13.2	8.7
7 学校支援活動	5.8	5.5	5.9	5.3	3.1	5.6	8.0	5.3	8.7
8 地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	26.0	32.7	22.9	36.8	31.3	27.8	20.0	28.9	8.7
9 その他	0.6	0.0	0.8	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
10 特にない	22.0	29.1	18.6	15.8	12.5	11.1	16.0	26.3	56.5
無回答	3.5	3.6	3.4	15.8	0.0	2.8	0.0	5.3	0.0



※「その他」の回答数は1件のみ

◆小学校を支援する取組みへの参加意向

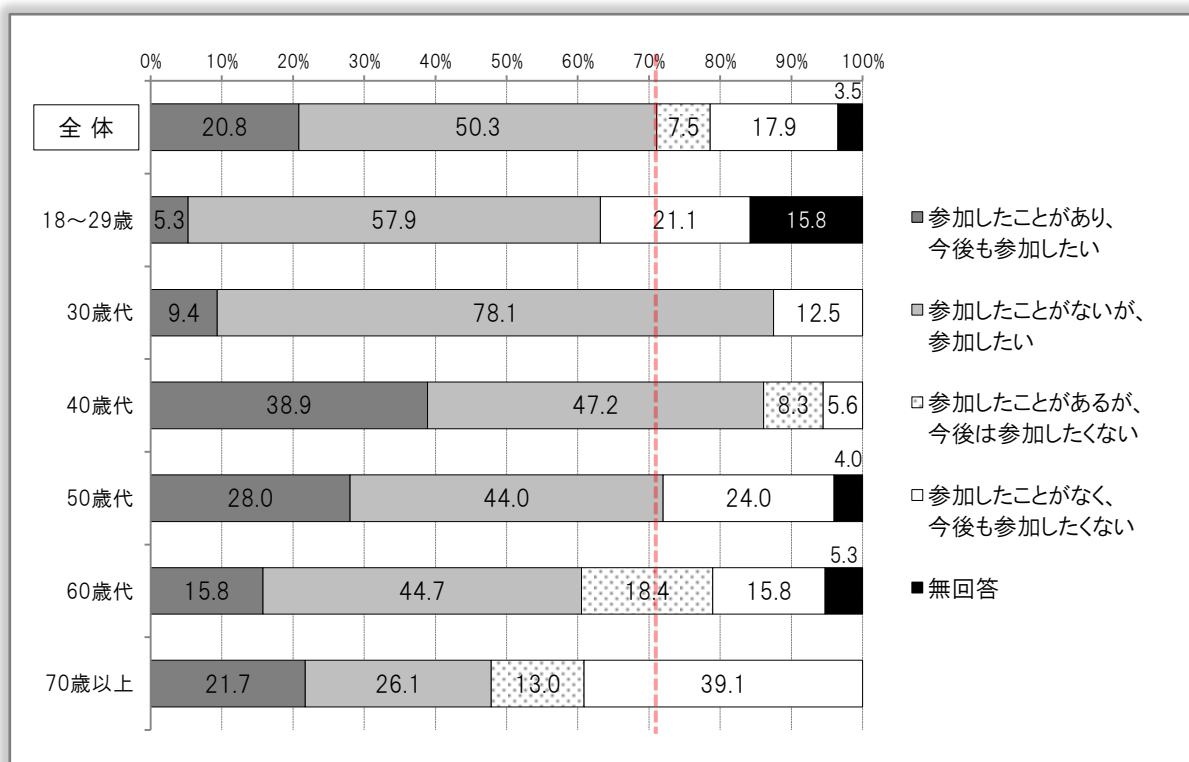
問13 何かしら学校を支援するための取組みが行われた場合、参加したいと思いますか。

小学校を支援する活動への参加意識は、「参加したことがあり、今後も参加したい」(20.8%)と「参加したことがないが、参加したい」(50.3%)を合わせると、全体の7割以上(71.1%)となっています。

また、年齢が低い年代は、問10で地域活動に「参加していない(参加の意思はない)」と回答した割合が比較的高かったものの、当該参加意識は、年齢が高い年代を上回っています。特に、保護者世代となる30～40歳代の参加意識は9割近くに達し、他の年代に比べて高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 参加したことがあり、今後も参加したい	20.8	16.4	22.9	5.3	9.4	38.9	28.0	15.8	21.7
2 参加したことがないが、参加したい	50.3	49.1	50.8	57.9	78.1	47.2	44.0	44.7	26.1
3 参加したことがあるが、今後は参加したくない	7.5	10.9	5.9	0.0	0.0	8.3	0.0	18.4	13.0
4 参加したことがなく、今後も参加したくない	17.9	18.2	17.8	21.1	12.5	5.6	24.0	15.8	39.1
無回答	3.5	5.5	2.5	15.8	0.0	0.0	4.0	5.3	0.0



<参考>

(単位:%)

「問10」(地域活動の参加状況)の設問で、 「参加していない(参加の意思はない)」と回答した人の割合(再掲)	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
	63.2	43.8	36.1	24.0	31.6	47.8

(3)地区公民館について

◆地区公民館の認知度と利用状況

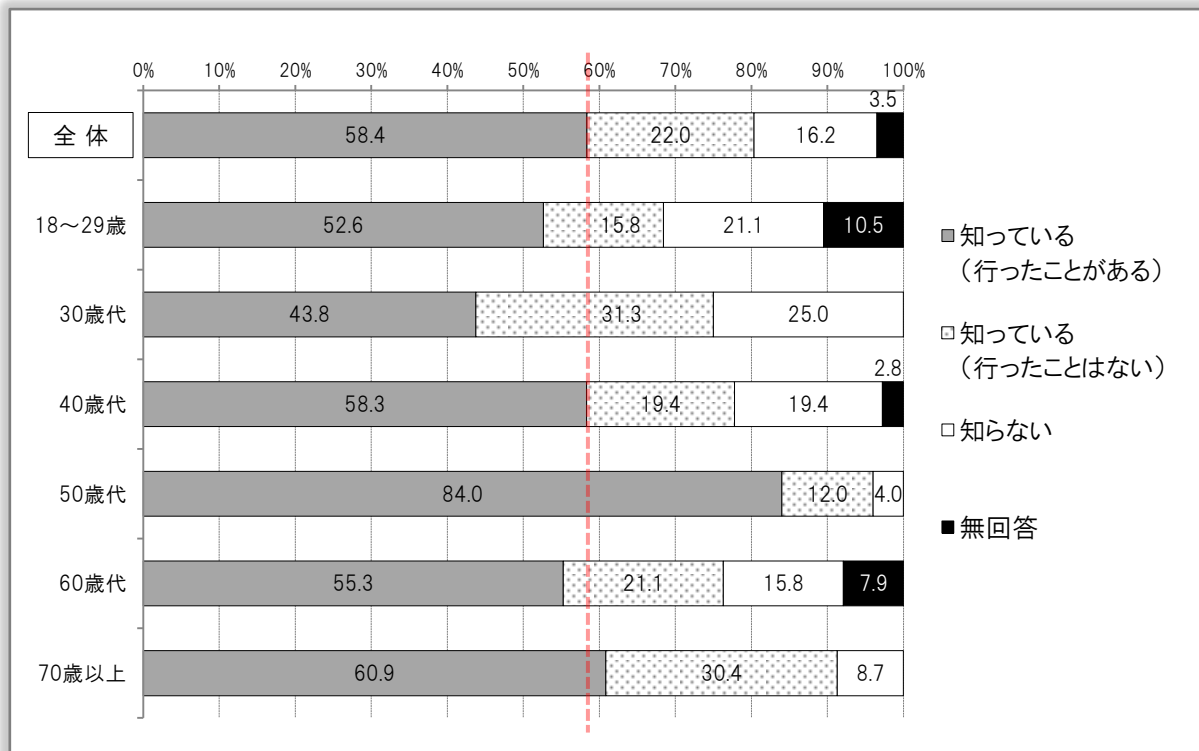
問14 大牟田市に地区公民館(公設公営)があることを知っていますか。また、利用したことはありますか。

地区公民館の認知度は、「知っている(行ったことがある)」(58.4%)と「知っている(行ったことはない)」(22.0%)を合わせると、全体の約8割(80.4%)に達し、地区公民館へ行ったことがあると回答した人は過半数となっています。

年代別に見ると、認知度、利用状況ともに50歳代の割合が最も高く、30歳代が最も低くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以 上
サ ン プ ル 数	173人	55人	118人	19人	32人	36人	25人	38人	23人
1 知っている(行ったことがある)	58.4	54.5	60.2	52.6	43.8	58.3	84.0	55.3	60.9
2 知っている(行ったことはない)	22.0	20.0	22.9	15.8	31.3	19.4	12.0	21.1	30.4
3 知らない	16.2	21.8	13.6	21.1	25.0	19.4	4.0	15.8	8.7
無回答	3.5	3.6	3.4	10.5	0.0	2.8	0.0	7.9	0.0



◆地区公民館を利用した理由

《問14で「1」を選んだ人におたずねします》

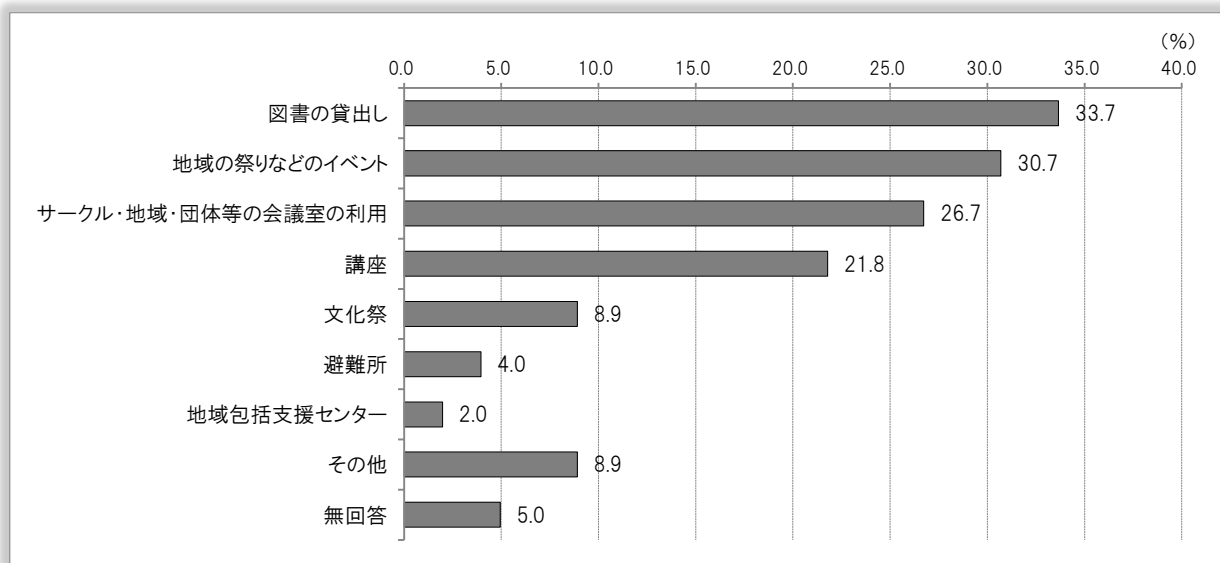
問15 地区公民館は、どのような理由で利用しましたか(複数回答可)。

地区公民館を利用した理由は、「図書の貸出し」(33.7%)が最も高く、次いで、「地域の祭りなどのイベント」(30.7%)、「サークル・地域・団体等の会議室の利用」(26.7%)、「講座」(21.8%)、「文化祭」(8.9%)となっています。

年代別では、30歳未満は「地域の祭りなどのイベント」、30歳代は「図書の貸出し」と「地域の祭りなどのイベント」、40歳代は「図書の貸出し」、50歳代は「講座」、60歳代以上は「サークル・地域・団体等の会議室の利用」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
サ ン プ ル 数	101人	30人	71人	10人	14人	21人	21人	21人	14人
1 講座	21.8	10.0	26.8	20.0	28.6	9.5	33.3	28.6	7.1
2 サークル・地域・団体等の会議室の利用	26.7	23.3	28.2	0.0	0.0	38.1	28.6	38.1	35.7
3 図書の貸出し	33.7	16.7	40.8	40.0	50.0	42.9	28.6	23.8	21.4
4 文化祭	8.9	10.0	8.5	10.0	7.1	4.8	9.5	9.5	14.3
5 地域の祭りなどのイベント	30.7	40.0	26.8	60.0	50.0	23.8	14.3	28.6	28.6
6 避難所	4.0	3.3	4.2	0.0	7.1	4.8	4.8	0.0	7.1
7 地域包括支援センター	2.0	3.3	1.4	0.0	7.1	0.0	0.0	4.8	0.0
8 その他	8.9	6.7	9.9	10.0	7.1	9.5	19.0	0.0	7.1
無回答	5.0	6.7	4.2	20.0	0.0	4.8	0.0	9.5	0.0



※「その他」の回答(全9件)のうち、最も多い記述は「選挙」と「仕事」(2件)・・・2.0%(N=101)

◆地区公民館を利用しない理由

《問14で「2」を選んだ人におたずねします》

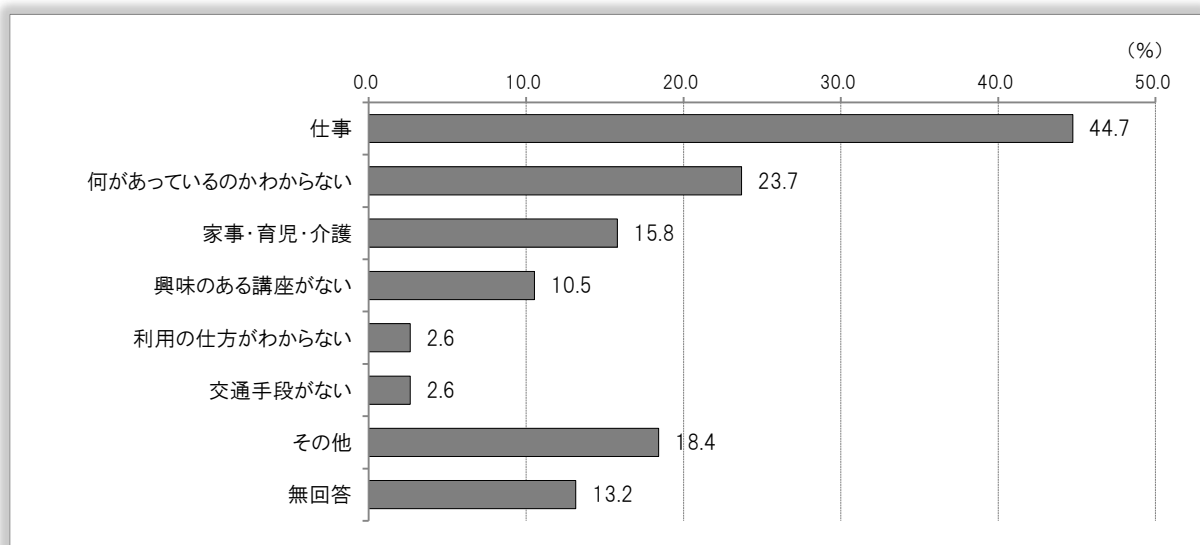
問16 地区公民館を利用しなかった理由を教えてください(複数回答可)。

地区公民館を利用しなかった理由は、「仕事」(44.7%)が最も高く、次いで、「何があっているのかわからない」(23.7%)、「家事・育児・介護」(15.8%)、「興味のある講座がない」(10.5%)となっています。

年代別で見ると、どの年代においても「仕事」の割合が高く、また、「何があっているのかわからない」と回答した割合は、30～40歳代と70歳以上において最も高くなっています。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
サ ン プ ル 数	38人	11人	27人	3人	10人	7人	3人	8人	7人
1 仕事	44.7	54.5	40.7	100.0	30.0	28.6	100.0	37.5	42.9
2 家事・育児・介護	15.8	9.1	18.5	0.0	20.0	28.6	33.3	12.5	0.0
3 利用の仕方がわからない	2.6	0.0	3.7	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
4 何があっているのかわからない	23.7	27.3	22.2	0.0	40.0	28.6	0.0	12.5	28.6
5 興味のある講座がない	10.5	9.1	11.1	0.0	10.0	14.3	0.0	25.0	0.0
6 交通手段がない	2.6	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
7 その他	18.4	9.1	22.2	0.0	20.0	14.3	33.3	12.5	28.6
無回答	13.2	18.2	11.1	66.7	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0



※「その他」の回答(全7件)のうち、最も多い記述は「用事がない」(3件)・・・7.9%(N=38)

(4) 自由記述

問 17 今回、おたずねした生涯学習や地域づくりについて、ご意見やご要望などがございましたら、お教えください。

●学習情報の提供に関すること	
20 代・女性	情報発信をもっとして欲しい
30 代・男性	情報提供をもっとして欲しい。チラシ・ポスターなどをコンビニに掲示してもらえると良い。
30 代・男性	どこでどのような活動をしているかをわかりやすくして欲しい(子どもが見てもわかるように)。
50 代・男性	情報発信が足りないのではないか。公民館などで何が行われているのかよくわからない。広報おおむたは元より、他の情報発信ツールにも活動内容や公民館の情報をもっとのせて欲しい。
60 代・女性	近くでいろんな事業や情報があったほうが良い
60 代・女性	情報発信をして欲しい(新聞広告なら見る)
70 代・女性	引っ越してきたばかりで、市の情報が少ない。インターネットも使わないので、情報を得るツールがまだよくわからない。

●講座等に関すること	
20 代・女性	パソコンやスマートフォンの使用方法の講座があったら良い。
40 代・女性	子育ての講座をして欲しい。特に今は心理学を学びたい。
40 代・女性	比較的高齢者向けのイベント・講座が多い。子どもが幼稚園児なので 14 時には帰ってくる。11 時～13 時の間で 1 時間程度の講座があれば参加しやすい。また、保育をしっかり設けてもらえると、もっと参加しやすい。
50 代・女性	気軽に利用できるようにして欲しい(講座の時間が合わないし、すぐ定員がいっぱいになる)。
50 代・女性	仕事をしている人でも行きやすい催し、多くの人が参加できるような講座や催しをして欲しい。
50 代・女性	土日や夜の講座をして欲しい。
60 代・男性	休みが不定休の為、気になる催事があっても参加できていない。SOS のボランティア参加はしている(福祉系の仕事の為)。いろいろやってみたいが、仕事をしているとできないのが現状。
60 代・女性	講座の先生を良い先生に。

●インターネット環境に関すること	
10代・女性	何かを学んだりする時に本が一番良いけれど、ネットも利用したいから wi-fi が使えるところが増えるとうれしい。
30代・男性	wi-fi 環境をいろいろなところで整備して欲しい。
30代・女性	公共施設に wi-fi 環境があると良い。
30代・女性	公民館に wi-fi 飛ばして欲しい。
50代・女性	市内にフリーwi-fi を設置してもらいたい。

●学校に関すること	
30代・男性	多動性障害について、学校の先生が知らなさ過ぎる。もっと勉強してもらいたい。
40代・女性	子どもの教育を考え中高一貫校になることを見越して大正校区に越してきたので、今後についてどうなるかを知りたい。
60代・女性	大牟田市内の小学校の運動会の日程を一緒にしないで欲しい。孫が市内の 5 つの学校に通っていて、全部同日。見に行けない。何よりもそのことを強く望む。教育委員会に電話しようと思うくらい困っている。土曜日でも良いし、とにもかくにも検討してください。

●学習に関すること	
30代・男性	そもそも生涯学習とは何かを教えて欲しい。
70代・女性	学習活動は若いときからするべき

●行政に対する要望・意見に関すること	
30代・女性	那珂川町から引っ越してきたが、大牟田はドライブスルーのお店などが少ない。子どもが小さいので、ドライブスルーはよく使っていた。子育て世代にあまり優しくないと思う。公園が少ないし、歩道もあまり整備されていないと感じる。
30代・女性	母子家庭にはいろいろ厳しいので、もっと助けが欲しい。
50代・男性	人口増につながる事業をして欲しい。
50代・女性	世界遺産の経済効果を明確にしていきたい。
50代・女性	地域コミュニティの活性化、近所づきあい・つながりを強くできる仕組みづくりをお願いしたい。
60代・男性	地域の活性化、町が元気になるようにして欲しい。
60代・女性	参加へのきっかけづくりの充実。
60代・女性	高齢者免許証返納にあたり、交通手段がないのが問題。
60代・女性	ハザードマップが欲しい。
70代・女性	若い人の働く場所がない。
70代・女性	大牟田の広報はわかりやすい。

●施設等に関すること	
30代・男性	違った趣味を持つ人達が、気軽に集まれる場所があれば良いと思う。
50代・男性	ますます高齢化が進む中、老人ホームなどをたくさん作って欲しい。
50代・女性	選挙の際、勝立地区公民館を投票所にして欲しい。
60代・男性	仕事で外国人を相手にしているので、外国人向けの宿泊施設などを増やして欲しい。外国人は大変困っている。
60代・女性	身近に施設があれば良い。
60代・女性	地区公民館の借りれる本が少ない。
70代・女性	来年、地域にサロンを作ろうと思っている。高齢者の施設を充実させて欲しい。

●その他	
40代・男性	夏休みのラジオ体操が少ない。
60代・女性	夕方等に見守り隊の方達がたくさんいて、とても地域が明るくなったように感じる。とても良いことだと思います。
60代・女性	すでに充実していると思う。
70代・女性	近隣の方が気にしてくださる方がいない。不安がある。どこに行けばよいかわからない。

※原則、記載された原文のまま掲載しています。

3. インタビュー調査「生涯学習促進に係る意識調査」から見てくるもの

(1) 学習活動、ボランティア活動、地域活動は、忙しくてできないが参加意欲は高い

学習活動をしていない理由(できない理由)、ボランティア活動、地域活動に参加していない理由(できない理由)としては、何れも『仕事、家事、介護などで忙しい』が最も高くなっています。

一方で、学習意欲は、全体の7割以上の人を持っており、ボランティア活動、地域活動についても、参加する意識がある人がともに全体の約6割いることがわかりました。

(2) 学習活動や地区公民館に関する情報提供の手法についての見直しや工夫が必要

学習活動を行うために行政に求めることは、『講座・催し物に関する詳しい情報提供』(22.5%)が最も高くなっています。特に30歳未満は、同項目が47.4%と最も高くなっています。また、地区公民館を知っていても利用しなかった理由は、『仕事』(44.7%)が最も高く、次いで『何があるのかわからない』(23.7%)となっています。さらに、自由記述においても、情報発信や情報提供に関する意見が7件寄せられています。

以上のことから、学習活動や地区公民館に関する情報提供の手法の見直しや工夫が必要と考えられます。

(3) ボランティア活動、地域活動に参加できるための(するための)きっかけづくりが必要

ボランティア活動に参加していない理由は、『参加するきっかけがない』(13.2%)が3番目に高く、地域活動に参加しない理由は、同項目(12.7%)が2番目に高くなっています。

以上のことから、ボランティア活動、地域活動への参加のきっかけづくりを行うことが必要であり、ボランティア団体や地域団体が気軽に参加できる事業を行うことなどが望まれます。

(4) 学校や子どもを絡めたボランティア活動、地域活動の展開が必要

小学校を支援する活動については、全体の7割以上の人に参加する意思があることがわかりました。また、参加したいボランティア活動は、『子どもの見守り、あいさつ運動など』(20.8%)が最も高くなっています。さらに、参加した地域活動(してみたい地域活動)は、『子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動』(17.9%)が3番目に高く、『子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂などの青少年育成活動』(15.0%)が4番目に高くなっています。

以上のことから、学習活動を行っていない市民のボランティア活動、地域活動を促進するためには、学校を絡めた取組みや子どもの成長に関する取組みを展開することが望まれます。

(5) 学習活動を促進するためには地区公民館において積極的な情報発信や働きかけが必要

全体の約8割の人が地区公民館を知っており、そのうち約6割の人が利用したことがあることがわかりました。地区公民館を利用した理由は、『図書の貸出し』(33.7%)が最も高く、次いで『地域の祭りなどのイベント』(30.7%)となっています。

こうしたことを踏まえ、学習活動をしていない人(できない人)の学習活動及び地域活動などを促進するためには、地区公民館が、市民に最も身近な公共施設(社会教育施設)及び地域活動の拠点施設として、主催事業(講座、催し物など)をはじめ、サークル、ボランティア、地域に関する積極的な情報発信を行うことはもとより、利用者や地域住民とのコミュニケーションなどを通じて、学習活動のきっかけづくりを行うことも必要と考えられます。

Ⅳ インタビュー調査（若者意識調査）

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

今後の社会教育・生涯学習行政における施策及び事業の在り方を探るうえでの基礎資料として、青少年健全育成プランの策定時に把握ができなかった若者の学習ニーズ、ライフスタイル等を把握するためのインタビュー調査を実施する。

(2) 調査対象

市内在住の16歳～34歳の男女（調査日現在）

(3) 調査方法

生涯学習課（えるる）の主査級以下の職員で組織した調査団により、「えるる」の個人学習室利用受付時に調査票を配布してインタビュー調査を行う。

(4) 調査期間

平成30年8月16日～9月15日（土・日曜及び祝日を含む）（調査基準日は調査日）

(5) 調査場所

大牟田市市民活動等多目的交流施設「えるる」

(6) サンプル数

113件

< 調 査 項 目 >

◇回答者属性（性別、年齢、職業等）……………3問

（1）生涯学習について……………9問

- 生涯学習のイメージ
- 生涯学習の必要性、生涯学習が必要と思う理由
- 生涯学習の情報源
- 生涯学習の実施状況・学習ニーズ
- 生涯学習の場所・形態
- 生涯学習を行う曜日・時間帯
- 生涯学習をしない理由（できない理由）
- 行政に対する要望

（2）ボランティア活動・地域活動について……………3問

- ボランティア活動の参加状況
- 地域活動について（認知・参加状況）
- ボランティア活動・地域活動への関心度

（3）自由記述（生涯学習やボランティア・地域活動に関する意見）…1問

（計16問）

若者意識調査

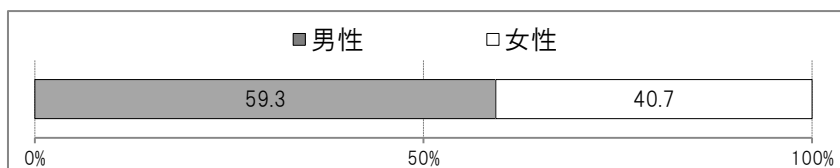
2. 調査結果

回答者属性

◆性別

問1 あなたの性別について、あてはまる番号に○印をつけてください。

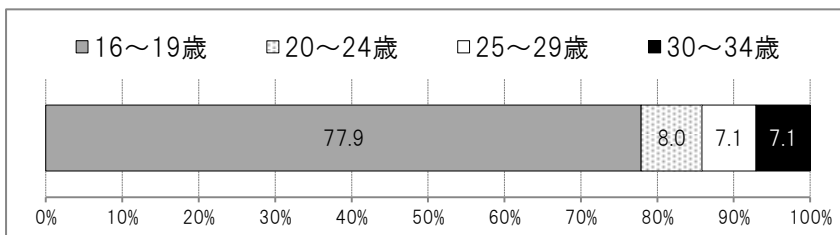
		H30年	
1	男 性	67	59.3%
2	女 性	46	40.7%
	無回答	0	0.0%
	合計	113	100.0%



◆年齢

問2 あなたの年齢(平成30年8月1日現在)について、あてはまる番号に○印をつけてください。

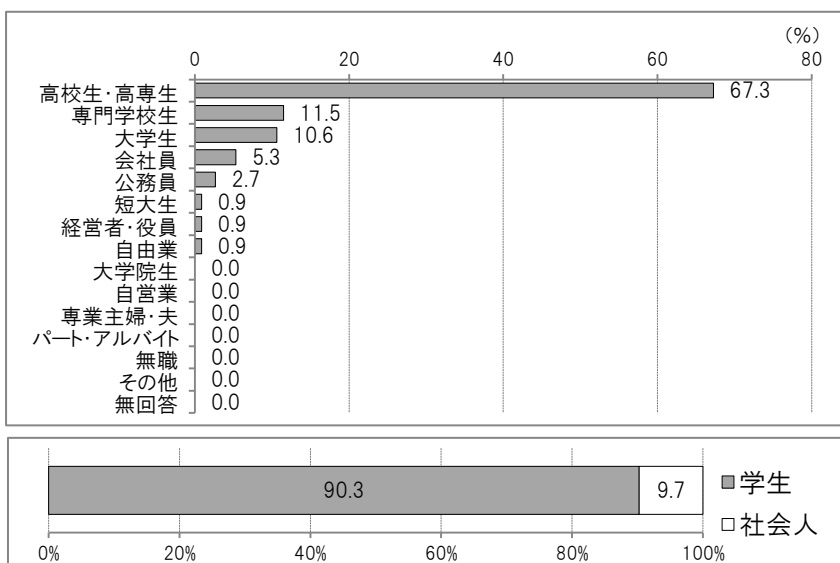
		H30年	
1	16～19歳	88	77.9%
2	20～24歳	9	8.0%
3	25～29歳	8	7.1%
4	30～34歳	8	7.1%
	無回答	0	0.0%
	合計	113	100.0%



◆職業等

問3 あなたの職業等について、あてはまる番号に○印をつけてください。

		H30年	
1	高校生・高専生	76	67.3%
2	短大生	1	0.9%
3	大学生	12	10.6%
4	専門学校生	13	11.5%
5	大学院生	0	0.0%
6	公務員	3	2.7%
7	経営者・役員	1	0.9%
8	会社員	6	5.3%
9	自営業	0	0.0%
10	自由業	1	0.9%
11	専業主婦(夫)	0	0.0%
12	パート・アルバイト	0	0.0%
13	無職	0	0.0%
14	その他	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	113	100.0%



(1)生涯学習について

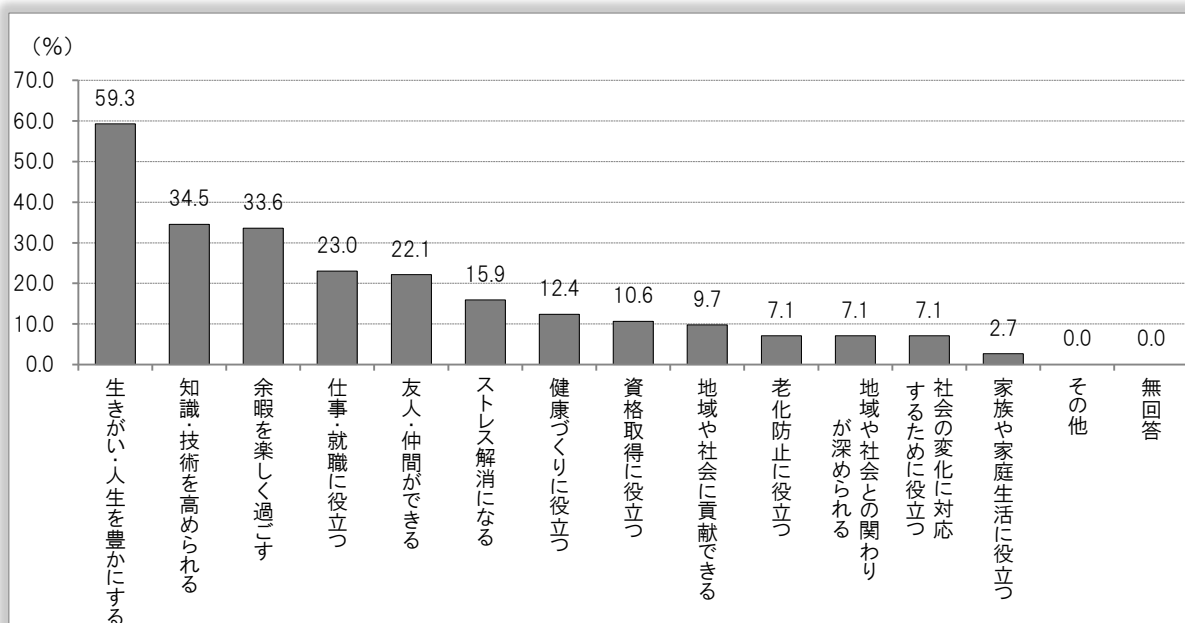
◆生涯学習のイメージ

問4 あなたは、「生涯学習」について、どのような考えやイメージをお持ちですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習に関する考え・イメージは、「生きがい・人生を豊かにする」(59.3%)が最も高く、次いで、「知識・技術を高められる」(34.5%)、「余暇を楽しく過ごす」(33.6%)、「仕事・就職に役立つ」(23.0%)、「友人・仲間ができる」(22.1%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 余暇を楽しく過ごす	33.6	37.3	28.3	35.2	22.2	25.0	37.5
2 生きがい・人生を豊かにする	59.3	58.2	60.9	61.4	33.3	37.5	87.5
3 ストレス解消になる	15.9	16.4	15.2	15.9	0.0	12.5	37.5
4 友人・仲間ができる	22.1	23.9	19.6	21.6	22.2	12.5	37.5
5 健康づくりに役立つ	12.4	10.4	15.2	11.4	33.3	12.5	0.0
6 老化防止に役立つ	7.1	6.0	8.7	6.8	11.1	12.5	0.0
7 家族や家庭生活に役立つ	2.7	0.0	6.5	2.3	11.1	0.0	0.0
8 知識・技術を高められる	34.5	35.8	32.6	35.2	11.1	37.5	50.0
9 資格取得に役立つ	10.6	3.0	21.7	6.8	33.3	12.5	25.0
10 仕事・就職に役立つ	23.0	26.9	17.4	23.9	22.2	25.0	12.5
11 地域や社会との関わりが深められる	7.1	4.5	10.9	5.7	22.2	0.0	12.5
12 地域や社会に貢献できる	9.7	9.0	10.9	11.4	11.1	0.0	0.0
13 社会の変化に対応するために役立つ	7.1	7.5	6.5	5.7	11.1	25.0	0.0
14 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



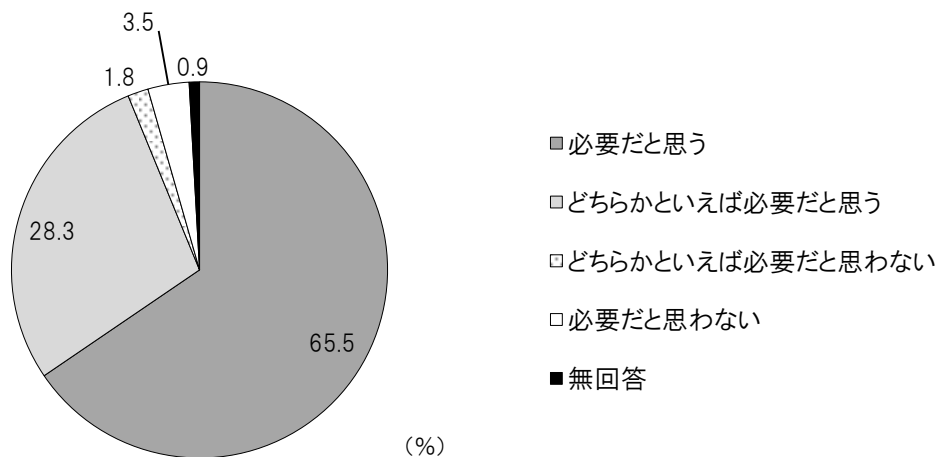
◆生涯学習の必要性

問5 あなたは、生涯学習は必要だと思いますか。

生涯学習は、「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と合わせて93.8%が必要だと感じています。「必要だと思わない」「どちらかといえば必要だと思わない」と回答した人の割合は5.3%と低くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 必要だと思う	65.5	65.7	65.2	61.4	55.6	100.0	87.5
2 どちらかといえば必要だと思う	28.3	25.4	32.6	31.8	33.3	0.0	12.5
3 どちらかといえば必要だと思わない	1.8	1.5	2.2	1.1	11.1	0.0	0.0
4 必要だと思わない	3.5	6.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0
無回答	0.9	1.5	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0



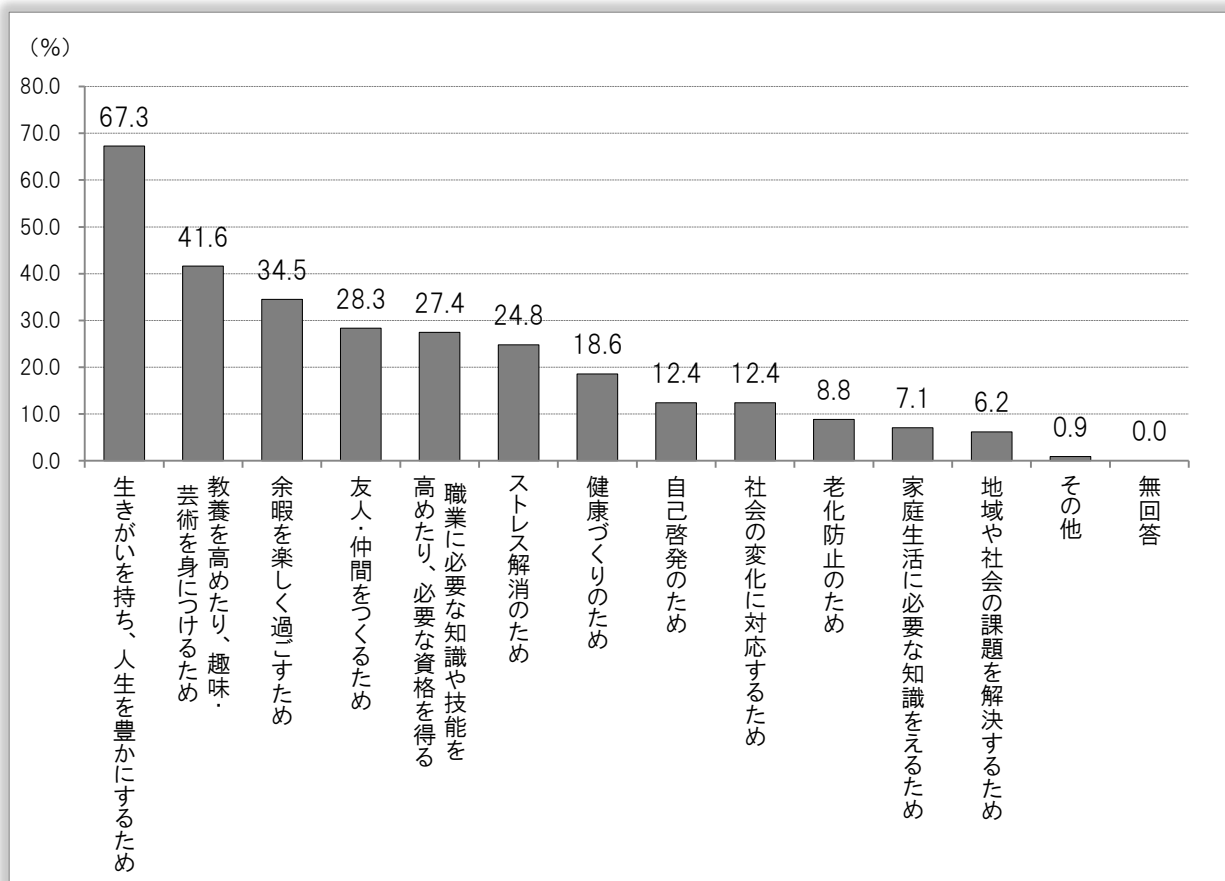
◆生涯学習が必要と思う理由

問6 なぜあなたは、生涯学習が必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも〇印をつけてください。

生涯学習が必要な理由は、「生きがいを持ち、人生を豊かにするため」(67.3%)が最も高く、次いで、「教養を高めたり、趣味・芸術を身につけるため」(41.6%)、「余暇を楽しく過ごすため」(34.5%)、「友人・仲間をつくるため」(28.3%)、「職業に必要な知識や技能を高めたり、必要な資格を得るため」(27.4%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 余暇を楽しく過ごすため	34.5	34.3	34.8	33.0	33.3	37.5	50.0
2 生きがいを持ち、人生を豊かにするため	67.3	68.7	65.2	64.8	66.7	62.5	100.0
3 ストレス解消のため	24.8	25.4	23.9	25.0	11.1	25.0	37.5
4 友人・仲間をつくるため	28.3	29.9	26.1	29.5	33.3	12.5	25.0
5 健康づくりのため	18.6	16.4	21.7	21.6	11.1	0.0	12.5
6 老化防止のため	8.8	6.0	13.0	9.1	11.1	0.0	12.5
7 教養を高めたり、趣味・芸術を身につけるため	41.6	44.8	37.0	40.9	22.2	62.5	50.0
8 自己啓発のため	12.4	13.4	10.9	6.8	22.2	50.0	25.0
9 家庭生活に必要な知識をえるため	7.1	7.5	6.5	8.0	0.0	0.0	12.5
10 職業に必要な知識や技能を高めたり、必要な資格を得るため	27.4	26.9	28.3	21.6	22.2	62.5	62.5
11 地域や社会の課題を解決するため	6.2	6.0	6.5	4.5	0.0	25.0	12.5
12 社会の変化に対応するため	12.4	13.4	10.9	10.2	11.1	50.0	0.0
13 その他	0.9	1.5	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



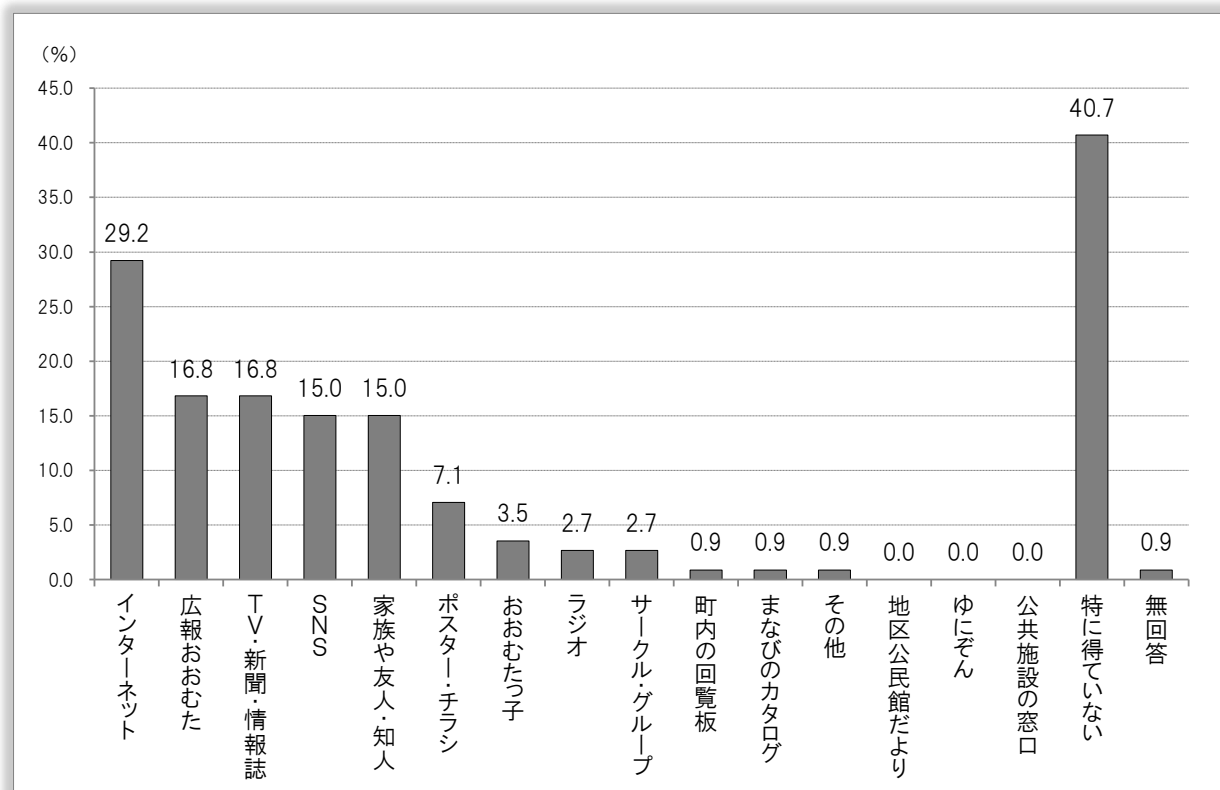
◆生涯学習の情報源

問7 あなたは、生涯学習に関する情報を何から得ていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習に関する情報は「特に得ていない」(40.7%)と回答した割合が最も高くなっています。情報を取得している人では、「インターネット」(29.2%)が最も高く、次いで、「広報おおむた」及び「TV・新聞・情報誌」(16.8%)、「SNS」及び「家族や友人・知人」(15.0%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	33人	25人	25人	0人
1 市の広報紙「広報おおむた」	16.8	9.0	28.3	13.6	33.3	25.0	25.0
2 インターネット(市ホームページ等)	29.2	35.8	19.6	29.5	11.1	25.0	50.0
3 SNS(愛情ねっと等)	15.0	20.9	6.5	15.9	11.1	12.5	12.5
4 ラジオ(FMたんと等)	2.7	3.0	2.2	3.4	0.0	0.0	0.0
5 TV・新聞・情報誌	16.8	17.9	15.2	17.0	11.1	12.5	25.0
6 家族や友人・知人	15.0	16.4	13.0	17.0	11.1	0.0	12.5
7 町内の回覧板	0.9	1.5	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
8 地区公民館だより	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9 学習情報誌「まなびのカタログ」	0.9	0.0	2.2	1.1	0.0	0.0	0.0
10 文化会館情報誌「ゆにぞん」	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 子育て情報誌「おおむたっ子」	3.5	3.0	4.3	4.5	0.0	0.0	0.0
12 公共施設の窓口	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13 ポスター・チラシ	7.1	3.0	13.0	6.8	0.0	25.0	0.0
14 サークル・グループ	2.7	3.0	2.2	3.4	0.0	0.0	0.0
15 その他	0.9	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
16 特に得ていない	40.7	38.8	43.5	39.8	55.6	37.5	37.5
無回答	0.9	1.5	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0



◆生涯学習の実施状況・学習ニーズ

問8 あなたは、この1年くらいの間に、生涯学習をしたことがありますか。また、今後、どのようなことを学んでみたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

この1年間に行った生涯学習は、「学校の正規課程での学習」(54.0%)で最も高く、次いで、「学校の公開講座や教室」(38.1%)、「趣味的なもの」(32.7%)、「教養的なもの」及び「健康・スポーツ」(31.9%)となっています。

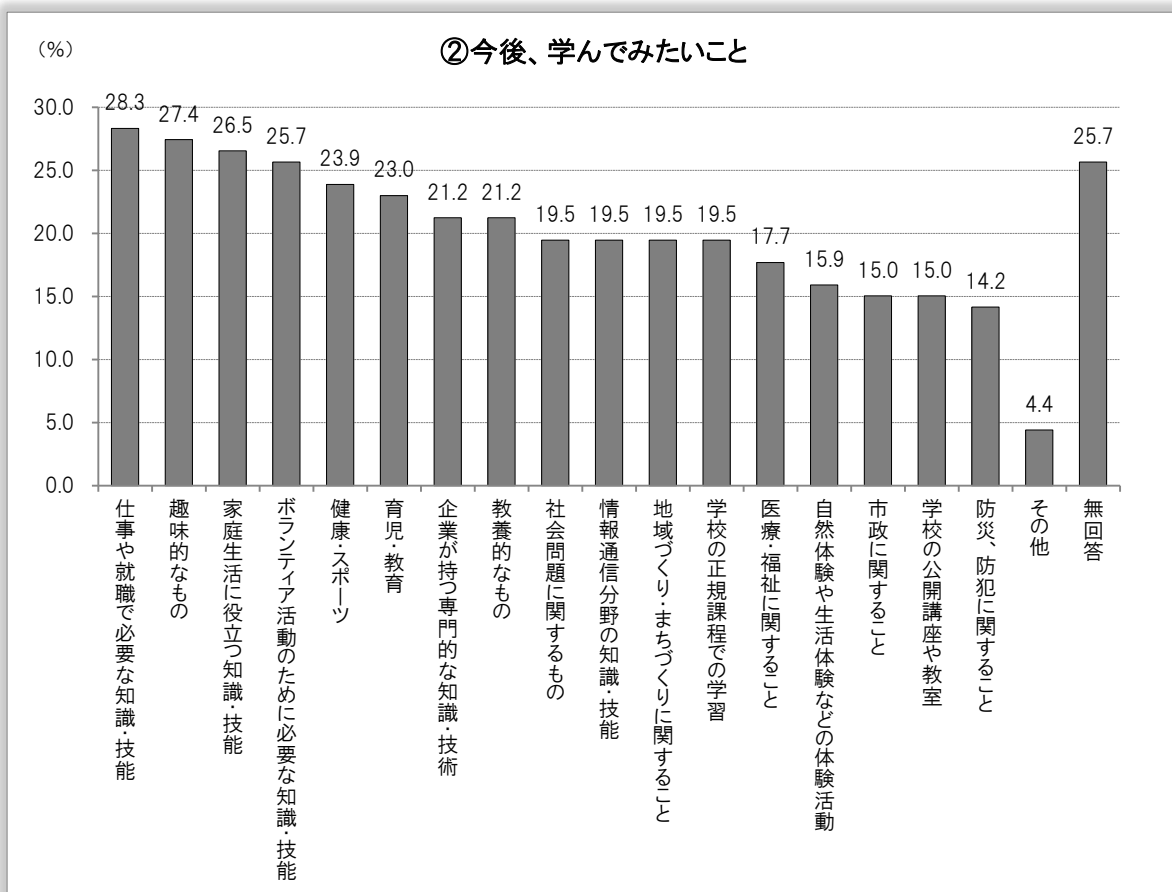
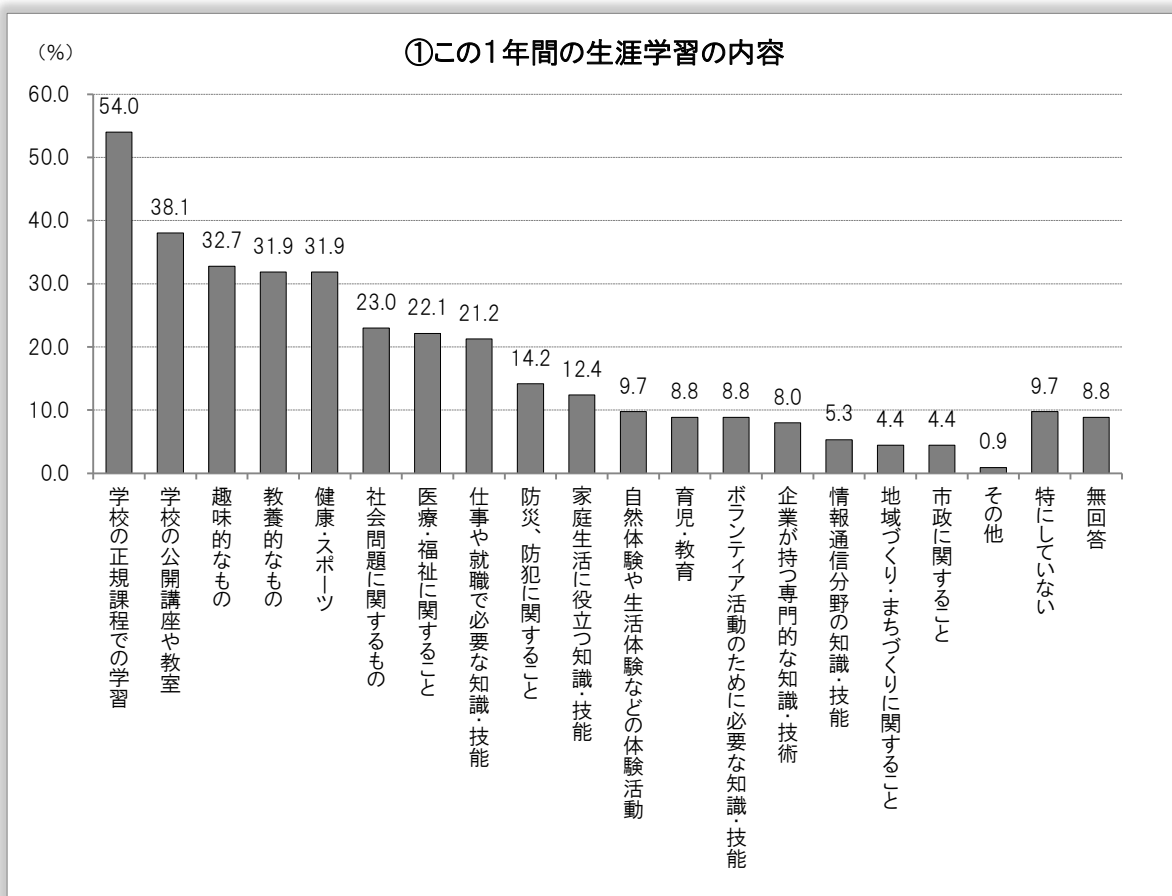
また、今後学んでみたいことは、「仕事や就職に必要な知識・技能」(28.3%)で最も高く、次いで、「趣味的なもの」(27.4%)、「家庭生活に役立つ知識・技能」(26.5%)、「ボランティア活動のために必要な知識・技能」(25.7%)、「健康・スポーツ」(23.9%)となっています。

(単位: %)

①この1年間の生涯学習の内容	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	32.7	26.9	41.3	37.5	22.2	12.5	12.5
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	31.9	34.3	28.3	33.0	44.4	25.0	12.5
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	23.0	23.9	21.7	22.7	22.2	25.0	25.0
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	31.9	32.8	30.4	30.7	44.4	25.0	37.5
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	12.4	9.0	17.4	13.6	11.1	12.5	0.0
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	8.8	9.0	8.7	9.1	11.1	12.5	0.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能(知識の習得や資格の取得など)	21.2	19.4	23.9	13.6	33.3	62.5	50.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	5.3	6.0	4.3	5.7	0.0	12.5	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	8.8	9.0	8.7	8.0	11.1	0.0	25.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動	9.7	10.4	8.7	9.1	11.1	0.0	25.0
11 防災、防犯に関すること	14.2	9.0	21.7	13.6	11.1	12.5	25.0
12 医療・福祉に関すること	22.1	17.9	28.3	17.0	55.6	12.5	50.0
13 地域づくり・まちづくりに関すること	4.4	7.5	0.0	3.4	11.1	0.0	12.5
14 市政に関すること	4.4	7.5	0.0	3.4	11.1	0.0	12.5
15 企業が持つ専門的な知識・技術	8.0	7.5	8.7	5.7	11.1	0.0	37.5
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	54.0	53.7	54.3	56.8	55.6	12.5	62.5
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	38.1	34.3	43.5	39.8	55.6	12.5	25.0
18 その他	0.9	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
19 特にしていない	9.7	7.5	13.0	11.4	11.1	0.0	0.0
無回答	8.8	10.4	6.5	9.1	11.1	12.5	0.0

(単位: %)

②今後、学んでみたいこと	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	27.4	28.4	26.1	28.4	33.3	12.5	25.0
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	21.2	22.4	19.6	20.5	22.2	12.5	37.5
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	19.5	22.4	15.2	19.3	11.1	37.5	12.5
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	23.9	23.9	23.9	23.9	11.1	25.0	37.5
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	26.5	29.9	21.7	29.5	22.2	12.5	12.5
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	23.0	20.9	26.1	26.1	22.2	0.0	12.5
7 仕事や就職に必要な知識・技能(知識の習得や資格の取得など)	28.3	29.9	26.1	30.7	11.1	50.0	0.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	19.5	26.9	8.7	20.5	33.3	12.5	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	25.7	26.9	23.9	27.3	33.3	0.0	25.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動	15.9	16.4	15.2	15.9	22.2	12.5	12.5
11 防災、防犯に関すること	14.2	17.9	8.7	15.9	11.1	12.5	0.0
12 医療・福祉に関すること	17.7	19.4	15.2	18.2	11.1	12.5	25.0
13 地域づくり・まちづくりに関すること	19.5	17.9	21.7	22.7	11.1	12.5	0.0
14 市政に関すること	15.0	17.9	10.9	17.0	11.1	12.5	0.0
15 企業が持つ専門的な知識・技術	21.2	26.9	13.0	22.7	11.1	37.5	0.0
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	19.5	22.4	15.2	19.3	11.1	25.0	25.0
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	15.0	17.9	10.9	15.9	11.1	25.0	0.0
18 その他	4.4	7.5	0.0	4.5	11.1	0.0	0.0
無回答	25.7	23.9	28.3	23.9	55.6	12.5	25.0

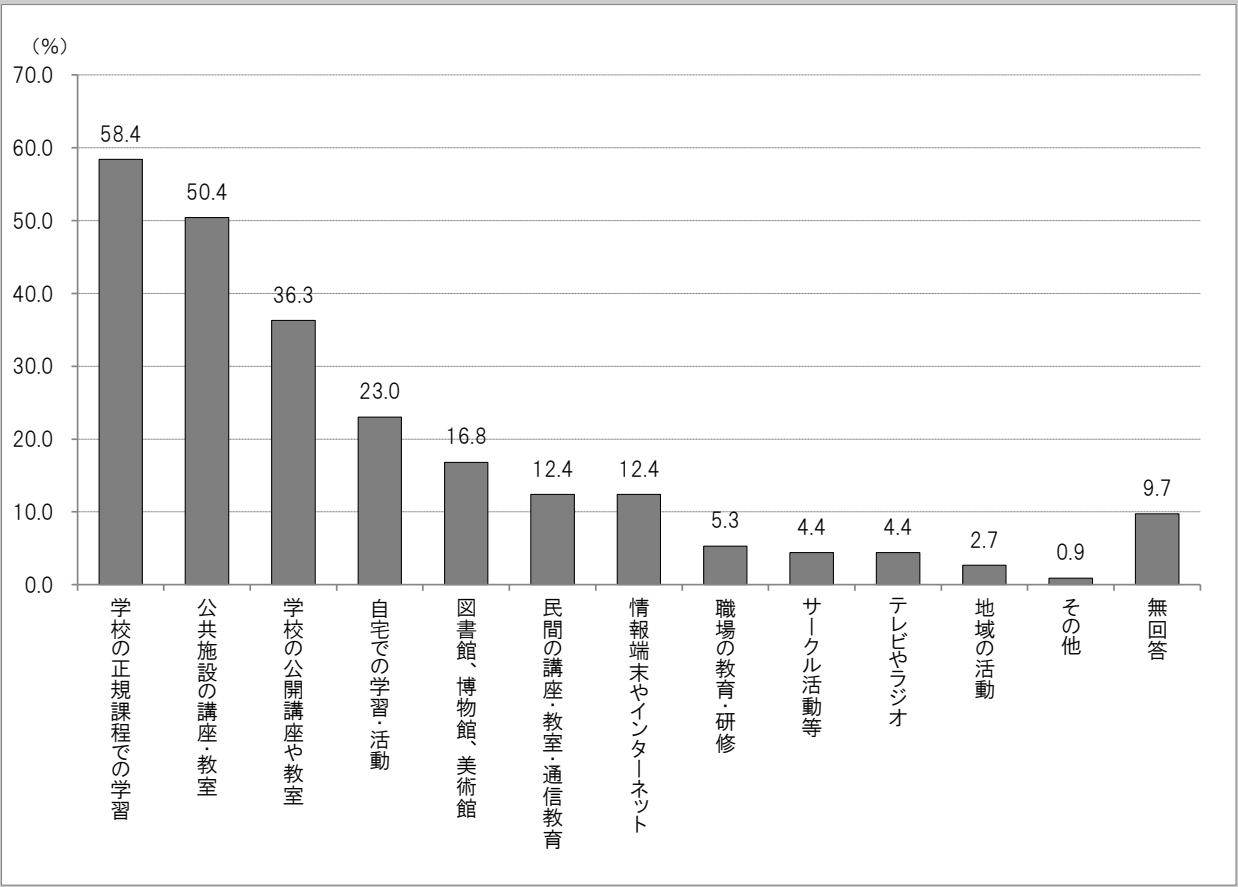


◆生涯学習の場所・形態

問9 あなたは、どのような場所や形態で生涯学習を行いましたか。また、今後行いたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習の場所や形態は、「学校の正規課程での学習」(58.4%)で最も高く、次いで「公共施設などの講座・教室」(50.4%)、「学校の公開講座や教室」(36.3%)、「自宅での学習・活動」(23.0%)、「図書館、博物館、美術館」(16.8%)となっています。

(単位:%)							
	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	50.4	47.8	54.3	44.3	66.7	87.5	62.5
2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	12.4	11.9	13.0	11.4	0.0	12.5	37.5
3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	58.4	61.2	54.3	60.2	66.7	25.0	62.5
4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	36.3	31.3	43.5	34.1	55.6	50.0	25.0
5 職場の教育・研修	5.3	7.5	2.2	2.3	0.0	37.5	12.5
6 町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	2.7	1.5	4.3	3.4	0.0	0.0	0.0
7 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	4.4	6.0	2.2	3.4	0.0	0.0	25.0
8 図書館、博物館、美術館	16.8	14.9	19.6	13.6	33.3	37.5	12.5
9 テレビやラジオ	4.4	4.5	4.3	4.5	0.0	12.5	0.0
10 情報端末やインターネット(eラーニング含む)	12.4	10.4	15.2	9.1	33.3	25.0	12.5
11 自宅での学習・活動(書籍など)	23.0	22.4	23.9	20.5	33.3	50.0	12.5
12 その他	0.9	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
無回答	9.7	9.0	10.9	11.4	11.1	0.0	0.0



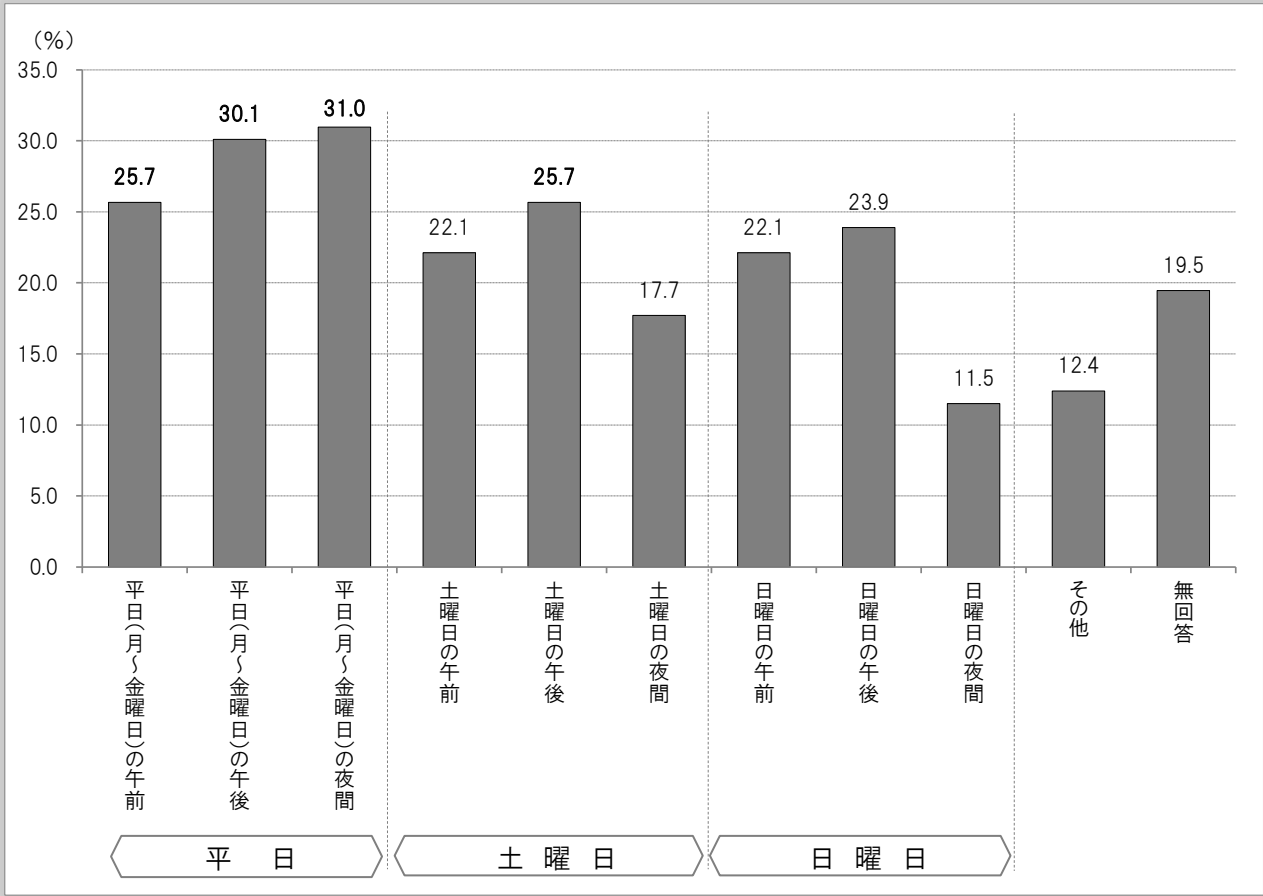
◆生涯学習を行う曜日・時間帯

問10 あなたが生涯学習を行うのは何曜日の何時頃ですか。また、今後行う場合は、何曜日の何時頃行いたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。（※夜間とは、午後5時以降をいいます）

生涯学習を行う時間帯は、「平日の夜間」(31.0%)が最も高く、次いで「平日の午後」(30.1%)、「平日の午前」及び「土曜日の午後」(25.7%)、「日曜日の午後」(23.9%)となっています。

(単位:%)							
	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 平日(月～金曜日)の午前	25.7	22.4	30.4	27.3	22.2	12.5	25.0
2 平日(月～金曜日)の午後	30.1	22.4	41.3	34.1	22.2	0.0	25.0
3 平日(月～金曜日)の夜間	31.0	29.9	32.6	26.1	22.2	62.5	62.5
4 土曜日の午前	22.1	22.4	21.7	20.5	33.3	25.0	25.0
5 土曜日の午後	25.7	23.9	28.3	27.3	33.3	12.5	12.5
6 土曜日の夜間	17.7	16.4	19.6	15.9	22.2	25.0	25.0
7 日曜日の午前	22.1	20.9	23.9	22.7	33.3	12.5	12.5
8 日曜日の午後	23.9	22.4	26.1	23.9	22.2	25.0	25.0
9 日曜日の夜間	11.5	11.9	10.9	10.2	11.1	25.0	12.5
10 その他	12.4	17.9	4.3	12.5	11.1	12.5	12.5
無回答	19.5	19.4	19.6	22.7	22.2	0.0	0.0

※夜間は午後5時以降



◆生涯学習をしない理由(できない理由)

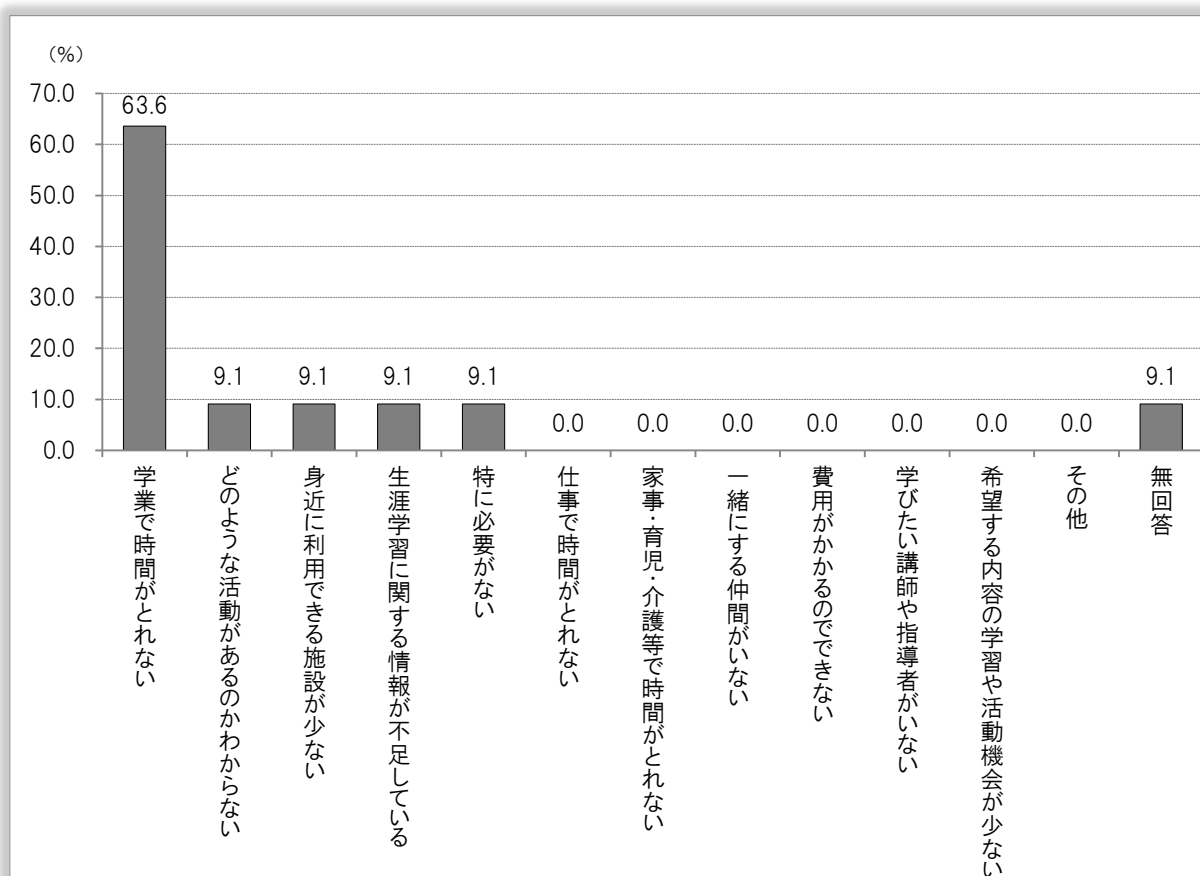
《問8で19「(生涯学習を)特にしていない」とお答えの人におたずねします》

問11 あなたが生涯学習をしない理由(できない理由)は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習をしない理由(できない理由)は、「学業で時間がとれない」(63.6%)が最も多く、それ以外は「どのような活動があるのかわからない」、「身近に利用できる施設が少ない」、「生涯学習に関する情報が不足している」、「特に必要がない」(各9.1%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	11人	5人	6人	10人	1人	0人	0人
1 学業で時間がとれない	63.6	60.0	66.7	60.0	100.0	0.0	0.0
2 仕事で時間がとれない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 家事・育児・介護等で時間がとれない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4 一緒にする仲間がいない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 費用がかかるのでできない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 どのような活動があるのかわからない	9.1	0.0	16.7	10.0	0.0	0.0	0.0
7 学びたい講師や指導者がいない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8 身近に利用できる施設が少ない	9.1	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
9 希望する内容の学習や活動機会が少ない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10 生涯学習に関する情報が不足している	9.1	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
11 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12 特に必要がない	9.1	0.0	16.7	0.0	100.0	0.0	0.0
無回答	9.1	0.0	16.7	10.0	0.0	0.0	0.0



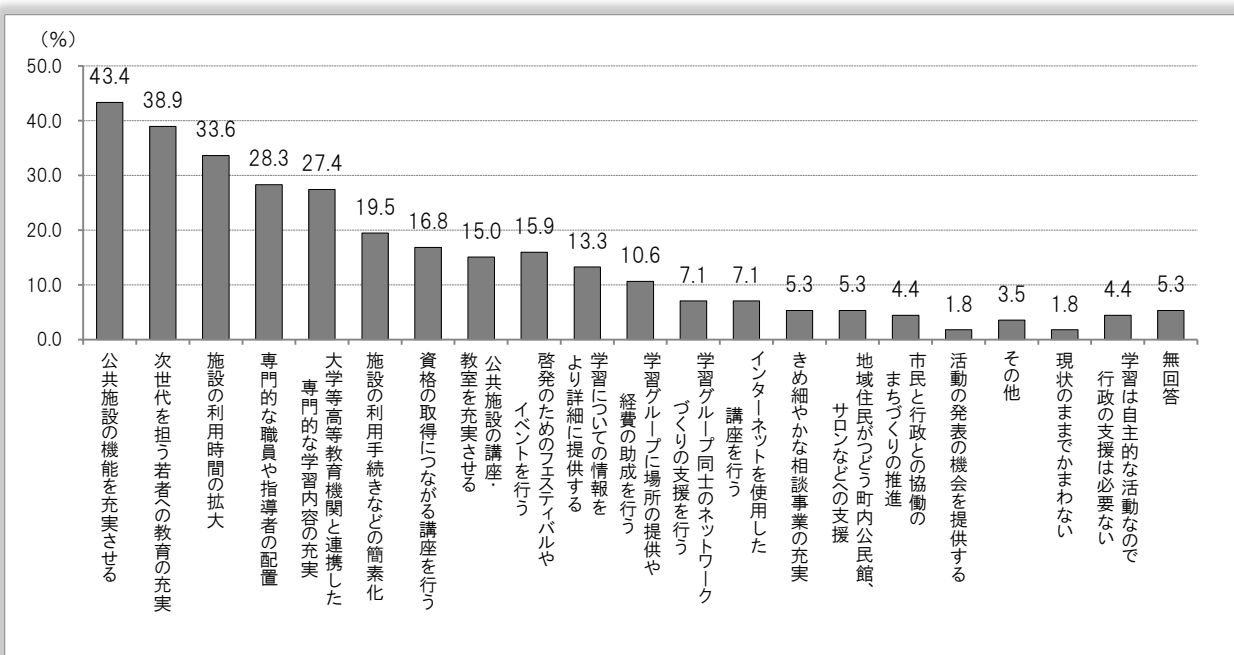
◆行政が力を入れるべきこと

問12 生涯学習が盛んなまちにするために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に5つまで○印をつけてください。

生涯学習が盛んなまちにするために、行政が力を入れるべきことは、「公共施設の機能を充実させる」(43.4%)が最も高く、次いで「次世代を担う若者への教育の充実」(38.9%)、「施設の利用時間の拡大」(33.6%)、「専門的な職員や指導者の配置」(28.3%)、「大学等高等教育機関と連携した専門的な学習内容の充実」(27.4%)となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 専門的な職員や指導者の配置	28.3	35.8	17.4	26.1	33.3	50.0	25.0
2 大学等高等教育機関と連携した専門的な学習内容の充実	27.4	34.3	17.4	28.4	11.1	12.5	50.0
3 次世代を担う若者への教育の充実	38.9	50.7	21.7	40.9	11.1	50.0	37.5
4 施設の利用手続きなどの簡素化	19.5	16.4	23.9	15.9	33.3	25.0	37.5
5 施設の利用時間の拡大(早朝、夜間など)	33.6	37.3	28.3	33.0	33.3	25.0	50.0
6 きめ細やかな相談事業の充実	5.3	6.0	4.3	3.4	11.1	0.0	25.0
7 地域住民がつどう町内公民館、サロンなどへの支援	5.3	6.0	4.3	6.8	0.0	0.0	0.0
8 学習についての情報(講師・内容・時間・場所・費用)をより詳細に提供する	13.3	11.9	15.2	8.0	11.1	37.5	50.0
9 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの施設の機能を充実させる	43.4	49.3	34.8	46.6	33.3	25.0	37.5
10 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室を充実させる	15.0	11.9	19.6	14.8	22.2	12.5	12.5
11 啓発のためのフェスティバルやイベントを行う	15.9	19.4	10.9	15.9	11.1	12.5	25.0
12 学習グループに、場所の提供や経費の助成を行う	10.6	11.9	8.7	12.5	11.1	0.0	0.0
13 学習グループ同士のネットワークづくりの支援を行う	7.1	10.4	2.2	6.8	11.1	0.0	12.5
14 資格の取得につながる講座を行う	16.8	14.9	19.6	12.5	0.0	62.5	37.5
15 インターネットを使用した講座を行う	7.1	7.5	6.5	6.8	0.0	12.5	12.5
16 活動の発表の機会を提供する	1.8	3.0	0.0	1.1	11.1	0.0	0.0
17 市民と行政との協働のまちづくりの推進	4.4	4.5	4.3	3.4	0.0	12.5	12.5
18 その他	3.5	4.5	2.2	3.4	0.0	0.0	12.5
19 現状のままでかまわない	1.8	0.0	4.3	2.3	0.0	0.0	0.0
20 学習は自主的な活動なので行政の支援は必要ない	4.4	3.0	6.5	3.4	22.2	0.0	0.0
無回答	5.3	4.5	6.5	5.7	0.0	12.5	0.0



(2) ボランティア活動・地域活動について

◆ ボランティア活動について

問13 あなたは、この1年くらいの間に、どのようなボランティア活動を行いましたか。また、今後行いたいと思う活動はありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

この1年間に行ったボランティア活動の内容は、「募金活動や災害援助活動」(23.0%)が最も高く、次いで「環境美化、リサイクル活動」(20.4%)、「福祉施設等での活動」(15.9%)、「高齢者、障害児・者等への支援」(15.0%)、「自然環境保護・環境教育に関する活動」(11.5%)となっています。

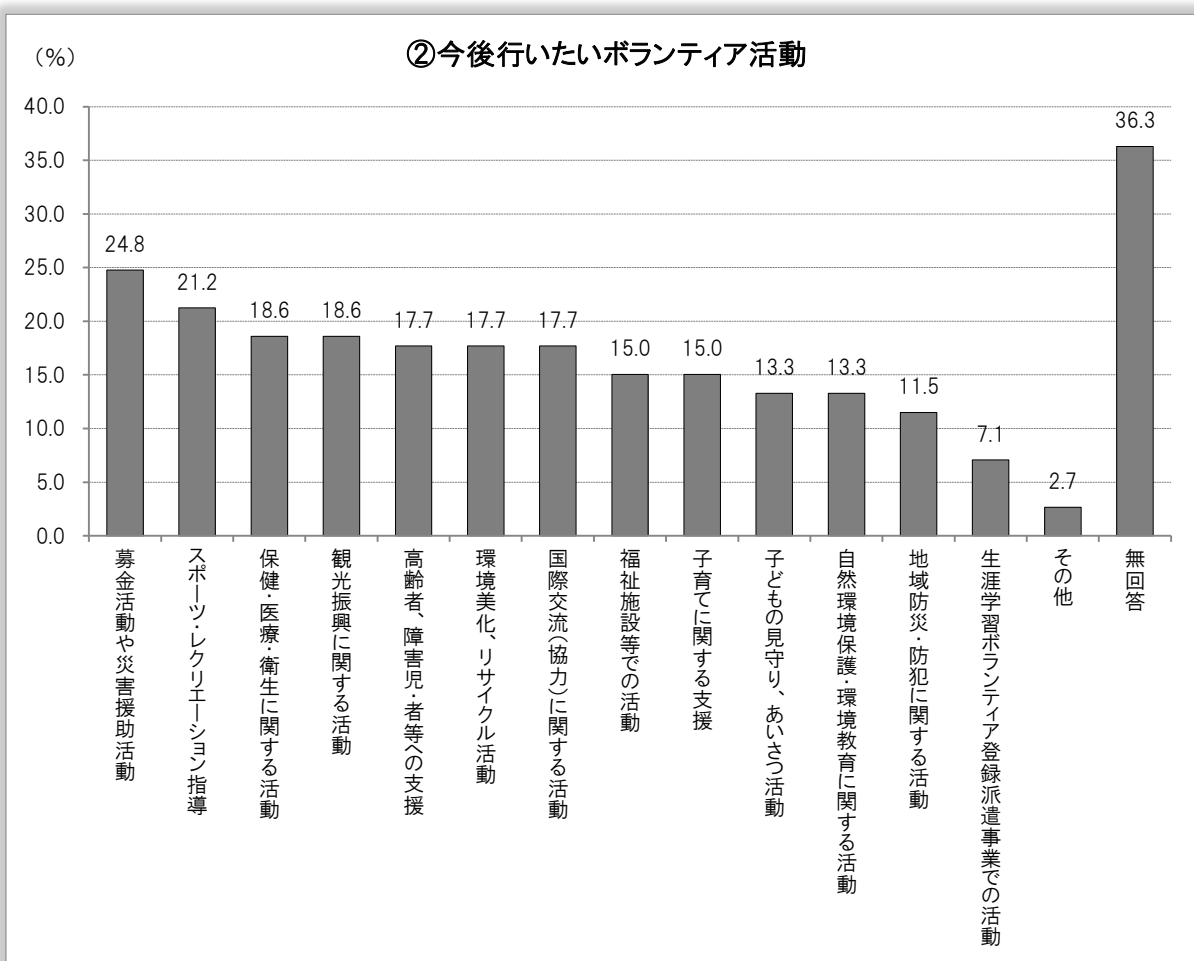
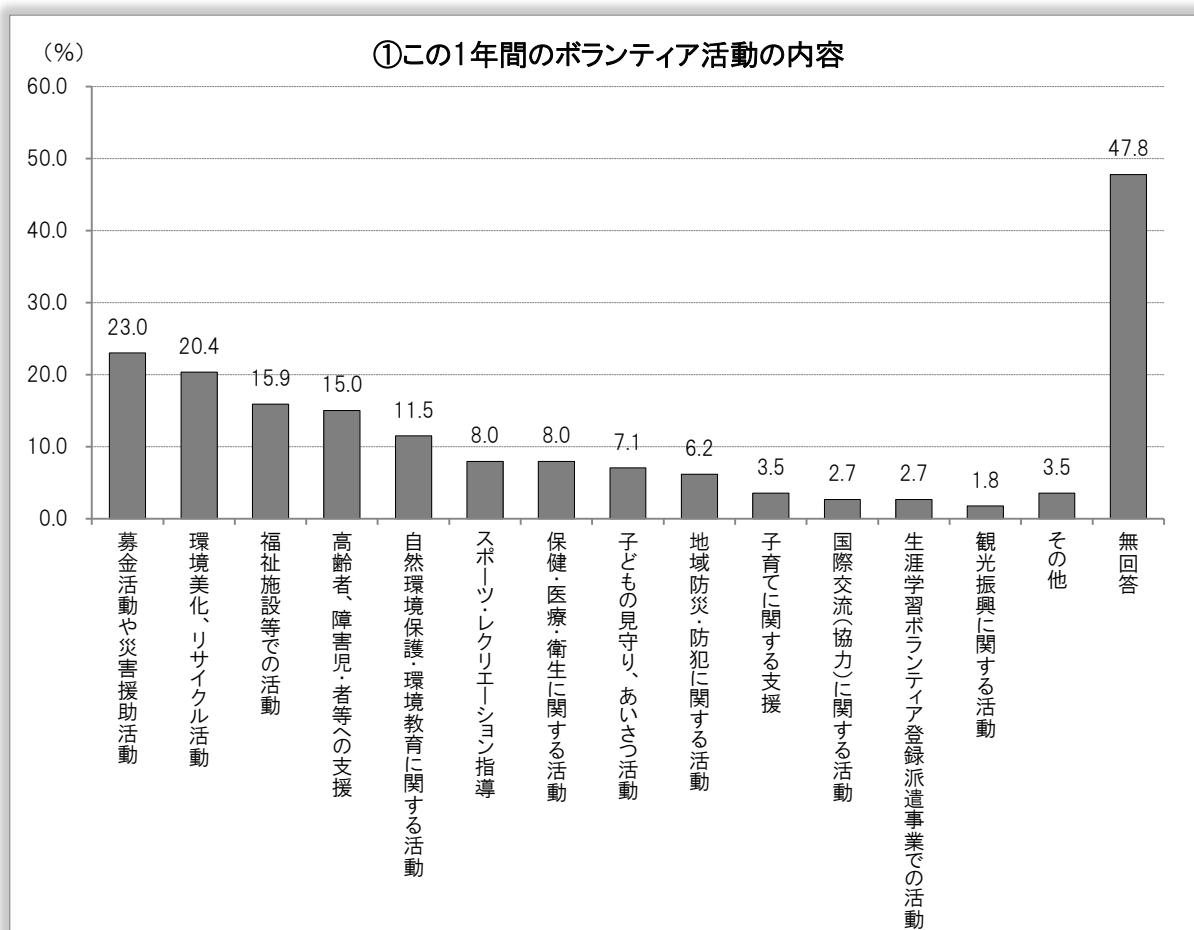
また、今後行いたいと思うボランティア活動の内容は、「募金活動や災害援助活動」(24.8%)が最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーション指導」(21.2%)、「保健・医療・衛生に関する活動」及び「観光振興に関する活動」(18.6%)となっています。

(単位:%)

①この1年間のボランティア活動の内容	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 福祉施設等での活動	15.9	11.9	21.7	13.6	44.4	12.5	12.5
2 高齢者、障害児・者等への支援	15.0	14.9	15.2	13.6	22.2	25.0	12.5
3 子どもの見守り、あいさつ活動	7.1	6.0	8.7	8.0	0.0	0.0	12.5
4 子育てに関する支援	3.5	3.0	4.3	4.5	0.0	0.0	0.0
5 スポーツ・レクリエーション指導	8.0	6.0	10.9	6.8	11.1	12.5	12.5
6 自然環境保護・環境教育に関する活動	11.5	13.4	8.7	12.5	0.0	12.5	12.5
7 環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	20.4	19.4	21.7	25.0	0.0	12.5	0.0
8 募金活動や災害援助活動	23.0	23.9	21.7	25.0	0.0	12.5	37.5
9 国際交流(協力)に関する活動(通訳、難民援助、留学生援助など)	2.7	4.5	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0
10 保健・医療・衛生に関する活動(食育、病院ボランティアなど)	8.0	6.0	10.9	6.8	11.1	25.0	0.0
11 地域防災・防犯に関する活動	6.2	7.5	4.3	5.7	0.0	12.5	12.5
12 観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	1.8	3.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
13 生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)での活動	2.7	4.5	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0
14 その他	3.5	3.0	4.3	2.3	0.0	12.5	12.5
無回答	47.8	49.3	45.7	48.9	44.4	50.0	37.5

(単位:%)

②今後行いたいボランティア活動	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 福祉施設等での活動	15.0	14.9	15.2	17.0	11.1	0.0	12.5
2 高齢者、障害児・者等への支援	17.7	19.4	15.2	19.3	22.2	0.0	12.5
3 子どもの見守り、あいさつ活動	13.3	14.9	10.9	13.6	22.2	0.0	12.5
4 子育てに関する支援	15.0	13.4	17.4	14.8	22.2	25.0	0.0
5 スポーツ・レクリエーション指導	21.2	23.9	17.4	19.3	44.4	12.5	25.0
6 自然環境保護・環境教育に関する活動	13.3	19.4	4.3	12.5	22.2	0.0	25.0
7 環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	17.7	14.9	21.7	18.2	33.3	0.0	12.5
8 募金活動や災害援助活動	24.8	25.4	23.9	25.0	33.3	12.5	25.0
9 国際交流(協力)に関する活動(通訳、難民援助、留学生援助など)	17.7	14.9	21.7	18.2	33.3	12.5	0.0
10 保健・医療・衛生に関する活動(食育、病院ボランティアなど)	18.6	16.4	21.7	19.3	33.3	12.5	0.0
11 地域防災・防犯に関する活動	11.5	14.9	6.5	11.4	22.2	0.0	12.5
12 観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	18.6	16.4	21.7	18.2	11.1	37.5	12.5
13 生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)での活動	7.1	7.5	6.5	8.0	11.1	0.0	0.0
14 その他	2.7	4.5	0.0	2.3	11.1	0.0	0.0
無回答	36.3	38.8	32.6	34.1	33.3	62.5	37.5



◆地域活動について

問14 地域(住んでいる小学校区)で『地域活動』があっていることを知っていますか。また、参加した地域活動はありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

住んでいる小学校区であっていることを知っている地域活動の内容は、「子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動」(46.9%)が最も高く、次いで「地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動」(44.2%)、「交通安全活動」(36.3%)、「リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動」(35.4%)、「防災訓練などの防災活動」(27.4%)となっています。参加したことのある地域活動については、「特にない」(17.7%)が最も高くなっています。参加した活動では、「地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動」(8.8%)、「リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動」(8.0%)、「学校への支援活動」(6.2%)、「子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動」(4.4%)となっています。

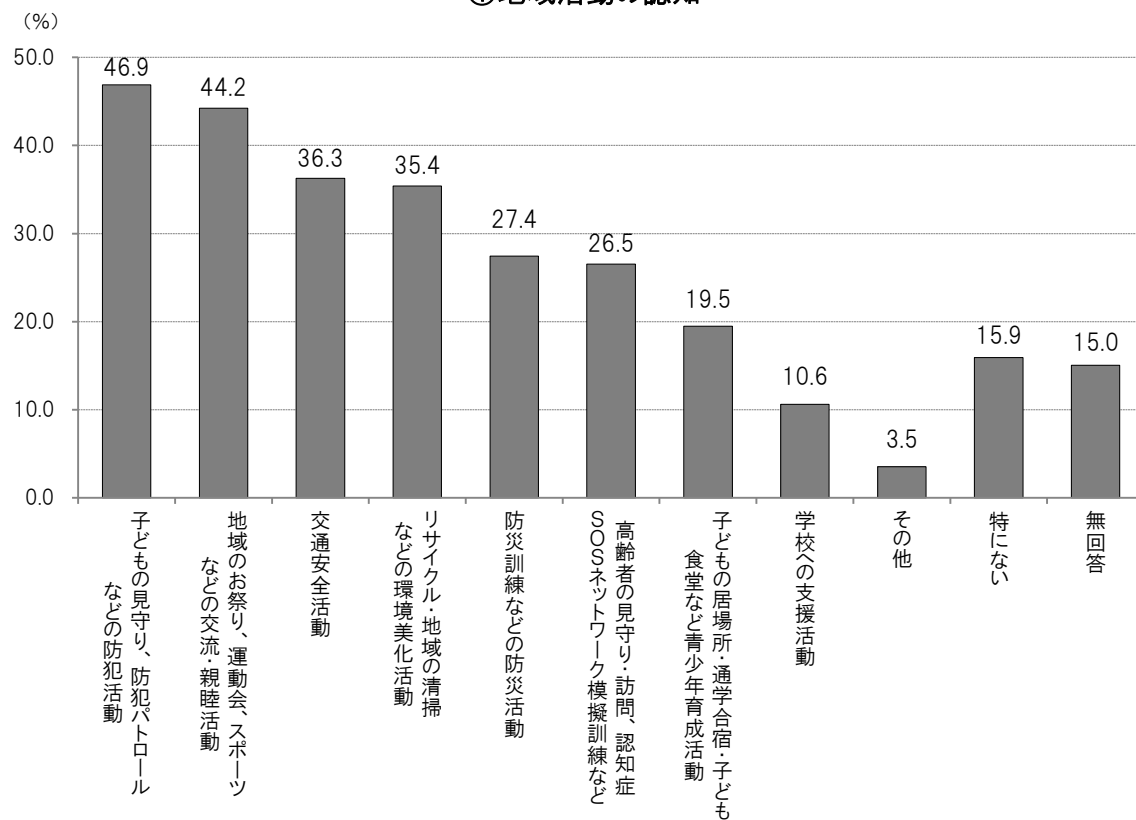
(単位:%)

①地域活動の認知		全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数		113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1	リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	35.4	31.3	41.3	33.0	55.6	25.0	50.0
2	高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	26.5	22.4	32.6	22.7	55.6	25.0	37.5
3	子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	46.9	43.3	52.2	48.9	55.6	25.0	37.5
4	防災訓練などの防災活動	27.4	31.3	21.7	27.3	33.3	25.0	25.0
5	交通安全活動	36.3	32.8	41.3	35.2	66.7	25.0	25.0
6	子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	19.5	23.9	15.2	22.7	11.1	12.5	12.5
7	学校への支援活動	10.6	14.9	4.3	11.4	11.1	12.5	0.0
8	地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	44.2	35.8	54.3	40.9	55.6	37.5	62.5
9	その他	3.5	6.0	0.0	3.4	11.1	0.0	0.0
10	特にない	15.9	17.9	13.0	15.9	11.1	37.5	0.0
	無回答	15.0	22.4	4.3	13.6	11.1	25.0	25.0

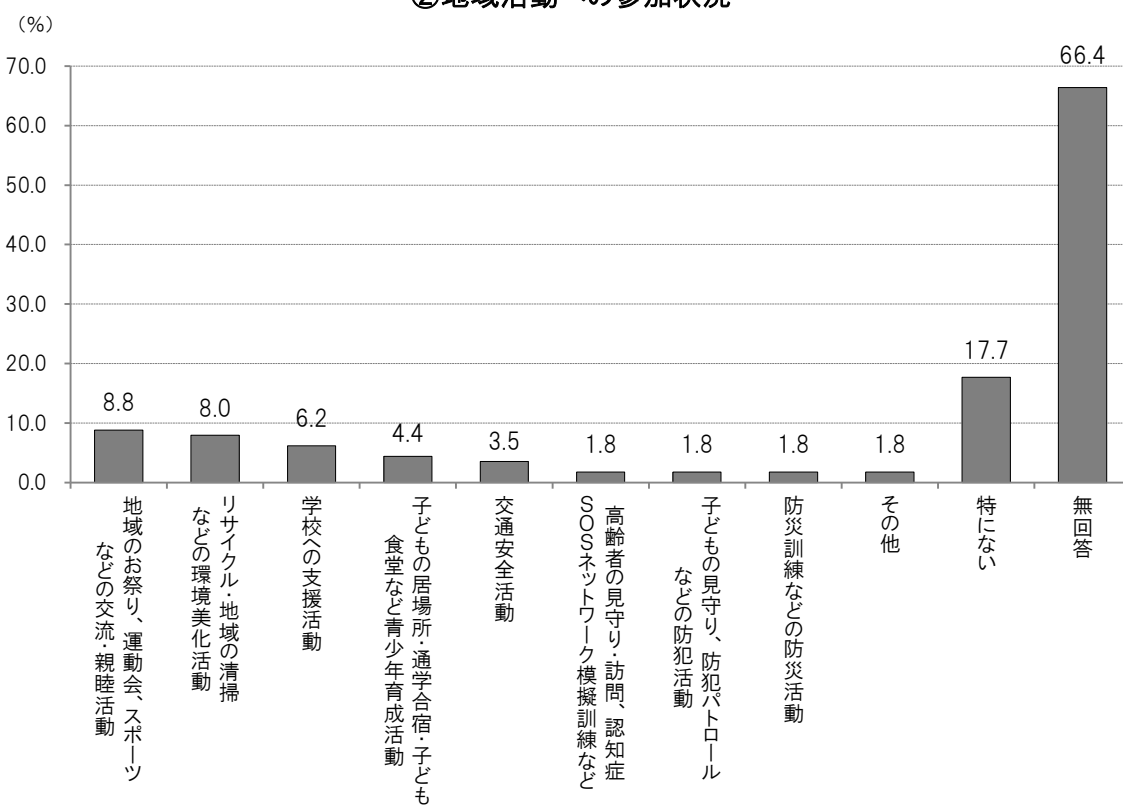
(単位:%)

②地域活動への参加状況		全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数		113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1	リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	8.0	9.0	6.5	9.1	0.0	12.5	0.0
2	高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	1.8	3.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
3	子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	1.8	3.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
4	防災訓練などの防災活動	1.8	3.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
5	交通安全活動	3.5	4.5	2.2	3.4	0.0	12.5	0.0
6	子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	4.4	6.0	2.2	4.5	0.0	12.5	0.0
7	学校への支援活動	6.2	7.5	4.3	8.0	0.0	0.0	0.0
8	地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	8.8	13.4	2.2	10.2	0.0	12.5	0.0
9	その他	1.8	3.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
10	特にない	17.7	17.9	17.4	19.3	11.1	25.0	0.0
	無回答	66.4	62.7	71.7	63.6	88.9	37.5	100.0

①地域活動の認知



②地域活動への参加状況

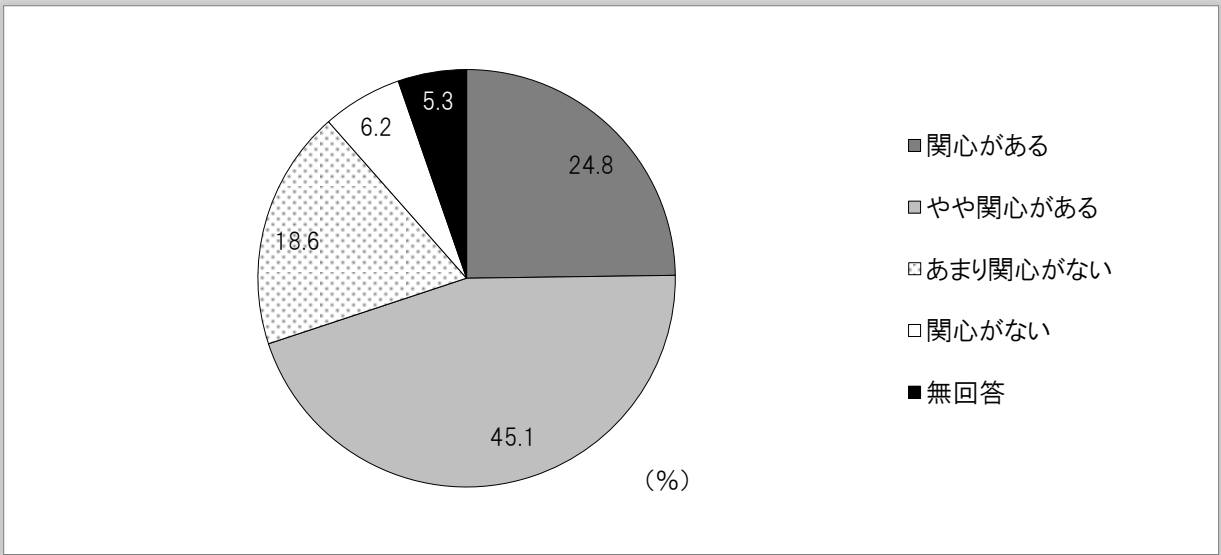


◆ボランティア・地域活動への関心度

問15 あなたは、若者自身が企画し、実施するボランティア活動や地域活動に関心がありますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

若者自身が企画し、実施するボランティア活動や地域活動への関心は、「関心がある」「やや関心がある」と回答した割合が69.9%であり、「あまり関心がない」「関心がない」と回答した人の割合24.8%を上回っています。

(単位:%)							
	全 体	男 性	女 性	16 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳
サ ン プ ル 数	113人	67人	46人	88人	9人	8人	8人
1 関心がある	24.8	23.9	26.1	27.3	22.2	0.0	25.0
2 やや関心がある	45.1	44.8	45.7	46.6	22.2	62.5	37.5
3 あまり関心がない	18.6	17.9	19.6	15.9	33.3	12.5	37.5
4 関心がない	6.2	9.0	2.2	3.4	22.2	25.0	0.0
無回答	5.3	4.5	6.5	6.8	0.0	0.0	0.0



(3) 自由記述

問 16 生涯学習やボランティア活動・地域活動について、何かご意見があれば自由にお書きください。

10 代・男性	生涯学習施設の充実、拡大に力を注いでいただけたらと思います。
10 代・男性	「えるる」のような施設を増やしてください。
10 代・男性	「えるる」の存在が僕のやる気を出させてくれました。私は「えるる」に感謝しています。「えるる」で仕事をされている方の笑顔がとても良いです。これからずっと笑っていて欲しいです。We Love えるる。
10 代・女性	「えるる」以外にも「えるる」のような勉強ができる場所が欲しいです。
10 代・男性	市内の成績優秀者に助成金を出す。
30 代・男性	動機付けをどのようにしていくか課題であり、必要時にアクセスできる窓口（ネットを含めて気軽に行ける所）があれば良いと思う。行政、事業所等もレスポンスを上げないと上手くマッチングしない。 また、必要時、地域の福祉事業所や各専門職団体（看護協会、リハビリ系協会、社会福祉会、精神保健福祉協会等）と連携を取り、質を高めたり、大牟田でできることを一緒に探すことも必要だと思う。
30 代・男性	動物園や有明海を学ぶ会を活用したほうが良い。
10 代・女性	地域を活性化するための地域交流や行事に参加させるためにもっと市民に呼びかけをして欲しい（広告や回覧板等で）。観光スポットに若者をスタッフとして導入し、若者ならではのアイデアや工夫を活かしてもっと観光客を増やし、最終的に大牟田の人口を増加させていきたい。
10 代・男性	学校に直接連絡して生徒達に宣伝すると良いと思う。
10 代・女性	広報紙を見ていると興味のある活動はたくさんあるのですが、私が住んでいる地域からは行くのが大変であきらめてしまいます。JRは昼間1時間に1本しか来ないし、高校生は車を運転できないので自転車で行くしかありません。そうなるとても面倒です。やってみたい活動はたくさんあるのに、交通の便が悪すぎて行く気になりません。例えば、市でバスを購入し、講座など行う団体に貸し出してその団体は受講を申し込んだ人にバスに乗りたいか希望を聞き、希望者を迎えに行くことをしてみたいかでしょうか。
10 代・女性	ボランティアに参加したいという気持ちはあるがなかなか情報が得られず、また1人で参加することがおっくうで参加しづらいと思います。
10 代・男性	東大理Ⅲ頑張ります。

※原則、記載された原文のまま掲載しています。

3. インタビュー調査「若者意識調査」から見てくるもの

(1)生涯学習は、生きがい・人生を豊かにする手段として必要と感じている

全体の 93.8%が、生涯学習は必要だと感じています。その理由は、『生きがいを持ち、人生を豊かにするため』(67.3%)が最も高く、次いで『教養を高めたり、趣味・芸術を身につけるため』(41.6%)となっています。また、今後学んでみたいことでも、『趣味的なもの』(27.4%)が2番目に高くなっています。

以上のことから、若者にとって生涯学習は、人生を豊かにし、教養や趣味・芸術を身につける手段として必要と感じていることが考えられます。

(2)学習情報を特に得ていない若者が多く、インターネットを中心とした情報提供が必要

生涯学習の情報源は、『特に得ていない』(40.7%)が最も高く、次いで『インターネット(市ホームページ等)』(29.2%)、『広報おおむた』、『TV・新聞・情報誌』(16.8%)となっています。

以上のことから、若者に対する学習情報の提供の充実が必要であるとともに、その手段として、インターネットを中心とした情報提供が必要と思われます。

(3)学習ニーズの多様化と無関心の二極化

今後学んでみたいことは、『仕事や就職に必要な知識・技能』(28.3%)が最も高く、次いで『趣味的なもの』(27.4%)、『家庭生活に役立つ知識・技能』(26.5%)、『ボランティア活動のために必要な知識・技能』(25.7%)となっており、18項目中8項目が20%を超えています。一方、『無回答』についても25.7%となっています。

以上のことから、様々な分野を学習したいと考えている若者が多くいる反面、無関心(無回答)な若者も多いことが判明しました。

(4)学校、公共施設(社会教育施設)を生涯学習の場所・形態として活用している

生涯学習を行っている場所や形態は、『学校の正規課程での学習』が最も高く、次いで『公共施設などでの講座・教室』(50.4%)となっており、学校、公共施設(社会教育施設)が多く活用されています。

(5)公共施設(社会教育施設)の機能の充実や若者の教育の充実が求められている

生涯学習が盛んなまちにするために、若者が行政に対して求めていることは、『公共施設の機能の充実』(43.4%)が最も高く、次いで『次世代を担う若者への教育の充実』(38.9%)、『施設の利用時間の拡大』(33.6%)となっています。

なお、前述の通り、若者の学習ニーズは『仕事や就職に必要な知識・技術』(28.3%)が最も高いことが判明した一方、『資格の取得につながる講座』は16.8%にとどまっています。

(6)「募金活動や災害援助活動」、「スポーツ・レクリエーション指導」に関する関心が高い

この1年くらいの間に行ったボランティア活動は、『募金活動や災害援助活動』(23.0%)が最も高くなっています。また、今後行いたいボランティア活動でも、同項目(24.8%)が最も高く

なっており、近年の熊本地震(2016年4月)や九州北部豪雨(2017年7月)を契機に募金活動や災害援助活動に高い関心を持った若者が増加したものと考えられます。このほか、『スポーツ・レクリエーション指導』(21.2%)が2番目に高くなっています。

(7)地域活動への参加は少ないが認知度は高いことから、関心を高めるための取り組みが必要

住んでいる小学校区での地域活動への参加については、『無回答』(66.4%)が最も高く、次いで『特になし』(17.7%)となり、分野を問わず『参加している』と回答した人が10%未満と非常に少ないことがわかりました。一方、地域活動の認知については、『子どもの見守り、防犯パトロール等の防犯活動』(46.9%)や『地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動』(44.2%)をはじめ、様々な活動を知っていると回答しています。

以上のことから、地域活動への関心を高めるための取り組みが必要と思われます。

(8)若者自身が企画、実施するボランティア活動や地域活動の機会を設けることが必要

若者自身が企画し、実施するボランティア活動や地域活動については、69.9%が『関心がある』または『やや関心がある』と回答しています。また、(7)でも述べたように、地域活動への参加は少ないものの、認知度については、高い結果が得られました。

以上のことから、ボランティア活動や地域活動を若者自らが企画・実施する機会を設けることによって、地域活動への参加が高くなり、ひいては住んでいる地域への愛着や誇りを育むことが期待されます。

V ローリング調査

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

「平成 23 年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究」において、今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された“7 つの取組み”の進捗状況と成果を踏まえ、既存事業の有効性について検証を行う。

(2) 調査対象

平成 23 年度の調査研究で掲げられた提言“7 つの取組み”に係る全 14 事業

平成 23 年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究の提言 ～ 今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて ～

(1) 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

- ① 市民自らが行う取組み
- ② 社会教育機関等が行う取組み
- ③ 一時保育を行う講座の充実

(2) 自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

- ① 仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み
- ② 青年自身が活躍の場をつくり出す取組み
- ③ 高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み

(3) ふるさと大牟田を知る取組み

(4) 市民に身近な場所で行う事業の拡充

(5) 学習情報センター機能の拡充

- ① 学習相談の窓口としての機能の強化
- ② わかりやすく的確な情報提供

(6) 職員研修の充実

- ① 社会教育機関の職員に必要な能力の向上
- ② 「聴く」活動

(7) 地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

- ① 地域の絆を育む取組み
- ② 災害に備える取組み

(計 14 事業)

(3) 調査方法

対象事業の所管課に対する照会(調査票及びヒアリング)

(4) 調査期間

平成 30 年 7 月 3 日～7 月 31 日(ヒアリング 7 月 31 日～8 月 14 日)

2. 調査結果

(1) 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

① 市民自らが行う取組み 【生涯学習課(生涯学習担当)】

【平成 23 年の提言内容】

市民が行っている(行いたい)学習活動の多くは、「趣味・けいこ事」や「健康づくり・スポーツ」に関することです。しかしながら、「社会の要請」にあてはまらないもの(趣味的な講座等)は、行政が実施する講座等のテーマになりにくいことから、市民の自主的な活動を支援したり、市民との協働によって展開していく必要があります。

そこで、市民が「学びたいことを学べる」ようにするには、行政の事業展開とあわせて、市民自らの取組みの充実が効果的であると考えます。市民自らが関心のあることを学ぶために企画し、講師の選定や会場の確保等のすべてを運営し、学びたいことを学べる場を創出する仕組みとして「大牟田市民カレッジ(仮称)」を創設する必要があると考えます。

【取組み状況・実績】

「大牟田市民カレッジ」の創設に向け、その中心的役割を担う人材を養成するために平成 24 年度から 2 か年にわたって『企画者養成講座』(延べ 34 回)を実施しました。

平成 26 年度には「市民カレッジ」を運営するための組織「市民カレッジ運営委員会」が発足し、各種講座を企画して自主事業を展開されるようになったため、同委員会の取組みが円滑に行われるよう自立に向けた支援を行いました。

同委員会は、平成 29 年度から完全な自主運営となり、また、市民へ学習機会を提供するための講座のみならず、社会貢献活動にも取り組むようになったことから、今後の活躍が期待されるところです。

【課題等】

所期の目的は達成されましたが、同委員会が市民活動団体としてさらに充実・発展できるよう、今後も引き続き必要に応じて支援を行っていきます。

＜大牟田市民カレッジ事業の経過＞

年度	内 容
H24	大牟田市民カレッジ事業「H24 年度 企画者養成講座」開催(全 15 回・受講者 15 人) (講演、先進地視察、キャッチコピーを考える、講座の企画、プレ講座、次年度の取組み等)
H25	大牟田市民カレッジ事業「H25 年度 企画者養成講座」開催(全 19 回・受講者 21 人) (講座のつくり方、趣意書づくり、プレ講座、先進地視察、市民カレッジの仕組みづくり等)
H26 ～	①H26 年度に「大牟田市民カレッジ運営委員会」が発足(H26 年 9 月市民活動団体へ登録)。 以後、同委員会の自主事業に対する側面的な支援を行いました。 (交通発展の歴史、フォニックス体験講座、伝説を科学する、アニメ好き集え！等) ②H29 年度に同委員会は完全な自主運営となり、独自で事業の企画立案・実施、財源の確保等を行うようになった。同年、熊本地震の復興支援に係る取組みを実施。 ③H30 年度は 4 講座が実施される予定(同委員会「H30 年度事業計画書」より)

②社会教育機関等が行う取組み 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

社会教育機関では、趣味や健康づくりに関する事業を、「学びの循環」の入口として展開し、ここに集まった参加者へ「社会の要請」に応じた事業への参加を促し、学習成果を活かす活動につなげるような仕組みをつくることが求められます。

60 歳以上の人を対象に実施している「生涯青春はつらつ塾」の「地域塾」(既存のサークル等が講師を務める講座)の仕組みを応用し、幅広い年齢層を対象に事業を展開し、参加者に対し、「社会の要請」に応じた事業への参加を促すことが必要だと考えます。

まずは、幅広い年齢層の人を対象とする講座の開催について、生涯青春はつらつ塾実行委員会などの関係者と協議を進めていきます。

【取組み状況・実績】

平成 23 年度に、生涯青春はつらつ塾実行委員会において、高齢者のみならず幅広い年齢層が学べるよう講座の在り方について協議が行われ、平成 24 年度から、『生涯青春はつらつ塾』にそれまでの「地域塾(高齢者が高齢者に教える)」と「ボランティア講座」に加え、一般成人が学ぶことができる「マナビ塾(高齢者が一般成人に教える)」がスタートしました。

しかしながら、平成 24 年度で県の委託事業『生涯青春はつらつ塾』が終了したことから、平成 25 年度から、保健福祉部と連携して、高齢者の生きがいをづくりや介護予防等を目的とした高齢者生きがいをづくり社会参加促進事業『生涯青春まなびの扉』を展開し、そのなかで「マナビ塾」を継続して実施しています。

「マナビ塾」の成果としては、平成 24 年度から平成 29 年度の 6 年間で 36 講座(延べ受講者数 649 人)を実施したことで、29 のサークルが発足し、新規サークルの会員数と指導サークルへの加入者数を合わせると延べ 296 人の新たな学びの場を創出しました。受講者の年齢層は 20 歳代～80 歳代以上と幅広く、また、社会の要請に応じて、パソコンや外国語講座なども開催しました。

しかしながら、『学習成果を活かす点』においては、福祉施設への慰問やイベントの出演など、社会や地域づくりに貢献しているサークルは 3 団体で、全講座数の 1 割にも達していない状況です。

【課題等】

今後は、市民が学んだ知識・技能を社会へ還元できるよう、社会教育機関において、①“地域の課題や社会的ニーズ”に即した講座の展開、②講座終了後のサークルに対する“フォローアップ”(学んだ成果を活かす場の確保、サークルの自立支援等)の強化、③関係課・機関などと連携してボランティア及び市民活動の登録制度とリンクさせることなど、きっかけづくりから“実践”に至るまでの一連の手法や仕組みを確立させることが重要と言えます。

＜高齢者生きがいつくり社会参加促進事業 『生涯青春まなびの扉』 マナビ塾＞

年度	講 座 名	受講者	講座終了後の成果	担当 地区館
H24	中央陶芸工房～はじめての一步～	20 人		中央
	暮らしを潤すハーモニカ講座	11 人	サークル発足(6 人) ★デイケア施設等訪問	三川
	ピラティスで心も体もリフレッシュ(午前)	15 人	サークル発足(8 人)	勝立
	ピラティスで心も体もリフレッシュ(夜間)	20 人	サークル発足(10 人)	勝立
	男子厨房に入ってみよう講座	15 人	サークル発足(9 人)	吉野
	お手軽・簡単パソコン講座～Word から始めよう～	20 人	サークル発足(12 人)	三池
	パン作り講座	15 人	2 サークル発足(計 13 人)	手鎌
	心を伝える絵手紙(入門編)	17 人	サークル発足(12 人) ★一人暮らし高齢者訪問活動	駛馬
H25	はじめての編み物入門講座	20 人	サークル発足(15 人)	中央
	気軽に散歩でスケッチを！	21 人		三川
	ちょっとおしゃれにランチタイム～楽しくパンづくりに挑戦～	18 人	サークル発足(8 人)	勝立
	暮らしを豊かに～パソコン学び塾～	20 人		吉野
	手作りパンでほんわか幸せ気分♪	16 人	サークル発足(7 人)	三池
	ものづくりで仲間作り！ 初めてでも楽しい陶芸教室	14 人	指導サークル加入(6 人)	手鎌
	生活を彩るフラワーアレンジメント	23 人		駛馬
H26	暮らしを彩る“花”講座	11 人	サークル発足(5 人)	中央
	初心者歓迎！！基本のお料理教室	15 人	指導サークル加入(7 人)	三川
	暮らしに役立つラッピング講座	16 人	サークル発足(10 人)	勝立
	初心者のためのエクセル講座 ～目指せ！キャリアアップ～	20 人	サークル発足(9 人)	吉野
	癒しの苔玉とミニミニ盆栽	20 人	サークル発足(22 人)	三池
	はじめてさんのやさしいパン作り講座	15 人	サークル発足(6 人)	手鎌
	ふっくら楽しいパンづくり	20 人	サークル発足(13 人)	駛馬
H27	動きしなやか太極拳入門講座	19 人		中央
	心と体を美しく！BEAUTY YOGA	35 人	サークル発足(15 人)	三川
	初心者のためのネイル講座～必ずなれる指先美人～	16 人	サークル発足(8 人)	勝立
	エクセルを活かそう！～初級からのステップアップ編～	15 人		吉野
	しゃべりたくなる♪おもしろ落語講座	18 人	サークル発足(10 人) ★年 2 回寄席開催	三池
	はじめてさんの海外旅行英会話講座	17 人	サークル発足(11 人)	手鎌
	日本を美味しくいただきます！基本の漬物レシピ	22 人		駛馬
H28	クラシックギターでやわらかな調べを奏でよう！	15 人	サークル発足(5 人)、既存サークル加入(2 団体、計 6 人)	中央
	手作りって楽しい！初心者からのスイーツ講座	18 人	2 サークル発足(計 15 人)	三川
	はじめよう！気軽に学べる中国語講座	23 人	2 サークル発足(計 17 人)	勝立
	私でも大丈夫♪「ワンランク上のビーズアクセサリー」	22 人	サークル発足(12 人)	三池
	誰でもお手軽クッキング講座	10 人		駛馬
H29	大人がときめく おりがみ講座	20 人	指導サークル加入(4 人)	吉野
	まずはチャレンジ!!お料理基本(き・ほ・ん)講座	17 人	サークル発足(7 人)	手鎌

②一時保育を行う講座の充実 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

今回の調査では、子育て中の人から、子どもが成長したら働くことができるよう、一時保育のあるキャリアアップ講座を望む声が聞かれました。子育て中の人が学びたいことを学べるように、各事業において、一時保育ができるような環境を整える必要があります。

この環境づくりの第一歩として、受け入れる子どもの年齢・人数、保育士の人数等、一時保育を行う際の一定の基準等を作成し、基準に基づいた一時保育のある講座等の充実を図り、子育て中の市民の学習活動を支援していきます。

【取り組み状況・実績】

平成 24 年度に「一時保育マニュアル作成プロジェクト」を立ち上げ、2 か年にわたって地区公民館の事業における一時保育の対応について協議・検討を行い、子育て中であっても学習活動を行えるよう、一時保育に関するマニュアル(子どもの年齢・人数、保育者の数、謝礼金、一時保育利用者の負担金等)を作成しました。

【課題等】

平成 26 年 4 月 1 日以降に実施する事業(家庭教育支援に関する事業及び一時保育の希望者が想定される事業)に適用していますが、市民からの要請がなかったことから、家庭教育の支援に関する事業を除き、これまで一時保育を行った実績はありません。

しかしながら、近年、地区公民館の一般成人向け講座や他の社会教育施設において市民から一時保育に関する問合せや要望があったことから、今後は地区公民館のみならず他の社会教育施設も含め、保護者が参加しやすい時間帯などの配慮や、一時保育の対応について検討し、子育て中の市民の学習活動の場・機会が確保されるよう努める必要があります。

また、地区公民館で開催される講座に一時保育があること自体、市民に広く認知されていないため、講座の参加者を募集する際は、必要に応じて一時保育ができる旨を明記し、周知を図ることも必要です。

<経過>

年度	内 容
H24	一時保育マニュアル作成プロジェクト会議 (H24年6月～H25年2月 / 9回開催) 【検討内容】 ①一時保育の報告、問題点の把握 ②一時保育に必要な保育者、保育者への謝礼の検討 ③保育士を確保するための名簿作成
H25	一時保育マニュアル作成プロジェクト会議 (H25年5月～H25年8月 / 3回開催) ④保育士への依頼書等参考様式の作成 ⑤家庭教育事業以外での一時保育の受講者負担 ⑥一時保育を行う事業 など
H26 ～	一時保育マニュアルの運営開始(H26年4月1日～)

(2)自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

①仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み 【生涯学習課(生涯学習担当)】

【平成 23 年の提言内容】

50 歳代以下、特に 40 歳未満の比較的若い年代は、職業上必要な知識・技能・資格取得に関することを学習していることが分かりました。

本市が行っている「メニューいろいろまちづくり出前講座」(行政職員が、学びたい市民のもとへ出向き、市政の説明や実習を行う)は、市民へ日常生活に役立つ知識を提供するとともに職員の専門知識の再確認やプレゼンテーション能力を高めることに役立っています。

【取組み状況・実績】

平成 28 年度に「大牟田市生涯学習まちづくり推進本部」(※1)において、“企業による出前講座”(市民の受講料は無料)の実現に向け、具体的な協議・検討が行われました。大牟田商工会議所の協力を得て参画企業を広く募り、平成 29 年 5 月から企業出前講座「がんばる地場企業」が 8 社・14 メニューでスタートしました。

平成 29 年度は、年間に 21 回の講座が開催され、延べ 485 人の市民が企業等から専門的な知識・技能をわかりやすく楽しく学ぶことができました。平成 30 年度は、新たに 3 社が参画しメニュー数も約 2 倍(27 メニュー)に増え、より充実した内容で事業が展開されています。

【課題等】

生涯学習を推進するうえで、民間企業から多大な協力が得られることは、本市の強みです。当該事業は、『生涯学習社会』(誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだ成果を活かせる社会)の実現に大きく寄与することが期待されることから、今後は登録企業数やメニュー数の増加を図り、より一層充実・発展していくことが望まれます。

<企業出前講座「がんばる地場企業」>

年度	参画企業(登録企業)	講 座 メ ニ ュ ー
H29	久留米ヤクルト販売(株)大牟田営業所	「ウン知育教室」/おなかの菌学/おなか元気教室/寝たきり予防に筋力アップ! /脳元気生活! 手と脳の密接な関係/免疫力を高めて元気度アップ
	(株)野口印刷所	心構えが人生を変える売れる人・売れない人
	HMS九州	ギターまるわかりセミナー
	(株)白雲社	これからの終活&葬儀セミナー
	(有)グリーンピース磯浜	フラワーアレンジメント等の講習
	海づか	鮮魚のおいしい食べ方、調理法
	信号電材(株)	工場見学/腹話術による交通安全教室
	ジブラルタ生命保険(株)	学ぶ門には福来る! 知っ得セミナー

年度	参画企業(登録企業)	講 座 メ ニ ュ ー
H30	久留米ヤクルト販売(株)大牟田営業所	H29 年度と同じ
	(株)野口印刷所	H29 年度と同じ
	H M S 九州	H29 年度と同じ
	(株)白雲社	H29 年度と同じ
	(有)グリーンピース磯浜	H29 年度と同じ
	海づか	H29 年度と同じ
	信号電材(株)	H29 年度と同じ
	(株)マルエ産業	まず出来ることから「家庭内事故防止」セミナー／自転車の安全運転講習／介護施設向け危険予知トレーニング／ピンポイントで学ぶ身近な防災対策／エンディングノートから始める楽しむ終活
	ありあけ不動産ネット協同組合	早めの対策が未来を変える！不動産の相続と認知症
	ジブラルタ生命保険(株)	おこづかいが子どもを変える！／介護・医療セミナー／相続セミナー／年金セミナー／知っトク！リタイアメント・ナビ／外貨活用講座
	大牟田ガス(株)	ガスなぜなぜ？豆知識！／ヒートショック事故を防ごう！豆知識講座

※ 1 「大牟田市生涯学習まちづくり推進本部」(事務局：大牟田市生涯学習課)

「大牟田市生涯学習まちづくり推進基本構想」に基づき、“誰もが生涯にわたって、いつでも、どこでも学ぶことができ、その成果を適切に活かすことができる社会(生涯学習社会)”の実現に向けた取組みを市民自ら主体的に推進するための組織です。

経済団体、教育関係団体、福祉関係団体、大牟田市等の団体から推薦された委員及び公募による委員で構成され、本部長は民間人が務めています。

“生涯学習社会”の実現を目指し、「生涯学習ボランティア登録派遣事業(愛称：まなばんかん)」、「市民大学講座」、「企業出前講座」などの取組みが行われています。

②青年自身が活躍の場をつくり出す取組み【生涯学習課(青少年教育担当・市民活動担当)】

【平成 23 年の提言内容】

青年期は、人生の中で輝きのある時期であり、青年の活動は、まちや社会の活力の源ともなります。しかしながら、今回の調査で、青年が活動する場や機会が少ないことと、青年層に見合った学習情報が少ないことが分かりました。

そこで、青年が活躍の場をつくり出す第一歩として、自らの主張や活動の場を発信する仕組みづくりが必要だと考えます。まずは、青年に身近なブログ、ツイッター、フェイスブックなどを活用した情報発信を行い、青年に情報が届くようにすることが必要です。

そして、新たな情報や活動を知るきっかけを得る場、新たな出会いの場をつくり出しながら、青年が同世代の青年たちや、まちへ情報発信を行う人材を養成していきます。

【取組み状況・実績】

青年の社会参加促進などを目的に、平成 23 年度から青年の仲間づくりと交流の場を提供する「青年社会参加促進事業」、青年のスキルアップを目的とした「青年スキルアップ事業」、青年のボランティア活動の機会提供、支援等を目的とした「青年ボランティア活動支援事業」を実施するとともに、活動の場の提供を行っています。

平成 25 年には、大牟田市市民活動等多目的交流施設「えるる」を開設し、市民活動の支援、次世代育成支援とともに、さらなる青年活動の支援及び青少年の健全育成等を図っています。「えるる」開館時には、講座から立ち上がったバルーンアート、料理のサークル等が開館イベントで活動成果を発表するなど、青年の活動機会の確保について一定の成果が見られました。

平成 26 年度からは、「えるる」の講座やイベントなどはもとより、「えるる」利用の市民活動団体の活動紹介、地域のイベント情報をフェイスブック、館内の掲示板などで情報発信を行い、青年層への学習情報の発信、並びに活動の場を提供していますが、平成 24 年度以降、講座数、青年の参加率ともに減少している状況です。減少の要因は、少子高齢化、生活スタイルや職業観の多様化など社会的要素が影響していると思われますが、青年層のニーズを把握できなかったことや、学習活動から社会参加への仕組みを構築できなかったことも考えられます。また、前述の青年教育に関する事業については、現在の若者のニーズに添っていないと判断し一部休止（「青年スキルアップ事業」は平成 29 年度から休止、「青年社会参加促進事業」は平成 30 年度から休止）しており、「青年ボランティア活動支援事業」についても、平成 27 年度と平成 28 年度は連続講座の参加者が見込めず休止しました。

一方、ボランティア活動は若者の関心が高い分野であることや市民活動促進策においても、若者の市民活動への参加のニーズは高いこともあり、平成 29 年度からは、市民活動サポート事業として、大牟田市社会福祉協議会等と連携し講座を実施するなど若者の市民活動の支援に努めています。

【課題等】

今回の調査研究の一環として実施したインタビュー調査(若者意識調査)では、ボランティア活動や地域活動に関心のある若者の割合が 7 割という高い結果となったことから、青年の活動意欲をまちづくりに活かしていく必要があります。

今後は、青年層へのより効果的な情報発信の手法を検証し、情報発信の強化を図るとともに、青年層が学習活動を通して、自らが主体的に活動できる機会の提供、並びに社会参加しやすい仕組みの構築に努めていきます。

<青年教育に関する主な取組み>

年度	事業名	内 容
H23	青年社会参加活動促進事業	東日本大震災から学ぶ(8回・延 60 人) ヨガときどきハーブとアロマ(10回・延 146 人)
	青年ボランティア活動支援事業	K A R A になりきって踊っちゃおう(12回・延 137 人)
	青年スキルアップ事業	コミュニケーション能力・社会人としてのマナー向上セミナー(1回・40 人)
H24	青年社会参加活動促進事業	今年の夏はあなたも浴衣美人に変身(7回・延 92 人) ココロ踊る J-POP でハモろうよ(8回・延 65 人) 男女で会話がはずむクッキング教室(8回・延 87 人) Latte art in Furepi(7回・延 66 人) 基礎から学ぶペン習字と絵手紙(7回・延 18 人) Dream サンタへの支援(スタッフ 20 人・訪問家庭 33 軒) 第 65 回成人式の開催(参加者 804 人)
	青年ボランティア活動支援事業	プチ喜びを自分に人に ネイルアートで女子力アップ (10回・延 145 人)
	青年スキルアップ事業	コツをつかんでコミュニケーション力アップセミナー・出ています か社会人(就活)のためのマナーセミナー(1回・24 人)
H25	青年社会参加活動促進事業	パスタ DE イタリアン(6回・延 42 人) フレンズピア閉館記念座談会(1回・50 人) Tomo Tomo Café(1回・23 人) Dream サンタへの支援(スタッフ 19 人・訪問家庭 48 軒) 第 66 回成人式の開催(参加者 722 人)
	青年ボランティア活動支援事業	イベント装飾バルーンアート講座(12回・延 117 人)
	青年スキルアップ事業	スマートフォンでスキルアップ(IT 活用講座)(2回・延 28 人)
H26	青年社会参加活動促進事業	かんたんワンプレートランチ&スイーツ講座(6回・延 51 人) ヨガで美(実)活(5回・70 人) はじめてのハワイアンフラ講座(4回・延 22 人) Dream サンタへの支援(スタッフ 51 人・訪問家庭 42 軒) 第 67 回成人式の開催(参加者 720 人)
	青年ボランティア活動支援事業	若者のためのコミュニケーション講座(7回・延 29 人)
	青年スキルアップ事業	つかみは OK! コミュニケーション力アップ講座(11 人) 社会人のための知って得するマナー講座(11 人)
H27	青年社会参加活動促進事業	はじめての手作りパンでごほうびカフェランチ(6回・延 64 人) Dream サンタへの支援(スタッフ 15 人・訪問家庭 39 軒) 第 68 回成人式の開催(参加者 609 人)
	青年ボランティア活動支援事業	未実施
	青年スキルアップ事業	楽しく学ぶコミュニケーションのコツ(10 人) 一歩先行く職場のマナー(11 人)
H28	青年社会参加活動促進事業	はじめてのヨガ(5回・延 65 人)
	青年ボランティア活動支援事業	Dream サンタへの支援(スタッフ 11 人・訪問家庭 10 軒)
	青年スキルアップ事業	楽しく学ぶコミュニケーションのコツ(4 人) 一歩先行く職場のマナー(5 人)
	成人式の開催	第 69 回成人式の開催(参加者数 706 人)

H29	青年社会参加活動促進事業	家でカンタンにできる中国料理講座(4回・延 17 人) バレンタインデー & ホワイトデーに作ろう！お菓子講座(4回・延 24 人)
	青年ボランティア活動支援事業	九州北部豪雨災害ボランティア派遣及び移動支援(2 か所・22 人) 大牟田市社会福祉協議会との共同によるボランティア講座(2 日・延 54 人)
	青年スキルアップ事業	休止
	成人式の開催	第 70 回成人式の開催(参加者数 674 人)

③高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

高齢化が進む本市では、高齢者が学習成果を活かした活動に取組みやすい仕組みを拡充することが必要だと考えます。

現在実施している『生涯青春はつらつ塾』の「ボランティア塾」は、高齢者が学んだことを学校などで子どもたちへ教え、閉講後に受講者が設立したボランティアグループを地区公民館が支援しています。『生涯青春はつらつ塾』は、福岡県の委託事業を活用して実施しており、この県の事業が平成 24 年度までで終了しますので、本市独自の運営基盤の確立について関係機関と検討を進め、事業の拡充を図ります。

【取組み状況・実績】

福岡県の委託事業が終了することを踏まえ、平成 24 年度に「生涯青春はつらつ塾実行委員会」において本市独自で実施する事業について検討が行われました。本市の「高齢者保健福祉計画・第 5 期介護保険事業計画」(平成 24～26 年度)の基本目標『生涯現役を目指す自立活動の推進』の一つとして、“高齢者の生きがいがづくり”が掲げられていたことなどから、平成 25 年度から、保健福祉部と連携して、高齢者の生きがいがづくり、社会参加の促進、介護予防等を目的とした高齢者生きがいがづくり社会参加促進事業『生涯青春まなびの扉』がスタートしました。

なお、それまで、高齢者が学んだ知識・技能を人々や社会へ還元する取組みとして開催していた“高齢者のためのボランティアの講座”と“高齢者が身に付けた知識・技能を一般成人へ教える講座(マナビ塾)”は継続して実施しています。

「ボランティア塾」(平成 24 年度まで「ボランティア講座」)は、平成 25 年度から平成 29 年度にかけて延べ 28 講座(延べ受講者数 402 人)を実施し、これまでに 17 のボランティアグループ(177 人)が発足しました。

また、そのうち 11 グループ(118 人)が「生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)」(以下「まなばんかん」という。)に登録し、受講者の 21 人が「まなばんかん」の登録団体(3 団体)へ加入しました。

「まなばんかん」の登録団体は、小学校(授業、PTA の支援等)、地域(子ども会、老人会、町内公民館の行事等)、民間施設(医療介護施設の行事等)、公共施設(えるる・つどいの広場)など、市内の様々な場所で幅広く活躍されており、人々の生活や社会に大きく貢献されています(平成 30 年 12 月現在で「まなばんかん」に登録しているグループは 10 団体)。

一方、「マナビ塾」(高齢者が講師を務める講座)については、平成24年度から平成29年度の6年間で36講座を実施しました(延べ受講者数649人)。その結果、延べ29のサークルが発足し、市民の学習活動の場を数多く創出することができました。

【課題等】

上記の講座によって、多くのボランティアグループやサークルが誕生しましたが、会員の多くが高齢者であるため、近い将来、高齢化を起因とした様々な問題(メンバーの確保、後継者の育成等)が生じ、グループ・サークルの維持・継続が困難になることが予想されます。

このため、当該事業を今後実施するうえでは、講座終了後に発足した団体が継続して学習活動が行える仕組みづくりや支援の在り方を検討することが不可欠です。

＜高齢者生きがいづくり社会参加促進事業 『生涯青春まなびの扉』 ボランティア塾＞

年度	講座名(場所)	受講者	講座終了後の成果	まなばんかん登録年度	担当地区館
H25	自然ガイド養成講座 (中央地区公民館、延命公園等)	15人		—	中央
	竹細工ボランティア養成講座 (三川地区公民館)	15人	指導サークル「竹細工会」加入(6人)	—	三川
	折り紙ボランティア講座～自分の得意なことで人もしあわせに！～(勝立地区公民館)	12人	サークル「折り紙鶴の会」加入(6人)	—	勝立
	習字の時間お助け隊 (吉野小)	13人	ボランティアグループ「習字お助けクラブ」発足(9人)	—	吉野
	小学校英語授業アシスタント養成講座 (三池小)	15人	ボランティアグループ「Hello Friends」発足(11人)	H25～H26	三池
	美しい音色で感動を！癒しのハンドベル講座(手鎌地区公民館、特別養護老人ホームこもれび)	13人		—	手鎌
	昔あそび おまかせ講座 (駛馬地区公民館)	13人		—	駛馬
H26	集まれミシンボランティア in 平原小	14人	ボランティアグループ「こっとんくらぶ」発足(10人)	H26～	中央
	いきいきミシン応援隊(天領小・みなと小)	18人	ボランティアグループ「ソーイングサクラ」発足(11人)	—	三川
	茶道ボランティア養成講座 (玉川小)	12人	まなばんかん登録団体「きさらぎ会」へ4人入会	(H26～H29)	勝立
	習字の時間お助け隊 パートⅡ～倉永小～ (倉永小)	14人	ボランティアグループ「習字お助けクラブ」へ2人入会	—	吉野
	地域の歴史ボランティアガイド養成講座 (三池小)	10人	ボランティアグループ「三池の歴史を学ぶ会」発足(8人)	—	三池
	やさしい寄せ植えとガーデニングボランティア養成講座(手鎌地区公民館・明治小)	18人		—	手鎌
	学校サポーターはじめの一步講座 (駛馬北小・駛馬南小)	18人	ボランティアグループ「駛馬ミシンクラブ」発足(8人)	—	駛馬

H27	小学校でミシンボランティアをしてみよう！(大牟田小)	15 人	ボランティアグループ「なでしこ」発足(10 人)	H27～	中央
	ボランティア養成講座 ～心と技を学ぶ！書道～(三川地区公民館)	15 人	ボランティアグループ「花鳥風月」発足(14 人)	H29～	三川
	ミシンサポーター養成講座 ～in 天の原小学校～	15 人	ボランティアグループ「どんぐり」発足(11 人)	H27～	勝立
	ミシンの時間お助け隊～吉野小～	14 人	まなばんかん登録団体「布れ愛工房」へ 8 人入会	(H23～)	吉野
	折り紙ボランティア養成講座 (三池地区公民館)	15 人	ボランティアグループ「折り紙ボランティアサークル『ひまわり』」発足(15 人)	H30.10～	三池
	野菜をつくろう！菜園ボランティア講座 (手鎌地区公民館)	20 人	まなばんかん登録団体「手鎌はばたん会」へ 9 人入会	(H19～)	手鎌
	育てよう花と緑！学校花壇ボランティア講座 (駿馬北小・駿馬南小)	10 人	ボランティアグループ「花と緑の会『菜の花』」発足(10 人)	—	駿馬
H28	着物の着付けボランティア養成講座 (三川地区公民館)	17 人	ボランティアグループ「着付けサークル『紬』」発足(3 人)	H29.8～	三川
	笑顔ふくらむ！バルーンアート講座 (吉野学童、白銀保育園)	15 人	ボランティアグループ「すまいるバルーン」発足(17 人)	H28～	吉野
	裁縫ボランティア養成講座 (甘木山乳児院)	14 人	ボランティアグループ「ぶらんけっと」発足(10 人)	H28～	手鎌
H29	ミシンの時間応援隊 in 中友小学校	8 人	ボランティアグループ「なかともミシン」発足(9 人)	H29～	中央
	書道ボランティア養成講座～豊かで穏やかな心と技を学ぼう～(玉川小)	14 人	指導サークル「硯水会」へ 1 人入会	—	勝立
	歌のボランティア養成講座 (平野公民館、サンクス福木)	14 人	ボランティアグループ「歌とあそぼーい」発足(8 人)	H29～	三池
	“心とからだの癒し”～健康の伝道師～ボランティア講座(駿馬地区公民館)	16 人	ボランティアグループ「健脚くらぶ」発足(13 人)	—	駿馬

○ボランティアグループが発足して、「まなばんかん」へ登録した講座数 ……計 11 講座

○ボランティアグループは発足しなかったが、「まなばんかん」登録団体へ加入した講座数 ……計 3 講座

○平成 30 年 12 月 1 日現在で「まなばんかん」に登録している団体数(加入団体を除く) ……計 10 団体(※網掛け)

※「マナビ塾」については、96 頁参照

(3)ふるさと大牟田を知る取組み 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

今回の調査では、健康づくりや趣味、子育てなどの日常生活に身近なことを学び、日常生活や地域活動などの身近な活動に活かしている人が多いことが明らかになりました。身近なことを学べるよう、多様なかたちで数多くの学習機会が提供できる仕組みづくりも課題となっています。また、本市の歴史やゆかりのある人物、史跡、自然など、一般的に広く知られているとはいいがたい地域資源も多くあります。

そこで、身近な地域のことを学ぶ学習機会として、ふるさと大牟田のことを知る取組みを充実させる必要があると考えます。まずは、世界遺産本登録を目指した取組みが進められていることから、近代化遺産を学習する機会にあわせて、地域の文化財や自然、景観、伝統文化なども一緒に学習するような講座を充実していきます。また、地区公民館の講座を通じ一部の地域で行われている「〇〇地域お宝マップ」や地域資源をめぐるウォークラリー等の、地域のことを学び、魅力を再発見する事業を他の地域や市全域に広げていくことも必要です。

将来的には、大牟田のことを市民が親しみやすく、楽しく学べる成人向けの「大牟田検定」の取組みや、歴史を学びまちづくりに生かす「大牟田学」(※2)の検討を進めていきます。

〔※2「大牟田学」…近年、地域の名前を冠した地域学と呼ばれる活動が全国各地で盛んになってきている。自分の住む地域の歴史や文化、産業、自然などを見つめ直し、地域の魅力や可能性を発掘しようとするもの。〕

【取組み状況・実績】

平成 25 年度から 3 か年にわたり、市民の郷土に対する愛着や誇りを醸成し、市民主体のまちづくり活動を促進することを目的とした「ふるさと大牟田講座」を全地区公民館で実施しました。

7 地区公民館において、それぞれ「祭り・行事」、「近代化産業遺産」、「産業」、「自然」、「地域の歴史」、「史跡・名所」、「文化・人」のテーマを設定し、講義はもとより、現地見学や体験、さらには文献を調べるなど、受講者同士で郷土について学び合い(延べ受講者数 680 人)、それら大牟田の魅力を市民の皆さんへ伝えるために、受講者自ら、冊子、マップ、郷土カルタなどの成果物を制作しました(成果物は、大牟田市立図書館及び 7 地区公民館の郷土史コーナーに配架されています[貸出可能])。

また、これらの成果物は、地区公民館の他の主催事業(地域魅力アップ支援事業：地域巡りのガイド)やサークル連絡会の研修会を初め、小学校の総合学習、子どもの居場所(カルタ大会)等で活用されています(平成 29 年度末現在で延べ 10 事業(延べ参加者数 783 人)で活用)。

なお、市民の郷土愛や都市への誇りを育む取組みとしては、「ふるさと大牟田講座」以外に、従前より実施していた「地域魅力アップ支援事業(平成 20～27 年度)・地域力アップ支援事業(平成 28 年度～)」において“小学校区単位”で郷土の魅力を掘り起こす取組みを展開しており、地域のお宝マップの作成やウォーキングなどを実施しました(平成 24 年度から平成 29 年度にかけて全 19 事業実施)。その他にも、一般成人事業などでふるさと大牟田を知る取組みを実施しました(平成 24 年度から 29 年度にかけて 6 事業)。

【課題等】

平成 29 年度は、地域の歴史や文化を学ぶ講座を実施している地区公民館が 1 館に留まっていることから、今後はより多くの地区公民館において、郷土の魅力を再発見する取組みを展開することが必要です。

＜ふるさと大牟田講座＞

担当 地区館	テーマ	年度	講 座 名	受 講 者数	郷土愛が 深まった 人の割合	成果等
中央	祭り・行事	H25	おおむた歳時記～祭りの向こうに見える わが郷土(まち)～	27 人	76%	○サークル研修会 における学習発 表(H28.2) 参加者 40 人
		H26	あなたの知らない大蛇山	35 人	90%	
		H27	おおむたの祭り	21 人	100%	
三川	近代化 産業遺産	H25	遺産が語る先人の想いを未来へ	26 人	81%	○サークル研修会に おける学習発表 (H27.5) 参加者 77 人 ○天領校区地域魅力 アップ支援事業にお けるが「ト」(H28.1) 参加者 36 人 ◎「三川まちかど案 内人の会」発足(ま なばんかん登録)
		H26	今日からあなたも“遺産まちかど案内人”	22 人	100%	
		H27	今日からあなたも“遺産まちかど案内人”	21 人	73%	
勝立	産業	H25	「おいしい大牟田」発見!	50 人	71%	○サークル研修会に おける学習発表 ①H27.6 ②(H28.1) 参加者 計 68 人
		H26	「あかるい大牟田」発見!	30 人	100%	
		H27	「あらたな大牟田」発見!	52 人	100%	
吉野	自然	H25	親子で探検!～ふるさと大牟田の豊かな自然～	10 組 24 人	64%	○サークル研修会 における学習発 表(H28.3) 参加者 40 人
		H26	三池山の魅力を探ろう!!ふるさと大牟田の 豊かな自然～	22 人	82%	
		H27	三池山の魅力を探ろう!!ふるさと大牟田の 豊かな自然 Part2～	15 人	100%	
三池	特定の地域	H25	三池の歴史を知りつくす～三池藩の歴史 と花薫る山寺巡り編～	50 人	94%	○三池小学校児 童、保護者への ガイド (H27.11)2 回 参加者計 450 人
		H26	三池の歴史を知りつくす～800 年の時を 刻む三池街道編～	51 人	93%	
		H27	三池の歴史を知りつくす～江戸の面影を 残す宿場町編～	51 人	89%	
手鎌	史跡・名所	H25	大牟田市の神社を探る!パワースポット	36 人	76%	○サークル研修会 における学習発 表(H27.6) 参加者 52 人
		H26	大牟田市の神社を探る!あなたの身近なパ ワースポット	31 人	95%	
		H27	大牟田市の神社を探る～郷土の歴史と史 跡めぐり～	33 人	100%	
駛馬	文化・人	H25	團琢磨の足跡からたどるおおむた再発見講座	38 人	89%	○アンビシャス広 場における「郷土 カルタ大会」 (H28.1) 参加者 20 人
		H26	未来へ発進!～おおむた輝き人との出会い 講座～	22 人	70%	
		H27	おおむたの魅力をカルタにしよう～子ど もたちに伝えたい大牟田の宝～	23 人	91%	

<地域魅力アップ支援事業／一般成人事業／まなびの扉(ボランティア塾)>

年度	事業名	講座名等(校区)	担当 地区館
H24	地域魅力アップ支援事業	天領校区八十八カ所めぐり実施講座パートⅡ(天領)	三川
		玉川お宝百景～記憶から記録へ～(玉川)	勝立
		吉野校区ウォーキングガイド作成(吉野)	吉野
		羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～(羽山台)	三池
		探検!手鎌のあんなとここんなどこ&水鉄砲大会(手鎌)	手鎌
		ミステリー追跡ゲーム in 黒崎公園(手鎌)	
		わが町のお宝情報発信プロジェクト パート1 近代化遺産見学会 ～近代化遺産を見てみよう!歴史の空気を感じてみよう!～(駛馬北)	駛馬
	政治学級	近代化産業遺産に学ぶ～魅力的なまちづくりを目指して!～	三川
H25	地域魅力アップ支援事業	天領校区八十八カ所めぐりパートⅢ(天領)	三川
		近代化遺産見学会(みなと)	
		玉川お宝百景～記憶から記録へ～(玉川)	勝立
		吉野歴史探訪・健康ウォーキング(吉野)	吉野
		羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～(羽山台)	三池
		わが町のお宝情報発信プロジェクト パート2 スポーツごみ拾い in 宮原坑(駛馬北)	駛馬
H26	地域魅力アップ支援事業	時を越えて天領の魅力をつなぎ隊(天領)	三川
		わが町のお宝情報発信プロジェクト パート3 駛馬まち育てカフェ (駛馬北・駛馬南)	駛馬
	まなびの扉・ボランティア塾	地域の歴史ボランティアガイド養成講座	三池
H27	地域魅力アップ支援事業	～時を越えて天領の魅力をつなぎ隊～楽しく学ぼう!わくわく石炭体験 (天領)	三川
		わが町のお宝情報発信プロジェクト 駛馬 machi なかおもてなし計画 ～駛馬まち歩きガイド養成講座～(駛馬)	駛馬
H28	地域力アップ支援事業	銀水校区地域づくりステップアップ支援事業	三池
		明治校区紙飛行機&〇×クイズ大会	手鎌
	一般成人事業	「つながる大牟田」発見!	勝立
		三池散歩 いにしえの寺社めぐり	三池
H29	一般成人事業	“みいけ”に会おう!～伝統文化と歴史講座～	三池
		もっと知りたい!三池藩	
		おおむた御朱印めぐり	
		宗茂と直次	
	サークル社会参加促進事業	子ども大牟田検定にチャレンジ	三池

(4) 市民に身近な場所で行う事業の拡充 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

今回の調査では、身近な場所での学習機会が求められていることが分かりました。また、身近な地域で、子どもから高齢者まで誰もが集まり、互いに交流しながら学習活動及び学習成果を活かす活動を行う仕組みを、学校・家庭・地域が連携してつくることや、誘い合うことの効果、大切さを認識し学習活動に人を誘うなど、自然と「声をかけ合う」ことのできる気運づくりなどを行うことも課題となっていました。

そこで、地区公民館等の事業の一部を、小学校や町内公民館(建物)、地域交流施設で実施するなど、関係団体等と連携して、市民に身近な場所で行う事業を拡充していく必要があると考えます。そして、これらの取組みを、親しみのもてる継続的な取組みとするためには、子ども会や町内公民館、PTAなど、身近な圏域で活動する社会教育関係団体及び地域にある事業所等との協議を丁寧に行い、連携を図りながら実施することが重要です。

なお、子ども会や町内公民館の活動、子どもの居場所づくりなど、身近な圏域を対象とした地域住民の主体的な活動については、関係者との信頼関係の構築に努め、積極的に支援することが活動の促進に効果的だと思われます。

【取組み状況・実績】

7 地区公民館はそれぞれ小学校単位で担当校区が設定されていますが、地区公民館がない校区の市民や地域団体にとって地区公民館は物理的・心理的に距離があるため、積極的に出向いて地域住民・団体との関係や連携を深めるよう努め、学習機会の提供や地域づくりに資する取組みを展開する必要があります。

このため、離れた担当校区については、小・中学校、地域交流施設、町内公民館(自治公民館)等、住民に身近な施設を利用して、趣味・教養の講座、子どもの居場所、コンサート、防災講座などの出前講座や事業を実施しています。

特に、地区公民館の看板事業として校区単位で地域づくりを推進している「地域魅力アップ支援事業」は、地域からの要望、課題等を踏まえ、地域の歴史・自然・文化などに触れることで郷土の魅力を再発見する取組みや、防災、交通安全、認知症対策といった地域で安心・安全に暮らすための取組みなどを行っています。

平成 28 年度からは、コミュニティの再生、地域活動の後継者発掘・育成等の課題解決を図るため、事業の手法を一部見直し、地域担当職員や校区まちづくり協議会などとの連携を強化した「地域力アップ支援事業」を展開しています。このような取組みの結果、これまで各地区公民館の運営委員会(地域関係団体の代表や学校長などで構成)において、「出向いてもらい評判が良かった、好評だった」等、一定の評価を得ています。

【課題等】

平成 24 年度から平成 29 年度までの 6 年間に、地区公民館が離れた担当校区で実施した事業の数は延べ 60 事業で、年間平均 10 事業(1 館あたり 1.42 事業)となっています。各館の取組み状況に差が見られ、実施する校区の偏りや、一度も実施されていない校区もあることから、各館においては、積極的に担当校区のニーズや課題等を把握するよう努め、計画性や公平性のある事業展開を行うことが必要です。

なお、担当校区の社会教育関係団体、事業所等との連携や、学んだ成果を活かす仕組みづ

くりを行う点については、一部の校区を除いて、まだ不十分な状況にあります。

こうした課題を解決し、地区公民館が地域の拠点としての役割を果たすためには、関係課や関係機関・団体と意見交換や協議を行い、学んだ成果を活かす仕組みづくりの構築、さらには、各担当校区の地域づくりのための中・長期的な支援計画の樹立など、早急に対策を講じることが必要です。

<市民の身近な場所で実施した事業(地区公民館がない校区で実施した事業)>

年度	事業名	講座名等(会場)	担当地区館
H24	地域魅力アップ支援事業	○防災で広げよう地域のネットワーク(上官小)	中央
		○防災から考える地域ネットワーク作り 三校区合同防災訓練(勝立中)	勝立
		○地域活動に活かす!上内パソコン塾パートⅡ(上内小)	吉野
		○地域で活かす!“楽・らく”パソコン塾(倉永小)	手鎌
	子どもの居場所づくり支援事業	○防災で広げよう地域のネットワーク(明治小)	手鎌
H25	地域魅力アップ支援事業	○出前子どもの居場所(天領小)	三川
		○正しい交通ルールとマナーを再確認!交通安全教室(上官小)	中央
		○暮らしの安心・安全出前講座(天領小)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(勝立中)	勝立
		○地域活動に活かす!上内パソコン塾パートⅢ(上内小)	吉野
		○地域で活かす!“楽・らく”パソコン塾(倉永小)	手鎌
H26	一般成人事業	○防災で広げよう!地域のネットワーク(明治小、えるる、明治会館)	手鎌
	家庭教育支援事業	○ころばぬ先の体力測定(飯田町公民館、一部町公民館)※駿馬北校区でも実施	駿馬
	家庭教育支援事業	○よしの de セミナー 家庭の絆ふかまるスクラップブック教室(元村公民館)	吉野
	地域魅力アップ支援事業	○正しい交通ルールとマナーを再確認!交通安全教室(上官小)	中央
		○防災から考える地域ネットワーク作り(日明公民館・土穴公民館・地域交流広場いちの)	勝立
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(勝立中)	勝立
		○みんなでつくろう!安心・安全な上内(上内小)	吉野
		○地域がつながる!倉永タブレット講座(小規模多機能施設わたぜ)	吉野
H27	地域魅力アップ支援事業	○銀水校区防災から始めるまちづくり Vol.2(銀水小)	三池
		○高取校区ふれあい交流支援事業(高取小)	三池
		○よしの de セミナー ママコリ解消講座(高田公民館)	吉野
		○生まれ!ミシンボランティア in 平原小(平原小)	中央
		○いきいきミシン応援隊(天領小)	三川
	生涯青春まなびの扉(ボランティア塾)	○習字の時間お助け隊 パートⅡ～倉永小～(倉永小)	吉野
		○やさしい寄せ植えとガーデニングボランティア養成講座(明治小)	手鎌
		○学校サポーターはじめの一步講座(駿馬南小)※駿馬北小でも実施	駿馬
		○初めてのスマートフォン&タブレット入門講座 in 中友(中友小)	中央
		○防災から考える地域ネットワーク作り(教楽来・山口・薬師丸公民館)・	勝立
	地域魅力アップ支援事業	○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(勝立中)	勝立

		○家族を守る!万一にそなえる上内防災マップ作り(上内小) ○地域でつながる!倉永タブレット講座 Part2 (倉永校区コミュニティセンター)	吉野
		○子どもが輝く地域づくり(明治会館)	手鎌
		○高取校区ふれあい交流支援事業(高取小)	三池
	生涯青春まなびの扉 (ボランティア塾)	○育てよう花と緑!学校花壇ボランティア講座(駛馬南小)	駛馬
H28	地域力アップ支援 事業	○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～(通町 2 丁目東・通町 1 丁目公民館) ○知っておくとよい葬儀や終活のお話(県営住宅小浜第 2 団地集会所)	中央
		○天領校区防災運動会(天領小)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(黒尾公民館、善徳自治会、玉川小)	勝立
		○勝立地区(二校区)合同防災訓練～防災運動会～(勝立中)	吉野
		○上内校区災害図上訓練(上内小学校)	
		○スマートフォンデビュー塾(倉永校区コミュニティセンター)	手鎌
		○明治校区紙飛行機&○×クイズ大会(明治小学校)	
		○高取校区まち協設立へ向けてのヒントをつかもう(高取団地公民館、銀水コミュニティセンター、旧三井港倶楽部) ○銀水校区地域づくりステップアップ支援事業(久留米市安武校区コミュニティセンター、久留米市柴刈校区コミュニティセンター)	三池
H29	地域力アップ支援 事業	○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～(亀甲町公民館、瓦町公民館、総合福祉センター、龍湖瀬市住集会所) ○大正校区の防災を学ぶ(大正校区コミュニティセンター)	中央
		○天領校区まちづくり協議会設立 5 周年記念 第 2 回防災運動会・ふれあい音楽祭(天領小・天領校区コミュニティセンター)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 玉川校区(中原・本村・上高田・上池谷公民館)防災訓練(中原公民館)	勝立
		○上内校区防災訓練(上内小学校) ○スマートフォンデビュー塾 Part2(倉永校区コミュニティセンター)	吉野
		○4 校区座談会(銀水校区コミュニティセンター)	三池
		○防災からはじめるまちづくり(草木上公民館)	
		○「子供の遊び場」実施支援 (銀水校区コミュニティセンター)	
		○防災からはじめる地域のきずなづくり(高取小)	駛馬
		○防災講演会&ペタンク大会(駛馬南小)	
	生涯青春まなびの扉 (ボランティア塾)	○ミシンの時間応援隊 in 中友小学校(中友小)	中央
		○書道ボランティア養成講座～豊かで穏やかな心と技を学ぼう～(玉川小)	勝立
		○歌のボランティア養成講座(久福木サン荘)	三池
	一般成人事業	○おおむた御朱印めぐり(普光寺・草木八幡宮、大牟田神社、駛馬天満宮)	三池

(5) 学習情報センター機能の拡充

① 学習相談の窓口としての機能の強化〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)・生涯学習課(生涯学習担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

現在、社会教育機関で実施する講座やイベントを把握し、学習相談に応じる取り組みを行っていますが、市民のニーズに応えるには、これをさらに強化する必要があります。

まず、学習相談の窓口としては生涯学習課が適当であることから、生涯学習課が保有する学習情報の量を増やすことが必要です。現在、各課・機関が保有する学習情報を集約するとともに、それらの情報をデータベース化し、地区公民館を初めとする社会教育機関等と共有することを検討します。

将来的には、民間事業者が行う学習関連事業の情報も収集・整備することも検討を進めます。

【取り組み状況・実績】

市民が自発的に生涯にわたって学習に取り組み、心豊かに自分らしく生きていける“まち”にするためには、行政が主催する取り組みはもとより関係機関や民間において行われる各種講座やイベント等に関する情報も広く市民に周知することが望まれます。このため、学習情報誌「まなびのカatalog」(平成 19 年創刊：奇数月発行)の内容をより充実させるために、社会教育施設のみならず市内や高等教育機関、企業・事業所、任意団体等において行われる各種講座、イベント(講演会、展示会、コンサート等)、会員募集などに関する情報を定期的に収集し、学習情報誌、メールマガジン等を介して、市内における様々な学習情報を市民や関係機関・団体等へ周知するよう努めています。

なお、平成 25 年 4 月の機構改革により、教育委員会生涯学習課の生涯学習担当と社会教育担当は、それぞれ市長部局である市民協働部の生涯学習課(延命庁舎)と地域コミュニティ推進課(本庁舎)に分れ、社会教育主事が地域コミュニティ推進課に配置されたことなどから、各種講座・イベントに関する情報発信や学習相談は個々に行っています。随時、関係課において、市内における様々な学習・活動に関する情報の共有化に努めており、報告書「大牟田の教育」において紙面での集約は行っているものの、データベース化には至っていません。

【課題等】

「2018 年版情報通信白書」(総務省)によると、近年、スマートフォンやタブレットなどの情報通信機器の普及により、インターネット利用率は 10 代後半から 50 代は 90%以上におよび、また、60 歳以上の増加が顕著となっています。市民がより詳細でわかり易く学習情報を得られ、学習活動に取り組みやすい環境を整えるためには、できるだけ早急に地域コミュニティ推進課と生涯学習課が連携して様々な情報を一元管理する仕組みを構築し、“学習情報のデータベース化”と“インターネットを介した情報発信”を行うことが必要です。

【注意】 平成 25 年 4 月の機構改革により、社会教育機関の統括(「社会教育事業計画」策定等)は、生涯学習課から地域コミュニティ推進課(社会教育担当)へ移管されました。

②わかりやすく的確な情報提供 【生涯学習課(生涯学習担当)】

【平成 23 年の提言内容】

市民の情報取得手段は、性別や年代によって様々です。例えば、女性や高齢者層は、回覧板や地区公民館だよりを初めとする「紙面」を活用する割合が高く、男性や 39 歳以下の若年層は、インターネットを活用して取得する割合が高くなっています。学習情報を適切に届けるには、紙面による提供の拡充を図るとともに、インターネットなどを活用した方法を検討していく必要があると考えます。

また、学習意欲を潜在的に保有しているが学習活動を行っていない人や、居住年数が短いことにより情報取得手段が少ない人の目にも容易に触れるものとなるような手段の研究が必要です。

【取り組み状況・実績】

紙面による学習情報の提供は、学習情報誌「まなびのカタログ」を初め、「地区公民館だより」、大牟田文化会館情報誌「ゆにぞん」、子育て情報誌「おおむたっ子」、図書館だより「01i01i(オリオリ)」などを定期的に発行しており、発行回数・部数は平成 23 年度と比べて増加しています。また、必要に応じて、「広報おおむた」やポスター・チラシ等で、随時、周知を図っています。なお、職員研修を実施して、高齢者にも見やすくわかりやすい紙面づくりに努めています。

一方、インターネット等を活用した情報発信については、市のホームページに講座・イベント情報等、施設利用の案内、サークル一覧表等の掲載はもとより、「愛情ねっと」(地域 SNS) や「FM たんと」(コミュニティ FM: 平成 28 年 7 月開局)を活用して様々な学習情報を提供しています。

(その他の取り組み)

- ・平成 24 年度～ 学習情報誌「まなびのカタログ」のメールマガジンを隔月配信
- ・平成 26 年度～ 大牟田市市民活動等多目的交流施設「えるる」のフェイスブック開設
- ・平成 30 年 4 月～ 「生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)」のプロモーションビデオを YouTube で配信
- ・平成 30 年 11 月～ 「メニューいろいろまちづくり出前講座」(市職員出前講座)のプロモーションビデオを YouTube で配信

【課題等】

他都市においては、インターネットを活用して、月別・分野別・主催者別に学習情報をわかりやすく提供し、また、社会教育施設の部屋の空き状況等を確認できる自治体も見受けられます。スマートフォンなどの情報通信機器の普及により、インターネットで学習情報を得る人が増えることが見込まれるため、今後は、インターネットによる情報発信の在り方を見直し、市民が学習情報をより容易に、かつ、詳細に得られるよう、工夫や改善を講じる必要があります。

＜主な情報誌の発行状況＞

課名・施設名	情報誌名	発行回数(発行部数)	
		H23 年度	H29 年度
生涯学習課	学習情報誌「まなびのカatalog」 ※3	年6回(5,000部/回)	年6回(2,000部/回)
生涯学習課	子育て情報誌「おおむたっ子」	年3回(11,500部/回)	年3回(11,500部/回)
大牟田文化会館	文化会館情報誌「ゆにぞん」	年6回(5,000部/回)	年6回(5,000部/回)
大牟田市市民活動多目的交流施設「えるる」	月刊「えるる」※4	—	年12回(230部/回)
大牟田市立図書館	図書館だより「OliOli(オリオリ)」	年4回(153部+a/回)	年4回(260部+a/回)
スポーツ推進室	大牟田市スポーツカレンダー ※5	—	年1回(18,000部)
中央地区公民館	中央地区公民館だより	年4回(1,000部/回)	年6回(1,300部/回)
三川地区公民館	みかわ地域だより	年3回(700部/回)	年4回(1,300部/回)
勝立地区公民館	勝立地区公民館だより	年3回(計4,300部)	年4回(計7,900部)
三池地区公民館	三池地区公民館だより	年3回(700部/回)	年5回(2,300部/回)
吉野地区公民館	吉野地区公民館だより	年3回(250部/回)	年4回(550部/回)
手鎌地区公民館	手鎌地区公民館だより	年3回(500部/回)	年4~5回(680部/回)
駛馬地区公民館	駛馬地区公民館だより	年4回(450部/回)	年4回(1,000部/回)

※3 学習情報誌「まなびのカatalog」…平成28年度から部数削減(地域から要請有)

※4 月刊「えるる」……………平成29年4月創刊

※5 大牟田市スポーツカレンダー……平成25年度創刊

(5)職員研修の充実

①社会教育機関の職員に必要な能力の向上 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

一般的に、社会教育関係職員に求められる具体的な役割や機能としては、地域の学習課題やニーズの把握・分析、企画立案や関係機関との連絡・調整等があげられています。

この中でも特に、社会教育機関の職員には、人と人、人と団体、情報などをつなぎ、具体的な活動を触発していくコーディネーターとしての役割を果たすことが重要だと考えられています。

コーディネーターとしての力を高めるためには、社会教育に関する理念的な研修とともに、聞く・話す・共感するなどのコミュニケーション能力に関する研修や、ファシリテーション研修等、実践力を養う研修が効果的だと考えられますので、このような研修を行います。また、即戦力の養成が求められる新任職員研修を、より実践的な内容で実施することも必要です。

【取組み状況・実績】

公民館主事においては、社会教育分野の専門的知識を習得するとともに、自治体職員として接遇・人権・男女共同参画・情報セキュリティ等の基礎的知識の習得についても求められていることから、毎月第1月曜日の休館日を活用して、前述の専門的・基礎的知識のほか、他都市への視察研修を企画し実施するといった公民館職員研修会を行っています。

なお、「公民館の職員の研修に関する実態調査報告書(平成 21 年：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)」によると、公民館職員への研修事業を実施している市町村は、全国で3割程度であり、そのうち年間1事業の実施に留まっている市町村が4割を占めています。この状況を踏まえると、本市の研修体制は充実していると言えます。

また、社会教育関係職員に関する研修は、社会教育の理念や動向・考え方から広報や安全管理面といった実務的なものまで幅広いテーマで、原則年1回程度実施しています。

近年は、スキル向上を目指し、福岡県立社会教育総合センターや南筑後教育事務所が実施するファシリテーション力やコミュニケーション力に関する研修へ積極的に参加しています。

【課題等】

今後は、本市でも社会教育関係職員研修や公民館職員研修会でこのような実践的な研修を企画・実施していきます。

<公民館職員研修会(抜粋)>

(対象者 公民館職員 29 人)

年度	内 容
H24	接遇研修
	男女共同参画の視点によるチラシづくりについて
	情報セキュリティ研修、個人情報保護研修
H25	接遇研修
	情報セキュリティ研修、個人情報保護研修
	第2次おおむた男女共同参画プラン
H27	個人番号関係事務について
	日田市公民館について(※日田市公民館職員との意見交換会 会場：大牟田市)
H29	情報セキュリティポリシーについて、マイナンバーの取り扱いについて
	視察研修(佐賀市)

＜社会教育関係職員研修会＞

年度	内 容	参加者	備 考
H24	子どもの体験活動事業の必要性和安全管理	22 人	
H25	今 社会教育関係職員に求められていること	26 人	
	地域課題解決に向けた取組事例と社会教育職員の関わり方	23 人	
H26	私たちの仕事と「生涯学習」のつながり ～生涯学習入門～	47 人	生涯学習まちづくり研修会と合わせて開催
	行列のできる講座とチラシの作り方	46 人	公民館主事会 (現公民館職員研修会と合わせて開催)
H27	私たちの仕事の中での生涯学習・社会教育 ～生涯学習社会の実現を目指して～	50 人	生涯学習まちづくり研修会と合わせて開催
H28	子ども事業における安全管理、危険予知トレーニング	26 人	公民館職員研修会と合わせて開催

＜ファシリテーション力やコミュニケーション力を高める研修の参加状況＞

年度	内 容	参加者	実施主体等
H24	信頼関係を結ぶコミュニケーション術	22 人	公民館主事会(現公民館職員研修会)
H25	学校と地域を結ぶコーディネーターセミナー	1 人	福岡県立社会教育総合センター
H26	学校と地域を結ぶコーディネーターセミナー	1 人	福岡県立社会教育総合センター
H28	ファシリテーション力養成講座	3 人	福岡県立社会教育総合センター
	コミュニケーション力養成講座	6 人	福岡県立社会教育総合センター
H29	ファシリテーション力養成講座	3 人	福岡県立社会教育総合センター
	コミュニケーション力養成講座	2 人	福岡県立社会教育総合センター

②「聴く」活動 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

今回実施したインタビュー調査に当たった職員からは、「生々しい体験談を聴くことができ、勉強になった」、「親近感がわいた」、「事業が役立っていると感じられた」などの意見が寄せられました。よく顔を合わせている人でも、それまでの人生での体験や積み重ねた経験、考え方を聞く機会はありませんことから、「聴く」活動の大切さが実感できるとともに、業務の手ごたえを感じる機会にもなりました。

今回の調査研究での取組みは、社会教育関係職員の糧となっていることから、課題に応じたテーマを設定し、「聴く」活動を職員研修として継続的に行います。

【取組み状況・実績】

地区公民館が、担当校区における地域課題の解決や市民から愛される施設づくりを目指す上で地域の住民を初め、公民館の利用者、関係団体等とコミュニケーションを図ることや信頼関係を築くことは大変重要です。

公民館職員研修会では、地区公民館職員の“聴く力”のスキルアップを図るため、平成 24 年度にコミュニケーションのノウハウを身につけるための研修を実施しました。

また、近年では、福岡県立社会教育総合センターにおいて開催されるコミュニケーション力養成講座(社会教育施設職員等を対象にした研修)などへ公民館職員を派遣し、外部の教育力を活用しています。受講した職員からは、「相手との信頼関係を築き関係性を深めることなどを学べた」、「聴くことの大切さや必要性を認識した」といった意見が寄せられました。

なお、今回の調査研究の一環である、学習活動を行っていない人(できない人)を対象としたインタビュー調査「生涯学習促進に関する意識調査」を、社会教育関係職員の“聴く力”のスキルアップ研修に位置づけ実施しました。嘱託員を含む多くの職員が、市役所の窓口や大型商業施設で不特定多数の人々にインタビューを行ったことで、“聴く力”を磨くことができました。

【課題等】

公民館職員が、地域課題の解決や地域づくりを行うためには、より実践的なスキルの習得・向上が望まれます。今後は“聴く力”に加え、“コーディネーター”や“ファシリテーター”としての知識・技術を高めるための研修を継続的に実施し、公民館職員の資質の向上を図ることが重要です。

<「聴く」スキルの向上を図るための研修(実績)>

年度	研 修 名	参加者	実施主体等
H24	信頼関係を結ぶコミュニケーション術	22 人	公民館主事会(現公民館職員研修会)
H28	コミュニケーション力養成講座	6 人	福岡県立社会教育総合センター
H29	コミュニケーション力養成講座	2 人	福岡県立社会教育総合センター

(7)地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

①地域の絆を育む取組み 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

地域の課題を住民が共有し、解決に向けて集まり、知恵を出し合い、学習し、目標をたて、活動を行う過程において、人と人との絆が生まれ、関わり合いながら生活を営んでいく地域社会が形成されます。このような社会教育の実践は、地域の教育力を向上させるだけでなく、「地域の絆を育む」地域づくりそのものであると言えます。

今回の東日本大震災の教訓を踏まえると、「地域の絆を育む」取組みをこれまでより重く捉え、事業を展開することが必要です。そこで、絆をつくり、絆を深めることのできる内容にするという視点から、地域魅力アップ支援事業や町内公民館の社会教育活動の支援、子どもを中心とした地域教育力の向上に関する事業等の充実が必要です。

【取組み状況・実績】

平成 24 年度から平成 27 年度までは「地域魅力アップ支援事業」67 事業(うち防災関連 20 事業)、平成 28 年度から平成 29 年度までは「地域力アップ支援事業」37 事業(うち防災関連 14 事業)を実施しています。(※6)

住民の関心の高い防災関連の事業においては、公民館が働きかけたことで防災訓練が始まった校区もあります。防災訓練を実施する際には、地域住民が集まり、要援護者への声かけ方法について議論するなど、地域の課題を共有する過程において、人と人との絆が生まれており、地域が主体的に学習に取り組むことでコミュニティ再生の意識の醸成に努めています。

また、平成 30 年 3 月に文部科学省の優良公民館表彰を受賞した「～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト」(吉野地区公民館)を初め、地域の課題解決や郷土の歴史、人物などの地域資源に着目した事業や、町内公民館(自治公民館)の社会教育活動の支援などを通して、地域住民同士のネットワークや絆が育まれるよう努めています。

【課題等】

土曜日に地域のボランティアが開催している「子どもの居場所づくり支援事業」や、子ども達が自分達の力で家事などを行いながら通学する「通学合宿支援事業」、地区公民館で開設されている地域のボランティアによる「子育てふれあい広場」やサークルによる小学校の総合学習におけるボランティア支援など、地域の絆を育む取組みは広がりを見せていますが、ボランティアの高齢化、固定化など地域の人材発掘が課題となっています。

また、地域住民が一体となって取組む祭りなどの地域行事については、地区公民館が学校、PTA、地域団体等と地域住民を結ぶ地域づくりの拠点としての機能を果たすことが重要です。

今後も、地域住民が、地域の絆の大切さに気づき、コミュニティ再生への動機付けにつながるよう、学校を核とした地域づくりを目標に、地区公民館が“学校・家庭・地域”をつなぐコーディネーターとして機能することが、今後のコミュニティ再生につながっていくものと考えます。

※6「地域魅力アップ支援事業」…地域課題解決、人材発掘により注力するため、平成 28 年度から、「地域力アップ支援事業」に事業名を変更しました。

＜地域の絆を育む取組み＞

年度	事業名	講座名等(校区)	担当 地区館
H24	地域魅力 アップ支 援事業	○地域お助けパソコン講座(大牟田) ○防災で広げよう地域のネットワーク(上官)	中央
		○天領校区八十八カ所めぐり実施講座パートⅡ(天領) ○みなと校区暮らしの安心安全講座(みなと)	三川
		○玉川お宝百景～記憶から記録へ～(玉川) ○防災から考える地域ネットワーク作り 三校区合同防災訓練(笹原・天道・玉川) ○三校区の絆で作る勝立大蛇山	勝立
		○地域活動に活かす！上内パソコン塾パートⅡ(上内) ○地域で活かす！“楽・らく”パソコン塾(倉永) ○吉野校区ウォーキングガイド作成(吉野)	吉野
		○銀水校区町内公民館ネットワークリレー(銀水) ○羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～(羽山台)	三池
		○防災で広げよう 地域のネットワーク(明治) ○探検！手鎌のあんなとここんなとこ&水鉄砲大会(手鎌) ○ミステリー追跡ゲーム in 黒崎公園(手鎌) ○九州北部豪雨に学ぶ地域防災の大切さ(手鎌)	手鎌
		○わが町のお宝情報発信プロジェクト1 近代化遺産見学会～近代化遺産を見てみよう！歴史の空気を感じてみよう！(駛馬北) ○地域お助けパソコン講座(駛馬北) ○みんなで安心安全まちづくり いのちを守る防災研修会～笑顔でつ ながる安心安全なまちづくりを目指して～(駛馬北) ○みんなで安心安全まちづくり(駛馬南)	駛馬
H25	地域魅力 アップ支 援事業	○正しい交通ルールとマナーを再確認！交通安全教室(上官) ○地域お助けパソコン講座(大牟田)	中央
		○天領校区八十八カ所めぐりパートⅢ(天領) ○近代化遺産見学会(みなと) ○暮らしの安心・安全出前講座(天領)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川) ○玉川お宝百景～記憶から記録へ～(玉川) ○天の原小学校朝読ボランティア養成講座(天の原)	勝立
		○地域活動に活かす！上内パソコン塾パートⅢ(上内) ○地域で活かす！“楽・らく”パソコン塾 2(倉永) ○吉野歴史探訪・健康ウォーキング(吉野)	吉野
		○銀水校区防災から始めるまちづくり(銀水) ○羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～(羽山台)	三池
		○防災で広げよう！地域のネットワーク(明治) ○情報発信は地域から！地域の絆を深める広報誌講座(手鎌)	手鎌
		○わが町のお宝情報発信プロジェクト2 スポーツごみ拾い in 宮原坑(駛馬北) ○みんなで安心安全まちづくり(駛馬南)	駛馬
H26	地域魅力 アップ支 援事業	○正しい交通ルールとマナーを再確認！交通安全教室(上官) ○地域お助けパソコン講座(大牟田)	中央
		○時を越えて天領の魅力をつなぎ隊(天領) ○楽しく笑って仲間づくり☆幸せづくり(みなと)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川) ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川) ○勝立二校区の絆で作る勝立大蛇山(天の原・玉川) ○天の原校区パソコン講座(天の原)	勝立
		○みんなでつくろう！安心・安全な上内(上内) ○～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト(吉野) ○地域でつながる！倉永タブレット講座(倉永)	吉野
		○銀水校区防災から始めるまちづくり Vol.2(銀水) ○高取校区ふれあい交流支援事業(高取)	三池
		○子どもが輝く地域づくり(手鎌)	手鎌
		○わが町のお宝情報発信プロジェクト パート3 駛馬まち育てカフェ(駛馬北・駛馬南) ○みんなで安心安全まちづくり(駛馬南)	駛馬

年度	事業名	講座名等(校区)	担当 地区館
H27	地域魅力 アップ支 援事業	○はじめてのスマートフォン&タブレット入門講座 in 中友(中友)	中央
		○時を越えて天領の魅力をつなぎ隊～楽しく学ぼう！わくわく石炭体験(天領) ○出前健康講座！明るく豊かな人生を♪(みなと)	三川
		○時を越えて天領の魅力をつなぎ隊～楽しく学ぼう！わくわく石炭体験(天領) ○出前健康講座！明るく豊かな人生を♪(みなと)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川) ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川) ○勝立大蛇山まつりお囃子隊養成講座(天の原・玉川)	勝立
		○家族を守る！万一にそなえる上内防災マップ作り(上内) ○～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト(ESD)Part2(吉野) ○地域でつながる！倉永タブレット講座 Part2(倉永)	吉野
		○高取校区ふれあい交流支援事業(高取)	三池
		○子どもが輝く地域づくり(手鎌) ○子どもが輝く地域づくり(明治)	手鎌
		○わが町のお宝情報発信プロジェクト 駛馬 machi なかおもてなし 計画～駛馬まち歩きガイド養成講座～ (駛馬北・駛馬南) ○ころばぬ先の体力測定会(駛馬北・駛馬南)	駛馬
H28	地域力ア ップ支 援 事業	○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～(平原) ○知っておくとよい葬儀や終活のお話(大正)	中央
		○みなと通信パソコン講座(みなと) ○夏休み宿題サポート隊体験講座(天領) ○天領校区防災運動会(天領)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川) ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川) ○勝立大蛇山まつりお囃子隊養成講座(天の原・玉川)	勝立
		○上内校区災害図上訓練(上内) ○～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト(ESD)Part3(吉野) ○スマートフォンデビュー塾(倉永)	吉野
		○高取校区まち協設立へ向けてのヒントをつかもう(高取) ○銀水校区地域づくりステップアップ支援事業(銀水)	三池
		○子どもふれあい餅つき会(手鎌) ○明治校区紙飛行機&○×クイズ大会(明治)	手鎌
		○駛馬北校区防災訓練(駛馬北) ○疑問解決!まち協調査隊(駛馬南)	駛馬
H29	地域力ア ップ支 援 事業	○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～(平原) ○大正校区の防災を学ぶ(大正) ○交通安全講習会(大牟田中央)	中央
		○あなたにもできる防災活動～災害に対してみんなでできる備え～(みなと) ○天領校区まちづくり協議会設立 5 周年記念 第 2 回防災運動会・ふれあい音楽祭(天領)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川) ○広報力アップ講座・基礎編(天の原・玉川) ○広報力アップ講座・実践編(天の原) ○広報力アップ講座(玉川) ○勝立大蛇山まつりお囃子隊養成ステップアップ講座(天の原・玉川)	勝立
		○上内校区防災訓練(上内) ○吉野校区イベントもりあげ隊スタッフ募集プロジェクト(吉野) ○スマートフォンデビュー塾 Part2(倉永)	吉野
		○防災からはじめるまちづくり～三池校区防災訓練～(三池) ○防災からはじめる地域の絆づくり(高取) ○「子供の遊び場」支援事業(銀水) ○防災からはじめるまちづくり(羽山台) ○4 校区座談会(三池・高取・銀水・羽山台)	三池
		○ふれあい餅つき会(手鎌)	手鎌
		○「防災講演会&ペタンク大会」(駛馬北・駛馬南)	駛馬

①災害に備える取組み 【地域コミュニティ推進課(社会教育担当)】

【平成 23 年の提言内容】

本市の地区公民館等は、災害時の指定避難所及び自主避難所となっています。また、東日本大震災の被災地では、公民館が住民の避難所として重要な役割を果たしたという実績が報告されています。これまでも各地区公民館で避難所マニュアルを策定するなど、災害に備えてきましたが、改めて対策を強化する必要があります。そこで、これまでの災害対策を見直し、マニュアルの改訂や避難所開設訓練等の日常の防災活動の充実が必要です。

また、地区公民館等の社会教育機関の特徴は、地域住民に対して、日常の防災意識を高めるための防災学習が実施できることです。大きな自然災害が繰り返し発生している今、地域住民への防災学習は喫緊の課題であり、その学習機会の提供は社会教育行政に課せられた重要な役割ですので、子どもから高齢者まで、女性も男性も、あらゆる市民を対象にした防災講座の実施を検討します。

【取組み状況・実績】

各地区公民館では、自主・指定避難所の運営に必要なマニュアルなどを具備していますが、大規模な災害(公民館職員が避難所に従事できない場合)を想定し、施設のことを知らない職員でも対応できるようマニュアルを改訂するなど、有事に備えた対策を講じています。

また、平成 24 年度から平成 25 年度にかけて「避難所運営マニュアル・開設訓練検討プロジェクトチーム」を設置し、地区公民館職員を中心に大規模な災害時における地区公民館の役割などについて協議・検討を行いました。一方、平成 25 年度に「大牟田市地域防災計画」が改訂され、さらに、迅速な災害応急対策がとれるよう本市の防災対策室において「職員初動マニュアル」がまとめられたことから、有事の際は、それらの計画やマニュアルに基づき、関係課・機関と連携を図りながら、円滑な避難所の開設・運営に当たることとなっています。

『避難所の開設訓練』については、本市の防災対策室が毎年開催する避難所開設・運営に係る研修会へ参加し、また、公民館主事会(現公民館職員研修会)においてHUG訓練⁸を実施するなど、有事の際に避難所としての機能を発揮できるよう努めているところです。

『地域の防災学習』については、全国的に地震、大雨等、比較的規模が大きい自然災害が毎年発生し、市民の防災・減災の意識が高まっていることから、平成 24 年度以降、防災に関する取組みを 17 校区において実施しています。いずれも、校区まちづくり協議会などの地域団体との協働により、「地域力アップ支援事業(地域魅力アップ支援事業)」の一環として実施しているところです。地区公民館によっては、地域の実情を踏まえ町内単位で細やかに防災に関する取組みを展開しているところもあります。

【課題等】

近年、大規模な自然災害が全国各地で発生していることを鑑み、各校区のまちづくり協議会や安心安全まちづくり推進協議会と連携して、できるだけ多くの地域で災害・減災の一助となる取組みを実施することが望まれます。また、「自助・共助・公助」の視点からは、地域住民間で助け合う「共助」を重点的に位置づけ、取組みを進めることが重要です。

⁸ H(hinanzyo:避難所)、U(unei:運営)、G(game:ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられたもの。

＜防災学習・事業＞

年度	事業名	講座名等(校区・会場)	担当 地区館
H24	地域魅力アップ支援事業	○防災で広げよう地域のネットワーク(上官)	中央
		○みなと校区暮らしの安心安全講座(みなと)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 三校区合同防災訓練(笹原・天道・玉川)	勝立
		○防災で広げよう 地域のネットワーク(明治)	手鎌
		○北部九州豪雨に学ぶ地域防災の大切さ(手鎌)	
		○みんなで安心安全まちづくり いのちを守る防災研修会～笑顔でつながる安心安全なまちづくりを目指して～(駛馬北)	駛馬
		○みんなで安心安全まちづくり(駛馬南)	
H25	地域魅力アップ支援事業	○暮らしの安心・安全出前講座(天領)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川)	勝立
		○銀水校区防災から始めるまちづくり(銀水)	三池
		○防災で広げよう!地域のネットワーク(明治)	手鎌
		○みんなで安心安全まちづくり(駛馬南)	駛馬
H26	地域魅力アップ支援事業	○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川)	勝立
		○防災から考える地域のネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川)	
		○みんなでつくろう! 安心・安全な上内(上内小学校)	吉野
		○銀水校区防災から始めるまちづくり Vol.2(銀水小学校)	三池
		○みんなで安心安全まちづくり(駛馬南)	駛馬
H27	地域魅力アップ支援事業	○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川)・ ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川)	勝立
		○家族を守る! 万一にそなえる上内防災マップ作り(上内)	吉野
H28	地域力アップ支援事業	○天領校区防災運動会(天領)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川)	勝立
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川)	
		○上内校区災害図上訓練(上内)	吉野
		○駛馬北校区防災訓練(駛馬北)	駛馬
H29	地域力アップ支援事業	○大正校区の防災を学ぶ(大正)	中央
		○あなたにもできる防災活動～災害に対してみんなでできる備え～(みなと)	三川
		○天領校区まちづくり協議会設立 5 周年記念 第 2 回防災運動会・ふれあい音楽祭 (天領)	
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川)	勝立
		○上内校区防災訓練(上内)	吉野
		○防災からはじめるまちづくり～三池校区防災訓練～(三池)	三池
		○防災からはじめる地域のきずなづくり(高取)	
		○防災からはじめるまちづくり((羽山台)	駛馬
		○防災講演会 & ペタンク大会(駛馬北)(駛馬南)	

3. ローリング調査から見えてくるもの

(1) ボランティア活動や地域活動を担う人材の発掘・育成が必要

『社会教育機関等が行う取組み』及び『高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み』については、多くのボランティアグループやサークルが誕生しました。しかしながら、その多くが高齢者であるため、高齢化を起因とした様々な問題(メンバーの確保、後継者の育成等)が生じてきており、グループ・サークルの維持・継続が困難になることが課題として考えられます。また、『地域の絆を育む取組み』については、子どもの居場所支援事業、通学合宿支援事業、子育てふれあい事業などにおいて地域のボランティアが活躍されていますが、こちらにおいても高齢化や参加者の固定化の問題が判明しました。

『青年自身が活躍の場をつくり出す取組み』については、青年の社会参加促進を目的に実施している事業が現代の若者とのニーズに沿っておらず、休止に至った事業もありました。一方で、ボランティア活動に関する青年の関心は高いことから、地域の担い手となる若者をまちづくりや地域課題の解決に資する取組みに巻き込むための方策を検討する必要があります。

本市では、平成 22 年度から「大牟田市地域コミュニティ基本指針」に基づき、「校区まちづくり協議会」の設立を進めています(平成 30 年 4 月 1 日現在 19 校区中 17 校区設立)。このような中、地域づくりについては、主体的・自発的な取組みを進めることが求められるものの後継者不足や活動の担い手不足といった課題が表面化しています。

このため、地区公民館等の社会教育機関は、世代間をつなぎ、ボランティア活動や地域活動を担う人材の発掘・育成に取り組んでいくことが必要です。

(2) 学習成果を活かす取組みとしての「ボランティア塾」の充実

『社会教育機関等が行う取組み』については、高齢者が教え、一般成人が学ぶ「マナビ塾」を実施し、29 のサークルが発足しました。しかしながら学習成果を活かす点においては、社会や地域づくりに貢献しているサークルは 3 団体にとどまっています。

一方、『高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み』については、「ボランティア塾」において、延べ 28 講座で 17 のボランティアグループが発足し、そのうちの 10 グループが「生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)」に登録をして活動を行っています。

以上のことから、「ボランティア塾」は、市民が学んだ成果を活かすための取組みとして有効であるため、さらなる充実が必要と言えます。

(3) 郷土に対する愛着や誇りを育む取組みの充実

『ふるさと大牟田を知る取組み』については、7 地区公民館において平成 25 年から 3 か年にわたり「ふるさと大牟田講座」を実施し、市民が大牟田の歴史、文化、産業、自然など、様々な郷土の魅力に触れる機会を設けました。また、大牟田の魅力を広く市民に伝えるために受講生自ら制作した成果物は、様々なところで活用されています。

なかでも、三池地区公民館は、郷土の歴史や文化に関する学習活動を長年にわたって発展さ

せてきた取組みが高く評価され、平成 29 年 3 月に文部科学省の優良公民館表彰を受賞しました。

郷土愛を育む取組みは、地域づくりの基本と言えますが、平成 29 年度は、地域の歴史や文化を学ぶ講座を実施している地区公民館は 1 館にとどまっていることから、今後はより多くの地区公民館において、地域への愛着を育む取組みを展開し、地域づくりへつなげることが必要です。

(4)市民に身近な場所で行う事業の拡充が必要

『市民に身近な場所で行う事業の拡充』については、平成 24 年度から 29 年度までの 6 年間に、地区公民館から離れた担当校区で実施した事業が、1 館当たり年平均 1.42 事業となっており、実施する校区の偏りや一度も実施されていない校区もありました。

各地区公民館においては、担当校区の校区まちづくり協議会や町内公民館、PTA といった社会教育団体や地域交流施設との連携を強め、計画性や公平性のある事業展開を行うことが必要です。

(5)インターネットによる学習情報の提供の充実・強化

『学習相談の窓口としての機能の強化』及び『わかりやすくて確かな情報提供』については、近年、スマートフォンやタブレットなどの情報通信機器の普及により、インターネット利用者が急速に増加していることを踏まえ、今後は、インターネットを活用した学習情報の提供を充実・強化する必要があります。

(6)社会教育機関の職員のスキルアップを図る研修の充実

『職員研修の充実』については、社会教育関係職員に必要とされる「ファシリテーション力」・「コミュニケーション力」・「聴く力」に関する研修を、これまであまり実施していないことから、今後は、社会教育関係職員研修や公民館職員研修会で、このような研修を継続的に実施していく必要があります。

(7)地域の絆を育む取組みの充実

『地域の絆を育む取組み』については、地区公民館において「地域力アップ支援事業」(平成 27 年度までは「地域魅力アップ支援事業」)を実施しています。

具体的なテーマとしては、近年、全国で多発している自然災害などの影響から住民の関心が高い防災関連の事業、タブレットやスマートフォンを活用し、行方不明者や子どもの見守り、防犯、災害時などの情報伝達を目的とした事業などがあり、地域住民の絆意識やコミュニティの再生意識の醸成に努めてきました。

このような中、吉野地区公民館では、吉野小学校の ESD 事業と連携し、吉野校区のコミュニティを再生するために「～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト」を実施しました。この取組みでは、地区公民館が小学校と地域の架け橋となり、学校・家庭・地域が連携した仕組みが高く評価され、福岡県教育委員会が主催する「平成 27 年度南筑後地区市町公民館職員等研修会」、「平成 29 年度福岡県公民館大会」等で紹介されました。その結果、同地区公民館は、平

成 30 年 3 月に文部科学省の優良公民館表彰を受賞しました。

このような“学校・家庭・地域”が連携した事業は、他の校区においても地域の絆を育む取り組みとして展開させていく必要があります。

Ⅵ 考察

1. 考察を行うにあたって

本市における社会教育・生涯学習について、大規模な調査研究を行ったのは、平成 23 年に行って以来 7 年ぶりとなりました。意識調査においては、18 歳以上の市民を対象としたアンケートによる「市民意識調査」、日頃学習活動を行っていない(行えない)18 歳以上の市民を対象とした「生涯学習促進に係る意識調査」と 16 歳から 34 歳までを対象とした「若者意識調査」を行いました。また、平成 23 年の調査の際に作成した報告書において、今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて提言されている“14 事業”について、所管課を対象にした「ローリング調査」も実施しました。

本考察では、調査の結果、明らかになったことをもとに、今後、本市の社会教育・生涯学習行政として取り組むべきことを課題としてまとめました。

2. 具体的な考察内容

(1)生涯学習、ボランティア活動、地域活動を促進するための情報提供の強化

生涯学習については、市民意識調査において、生涯学習は必要と考えている人が、全体の約 9 割におよび、また、生涯学習促進に係る意識調査によって、日頃学習活動を行っていない人(行えない人)の 7 割以上に学習意欲があることが判明しました。学習活動ができない理由としては、仕事、家事、育児、介護等で忙しいことが主たる理由となっていますが、『どのような活動があるのかわからない』、『生涯学習に関する情報が不足』が上位となっています。特に、生涯学習促進に係る意識調査では、行政に対する要望として、『講座・催し物に関する詳しい情報提供』が最も高くなっています。

一方、ボランティア活動と地域活動については、市民意識調査において、ともに行っていない人の割合が前回より増加し、また、年間の平均日数が減少しています。なお、ボランティア活動に必要なことと、地域活動を行っていない理由においても、活動に関する情報不足が上位となっています。

以上のことから、生涯学習はもとより、ボランティア活動、地域活動を促進するためには、学習・活動に関する情報提供を強化することが重要です。

(2)学んだ成果を活かすために身近な活動の場・機会を創出

市民意識調査では、『学んだ成果を地域活動やボランティア活動に活かしたい』と思っている人が約 6 割におよんでおり、また、学んだ成果を活かすためには、『活動の場が身近にある』が上位となっています。

一方、市民に身近な学習・活動の場となっている地区公民館の事業は、ローリング調査によって、実施する校区に偏りがあるといったことが判明しました。今後は、各地区公民館が、地域住民に最も身近な社会教育施設として、また、地域活動の拠点施設として、担当校区の校区まちづくり協議会や町内公民館、PTA といった関係団体や地域交流施設などと連携を図りながら、学習・活動を行う場・機会を創出することが必要です。

(3)「個人の要望に応える学習」から「社会の要請に応える学習」へつなぐための働きかけ

「市民意識調査」及び「若者意識調査」では、市民が行っている生涯学習の主な内容は、『趣味的なもの』や『健康・スポーツに関すること』、『仕事や就職で必要なもの』など、個人的な学習(自身のための学習)が中心となっています。また、「市民意識調査」の結果から、生涯学習は、生きがいつくり、人生を豊かにする手段として捉えられており、市民にとって QOL(生活の質)を高める上で重要であることが考えられます。

一方、『地域づくり・まちづくりに関すること』や『ボランティア活動のために必要な知識・技術』など、公益性のある学習(人や社会へ貢献するための学習)を行っている市民の割合は低い状況となっており、社会教育行政としては、「公」が担う役割や目的を踏まえ、これまで以上に地域・社会の課題に対応する施策・事業を充実させることが不可欠です。

今後は、個人の要望に応える学習をきっかけとして、社会の要請に応える学習・活動へつなげるための働きかけや工夫が必要であり、地区公民館職員を初めとする社会教育関係職員の役割が重要です。

(4)若い世代に対するボランティア活動・地域活動のきっかけづくり

前述した通り、「市民意識調査」によって、ボランティア活動・地域活動を行っていない人の割合は前回は上回り、実施回数が減少していることが明らかになりました。

この要因については、「ローリング調査」を通じて、多くのボランティア団体や地域団体(校区まちづくり協議会等)が、高齢化を起因とした様々な問題(メンバーの確保、後継者の育成等)を抱えていることが判明したため、高齢化の進展による影響が大きいことなどが推察されます。また、前回調査を東日本大震災(平成 23 年 3 月)が発生した後の 8 月に実施したことから、ボランティアへの意識や地域の“絆”意識への高まりがあったことも推測されます。

一方、地域活動については、平成 23 年度以降、校区まちづくり協議会の設立が進んでいることから(平成 23 年度：4 校区 → 平成 30 年度：17 校区)、福祉・防災・交流・教育などの地域活動やイベントも増加している状況です。

また、今回の調査結果からは、若い世代は、ボランティア活動、地域活動に対する参加意識が高く、特に、学校を支援する活動に対する参加意識が高いことが判明しました。

以上のことから、市民のボランティア活動・地域活動を初め、コミュニティの再生や市民と行政との協働によるまちづくりを推進するためには、若い世代の活動を促進することが喫緊の課題となっています。今後は、若い世代の人々が、忙しくても無理のない範囲で楽しく取り組めるような学習・活動や、学校と連携した取組みなどの情報提供と機会を創出することが有効です。

(5)SDG s を念頭に置いた持続可能な社会を形成する ESD 事業の展開

「市民意識調査」では、生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきこととして、『次世代を担う若者への教育の充実』が 2 番目に高くなっています。また、「若者意識調査」においても、同じ項目が 2 番目に高くなっており、市民は若者への教育が重要だと考えていることがわかりました。

本市の青年教育に係る事業については、参加者数を確保することが困難なためやむを得ず一部休止しています。しかしながら、一方で「若者意識調査」を実施したことで、若い世代の学習ニーズを把握することができ、中でも若者自らが企画し、実践するボランティア活動・地域活動については、関心を持っている人が多いことがわかりました。

本市の若い世代の人口は減少が続いています。数年後、本市の人口減少はさらに加速することから、これからは、持続可能な社会の形成に向けて、それを支える「人づくり」や「人と人とのつながり」、「団体間のネットワーク」を構築することが喫緊の課題となっています。

このような中、市内の全小学校・中学校・特別支援学校においてはESDに取り組んでいます。ESDは持続可能な社会の担い手を育成する教育であり、環境、経済、社会、文化の各方面から現在社会の課題を自らの問題と捉え、身近なところから取り組むことを目指すものです。吉野校区で実施された「～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト」などの学校・家庭・地域が連携した取組みは、コミュニティの再生や地域の絆を育むうえにおいても効果的なESD事業であると言え、このようなESDの概念や手法を社会教育に取り入れることは、課題の解決に有効と考えられます。

今後は、本市の将来を見据え次代を担う若者に対する施策・事業を重点的に展開するとともに、地域や社会全体で青少年を健やかに育てる仕組みづくりや手法の確立を目指すことが必要です。

(6)社会教育施設の機能向上(職員のスキルアップ、事業の充実)

「市民意識調査」では、行政に対する要望として、『専門的な職員や指導者の配置』が最も高く、『公共施設の講座・教室の充実』も3番目に高くなっています。

また、「ローリング調査」において、地区公民館職員を初めとする社会教育関係職員の「ファシリテーション力」、「コミュニケーション力」、「聴く力」を高めるための研修が長年の間不十分であったことが明らかになりました。

社会教育関係職員には、「人と人」、「人と団体」、「団体と団体」を結ぶ重要な役割を担っており、今後は、そうした役割を果たせるよう必要なスキルの向上を図ることが必要です。

また、市民の生涯学習、ボランティア活動及び地域活動を推進するためには、今回の調査で得られた様々なデータや、明らかになった課題などを踏まえ、社会教育施設(特に住民に一番身近な地区公民館)における事業の在り方や手法を見直すことも必要です。

(7)社会教育・生涯学習に係る庁内の連携強化と組織体制の在り方

「市民意識調査」にて、行政と地域が協働で行うこととして、『災害時の対応』、『防犯・治安』、『高齢者・障害者への支援』が上位3項目となりました。また、少子・高齢化が進む中で行政が特に力を入れて進めるべきものとして、『家庭教育の支援』が、最も高くなっています。これらのことから、市民協働部内はもとより、関連部局との連携強化が必要です。

なお、社会教育・生涯学習の分野については、家庭教育の支援、青少年教育、成人教育、スポーツ、文化芸術など広範囲にわたっています。今後、市民協働の観点を踏まえ、職員減少下においてもこれらの施策事業を効果的に展開できる組織体制の在り方を検討する必要があります。

第3章 調査結果を受けての助言者からの提言

大牟田市社会教育・生涯学習の発展に向けて

佐賀大学 大学院学校教育学研究科 教授 上野景三

I はじめに

日本社会は、今日、これまでに経験したことのないような人口減少社会と、超高齢化社会に向かっています。これまで以上に地域の活性化に向けた地域課題解決への取り組みが求められることとなります。その際、当事者である地域住民が、みずからの課題であると認識し解決にむかう行動に立ちあがっていくためには、学習を媒介とした認識と行動の変容が不可欠であると言えます。

その活動を組織することが、社会教育・生涯学習の役割であり、実行できる組織・機関が社会教育・生涯学習関連の行政と施設です。その意味で今回の基礎調査から施策・事業の再構築へ向かう作業は、大牟田市の将来の発展を展望する確かな一助となるものです。

ここでは、調査の考察で触れられていない点、及び今後の諸施策へとつながるような課題についてコメントしておきます。コメントの視点としては、市民意識調査(アンケート調査)、インタビュー調査、ローリング調査の三種類を検討し、今後の大牟田市の社会教育・生涯学習の推進にあたって課題とすべき点について言及します。その際、本調査研究の「基本的視点」に述べられている5つの柱に沿って若干の私見を述べることにします。

II 基本的視点における5つの柱に沿った提言

1. 生涯学習の推進(特に日頃学習活動を行っていない人々へ生涯学習を促進する手法を探る)

生涯学習の推進は、どこの自治体にとっても大きな課題です。地域住民の学習ニーズはどこにあるのか、学習活動に参加できない人々は、何がバリアになっているのか、その点の解明は必須です。

本調査においても、生涯学習についてのイメージや必要性、情報入手の方法、活動の実態等についての質問を行っています。回答結果からみれば、生涯学習に関心はあるものの、実際の活動としてはやっておらず停滞傾向であることは否めません。その理由として何がバリアになっているのかを聞いている質問では、「時間がとれない」ことが第一に挙げられています。

確かに、働いている現役世代では、どのような業種であっても多忙化が進行し、不規則勤務が増加しています。さらに家族形態の変化等が背景にあり、仕事以外での時間をとりにくくなっている実態も推測されます。

ここには、3つの問題があると思われます。1つは、「働き方改革」が言われる中で、市内外の事業者に生涯学習の必要性についての理解を求めることができるかどうかという点です。2つには、「時間がない」ことが理由として挙げられていますが、本当に「時間がない」のかどうか、という点です。つまり、アンケート結果からみると、意識としては生涯学習の必要性は理解されているも

の、時間の使い方として生涯学習の優先順位が高くないのではないか、という点です。3 つには、生涯学習を推進する行政・施設としては、地域住民の優先順位を覆すことができるような取り組みをしているのかどうかという点です。市民に対して生涯学習の優先順位を高める取り組みや社会的認知度を高める取り組みが求められます。

2. 学んだ成果を活かすための「知(学び)の循環」の仕組みづくり(生きがい・地域づくりの視点)

学んだ成果を活かすための「知」の循環の仕組みの構築は、求められるところです。学んだ成果を生きがいや地域づくりに還元してほしいという期待は当然のことであり、行政としては地域活動のリーダーとしてもまたボランティアとしての活躍を暗に期待している部分もあるでしょう。

ところが、市民・地域住民の生涯学習の目的や関心がどこにあるのかを検討してみたとき、必ずしも直接的に地域社会貢献を考えているわけではないことがわかります。自らの健康づくりやスポーツ、人生を充実させるための趣味や教養、家庭生活に関する事柄が、生涯学習のニーズとして優先順位が高くなっています。一方で、期待される地域づくりやボランティア活動の順位は低くなっています。このようなアンケート結果から、市民・住民の意識を問題視しがちですが、市民・住民からすれば素朴かつ当然のニーズなのです。問題は、このかい離をどう埋めることができるのか、その点を行政として受け止めることができるのかというところにあります。循環を主張しながらも、循環の仕組みができていないのではないかとということです。

循環の仕組みをつくるための課題は、当面 2 つあるように思われます。1 つは、生涯学習の機会を増やし、その延長線上で自然と地域づくりやボランティア等のリーダーになることを即時的に期待しないことです。むしろ、学習活動の拡がりの中に当事者意識を育むことができるような仕組みが必要なのではないでしょうか。2 つには、優先順位が高くなくとも、地域づくりやボランティアに関心をもつ住民が一定数存在している事実を目を向けることです。これらの層に、社会教育・生涯学習行政はきちんとアプローチできているのかどうか、という点を問う必要があるでしょう。これらの層はどこに存在し、どういうニーズを持っているのか、その把握から始める必要があるのではないのでしょうか。これらの層に学習の機会を増やし、地域リーダーとして活躍できる場の設定ができれば、地域社会への還元率は高まると期待されます。

3. 人口減少社会における地域づくりに向けた社会教育の仕組みづくり

各自治体における人口減少に対する各種の取り組みは、喫緊の課題ではありますが、即効性のある成果を挙げているとも言いがたいところです。地方創生策は、例えば人口ダム機能の創出、6 次産業化、空き家対策、地域コミュニティ組織づくり、祭りの復活等々、多様な展開をみせています。しかし、生涯学習に重点的に取り組み成果を挙げたという事例は、寡聞にして聞きません。これは、社会教育・生涯学習の推進が地方創生として役立たないということではなく、短期的な目標値で計るのではなく、中長期的な視野をもって取り組まれる必要があるということを示唆していると考えられます。したがって社会教育・生涯学習施策・事業も、短期的ではなく中長期的な視点を入れて再構築される必要があります。

周知のとおり、「増田レポート」⁹は消滅可能性都市を招来しかねない2つの要素を指摘しました。それは2040年段階において、1つは若年女性が50%以下に低減する自治体、2つには人口10,000人を切る自治体です。この指摘は、田園回帰等の傾向もあることから各方面から異論も出されています。ただし人口減少に対して有効な処方箋がない段階では、この2つの要素についての検討は求められるところです。

まず人口減少については、若年層の社会移動について着目する必要があります。九州では福岡市への一極集中が進み、九州全体としての人口ダム機能の役割を果たしていますが、各地方都市は人口を流出させています。その要因は福岡市にある大学・短大、専門学校への進学です。大牟田市からは通学が可能ですが、高校卒業後、他県への流出もしくは福岡市に転居するという異動が見られているのではないのでしょうか。この動向は、進学動向を分析し、高校生が地元定着、もしくはUターンすることができるような取組みを求めるものです。これにも特効薬があるわけではないですが、学校教育時代に大牟田市に愛着をもたせ、将来的にはUターンしたくなるような施策展開が求められています。高校とタイアップした出前講座の企画等も考えられます。

2つめの若年女性の問題は、出会いの場づくりといった婚活支援として受け止められていますが、それだけでは一面的といわざるを得ません。地域に定住することのできる就労支援、婚活支援、家族形成支援、家庭生活サポート支援といった一連のパッケージの中で考えられる必要があります。そのパッケージの中で社会教育・生涯学習事業として引き受けることのできる部分はどこかの検討が必要です。男女共同参画行政との連携の中で考えられる必要があります。

4. 社会教育におけるESDの推進(人・地域づくりの視点)

社会教育におけるESDの推進について、アンケート・インタビューで明確に質問している項目はみあたりません。したがって、この項目についての分析が難しいことから、一般的な課題として提起しておきます。

1つは、市民・住民の関心をみると、防災学習について近年の集中豪雨等により高まりを見せていることです。学習ニーズとしても上位に挙げられていることも少なくありません。したがって防災学習は、切実な課題として取り組まれる必要があります。ただ問題は、防災学習は、自主防災組織づくりの奨励であったり、危機感をあおったり、防災マップづくりに終始している現実も見受けられます。地域住民の関心や地域の実態に応じた防災学習のカリキュラムづくりが求められます。

2つには、ESDの推進には、学校教育との連携を欠かすことができないことです。ESDは、まだまだ市民・住民の意識に馴染む用語とはなりえていません。むしろ、ユネスコスクールにみられる

⁹ 日本創生会議の人口減少問題検討分科会が「消滅可能性都市」として見なし発表したレポート。日本創生会議の増田寛也座長が発表したことから、このような名称が付けられている。

ように、学校教育の中での ESD の推進に、地域住民が参加して学ぶ機会を作るといった取組みが必要なのではないでしょうか。大牟田市では、学校教育においてユネスコスクールに積極的に取り組んできた実績があることから、これまで以上に、義務教育、さらに高校教育との連携・協力体制の構築が求められます。

5. 社会教育・生涯学習行政に係る既存事業の検証と施策・事業の再構築

最後にローリング調査から見られた結果から今後の行政としての課題についてふれておきます。

既存事業を見直し次のステップにつなげていこうとするスタンスは、高く評価できるところです。他の自治体には見られない試みでもあります。その点を踏まえた上で誤解を恐れずに言えば、検証のレベルが進捗状況の点検や事務事業評価の域を出ていないのではないだろうかという点が課題となります。つまり、施策・事業の再構築を目的とした検証になりえているのかという点です。

結論から言えば、現代のかつ地域的な状況の分析と社会教育・生涯学習の推進体制との整合性をたえず意識しながら再構築に取り組む必要があるではないかということです。例えば、前回の調査時には、「人生 100 年時代¹⁰」という言葉すらありませんでした。しかし今日では当たり前のように使われています。「時代」の変化は、想像以上に早いと言えます。

ここで留意すべきことは、生涯学習の推進にあたって「人生 100 年時代」のもつ意味は、単に平均寿命の伸びということではなく、高齢者像の転換を迫っているという理解が不可欠な点です。ライフステージが転換し、元気なアクティブシニア¹¹層が登場してきています。これまでの高齢者対象の事業ではないアクティブシニア層向けの事業開発が必要です。もう 1 つは、「人生 100 年時代」における「時代」とはどのような時代なのか、という点です。国の第 3 期教育振興基本計画(2018.6 閣議決定)は、2030 年時代を想定した教育施策の展開に入っています。Society5.0¹²にむけた取り組みです。社会教育・生涯学習としても、2030 年を視野に入れた現代的課題に対応した施策・事業が必要となっています。

このような「時代」には、おそらく行政領域も流動化し、社会教育・生涯学習、コミュニティ行政、地域福祉、男女共同参画、青少年対策、地域づくり、防災対策等々、多様な領域が絶えず相互拡張を繰り返し、領域を侵犯しながら横断的に展開していくと予測されます。このような錯綜する状態で市民・住民の学習をコーディネートする役割が社会教育・生涯学習には求められています。一般行政が行政目的の達成のためにシステム構築に重点を置くのに対して、社会教育・生涯学習行政の特徴は、人間の成長・発達を目的として総合的に取り組もうとする点にあります。大牟田市民・住民の成長・発達によって地域課題を克服していこうとする観点がなによりも重要です。

¹⁰ ロンドン・ビジネス・スクール教授のアンドリュー・スコット氏が「LIFE SHIFT 100 年次代の人生戦略」で提唱した言葉。世界で長寿化が進み、先進国では 2007 年生まれの 2 人に 1 人が 100 歳を超えて生きる時代が到来すると予測し、これまでとは異なる新しい人生設計の必要性を説いている。

¹¹ 自分なりの価値観を持ち、定年退職後にも趣味や様々な活動に意欲的な元気なシニア

¹² 未来社会のコンセプト。科学技術基本法に基づき 5 年毎に改定されている科学技術基本法の第 5 期(2016 年度から 2020 年度の範囲)でキャッチフレーズとして登場した。サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな未来社会。

このような業務を地域社会で担っていく中核になるのは、公民館職員(社会教育関係職員)です。錯綜する時代にあって、複合的・横断的な業務を担うためには、職員の資質向上を欠かすことはできず、体系的な研修と評価基準の作成を施策に位置付けておく必要があります。

第4章 基礎調査結果に基づいた本市の社会教育・生涯学習の施策の在り方

I 本市社会教育・生涯学習行政を取り巻く背景(現状と課題)

本市の人口は昭和34年をピークに減少の一途をたどっており、令和2年以降は、0～14歳の年少人口、15～64歳までの生産年齢人口及び65歳以上の老年人口の全ての年齢区分で減少に入り、人口減少がさらに加速することが予想されています(平成28年3月策定「大牟田市人口ビジョン」)。

前回の「大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究」を行った平成23年からの人口推移をみると、特に生産年齢人口の減少が著しく、中でも義務教育課程が修了した15歳の人口は、平成29年に1,000人を割り、翌年の平成30年には、18歳の人口も1,000人以下となっています(いずれも住民基本台帳)。社会動態についても、高校卒業後には約20%が市外に流出している状況です。

また、出生者数や出生率が減少する一方で、高齢化率については、平成30年10月で35.9%と、福岡県や全国と比較しても約8～9ポイント高くなっています。

このような人口減少に伴い、本市においては、まちづくりの担い手の不足や高齢化が急速に進行しており、地域活動の中心的な組織である校区まちづくり協議会においては、担い手の発掘や育成に関する課題が大きくなっています。こうした地域コミュニティの衰退等を背景に、平成28年4月に「大牟田市協働のまちづくり推進条例」を施行し、市民と市との「協働のまちづくり」を推進しているところです。

そのような中、平成30年12月の中教審答申では、社会教育について、「今後、人口減少等社会の大きな変化の中にあって、住民の主体的な参画による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、社会教育はこれまで以上に役割を果たすことが期待される」とともに、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動に生かすことができる生涯学習社会実現への取組みが求められています。

このことは、人口減少に伴い、多くの課題を抱える本市にとっても同じように当てはまる内容となっています。

II 平成30年度社会教育・生涯学習基礎調査結果

今回、本市では、人口減少の中においても持続可能なまちを目指すにあたり、社会教育・生涯学習が果たすべき役割とその方向性を探るため基礎調査を実施しました。その結果、次項の課題が明らかになりました。(詳細は、第2章「VI 考察」を参照)

●基礎調査で明らかになった7つの課題

- ①生涯学習、ボランティア活動、地域活動を促進するための情報提供の強化
- ②学んだ成果を活かすために身近な活動の場・機会を創出
- ③「個人の要望に応える学習」から「社会の要請に応える学習」へつなぐための働きかけ
- ④若い世代に対するボランティア活動・地域活動のきっかけづくり
- ⑤SDG s を念頭に置いた持続可能な社会を形成する ESD 事業の展開
- ⑥社会教育施設の機能向上(職員のスキルアップ、事業の充実)
- ⑦社会教育・生涯学習に係る庁内の連携強化と組織体制の在り方

また、基礎調査の結果を受けて、学識経験者からは、本市が目指すべき社会教育・生涯学習の方向性について、次のような提言を受けました。(詳細は、第3章「調査結果に基づいた学識経験者からの提言」を参照)

●本市が目指すべき社会教育・生涯学習の方向性(学識経験者からの提言)

- ①日頃学習活動を行っていない市民に対する生涯学習の推進(生涯学習の優先順位を高める取組み)
- ②地域づくりやボランティア活動に対する当事者意識の醸成と、地域づくりに関心をもつ市民へのアプローチの手法についての検討
- ③高校生の郷土愛の醸成と将来的なUターン・定住施策の展開
- ④地域住民の関心や実態に応じたカリキュラムづくりと学校教育との連携・協力体制の構築による ESD の推進
- ⑤人生 100 年時代の現代的課題に対応した施策・事業の展開と職員の資質向上

Ⅲ 本市の特徴や強み

基礎調査で明らかになった課題に対応する方策を、プロジェクトチームで議論・検討していく過程において、本市の状況や資源について改めて検証した結果、今後の社会教育・生涯学習施策に活かすことができる特徴や強みを見出すことができました。

まず、本市の特徴としては、7つの高等学校と2つの高等教育機関があることが挙げられます。平成30年度の市内の高校3年生の生徒数は、本市の18歳人口よりも400人以上も多く在籍しています。このことは、大牟田で生まれ育った高校生が地元に着定するような施策を展開すると同時に、市外から通学する高校生に対して大牟田を第2の故郷と思えるような取組みができれば、将来的なUターンや定住促進につながることを期待でき、学識経験者から提言された「(3)高校生の郷土愛の醸成と将来的なUターン・定住施策の展開」を進めるにあたり、有利な強みと言えます。

さらに、学校教育における大きな特徴としては、市内全ての市立小・中・特別支援学校がユネスコスクールに加盟し、ESDに積極的に取り組んでいることが挙げられます。そのほか小学校5年生と中学校2年生に行ったESDの学習に関するアンケート調査においては、「地域や世界のために頑張りたい」と答えた児童・生徒の割合が88.3%(平成29年度実績)に達しており、このことについても着目すべき点と言えます。

一方、ESDは、環境、経済、社会、文化等のあらゆる方面から現代社会の課題を自らの問題と捉え、身近なところから解決に取り組むことで課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み

出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動であることから、このような理念を社会教育の現場においても積極的に取り入れていくことで、全世代が地域課題を主体的に捉える契機になります。併せて、学校教育と社会教育との連携によって、まちづくりの次の担い手としての、子どもたちのさらなる成長も期待できます。

また、本市には、7つの地区公民館のほか、「多目的活動施設リフレスおおむた」や「市民活動等多目的交流施設えるる」等の学習活動を行うことが可能な施設に加え、町内公民館や校区コミュニティセンター、地域交流施設等の施設も多く存在しており、市民に身近な学習施設が充実しています。これらの施設での学習は、サークル活動等の自主的な学習活動をはじめ、学習成果を地域に還元する活動へと広がることにも寄与しています。

さらに、本市には、様々な経験や学びによって培われた知識や技能を社会のために活かそうとする市民を「生涯学習ボランティア」として登録し、希望する団体などへ派遣する生涯学習ボランティア登録派遣事業「まなばんかん」があります。この制度は、学校、医療介護施設や地域のサロン等、地域における学習活動で活用され、今では、延べ約1,500人の市民がボランティア登録し、年間900回を超える派遣活動を行うなど、本市が全国に誇る事業となっています。この「まなばんかん」で活躍する人達をはじめ、学習意欲を持ち、地域のために行動するアクティブシニア層が多いことも特徴のひとつと言え、このアクティブシニア層が持つ豊かな知識や経験を若い世代に伝え、地域の人材育成に結びつけるようなしかけづくりができれば、これからのまちづくりを支える重要な役割を担うものと期待されます。

IV 本市の社会教育・生涯学習施策の方向性

本市を取り巻く背景(現状と課題)、基礎調査結果、さらには、本市の特徴や強み等を検証した結果、人口減少の中にあっても持続可能な社会の構築のためには、それを支える人づくりが最重要課題であると考え、将来のまちづくりの担い手となる子どもたちを地域や社会全体で育てることをこれからの社会教育施策の中心に据えることとしました。

具体的には、子どもたちが、家庭や学校、地域において様々な人と関わり、様々な体験をする中で、自立心や判断力、責任感などの人間性を高めるとともに、高校生を中心とした若者については、人や地域との「つながり」を大切に思う心を育むことで、郷土を愛し、まちづくりへ参画する姿勢を確立する取組みを進めます。さらに、地域においては、子どもも大人も、地域の課題を自分のことと捉え、当事者意識を持って行動する人づくりを進めます。

これらの取組みが地域全体へと広がり、人口減少の中にあっても「持続可能なまち」へとつなげるために、**「未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち」の実現を施策の柱(基本施策)として位置付けます。**

そのためには、施策を推進する基本的な考え方や方向性(視点)として、子どもたちの社会を生き抜く力と、まちづくりへの意識を育むこと ⇒「**視点1 次世代を担う子どもをはぐくむ**」、これまで学校教育を中心に行われてきたESDの理念を社会教育に取り入れて、ESDによる持続可能な地域づくりを進めること ⇒「**視点2 ESDを通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり**」、

視点1と視点2を支えるための環境づくりを充実させること ⇒「**視点3 学習環境の整備・充実**」の3つの視点に取り組みます。

なお、これらの社会教育・生涯学習施策の方向性については、今後策定される大牟田市総合計画においても基本施策や施策推進の視点に掲げ、施策の実現に向けて諸事業に取り組みます。

V 施策推進の視点と具体的な取り組み

視点1 次世代を担う子どもをはぐくむ

中教審答申では、学びや活動への住民の主体的な参画のきっかけづくりのための具体的方策として、幼少期から地域への理解と愛着を育む取り組み等を促進することや、まちづくりの意思決定の過程や具体的な行動への子どもの参画を促し、地域と持続的に関わる動機付けとなり得る成功体験の獲得を支援することなどが示されています。

また、今回の基礎調査において、学識経験者から、学校教育時代に大牟田への愛着を育み、将来Uターンをしたくなるような施策展開や、アクティブシニア層向けの事業開発の必要性について提言を受けました。

そのような中、本市では、ユネスコスクールに加盟している市立の小・中・特別支援学校において、世界遺産学習や福祉学習等をテーマにESDを推進し、児童・生徒が主体的に学ぶ環境づくりに努めています。今後は、学校教育におけるESDを通じ、子どもたちが大牟田についての理解・興味を深め、郷土愛の醸成を図っていることを活かして、学校教育と社会教育がより一層連携することが必要です。そのためには、子どもたちが地域の人と関わる機会を増やし、多くの体験や活動ができる取り組みを進め、その中で、地域社会の一員であることを意識し、自分にできることを考え、行動できる子どもを育みます。

さらに、高校生を中心とした若者については、将来を見据えた進路を考える大切な時期であることから、その一助となるよう、まちの事をよく知る機会やまちで働く人、様々な分野で活躍する人を知る機会を設け、郷土愛を育むとともに、企画から実践まで若者自らがを行い、まちづくりに参画する取り組みを行うことで、まちに貢献する気持ちを育みます。

また、「まなばんかん」において活躍する人達をはじめとした、学習意欲をもち、地域のために行動するアクティブシニア層が多いといった強みを活かし、様々な世代の学習活動が、子どもの成長を促す取り組みにつながるような仕組みづくりを進めます。そのような活動を通して、各世代の大人自らも活躍できる社会を目指します。

次世代を担う子どもたちが、様々な体験や活動を通じて、社会を生き抜く力を身につけるとともに、郷土愛や将来にわたってまちづくりに参画する姿勢をはぐくむ取り組みを行います。
また、高齢者や子育て世代をはじめとする地域の大人が学習活動を通じて子どもの成長を支えることで、自らも活躍できるような人生100年時代に向けた人づくりを進めます。

【取組み 1】 子どもの体験活動の強化・充実

本市には、学習や体験活動が可能な施設が身近な地域にあり、様々な体験活動事業を実施しています。

子どもが、実社会(郷土)に実際に触れ、人とのつながりや交流を体験することは、主体的に考え行動できる力の向上につながります。また、地域の歴史や伝統・文化を知り、その意味や価値を理解することで郷土への愛着や誇りを醸成することができます。このため、義務教育課程が修了するまでの子どもを対象とした、体験活動の強化・充実を図ります。

〈主な事業〉

事業名	内容
次世代を担う人づくり事業(新)	義務教育課程が修了する 15 歳までの子どもを対象に、家庭や学校、地域の様々な人と関わり、いろいろな体験・交流を通じて、人間性、社会性、郷土愛を育む事業を行います。
子ども未来デッサン事業	小学校 4～6 年生が、自分の将来のことを考え、夢や目標を見つけるきっかけをつくるとともに、未来へ向かって頑張る姿勢を身につけるための一助となる事業を行います。
通学合宿支援事業	子どもたちが家庭を離れ、公民館等に寝泊りしながら、家事等の日常生活を自分自身で行うことにより、規則正しい生活習慣を身につけ、自主性や協調性、自尊感情を高める通学合宿を支援します。

【取組み 2】 高校生等のまちづくりへの参画

今回の基礎調査では約 7 割の若者が、自らが企画し、実施するボランティア活動や地域活動について「関心がある」または「やや関心がある」と回答したことから、若者自らが、ボランティア活動や地域活動を企画・実施する取組みが必要です。そのことによって、地域活動への参加が増えるとともに、地域への愛着や誇りが育まれるものと考えられます。

高校生等の若者が、多くの人とひとつのことをやり遂げることは、仲間意識や達成感、郷土をより良いまちへ変えていこうとする姿勢の確立等につながります。また、まちに貢献する気持ち、継続した地域づくりや社会参加への意識についても育まれることが期待できることから、高校生等がまちづくりに関わり参画しやすい仕組みづくりを推進していきます。

さらに、このような取組みを通して、地域の魅力や地域を構成する団体・企業等、さらにはそこで活躍する人々の思いを知る機会を設け、将来的なＵターンや定住促進を目指します。

〈主な事業〉

事業名	内容
次世代を担う人づくり事業(新)	高校生を中心とした概ね 18 歳までの若者を対象に、郷土をよりよいまちに変えていこうとする姿勢や、将来にわたってまちづくりに参画する姿勢を育む事業を行います。

【取組み3】 各世代に応じた学習機会の提供・支援

「まなばんかん」のように、学んだ成果を活かすことは、自らの生きがいややりがいにつながるとともに、培われた豊かな知識や技能、経験を、子どもや若い世代に伝えることでその成長を支えることができます。

また、今回の基礎調査では、「学校を支援する活動」に対して、約半数の市民は関心があると回答しました。特に、地域活動をあまり行っていない30～40歳代の子育て世代の参加意識が高いことがうかがわれます。

このことから、アクティブシニア層や子育て世代をはじめ、各世代を対象とした学習活動や子どもに関わる取組みを通じて、子どもの成長を支えるとともに、各世代の大人自らも活躍できるような人づくりへとつなげていきます。

〈主な事業〉

事業名	内容
アクティブシニアデビュー塾(新)	主に高齢者を対象とした学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を活かし、子どもと関わる機会を設けることで、個人の成長はもとより、子どもたちの成長を促します。 [ボランティアデビュー塾・地域活動デビュー塾・健康実践デビュー塾]
家庭教育支援事業	幼児、小学生、中学生の保護者を対象に、子どもの社会的自立と親が子育てを通じて自らの人生を豊かにすることを目指す家庭教育支援事業を実施します。
成人事業	各世代に応じた学習機会を提供し、郷土愛の醸成やまちづくりへの参画の意識を育みます。また、学んだ成果を活かし、子どもたちと関わる機会を設けることで、個人の成長はもとより、子どもたちの成長を促します。

視点2

ESDを通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり

今回の基礎調査においては、学識経験者から、今後の社会教育における ESD の推進には、住民にどのようにして ESD を意識させるかが重要であり、そのためには、学校教育の中での ESD に地域住民が参加して学ぶ機会を作る取組みが必要であることや、取り組む際の「人づくり」・「地域づくり」の視点が重要であることが提言されました。

同様に、中教審答申においても、社会教育の役割の中で、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」による学びと活動の好循環の重要性が示されたことから、今後の社会教育においては、さらなる「人づくり」・「地域づくり」の視点が必要であることが明確になりました。

以上のことや本市が「ESD のまちおおむた」として積極的に ESD を推進していることなどを勘案し、社会教育においても ESD を通じた、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」を推進することが最も効果的であると考えられます。

また、社会教育における ESD を推進するためには、ESD に積極的に取り組んでいる学校教育の中で社会教育が必要に応じた協力を行うことが効果的であるため、さらなる学校との連携強化が必要です。加えて、ESD を推進していく上では、SDGs のように具体化された項目を念頭に置いた事業展開をすることが大切です。

市民の主体的な学びや活動の機会を設けるにあたり、人と人、人と地域、地域と地域の「関わり」「つながり」をはぐくむといった ESD の視点を持った取組みを展開することで、「人づくり」「つながりづくり」を進めます。

それにより、地域が直面する課題を市民自らが発見し共有し解決していく、持続可能な「地域づくり」へつなげていきます。

【取組み1】 SDGs を念頭に置いた持続可能な社会を形成する ESD 事業の展開

中教審答申では、今後、より多様で複雑化する社会の課題と向き合いながら、一人ひとりがより豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会づくりを進めるために、行政のみならず、企業や大学、団体、個人など様々な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組むことが必要であり、特に地域においては、住民自らが担い手としてその運営に主体的に関わっていくことがこれまで以上に重要となる、と示されています。

持続可能な社会を形成するために、社会教育は大きな役割を担っており、社会教育の強みである学びを通じた「人づくり」・「つながりづくり」を進めることで、多様な担い手との連携・協働が深まり、新しい「地域づくり」へとつながることが期待されます。

このことから、市民の主体的な学びや活動の機会を設けるにあたり、人間性を育てることや、「関わり」「つながり」をつくることができるようになることといった ESD の視点を持った取組みを展開し、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」を進めます。

また、ESD の視点を持った取組みを進めるにあたっては、SDGs を念頭に置くとともに、市立の小・中・特別支援学校、高等学校等で行われている ESD を支援します。

〈主な事業〉

事業名	内容
地域 ESD 推進事業(新)	地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成につながる取組みなどを、地区公民館はもとより校区コミュニティセンターや各学校等の身近な地域で行い、持続可能な地域づくりを進めます。 [地域課題解決メニュー・ふるさと学習メニュー・地域コミュニティ推進メニュー]
学校 ESD 支援事業(新)	学校が進めている ESD の取組みのうち、地域の支援が必要な取組みについて、地区公民館が地域とのコーディネートを行うもので、地区公民館が学校のニーズを把握し、ニーズに応じた地域との調整や必要な支援を行います。
成人事業【再掲】	各世代に応じた学習機会を提供し、郷土愛の醸成やまちづくりへの参画の意識を育みます。また、学んだ成果を活かし、子どもたちと関わる機会を設けることで、個人の成長はもとより、子どもたちの成長を促します。

【取組み 2】 ボランティア活動・地域活動の担い手となる人材の発掘及び育成

今回の基礎調査では、ボランティア活動・地域活動に参加しない理由は、『仕事、家事、育児、介護等で忙しい』に次いで、『参加するきっかけがない』と回答した割合が高くなっています。

このため、地区公民館で実施する事業等をきっかけにして自主学習グループを発足・育成するとともに、学んだ成果をボランティア活動、地域活動に活かしていく意識の醸成を図ります。また、高校生や子育て世代といった若い世代のボランティア活動へのきっかけづくりの場を創出します。

ボランティア活動を行っている(行いたい)市民や団体に対しては、「まなばんかん」への登録を促し、ボランティア活動の機会の提供を行います。

〈主な事業〉

事業名	内容
アクティブシニアデビュー塾(新) 【再掲】	主に高齢者を対象とした学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を活かし、子どもたちと関わる機会を設けることで、個人の成長はもとより、子どもたちの成長を促します。 [ボランティアデビュー塾・地域活動デビュー塾]
サークル社会参加促進事業	成人事業や生涯青春まなびの扉を通じ学んだ人が継続して発展的な学習活動ができるよう、きっかけづくりから、自主的に活動するサークルの育成を図ります。 また、地区公民館で活動しているサークルが、学んだ成果を活かした社会貢献の必要性や社会貢献が身近なものであることを理解し、研修で学ぶことによって、社会参加・貢献活動・交流のさらなる促進を図るきっかけとします。
地域団体連携・支援事業	地域団体の自主的・主体的な祭りなどの行事への支援を行うとともに、地域住民のボランティア活動、地域活動への意識の醸成を図ります。

【取組み3】 学んだ成果を活かす活動の場や機会の創出

今回の基礎調査では、「学んだ成果を地域活動やボランティア活動に活かしたい」と思っている市民が約6割に達し、また、学んだ成果を活かすために必要なこととしては、「活動の場が身近にある」ことが上位となっています。

このため、地区公民館の講座等における「まなばんかん」登録者の活動の場の提供など、学習の成果を地域での活動に活かすとともに、新たな課題の解決のためにさらなる学習活動へとつなげる「学びと活動の循環」を推進します。

また、地区公民館の文化祭を通じて、地区公民館で活動するサークルが自分たちの学んだ成果を発表する場や機会を創出し、まちづくりへ参画する意識の醸成を図ります。

〈主な事業〉

事業名	内容
生涯学習ボランティア登録派遣事業	様々な経験や学習によって培われた知識や技能を、社会のために活かそうとする人を「ボランティア登録者」として登録し、その登録者を活用したい団体などに派遣する事業を行います。
地区公民館文化祭事業	地区公民館で活動しているサークルが中心となって、年に1回、演芸、展示など学んだ成果を発表する文化祭を行います。地域の学校等、各種団体との連携を図り、地域と地区公民館のふれあいの場を創出します。
地域 ESD 推進事業 (新)【再掲】	地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成につながる取組みなどを、地区公民館はもとより校区コミュニティセンターや各学校等の身近な地域で行い、持続可能な地域づくりを進めます。 [地域コミュニティ推進メニュー]
アクティブシニアデビュー塾(新)【再掲】	主に高齢者を対象とした学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を活かし、子どもたちと関わる機会を設けることで、個人の成長はもとより、子どもたちの成長を促します。 [ボランティアデビュー塾・地域活動デビュー塾・健康実践デビュー塾]
子ども未来デッサン事業【再掲】	様々な職業人が講師となって、現在の職業に就いたきっかけや夢を実現させるために努力したこと、仕事のやりがいなどを子どもたちへ伝えます。

視点3

学習環境の整備・充実

今回の基礎調査では、生涯学習をはじめ、ボランティア活動、地域活動を促進するために、①学習・活動に関する情報提供を強化すること、②学んだ成果を活かせるよう、地区公民館が身近な社会教育施設かつ地域活動の拠点として、地域と連携を図りながら学習・活動を行う場・機会を創出すること、③地域や社会の課題に対応する施策・事業を充実させるとともに、地域づくりやボランティア等、社会に貢献する学習・活動へつなげる働きかけや工夫を行うことなどの必要性が課題として明らかになりました。

また、そのような取組みを進めていくためには、市民の学習のコーディネートを行う社会教育関係職員のスキル向上や行政内の関連部局や企業、団体等の多様な主体との連携強化、事業を効果的に展開するための組織体制が求められています。

これらの課題に対応し、視点1と視点2に掲げる人づくりや地域づくりを支えるためには、学習環境の充実を図ることが必要です。

様々な手法を用いて学習に関する情報や活動の場を提供するとともに、個人の要望に応える学習をきっかけとして、社会の要請に応える学習・活動へつなげる働きかけや工夫を行います。さらに、市民が身近な地域で学習活動が行えるよう環境整備を図ることにより、生涯学習、ボランティア活動、地域活動を促進します。

【取組み1】 生涯学習、ボランティア活動、地域活動に関する情報提供の強化

今回の基礎調査では、「ボランティア活動を盛んにするために必要なこと」及び「地域活動を行っていない理由」について「活動に関する情報が必要(不足している)」と考えている市民の割合が高くなっています。また、日頃学習活動を行っていない人(行えない人)が行政に対して求めていることは、「学習情報の提供」が最も高くなっています。

このため、生涯学習の意義についての社会的な認知度を高め、学習活動・地域活動・ボランティア活動を促すための工夫を施すとともに、学習・活動に関する情報提供の強化を行っていきます。

特に若い年代においては、学習情報を市のホームページやSNSで得ている割合が高いことから、インターネットを活用し、さらなる情報発信に取り組んでいきます。

〈主な事業〉

事業名	内容
学習情報提供事業	市内で行われる各種講座、イベント、サークルの会員募集等に関する情報収集を行い、それらの情報を広く市民に周知するための学習情報誌を定期的に発行します。また、学習活動を行っていない人やあらゆる世代に学習情報が届くよう、紙面だけでなく、Facebook、メール配信システム「愛情ねっと」、コミュニティ放送局「FM たんと」等、多様な媒体を活用して様々な学習に関する情報提供していきます。特にインターネットやSNSを活用したPRを行うため、学習情報の動画配信に取り組みます。
地区公民館情報発信事業	地区公民館の事業等を掲載した情報誌(公民館だより・図書だより等)を、地域住民に向けて定期的に発行します。

【取組み2】 身近な地域における学習の場の提供

本市では、市民に身近な学習・活動の場として7つの地区公民館が設置されていますが、地区公民館がない校区については、小・中学校、地域交流施設、町内公民館等、市民に身近な施設を利用して、講座や事業を展開しています。また、本市においては、地区公民館とは別に「多目的活動施設リフレスおおむた」や町内公民館の他に、「市民活動等多目的交流施設えるる」、校区コミュニティセンター、地域交流施設等の学習可能な施設も多数存在しています。

一方、今回の基礎調査では、学んだ成果を活かすためには、「活動の場が身近にある」ことが必要と感じている市民の割合が高い結果となりました。

このため、今後は、地区公民館等の社会教育施設はもとより、学習可能な施設、さらには校区

コミュニティセンター等の施設を積極的に活用していくとともに、社会教育関係職員自らが地域に出向き関係団体等と連携を図りながら、講座等を展開するなどより身近でかつ多様な学習・活動の場を設けます。

〈主な事業〉

事業名	内容
地域 ESD 推進事業 (新)【再掲】	地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成につながる取組みなどを、地区公民館はもとより校区コミュニティセンターや各学校等の身近な地域で行い、持続可能な地域づくりを進めます。 [地域課題解決メニュー・地域コミュニティ推進メニュー]
多様な学習機会提供事業	市職員が市民のもとへ出向き市政についての講義・実習等を行う「メニューいろいろまちづくり出前講座」や企業が持つ専門的な知識・技能を市民のもとへ出向いて講義・説明等を行う「企業出前講座」等の取組みを推進します。

【取組み3】 社会教育施設の機能向上

中教審答申では、まちづくりや地域の課題解決に熱意を持って取り組む多様な人材を、社会教育の活動の場に巻き込み、連携体制を構築するための検討が必要であり、そのためには、地域において社会教育の専門的人材が連携し、その役割を十分発揮することが求められています。

今回の基礎調査においても、行政に対する要望として、「専門的な職員や指導者の配置」を求める割合が最も高くなっています。

また、市民が行っている学習活動の主な内容は、趣味的なものや仕事や就職に必要なものなど、個人の生活の質を高めるための学習(個人の要望に応える学習)が中心となっていますが、地域づくりやまちづくり、ボランティア活動に必要な知識・技術等の公共性のある学習(社会の要請に応える学習)を行っている市民の割合が低いことから、個人の要望に応える学習をきっかけとして、社会の要請に応える学習・活動へとつなげる働きかけや工夫が必要です。

そのためには、社会教育機関が、「人と人」、「人と団体」、「団体と団体」を結び、学習活動の広がりの中で地域づくり等に対する当事者意識を育むことができるような取組みが重要であり、社会教育関係職員は、そうした役割を果たすための必要なスキルの向上を図ることが必要です。

さらに、今回の基礎調査で得られた様々なデータや明らかになった課題を基に、事業の在り方や手法の見直しを行い、市民のニーズや地域の課題に応じた事業展開を行うとともに、必要に応じて、行政内の関連部局や企業、団体等の多様な主体との連携を図ることも必要です。

このため、社会教育関係職員のファシリテーション力、コミュニケーション力、聴く力、企画立案力、実行力を高めるための研修の充実を図っていきます。

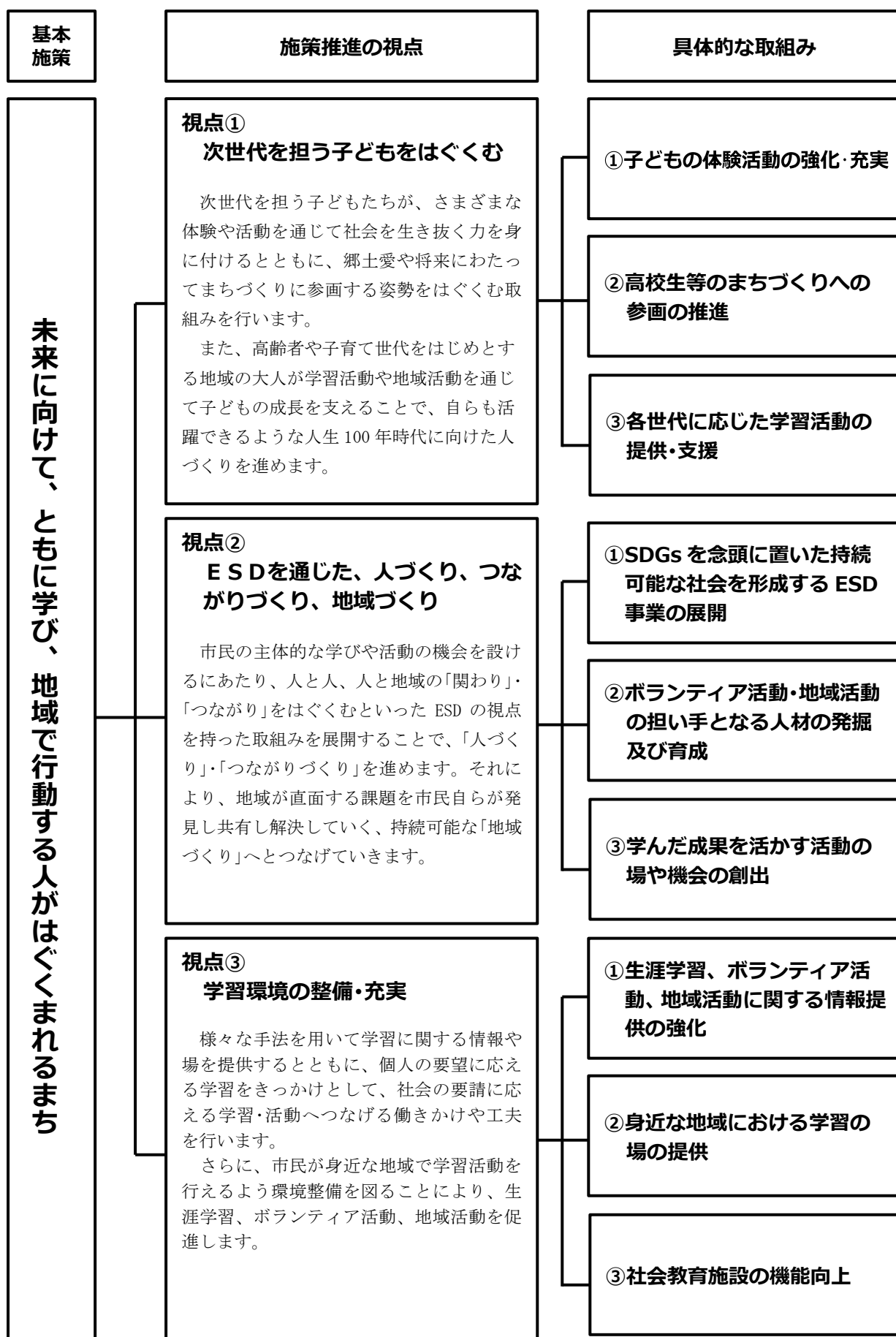
また、「取組み2」で示した身近な地域における学習の場を提供するためには、地区公民館はもとより町内公民館や校区コミュニティセンター等の施設の安全及び快適な機能の維持が必要です。

このため、このような施設の適切な管理、機能等の確保に努めていきます。

〈主な事業〉

事業名	内容
社会教育関係職員研修	社会教育関係職員が「人と人」、「人と団体」、「団体と団体」等を結ぶ役割を果たせるよう、ファシリテーション力やコミュニケーション力をはじめとしたスキルを高める研修を行い、職員の資質の向上を図ります。
地区公民館整備事業	施設の適切な管理、機能の確保に努め、施設の長寿命化を図ります。
町内公民館建設費等補助金	町内公民館建設等に要する費用の一部を補助することにより、町内公民館の社会教育活動の振興を図ります。
校区コミュニティセンター整備事業	校区コミュニティセンターの設置にかかる基本方針に基づき、校区まちづくり協議会の活動拠点となる校区コミュニティセンターの整備を図り、学習活動を含めた地域活動の活性化を図ります。

VI 社会教育・生涯学習を推進するための施策の体系



Ⅶ 社会教育・生涯学習施策の実現に向けて

今回の調査研究においてまとめた、持続可能な社会の構築に向けた施策や取組みを実現するためには、施策展開を効果的・効率的に推進できる組織体制への整備が必要となります。

このため、今後の施策展開に向けた解決すべき課題と推進する体制の在り方を抽出し、現在の体制にどのような課題があり、今後どのような変更が必要かをまとめました。

1.各視点の推進に向けた解決すべき課題

(1)子どもの成長過程における関係機関との連携

中教審答申においては「幼少期から地域への愛着等を深めるための子どもの参画や成功体験」が求められています。本市においても、視点1「次世代を担う子どもをはぐくむ」を推進するにあたり、子どもたちが、自らも地域社会の一員であることを認識し、自分ができることを考え、行動する意欲を育むような取組みを実施していきます。

各年代の成長過程に応じ、かつ一貫性を持った事業を展開していくためには、その年代の子どもたちが何に関心があるのかなどを知るとともに、各々の年代の学校教育機関など関係者との情報共有及び連携が不可欠です。このことから、双方（行政と学校教育機関など関係者）にとって効果的で無理のない取組みを展開するために相互の調整を図る機能が必要です。なお、中・高校生を中心とした年代を対象とした事業では、特に学校等の活動と両立できるよう、計画性をもった事業展開が必要となります。

また、子育て世代やアクティブシニア層をはじめとする各年代を対象とした学習活動や子どもに関わる取組みを通じ、子どもの成長を支える活動につなげるとともに各世代自らも活躍できるような事業とすることへの調整機能も必要となります。

(2)ESD を展開するための機能の構築

視点2で示した「ESD を通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり」を進めるために取り組む「地域 ESD 推進事業」・「学校 ESD 支援事業」では、学習と活動の好循環により、地域の課題を自分のこととして捉え、行動する人づくりを進めることが重要となります。

そのためには、まず地域住民に ESD や SDGs の理念を知ってもらい、これらをもっと身近に感じてもらふことが必要です。また、学校が取り組んでいる ESD に対する理解を深め、必要に応じた支援を行うなどの醸成も必要となり、このような取組みを継続して行うことによって、活動に参加する人を増やすとともに、地域の人材を発掘することにもつながります。

このため、学校や地域の ESD の取組みを広く地域住民に発信するとともに、学校や地域が求めているニーズを的確に捉え、それらを支援や協働へとつなげていく機能が必要です。また、福祉や教育、環境などの様々な分野と連携を図りながら進める必要があるため、学校や地域のみならず、関係機関や関係団体との情報の共有化を図る機能も必要です。

(3)情報の効果的な提供方法を考察・推進する体制の構築

視点3では、調査結果において、日頃学習活動を行っていない人(行えない人)が行政に対して「学習情報の提供」を求める割合が最も高くなっていることから、社会教育・生涯学習等に関する情報提供の強化を図ることとしました。

本市では、学習活動に関する情報をチラシやポスター、広報誌をはじめ、近年ではホームページやFacebook、コミュニティFMなど、多くの媒体を活用した情報提供に努めています。しかし、このような調査の結果となった背景の一つとしては、情報提供の頻度の問題とともに、情報を必要としている人の手元に必要な情報が届いていないという状況が考えられます。

このため、まずは社会教育・生涯学習に関する情報について、情報の流れ方や市民の情報収集方法の変化等を検証するとともに、情報発信に関しては部局内で一定のルール化を図り、整理された形で届けることが必要です。また、近年利用が広がっているSNSをはじめ、幅広いツールを活用することで、若い世代を含めた全世代へ効果的に行う必要があります。

以上のことから、社会教育・生涯学習に関する様々な情報を効果的・効率的に発信する機能が必要です。

(4)事業推進に求められる人材育成機能

視点3では、前述のほかにも、社会教育施設の機能向上において、職員のスキル向上を図ることとしています。学習活動の広がりの中で地域づくり等に対する当事者意識を育む取組みを進めるためには、社会教育関係職員のファシリテーション力や聞く力を高めることが必要です。

このため、本市の特色や強みを活かした専門的見地からの人づくり、地域づくりに取り組むためにも、必要な研修を体系的に提供できる人材育成機能について、今後の事業推進に合わせ、見直す必要があります。

2.施策の推進に必要な体制の在り方

視点1から視点3までの新たな施策を推進するためには、必要とされる機能が十分に発揮できるような事業推進体制にしていく必要があります。これまでの推進体制を見直し、以下に示すような部門を設け、それぞれの役割を明確にした事業推進体制の検討を進めていきます。

(1)企画調整を行う部門の役割

社会教育・生涯学習に関連する施策の総合的な企画や情報の管理を行うとともに、各視点に掲げた取組みの推進や進捗管理を行うために、以下の役割を担う企画調整を行う部門を設けます。

また、関係する部署や教育機関をはじめとした関係機関との連携が円滑に進むよう、連絡調整を図る窓口機能を設けます。

【企画調整部門における主な役割】

- ①各種施策の進捗管理及び関係機関との総合調整機能
- ②社会教育主事を中心とした指導助言、社会教育関係職員の人材育成機能
- ③社会教育・生涯学習情報の発信に関する調整機能
- ④学校教育機関との必要な連携と情報交換及び窓口機能

(2)事業実施部門の役割

視点1や2に係る施策の取組みに掲げる事業を実施するとともに、学校教育施設や各種社会教育施設、その他関係機関・団体等との連携により、人づくり・つながりづくり・地域づくりを展開するための事業実施部門を設け、以下の役割を担うこととします。

【事業実施部門における主な役割】

- ①地区公民館などの社会教育施設等での事業の企画・実施
- ②拠点施設を伴わない事業を中心に企画・実施
- ③学校や関係機関団体、地域等との連携による ESD 事業の企画・実施
- ④学校の ESD を支援するための事業の企画・実施

(3)事業推進体制構築に必要な体制面での課題解決に向けて

新たな施策を推進するためには、現体制における課題を解消し、効果的・効率的に事業を推進する体制を整える必要があります。

1) 社会教育・生涯学習行政分野の集約と業務の再構築

本市の社会教育・生涯学習に関する業務は、地域コミュニティ推進課社会教育担当(市役所本庁舎)、生涯学習課生涯学習担当(延命庁舎)、生涯学習課青少年教育担当(えるる)の3つの部門に分かれており、かつ執務室も分散しています。今後、社会教育・生涯学習関連施策をより一層推進していくためには、一体的で機動力のある体制で臨む必要があることから、業務内容を再構築するとともに、分散している執務室を集約することが望ましいと考えられます。

2) 関係性が深い分野との連携と役割分担

社会教育・生涯学習の取組みを通して持続可能な社会づくりを進めるためには、学校教育や福祉分野をはじめとする関係機関・団体等との連携は必要不可欠です。

一方、そのような関係分野との連携にあたっては、それぞれが持つ役割と目的を明確にし、「重複」や「隙間」のない行政運営を行う必要があることから、事前調整や関係構築のための対話が常に求められます。

3.地域と市民活動団体等との連携と役割分担

本市では、地域コミュニティ組織である校区まちづくり協議会等を中心とした地域づくりのほか、子育て支援や高齢者福祉、環境など特定の分野における専門的な知識や経験を活かした市民活動が行われています。このような市民による様々な活動は、先進性を持ちながら、柔軟できめ細やかな対応を図ることができます。

近年、複雑化、多様化する地域課題に対応し、持続可能な地域づくりを進めていくためにも、地域と市民活動団体等がそれぞれの特性を活かし、互いに協力し活動することが協働のまちづくりの理念に基づいた、より良いまちづくりにつながると期待されます。

このため、地域や市民活動団体等との連携や役割分担、さらにそれらを相互に繋ぐ仕組みづくりを整える必要があります。

施策推進にあたってのいくつかの課題

第4章に示した本市の社会教育・生涯学習施策の方向性や施策推進の視点と具体的取組みを受けて、本調査研究の助言者である佐賀大学の上野教授から、施策を推進するうえで、以下のような助言をいただきました。

佐賀大学 大学院学校教育学研究科 教授 上野景三

I はじめに

今後の大牟田市における社会教育・生涯学習推進のための施策を推進するにあたっては、基礎調査、ヒアリング調査にみられた市民の意識、活動の実態を踏まえ、そこから抽出された課題、そして課題に基づいた「社会教育・生涯学習を推進するための施策の体系」に準拠して、これからの取り組むべき道筋を明確化していくことが、なによりも重要です。

第3章でも述べましたが、自治体で総合計画を初め、教育や社会教育に関する計画をきちんと実態調査を踏まえて計画化する自治体は多くはなく、大牟田市のように丁寧な調査と議論を重ねて今後の方向性を出していこうとする姿勢は、極めて高く評価されます。だからこそ、調査に基づく既存事業の見直し、住民ニーズに基づく今後の新しい施策展開、総合計画の4年間を見通した事業実施・展開、事業の進捗管理と事業評価、といったように、一貫したスタンスをもって市民の理解を得ていく必要があります。人口減少期を迎えると、財政難を理由に行政サービスの低下が取りざたされますが、行政サービス低下の理由を税収減にのみ押し付けるようであってはなりません。限られた財源、限られたマンパワーの中で、有効的かつ計画的に施策展開を進めていく積極性が必要であるように思われます。

II 施策推進の視点

今回の計画では、基本施策を「未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち」としています。それに基づき、施策推進の視点として、「視点1 次世代を担う子どもをはぐくむ」、「視点2 ESDを通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり」、「視点3 学習環境の整備・充実」の3つを掲げ、それらの視点に依拠しながら具体的な事業への取組みが展開される構造になっています。

1. 「視点1 次世代を担う子どもをはぐくむ」

「視点1 次世代を担う子どもをはぐくむ」とは、どういうことなのでしょうか。子どもを対象にした事業を増やす、ということなのでしょうか。そうであれば、今までもたくさんの事業を実施してきたはずですが、さらに事業を増やすということなのでしょうか。そうではありません。確かに社会教育・生涯学習は、子どもの学校外の教育を担うことから、たくさんの子ども関係事業に

取り組んできました。だが、ここで「次世代を担う子どもをはぐくむ」とは、子どもから大人になるまでの期間を社会教育・生涯学習で切れ目なく支援をするという意味です。端的に言えば、切れ目になっている中学生や高校生に重点を置いて取り組むということです。

既存の事業は、これまで小学生や高校生の区別なく取り組まれてきました。しかし、実際には小学校高学年の一定数は、社会体育に加入し、中学生や高校生の大多数は学校の部活に参加しています。社会教育や地域行事が入り込む隙間がないような生活をしている実態があります。したがって、子ども対象の社会教育事業は、中・高校生がすっぽりと抜け落ちる構造となっています。

今までは、これでも問題は起きず良かったのかもしれませんが、だが、今後の自治体発展を考えたとき、中・高校生への働きかけは、最大のポイントになると予測されます。というのは、大牟田市は、近隣の自治体と比べて高校が多く存在しています。言い換えれば、高校生が近隣周辺の自治体から通い、一定期間滞在している都市でもあります。これらの高校生の多くは、3年間を大牟田市で過ごし、将来的には福岡市を初めとする県内・県外の大学・短大や専門学校に進学することでしょう。

これまで自治体として、高校が多数存在することの意味について、どれほど自覚的であったでしょうか。つまり、高校時代が楽しかった、この地域で過ごせてよかった、と愛着を感じる場合は、定住意識が生み出されやすいと言われています。確かに就業機会がなければ、UターンにしろIターンにしろ、難しいことは間違いありません。しかし、愛着心がなければ、Uターンの候補にも選ばれることはありません。就業機会の創出を含め、短期間で成果を出すことは難しいことから、中・長期的なタイムスパンの中で中・高校生をはぐくむことを考える必要があります。

2. 「視点 2 ESD を通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり」

「視点 2 ESD を通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり」は、本市では、既に学校教育関係で積極的に取り組んでいる実績があります。しかし残念なことに、社会教育・生涯学習領域まで ESD の取組みが及んでいるかと言えば、これまではほとんどなかったわけです。

ここで ESD を視点として取り上げることは、大きく 2 つあると思われます。一つは、すでに学校教育で取り組まれていることから、ESD を媒介項として学校教育と社会教育・生涯学習との接点を探ることができないのかという点です。新しい学校支援の在り方、学校地域協働事業の方策を模索し、学校地域協働本部の設置まで見通すことができないのかという点です。

もう一つは、基礎調査でも課題となっていた「知の循環」に関わることです。ESD や SDGs に関心をもつ市民及び市民団体は、一定数存在していると考えられます。そうであれば、これらの諸団体の協力を得ながら、市民が ESD 関連の事業で学んだ学習成果を、学校ボランティアとして、また地域での ESD 推進にあたって還元できるシステムを作ることができないものだろうかという点です。

3. 「視点 3 学習環境の整備・充実」

「視点 3 学習環境の整備・充実」は、視点 1、視点 2 で掲げた課題に取り組もうとするのであ

れば、既存の行政システムの見直しは不可欠です。これは機構改革をしなければならないということではなく、子どもへの切れ目のない社会教育的支援、また、ESD・SDGs の推進を課題に掲げるとしたら、行政の集約化・専門分化のみならず、行政間の連携強化、関係職員の資質向上を欠かすことはできません。つまり、現在の地域社会が抱える課題は複雑化しており、単一の行政部局で対応できる範囲を超える場合が多々でてきています。例えば福祉領域やDV 関係で「多機関連携」・「多職種連携」の必要性が言われるように、行政全体がチームとして対応することが求められるようになってきているからです。社会教育・生涯学習の行政領域でも同様のことが指摘できます。「チーム社会教育・生涯学習」と言ったとき、どのような機構改革、どのような行政部局間連携になるのか。社会教育・生涯学習における「多機関連携」・「多職種連携」とは、どのようなものか。そのイメージづくりから着手しなければならなりません。そうでなければ、単なる「合理化」にしかありません。

さらに、チーム行政、「多機関連携」・「多職種連携」を可能とするような職員の資質・能力の開発が求められます。社会教育・生涯学習関係の職員は、非常勤職員も少なくないことから、体系的かつ継続的な職員研修のシステム構築が求められます。

Ⅲ 現行体制の抱える課題と解決に向けた考え方

以上のような視点に立てば、現行体制との不整合が部分的に起きることは想定されるところです。つまり、行政機構は市民サービスの向上に向けて絶えざる改革を求められるわけですが、今回はそれだけではなく、新しい施策の体系に向きあうことのできる体制整備が求められているからです。

1. 「視点1 次世代を担う子どもをはぐくむ」

「視点1」については、現段階では、子どもから大人にいたるまで、社会教育・生涯学習の切れ目のない行政支援にはなり得ていません。なぜなら、子どもに関係する行政は、例えば、学校教育、児童福祉、子ども支援、社会教育、青少年育成といった具合に分断されており、情報の共有化もなされていない場合が多い実態となっています。これでは、子どもを断片的にしかとらえることができません。この問題を乗り越えていくためには、行政間を横に繋ぐ方策を考えなければなりません。

これを横軸と捉えたとすれば、縦軸として乳幼児期から若者まで切れ目ない支援は、なされているのでしょうか。前述したとおり、高校生は、大牟田市の社会教育・生涯学習の対象からすっぽりと抜け落ちてしまっています。これは、高校生が視野に入りにくい構造になっているからです。例えば、県立高校と連携を図ろうとすれば、市行政の管轄ではないことから、県教育委員会との連携を図らなければなりません。行政の枠を超えての連携は、言うは易しいのですが、実際には困難を伴うことも多い状況です。しかし、全国的に見たとき、基礎自治体と都道府県教育委員会との連携を積極的に推進している自治体も散見されます。筆者の知る限りでは、市教育委員会（社会教育課）－県教育委員会のケースもあれば、市企画課－県教育委員会というケースもあ

ります。いずれにしても、人口減少期を迎える自治体にとって、高校との連携強化は欠かすことができなくなっています。

つまり、横軸と縦軸での切れ目のない支援体制を構築できるかどうかが課題となります。さらにいえば、子ども関係の支援に関心を持つ市民は少なくありません。例えば「子ども食堂」や子どもの学習支援に見られるように、機会があれば、参加して手伝いたいという市民の組織化を図ることも重要です。

2. 「視点2 ESDを通じた、人づくり、つながりづくり、地域づくり」

「視点2」については、とくにSDGsの17の目標を見てもらってもわかるように、全庁で取り組むことのできる課題です。内閣府の「SDGs未来都市」に選定されたことを契機に、学校教育の範囲に止まらず市民の理解促進に向けた取組みと、「持続可能な開発のための教育」(ESD)の担当が可能となるような体制整備を行い、全市をあげて持続可能な地域づくりへと接続させていく道筋をつけていくことが必要です。そのためのプラットフォームとして社会教育・生涯学習が役割を果たすことが求められています。

3. 「視点3 学習環境の整備・充実」

「視点3」については、「視点2」で述べたことと重なりますが、学校教育(高校も含む)との連携、市役所内部の行政部局間の連携、他の自治体(例えば県教育委員会)との連携、市民団体(例えばESD・SDGsに関心をもつ団体)や民間事業者との連携を視野に入れる必要があります。つまり、単独の行政部局での施策展開に限度があると考えた場合、コアを置きながら関連部局、周辺部局との有効な連携の有り様を考え出さなければなりません。しかし、それぞれの行政の部局は、単独の行政目標があり、予算措置されています。これを乗り越えていくためには、プラットフォームの構築が必要ですが、その任は、社会教育・生涯学習が担うことが期待されるのではないのでしょうか。なぜならば、社会教育・生涯学習を担うということは、常にベストの完成形があるのではなく、社会的ニーズに応じて普段に検証され発展させられていくという性格を持っているからです。

IV おわりに

最後に、以上のような施策展開を考えたとき、行政の役割はこれまで以上に重要ではありますが、一方では行政主導の方法には限界が来ているといえます。というのは、一つには、人口減少を背景としてこれまでのような予算の拡大が考えられないこと。二つには、地域課題解決にむけた「多機関連携」・「多職種連携」の必要性を考えたときに、行政内部間のみならず、市民との協働・連携を欠かすことができないからです。より専門的な知見をもった市民団体やNPO、社会貢献を考える民間企業との連携・協働を図ることによって課題解決の新たな展開が期待されます。したがって、市民団体やNPOが活躍できるような環境を整えることも重要になってきます。

これからの地域社会にとって、これまでの枠組みを大切にしながら、新しい息吹を吹き込んでいくことが「持続可能な社会」づくりにつながっていくことと思われます。

I 主な経過

月 日	内 容	備 考
平成 30 年 5 月 22 日 (火)	プロジェクトチーム第 1 回会議	実施計画書（案）等の検討
6 月 22 日 (金)	プロジェクトチーム第 2 回会議	実施計画書（案）等の検討 ※上野教授助言①
7 月 3 日 (火) ～ 7 月 31 日 (火)	ローリング調査（紙面調査）の実施	庁内
7 月 31 日 (火) ～ 8 月 14 日 (火)	ローリング調査（ヒアリング）の実施	
7 月 17 日 (火)	社会教育委員の会議	実施計画書の報告
7 月 20 日 (金)	市民意識調査業務委託契約締結	
7 月 24 日 (火)	調査実施の報道発表	7/26 日刊大牟田、8/3 有明新報
8 月 1 日 (水)	広報おおむた 8/1 号掲載	調査実施のお知らせ
8 月 16 日 (木)	大牟田市ホームページ掲載	
8 月 6 日 (月)	地区公民館職員等研修会 インタビュー調査説明会	※上野教授講話
8 月 16 日 (木) ～ 9 月 15 日 (土)	市民意識調査の実施	
8 月 16 日 (木) ～ 9 月 15 日 (土)	インタビュー調査の実施 ①生涯学習促進に係る意識調査 ②若者意識調査	①本庁舎、大型商業施設 ②えるる
8 月 31 日 (金)	市民意識調査の礼状兼協力依頼状送付	
10 月 30 日 (火)	プロジェクトチーム第 3 回会議	各種調査結果の報告
12 月 28 日 (金)	プロジェクトチーム第 4 回会議	平成 30 年度調査報告書（案）及び施策 体系の検討 ※上野教授助言②
平成 31 年 2 月 8 日 (金)	プロジェクトチーム第 5 回会議	平成 30 年度調査報告書の策定及び施 策・事業体系の検討 ※上野教授助言③
2 月 21 日 (木)	市民教育厚生委員会	平成 30 年度調査結果の報告
3 月 11 日 (月)	プロジェクトチーム第 6 回会議	ESD 事業と次世代を担う人づくり事業 の定義及び施策・事業の体系化（視点の 策定）の検討 ※上野教授助言④
3 月 13 日 (水)	教育委員会 3 月定例会	平成 30 年度調査結果の報告
令和元年 5 月 10 日 (金)	プロジェクトチーム第 7 回会議	施策・事業の今後の展開及び社会教育関 係職員等研修の検討
5 月 13 日 (月)	大牟田市ホームページ掲載	平成 30 年度調査報告書
7 月 5 日 (金)	プロジェクトチーム第 8 回会議	令和元年度調査研究報告書（案）の検討、 既存事業の見直し、新規事業の検討
7 月 24 日 (水)	社会教育委員の会議	令和元年度調査研究報告書（案）の中間 報告
7 月 30 日 (火)	プロジェクトチーム第 9 回会議	令和元年度調査研究報告書（案）の検討、 既存事業の見直し、新規事業の検討 ※上野教授助言⑤
8 月 6 日 (火)	教育委員会 8 月定例会	令和元年度調査研究報告書（案）の中間 報告

月 日	内 容	備 考
8 月 27 日 (火)	プロジェクトチーム第 10 回会議	令和元年度調査研究報告書(案)の検討、既存事業の見直し、新規事業の検討
10 月 16 日 (水)	教育委員会 10 月定例会	令和元年度調査研究報告書(案)の最終確認
10 月 18 日 (金)	プロジェクトチーム第 11 回会議	令和元年度調査研究報告書の策定及び今後の事業展開の検討 ※上野教授助言⑥
10 月 29 日 (火)	社会教育委員の会議	令和元年度調査研究の報告
11 月 27 日 (水)	プロジェクトチーム第 12 回会議	まとめ
12 月上旬	市民教育厚生委員会	令和元年度調査研究の報告

Ⅱ 令和元年度プロジェクト・チーム名簿 (計 17 名)

	所 属		氏 名
代 表	生涯学習課	課長	大倉野 素子
副代表	地域コミュニティ推進課	課長	徳川 昭彦
	生涯学習課	青少年担当課長	楠 修
構成員	学校教育課指導室	室長	荒木 秀敏
	教育総務課教育みらい創造室	指導主事	高倉 洋美
	市民協働総務課	総合計画総括・協働推進担当主査	平田 裕作
	スポーツ推進室	スポーツ担当主査	蓮尾 修
	地域コミュニティ推進課	社会教育担当主査	山田 真里
	地域コミュニティ推進課	コミュニティ担当主査	吉田 浩史
	地域コミュニティ推進課	吉野地区公民館長	田中 直美
	生涯学習課	青少年教育担当主査	吉富 豊美
	生涯学習課	文化芸術担当主査	草村 康博
事務局	地域コミュニティ推進課 教育総務課教育みらい創造室	社会教育担当主査・社会教育主事 主査	西田 久
	地域コミュニティ推進課	三池地区公民館長	浦川 一浩
	地域コミュニティ推進課	社会教育担当職員	岡 李恵
	生涯学習課	生涯学習担当主査	加藤 航
	生涯学習課	生涯学習担当職員	龍 牧子

**大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究
令和元年度調査研究報告書**

令和元年 10 月発行

大牟田市 市民協働部 地域コミュニティ推進課・生涯学習課

○地域コミュニティ推進課 〒836-8666 大牟田市有明町 2 丁目 3 番地
TEL 0944-41-2614 / FAX 0944-88-8400
E メール e-chiikics@city.omuta.fukuoka.jp

○生涯学習課 〒836-0872 大牟田市黄金町 1 丁目 34 番地
TEL 0944-41-2864 / FAX 0944-41-2210
E メール e-shogaigakushu01@city.omuta.fukuoka.jp